

授業名	保育原理	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修	
担当教員名	◎山上 裕子 山脇 功次			
開講期				
授業の概要	本科目は、保育を学ぶための入門にあたる。生涯にわたる人格形成の基礎を培う保育は、どのような基本を踏まえて活動を行うのか。保育の思想や歴史を踏まえ、保育の必要性、国の施策にみる保育の基本、保育の目標や方法などについて取りあげる。授業では、随時、グループ・ワークによる学びを取り入れる。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。			
授業の到達目標	①保育の意義を、7割以上理解できたか。 ②「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の法的位置づけや保育の基本を、7割以上理解できたか。 ③保育の思想と歴史について、7割以上理解できたか。			
履修条件	原則として、幼稚園教諭二種免許状、保育士資格取得希望者	成績の 評価方法・基準	授業参加度（30点）、レポート（30点）	授業内試験（40点）
テキスト	西村望編『教育原理』みらい社			
参考書	「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示 文部科学省） 「保育所保育指針」（平成29年3月告示 厚生労働省） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成29年3月告示 内閣府）			
学生への要望	授業用のノートを用意し、疑問に思ったこと、感じたことなどメモをすること。 欠席、遅刻はしないようにすること。			
位置付け・水準	CE2101			
ディプロマポリシーとの関係	「保育の本質理解」「問題解決力」			
オフィスタイム	山上：火、金 14：40～16：10 833研究室 山脇：木、金 15：30～16：10 822研究室			
アクティブラーニング実施内容	グループ・ワーク			
実務家教員の経歴	山上：盲学校・小学校教員経験			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション (担当：山上)	講義内容について説明を受け、到達目標や評価方法を確認する。保育のイメージをする。	シラバスを確認し、自身の乳幼児期のことを、家族から聴いたり思い出したりする。	30
2	保育の必要性 (担当：山上)	未熟な状態で生まれるヒトであることをふまえ、文化的環境の中で、人間として成長していくことを、野生児の事例から学ぶ。	ヒト以外の動物の生誕について調べる。	60
3	保育の意義① (担当：山上)	ヒトから人間への成長となるための保育の意義について考える。小レポートにまとめる。	前回の授業内容を振り返る。本時の授業から保育の意義を整理する。	60
4	保育の意義② (担当：山上)	保育の意義を実際に実現する施設である保育所の役割を学ぶ。	資料を読む。	60
5	日本における保育施設および学校と地域連携の取り組み (担当：山脇)	「保育所保育指針」および「幼稚園教育要領」をもとに、地域連携の取り組みについて学ぶ。	「保育所保育指針」および「幼稚園教育要領」を見直す。	60
6	日本における保育施設および学校と地域の協働について事例検討 (担当：山脇)	日本における地域連携の事例について学ぶ。	配付した資料を見直す。	60
7	高所得国における地域連携の取り組み (担当：山脇)	アメリカおよびヨーロッパ諸国における保育施設と地域との連携について学ぶ。	配付した資料を見直す。	60
8	低所得国における地域連携の取り組み (担当：山脇)	アフリカおよび東南アジア等における保育施設と地域との連携について学ぶ。	配付した資料を見直す。	60
9	西洋と日本の子ども観 (担当：山上)	中世から近代にかけての西洋の子ども観の変遷をたどるとともに、日本では子どもを善とみる見方があったことを知る。	世界史の年表で時代を確認する。また、授業で取りあげられた事項の時代の様相を確認する。	60
10	日本の保育思想と歴史 (担当：山上)	江戸時代から明治期にかけて各地に設立された、保育所や子守学校について学ぶ。	日本史の年表で時代を確認する。また、授業で取りあげられた事項の時代の様相を確認する。	60
11	日本で初めての幼稚園 (担当：山上)	東京女子師範学校附属幼稚園のはじまりについて学ぶ。	明治時代の社会変動について確認する。	60
12	倉橋惣三の保育論 (担当：山上)	東京女子師範学校附属幼稚園の改革をし、今日の日本の保育を切り開いた倉橋について、彼の保育への情熱や誘導保育論などを学ぶ。	倉橋惣三について調べる。	60
13	倉橋惣三の保育思想 (担当：山上)	『育ての心』や『幼稚園雑草』を読み、感想を出し合い、保育のあるべき姿を考えまとめる。	配布資料を通読する。これまで学んだことの整理をする。	90

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	外国の保育の現状と課題 (担当：山上)	アメリカでの就学前の政策について知り、ヘッドスタート政策以降、過剰な教育への見直しが進められていることを学ぶ。	アメリカ社会について、イメージがもてるように情報を獲得する。これまで学んだことの整理をする。	90
15	まとめ (担当：山上)	これまで学んできたことの理解度を、授業内試験をとおして確認し、解説を受ける。	試験に備えて準備を進め、理解が不足しているものは解説を受けて補う。	60

授業名	教育原理	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎山上 裕子			
開講期				
授業の概要	教育とはどのような行為をいうのか。人が成長していくために、教育は何ができるのか。本科目は、教え、学ぶ行為を考えていくための基礎を学ぶ科目である。授業では、近代学校教育制度の始まりとその時代背景、さまざまな教育実践、思想を時代の経過をたどりつつ講義する。また、安全な場である教育現場において、事故が発生している実態やその対策についてリスクの考え方を取りあげる。講義は、実物投影機や教材を使用した活動を適宜取り入れる。また、読書レポートを課し、教育を深く考える機会を設ける。 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。			
授業の到達目標	①近代学校教育制度の成立について、その社会的背景を捉えて、7割以上理解できたか。 ②代表的な教育思想と実践について、7割以上理解できたか。 ③保育事故を踏まえ、安全教育の重要性について7割以上理解できたか。			
履修条件	原則として、幼稚園教諭二種免許、保育士資格取得希望者。	成績の 評価方法・基準	授業内試験（４０％）、レポート（３０％）、授業参加度（３０％）	
テキスト	西村望編『教育原理』みらい社、２０１８年。			
参考書	「幼稚園教育要領」（平成２９年３月告示 文部科学省） 「保育所保育指針」（平成２９年３月告示 厚生労働省） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成２９年３月告示 内閣府）			
学生への要望	講義用ノートを用意し、疑問点をメモすること。 欠席、遅刻をしないよう注意すること。			
位置付け・水準	CE2102			
ディプロマポリシーとの関係	「保育の本質理解」「問題解決力」			
オフィスタイム	火、金 １４：４０～１６：１０ ８３３研究室			
アクティブラーニング実施内容	ワーク・シートを使用した討議			
実務家教員の経歴	盲学校、小学校教員経験			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	講義内容について説明を受け、到達目標や評価方法を確認する。真の知識とは何か。生涯学習社会において求められる乳幼児期の学びを考える。	シラバスを読み、保育原理の授業で学んだことを振り返る。	30
2	教育の目的と意義	人類の歴史とともにある教育的行為の諸要素を知り、「日本国憲法」や「教育基本法」などをとおして教育の目的について考える。また、人間観や子ども観、教える内容、社会的状況との関連にあることを学ぶ。	教科書の26～37頁を通読する。保育に関することという書籍を探す。	60
3	近代学校教育制度の始まり	今日の学校教育制度は、近代と呼ばれる時代に誕生した。イギリス産業革命期において、児童労働が問題となり、子どもを保護するために政府によって制定された「工場法」により初等教育の法制化が始まったことを学ぶ。また、工場経営者オウエンによる性格形成学院の実践から環境をととした教育という考え方を学ぶ。	西洋史の年表を手に取り、学ぶ事項の時代を確認する。保育に関することという書籍を探す。	60
4	一斉授業と個別指導	大量の児童を教えるために効率のよい一斉授業が考案された。モニトリアル・システムについて、その長所と短所を考え、グループで意見をまとめる。一方で、自ら思考することをおして知識を獲得する教育の考えがあったことを学ぶ。	西洋史の年表を手に取り、学ぶ事項の時代を確認する。保育に関することという書籍を探す。	60
5	教科書の登場	英語圏で使用された教科書「ホーン・ブック」やコメニウスの『世界図絵』を知り、教科書の役割を考える。また、コメニウスはなぜ『世界図絵』を作成したのか、その理由を探り、母国語で学ぶことの意味、家庭教育の意義を学ぶ。	西洋史の年表を手に取り、学ぶ事項の時代を確認する。保育に関することという書籍を探す。	60
6	子どもの発見者	子どもから始まる新教育の源流である、ルソーの思想について学ぶ。生まれた時は善であるが、社会によって子どもがゆがめられていくという考えを知り、実際に『エミール』の一節を読んでみる。	教科書の該当箇所を読む。配布資料を読む。	60
7	子どもからの教育	現在の理性を働かせて現在の自己を乗り越えていく啓蒙思想を学び、ルソーの消極的教育の思想を理解する。読書をととした深い学びの方法を知る。	教科書の該当箇所を読む。読書レポートを進める。	60
8	貧困下にある子どもの救済と直観教育	貧困下におかれた子どもを救済するために、すべてを教育に捧げたペスタロッチの思想を学ぶ。家庭の居間の雰囲気、道徳教育や直観教育などの実践を、実際に体験することをおして理解する。	教科書の該当箇所を読む。読書レポートを進める。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	教育機関としての幼稚園	単に子どもを預かるだけでなく、発達を促す場として幼稚園を創設したフレーベルについて、恩物の体験をとおして学ぶ。	教科書の該当箇所を読む。読書レポートを進める。	120
10	教材の開発	知的障害者の教育のために考案された教具を使用した、モンテッソーリ・メソッドについて学ぶ。教具の目的、教具を使用することによる自己活動の効果を学ぶとともに、実際に教具を経験して理解を深める。現在も、行われている実践であることを学ぶ。	教科書の該当箇所を読む。これまで学んできたことを整理する。	60
11	経験主義教育	アメリカプラグマティストのデューイの教育思想を学ぶ。経験をとおした学び、生の素材を使用した実践など、幼児期を含むラボラトリー・スクールの実践をとおして、総合的な学びの内容を考える。	これまで経験してきた問題解決学習について思い出す。	30
12	問題解決学習	問題解決学習として現在盛んに取り組まれている論理を学ぶ。これまで自身が経験してきた総合的学習の時間を振り返り、問題解決学習について理解を深める。	これまで経験してきた問題解決学習からデューイの理論を確認する。	60
13	保育事故の現状	一向に減少しない保育事故の実態を、内閣府で公開しているデータベースを読むことをとおして知る。教育機関の安全管理の重要性について学ぶ。	実習時に、ヒヤリとしたことを思い出し、何に気をつければよいのかを確認する。	60
14	安全教育	リスクという言葉の意味を知り、チャレンジ精神を損なうことのない安全教育について学ぶ。子ども自身でリスク・マネジメントができ、そのために問題解決学習が取り入れられていることを知る。現在、行われている実践を知る。	学んできたことを整理し、説明できるように準備する。	90
15	まとめ	これまで学んできたことの理解度を、ノートに整理したことをもとに、授業内試験を受ける。解説を聞き理解を確かめる。	ノートを整理する。	60

授業名	子ども家庭福祉	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修	
担当教員名	◎山脇 功次			
開講期				
授業の概要	「子ども家庭福祉」という考え方、理念、歴史の変遷、法律、制度や実施体系等の基本的な知識を理解し保育との関連性及び子どもの権利について学ぶ。また子ども虐待等における事例研究・分析を通して実際の具体的な支援方法及び子ども家庭福祉の現状や動向を学び、今後の課題や展望についても考える。 *授業実施方法については、各授業にてグループ・ディスカッション等を通して学びの深化を図る。授業内でグループワークを実施し、終了後コメントによるフィードバックを行う。			
授業の到達目標	(1) 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 (2) 子ども家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解する。 (3) 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 (4) 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 (5) 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。 (6) 単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。			
履修条件	幼児教育学科	成績の 評価方法・基準	授業内で実施するテスト50点、授業内で指定する課題提出50点	
テキスト	保育所保育指針及び解説書、幼稚園教育要領及び解説書 その他随時紹介する。			
参考書	山縣文治編「よくわかる子ども家庭福祉」ミネルヴァ書房			
学生への要望	配付プリント等を整理し、適宜メモを取り、予習しましょう。			
位置付け・水準	CE2204			
ディプロマポリシーとの関係	教育・保育の本質理解、問題解決力			
オフィスタイム	水曜日 4 限、木曜日 4 限 場所：822号室（山脇研究室）			
アクティブラーニング実施内容	発見学習／問題解決学習、グループディスカッション／ディベート／グループワーク			
実務家教員の経歴	行政機関委託事業の障がい者基幹相談支援センターおよび障がい者就業・生活支援センター（センター長）、就労移行支援事業（主任）および就業定着支援事業（主任）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	子ども家庭福祉の理念と概念	子ども家庭福祉の理念と概念について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自主的に学びを深める。	80
2	子ども家庭福祉の歴史的変遷	子ども家庭福祉の歴史的変遷について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自主的に学びを深める。	80
3	子どもの人権擁護	子どもの人権擁護について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自主的に学びを深める。	80
4	子ども家庭福祉の制度と実施体系	子ども家庭福祉の制度と実施体系について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自主的に学びを深める。	80
5	母子保健と子どもの健全育成	母子保健と子どもの健全育成について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自主的に学びを深める。	80
6	多様な保育ニーズへの対応	多様な保育ニーズへの対応について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自主的に学びを深める。	80
7	子ども虐待・DV(ドメスティックバイオレンス)とその防止	子ども虐待・DV(ドメスティックバイオレンス)とその防止について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自主的に学びを深める。	80
8	貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応	貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自主的に学びを深める。	80
9	障害のある子どもへの対応	障害のある子どもへの対応について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自主的に学びを深める。	80
10	少年非行等への対応	少年非行等への対応について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自主的に学びを深める。	80
11	少子化と地域子育て支援	少子化と地域子育て支援について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自主的に学びを深める。	80
12	子育て世代の親たちの就労環境と子育て困難	子育て世代の親たちの就労環境と子育て困難について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自主的に学びを深める。	80
13	次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進	次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自主的に学びを深める。	80
14	子ども家庭福祉の施設と専門性	子ども家庭福祉の施設と専門性について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自主的に学びを深める。	80
15	地域における連携・協働とネットワーク	地域における連携・協働とネットワークについて説明する。	講義の内容から関心のあることについて自主的に学びを深める。	80

授業名	社会福祉	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
担当教員名	◎山脇 功次		
開講期			
授業の概要	本科目では、「社会福祉」を以下のテーマに基づいて学習を進める。 （１）社会福祉の意義と歴史の変遷を学ぶ。 （２）ソーシャルワークの基本的知識と援助技術を学ぶ。 （３）社会福祉の法や制度について学ぶ。 * 授業実施方法については、各授業にてグループ・ディスカッション等を通して学びの深化を図る。授業内でグループワークを実施し、終了後コメントによるフィードバックを行う。		
授業の到達目標	（１）社会福祉のなか保育士の役割を理解し実行できる。 （２）社会福祉の「価値」を説明することができる。 （３）社会福祉の相談援助を実践することができる。 （４）単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。		
履修条件	幼児教育学科	成績の 評価方法・基準	授業内で実施するテスト50点、授業内で指定する課題提出50点
テキスト	保育所保育指針及び解説書、幼稚園教育要領及び解説書 その他随時紹介する。		
参考書	山縣文治・岡田忠克 編「よくわかる社会福祉」ミネルヴァ書房		
学生への要望	配付プリント等を整理し、適宜メモを取り、予習しましょう。		
位置付け・水準	CE2104		
ディプロマポリシーとの関係	教育・保育の本質理解, 問題解決力,		
オフィスタイム	木曜日 4 限、金曜日4限 場所：822号室（山脇研究室）		
アクティブラーニング実施内容	発見学習／問題解決学習、グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク		
実務家教員の経歴	行政機関委託事業の障がい者基幹相談支援センターおよび障がい者就業・生活支援センター（センター長）、就労移行支援事業（主任）および就業定着支援事業（主任）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション 社会福祉とは何か（保育と社会福祉）	社会福祉とは何かについて説明する。	教科書を予習・復習すること。	80
2	社会福祉の基礎概念	社会福祉という考え方について説明する。	教科書を予習・復習すること。	80
3	社会福祉の歴史と展開	日本と諸外国の歴史について説明する。	教科書を予習・復習すること。	80
4	社会福祉の仕組みと運営	社会福祉の法律と行政について説明する。	教科書を予習・復習すること。	80
5	社会保障・公的扶助	社会保障制度について説明する。	教科書を予習・復習すること。	80
6	社会福祉の機関と施設①（児童養護施設等）	厚生労働省、児童相談所、社会福祉施設等について説明する。	教科書を予習・復習すること。	80
7	社会福祉の機関と施設②（障害児入所施設等）	厚生労働省、児童相談所、社会福祉施設等について説明する。	教科書を予習・復習すること。	80
8	福島県内の障がい福祉施設について①	会津および県中を中心に、福島県内の障がい福祉施設の職員より事業所の説明と実習の内容について学ぶ。	当日の講演内容をもとに課題をまとめる。	80
9	福島県内の障がい福祉施設について②	会津地域を中心に、福島県内の障がい福祉施設の職員より事業所の説明と実習の内容について学ぶ。	当日の講演内容をもとに課題をまとめる。	80
10	福島県内の障がい福祉施設について③	県中を中心に、福島県内の障がい福祉施設の職員より事業所の説明と実習の内容について学ぶ。	当日の講演内容をもとに課題をまとめる。	80
11	障がい者福祉 ①	障がいの概念と理念について説明する。	教科書を予習・復習すること。	80
12	障がい者福祉 ②	障がいの概念と理念について説明する。	教科書を予習・復習すること。	80
13	障がい者福祉 ③	障がいの概念と理念について説明する。	教科書を予習・復習すること。	80
14	地域福祉	地域で支える社会福祉について説明する。	教科書を予習・復習すること。	80
15	社会福祉（後半部分）のまとめ②	社会福祉のふりかえりとまとめを行います。	教科書を予習・復習すること。	80

授業名	子ども家庭支援論	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修	
担当教員名	◎山脇 功次			
開講期	Ⅳ期			
授業の概要	本科目では、「子ども家庭支援論」を以下のテーマに基づいて学習を進めます。 （１）子ども家庭を取り巻く環境の変化を学びます。 （２）子ども家庭のニーズと、その援助技術を学びます。 （３）子ども家庭支援の制度について学びます。 * 授業実施方法については、各授業にてグループ・ディスカッション等を通して学びの深化を図る。授業内でグループワークを実施し、終了後コメントによるフィードバックを行う。			
授業の到達目標	（１）保育分野における子ども家庭福祉（支援）の位置づけおよび意義を理解できる。 （２）こども、子育て家庭を取り巻く環境の変化を理解できる。 （３）子ども家庭のニーズを理解し、その支援を実践することができる。 （４）単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。			
履修条件	幼児教育学科 2 年生	成績の 評価方法・基準	授業内で実施するテスト50点、授業内で指定する課題提出50点	
テキスト	保育所保育指針及び解説書、幼稚園教育要領及び解説書 その他随時紹介する。			
参考書	浦田 雅夫編著「新・子ども家庭福祉」教育情報出版			
学生への要望	配付プリント等を整理し、適宜メモを取り、予習しましょう。			
位置付け・水準	CE2206			
ディプロマポリシーとの関係	教育・保育の本質理解、問題解決力			
オフィスタイム	水曜日 4 限、木曜日 4 限 場所：822号室（山脇研究室）			
アクティブラーニング実施内容	発見学習／問題解決学習、グループディスカッション／ディベート／グループワーク			
実務家教員の経歴	行政機関委託事業の障がい者基幹相談支援センターおよび障がい者就業・生活支援センター（センター長）、就労移行支援事業（主任）および就業定着支援事業（主任）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	子どもの保育とともに行う保護者の支援	子どもの保育とともに行う保護者の支援内容について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自主的に学びを深める。	80
2	保育所等における支援	保育所等における支援について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自主的に学びを深める。	80
3	地域の子育て家庭に対する支援	地域の子育て家庭に対する支援について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自主的に学びを深める。	80
4	障害のある子ども及びその家庭に対する支援	障害のある子ども及びその家庭に対する支援について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自主的に学びを深める。	80
5	特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援	特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自主的に学びを深める。	80
6	子ども虐待の予防と対応	子どもの虐待の予防と対応について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自主的に学びを深める。	80
7	要保護児童等の家庭に対する支援	要保護児童等の家庭に対する支援について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自主的に学びを深める。	80
8	多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解	多様な支援ニーズを抱える子育て家庭について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自主的に学びを深める。	80
9	日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成	日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係に形成について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自主的に学びを深める。	80
10	保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解	保護者や家庭の抱える支援ニーズへの気づきと多面的な理解をする。	講義の内容から関心のあることについて自主的に学びを深める。	80
11	子ども及び保護者の状況・状態の把握	子ども及び保護者の状況・状態の把握を行う。	講義の内容から関心のあることについて自主的に学びを深める。	80
12	支援の計画と環境の構成	支援の計画と環境の構成について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自主的に学びを深める。	80
13	支援の実践・記録・評価・カンファレンス	支援の実践・記録・評価・カンファレンスについて説明する。	講義の内容から関心のあることについて自主的に学びを深める。	80
14	職員間の連携・協働	職員間の連携・協働について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自主的に学びを深める。	80
15	社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働	社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自主的に学びを深める。	80

授業名	社会的養護Ⅰ	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択	
担当教員名	◎山脇 功次			
開講期	Ⅲ期			
授業の概要	本科目では、「社会的養護」を以下のテーマに基づいて基礎学習と事例検討を中心に学びを深めます。 （１）こどもの権利を基軸とした社会的養護の基本的な考えを学びます。 （２）こどもの自己実現・自立に向けた取り組みを学びます。 （３）地域・学校・家族とのネットワークづくりを学びます。 ＊授業実施方法については、各授業にてグループ・ディスカッション等を通して学びの深化を図る。授業内でグループワークを実施し、終了後コメントによるフィードバックを行う。			
授業の到達目標	（１）こどもに寄り添った伴走型支援（アシスト）の姿勢を実践できる。 （２）各授業にて扱ったテーマの内容を説明することができる。 （３）事例検討をととして社会資源の諸制度と役割を説明することができる。 （４）単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。			
履修条件	幼児教育学科 2年	成績の 評価方法・基準	授業内で実施するテスト50点、授業内で指定する課題提出50点	
テキスト	保育所保育指針及び解説書、幼稚園教育要領及び解説書 その他随時紹介する。			
参考書	中山正雄 監修 浦田雅夫 編著「よりそい支える社会的養護Ⅰ第2版」教育情報出版			
学生への要望	配付プリント等を整理し、適宜メモを取り、予習しましょう。			
位置付け・水準	CE2207			
ディプロマポリシーとの関係	教育・保育の本質理解、問題解決力			
オフィスタイム	水曜日 4 限、木曜日 4 限 場所：822号室（山脇研究室）			
アクティブラーニング実施内容	発見学習／問題解決学習、グループディスカッション／ディベート／グループワーク			
実務家教員の経歴	行政機関委託事業の障がい者基幹相談支援センターおよび障がい者就業・生活支援センター（センター長）、就労移行支援事業（主任）および就業定着支援事業（主任）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	社会的養護の理念と概念	子どもと家庭を取り巻く環境と社会的養護について説明します。	教科書を予習・復習すること	80
2	社会的養護の歴史的変遷	日本と諸外国の社会的養護について説明します。	教科書を予習・復習すること	80
3	社会的養護の役割① 施設養護	施設養護について学びます。	教科書を予習・復習すること	80
4	社会的養護の役割② 家庭養護	家庭養護について学びます。	教科書を予習・復習すること	80
5	社会的養護における保育士等の倫理と責務	社会的養護に求められる保育士等について説明します。	教科書を予習・復習すること	80
6	社会的養護の制度と法体系	児童福祉法等について説明します。	教科書を予習・復習すること	80
7	社会的養護の仕組みと実施体系	社会的養護全体の体系について説明します。	教科書を予習・復習すること	80
8	施設等の運営管理	社会的養護の施設運営について説明します。	教科書を予習・復習すること	80
9	福島県内の障がい福祉施設について①	会津および県中を中心に、福島県内の障がい福祉施設の職員より事業所の説明と実習の内容について学ぶ。	当日の講演内容をもとに課題をまとめる。	80
10	福島県内の障がい福祉施設について②	会津地域を中心に、福島県内の障がい福祉施設の職員より事業所の説明と実習の内容について学ぶ。	当日の講演内容をもとに課題をまとめる。	80
11	福島県県内の障がい福祉施設について③	県中を中心に、福島県内の障がい福祉施設の職員より事業所の説明と実習の内容について学ぶ。	当日の講演内容をもとに課題をまとめる。	80
12	社会的養護に関する社会的状況	児童虐待や子どもの貧困等について説明します。	教科書を予習・復習すること	80
13	社会的養護に関わる専門職 ①	求められる専門性について説明します。	教科書を予習・復習すること	80
14	社会的養護に関わる専門職 ②	入所するこどもの福祉ニーズの理解について学びます。	教科書を予習・復習すること	80
15	社会的養護と地域福祉	地域子育て支援について説明します。	教科書を予習・復習すること	80

授業名	保育者論	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
担当教員名	◎安部 高太郎		
開講期	I 期		
授業の概要	【授業の目的及び内容】 この授業では、幼稚園教諭や保育士等の「保育者」として求められる役割や倫理について理解し、「保育者」の制度的な位置づけやその専門性及びキャリア形成等について学ぶ。現行の幼稚園教育要領や保育所保育指針等を参照しつつ、幼稚園教諭・保育士等の「保育者」が制度的にどう位置づけられ、専門性を持っているとされているのかを整理する。授業においては、子ども子育て支援新制度以降の保育・幼児教育に関わる現在の状況を踏まえながら、新聞等のメディアで報道される保育・幼児教育等に関わる問題と保育者がどう関わるかについても言及し、グループディスカッション等のアクティヴ・ラーニングの手法を用いて学生の理解が深まるよう工夫する。 【課題に対するフィードバックの方法】 授業内試験や課題等の補足説明・解説はメール配信や授業内に実施するが、試験結果については授業時間外に面談等の手法により、個別にフィードバックする予定である。		
授業の到達目標	この授業においては、次の五つの達成目標を定める。 （１）保育者の役割と倫理について理解できたか。 （２）保育者の制度的な位置づけを理解できたか。 （３）保育者の専門性について考察し、理解できたか。 （４）保育者の連携・協働について理解できたか。 （５）保育者の資質向上とキャリア形成について理解できたか。 ●単位認定の最低基準：内容の7割を理解していること。		
履修条件	原則として、幼稚園教諭二種、保育士資格取得希望者。	成績の 評価方法・基準	①授業参加度(受講態度や提出物の提出状況)：30% ②授業内試験(第15回に予定)：70% 以上の①・②の合計：100%
テキスト	厚生労働省 編 (2018)『保育所保育指針解説(平成30年3月)』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 (2018)『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月)』フレーベル館 文部科学省 (2018)『幼稚園教育要領解説(平成30年3月)』フレーベル館 ※加えて、適宜、必要に応じて授業担当者が資料を配布する。		
参考書	白石崇人 (2015)『保育者の専門性とは何か(改訂版)』社会評論社		
学生への要望	本科目を受講する学生には以下のことを求める。 ・欠席、遅刻はしないこと。 ・わからないことや疑問に思ったことは積極的に質問すること。 ・新聞やTV番組等を通じて、保育に関わる情報や話題を自ら収集すること。		
位置付け・水準	CE2107		
ディプロマポリシーとの関係	教育・保育の本質理解、教養と他者と関わる力		
オフィスタイム	・火曜日Ⅳ限（14：30～16：00） ・火曜日Ⅴ限（16：10～17：50） いずれも、83年館2階の安部研究室（821研究室）とする。そのほかの時間帯を希望する場合は、予め、安部（k-abe@koriyama-kgc.ac.jp）までメールで連絡を入れること。		
アクティブラーニング実施内容	ほとんど全ての授業回で、グループワークを予定している。		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	講義内容について説明を受け、到達目標や評価方法を確認する。自身の経験等から、保育者の仕事をイメージする。	自らが憧れとする保育者（幼稚園教諭・保育士等）はどのような人かを言語化し、そのような保育者となるにはどのような力や技能が必要であるかを考える。	30
2	保育者の役割・職務内容	児童福祉法や学校教育法等に即しながら、保育士・幼稚園教諭等の保育者として求められる役割、職務内容について整理する。	『保育所保育指針解説』・『幼稚園教育要領解説』等の保育者の役割・職務内容に関連する箇所を読んでおく。	60
3	保育者の倫理	全国保育士会倫理綱領や児童福祉法・教育職員免許法等に則しながら、保育者の倫理について学ぶ。	インターネット上で全国保育士会倫理綱領を探し、内容をひとつひとつ読上げ、重要だと思うところに線を引いてくる。	60
4	保育者の制度的位置づけ	保育士の資格取得・欠格事項及び幼稚園教諭の免許状の種類・欠格事項等について、児童福祉法・教育職員免許法等を参照しながら整理する。さらに認定こども園における保育者の位置づけについても学ぶ。	内閣府のHPから子ども・子育て支援新制度に関するリーフレットをダウンロードし、読んでおく。	60
5	保育者の資質・能力	中央教育審議会の「教員の資質能力向上特別部会」による報告書「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」等を参照しながら、保育者としての資質・能力について考える。	保育者として身につけるべきだと思う能力・技能等について自分なりに考えてくる。	60
6	養護及び教育の一体的展開	保育所保育指針・幼稚園教育要領等に即しながら、養護と教育が一体的に展開されることの意味を整理する。	保育所保育指針・幼稚園教育要領等の該当箇所を読んでくる。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	家庭との連携・保護者支援	保育所等における子育て支援の意義を、時代状況を踏まえながら整理し、保護者・家庭と連携しながら保育を展開することの重要性について理解する。	男性保育士によるおむつ替えに対して起きた騒動など、昨今の保育をめぐる情報を新聞等から得ておく。	90
8	保育の計画と評価：あるいは、保育におけるリフレクション	保育における計画・評価の意味を確認し、保育においてなされるリフレクションとはどのようなものとなるのかを学ぶ。	指導計画を立てる意味を自分なりに考えてくる。	60
9	保育の質をめぐる議論	保育の「質」として語られるものとしてどういう視点があるのかを学ぶ。	自分にとって理想の保育とはどういう性質のものであるのかをノートに記してくる。	60
10	保育の質を向上させるために：方法論・カリキュラム論の視点から	保育の質を向上させるために、どのような方法がありうるのか、カリキュラムとしてはどのように構想できるのかを考える。	子どもにとっての遊びが学びであることの意味を考えてくる。	60
11	保育における職員間の連携・協働	保育所等における職員間の連携・協働について、学ぶ。	チーム保育や特に乳児の担当制保育のあり方について、参考書等を元にしながら、自分なりに調べておく。	60
12	他の専門機関等との連携・協働	医療機関や小学校との連携・協働について、10の姿などに即しながら学ぶ。	10の姿について保育所保育指針・幼稚園教育要領等で見ておく。	60
13	地域社会の中の保育所・幼稚園等の施設	地域社会との連携や協働について、保育所・幼稚園等の実例をもとに知る。	附属幼稚園等、学生にとって身近な保育の現場における地域連携の実態を調べておく。	60
14	保育者のキャリア形成	キャリアアップ研修等の保育者のキャリアに関わる研修について整理する。	保育者として働く上で大切にしたいことは何か自分なりの考えをノートに記してくる。	60
15	まとめ	ノートや配布資料等を持参したうえで授業内試験を受ける。これまでの理解を確認し、解説を受ける。	ノートを整理し試験に備え、理解できなかったことを復習する。	60

授業名	保育の心理学	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
担当教員名	◎折笠 国康		
開講期			
授業の概要	保育実践にかかわる心理学の基礎知識を学習し、子どもへの理解を深め好ましい対応を見極める力を養うことを目標とする。特に、人間の発達の過程を見据えながらその特徴について学習する。 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。 位置づけ・水準 CE2111		
授業の到達目標	①子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深めることができたか。 ②保育実践にかかわる心理学的な基礎理論を理解することができたか。 ③子どもの発達を援助する方法を心理学的な観点で理解することができたか。 単位認定の最低基準は、：「内容の7割を理解していること」		
履修条件	短期大学部 幼児教育学科 1年	成績の 評価方法・基準	内容の「70%」の理解で合格とするが、「80%程度」の理解が望まれる。理解度の評価は小レポート30%、試験70%で行う。
テキスト	特に指定はしない。授業の時に資料を配布することがある。		
参考書	必要に応じて紹介する。		
学生への要望	講義への協力的な参加を要望する。 専用のノートを準備すること。		
位置付け・水準	CE2111		
ディプロマポリシーとの関係	子どもの支援の方法・技術力		
オフィスタイム	金曜1, 2限	835	
アクティブラーニング実施内容	ディスカッション		
実務家教員の経歴	中学校教諭(数学)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 保育の基本 勇気づけ理論	この科目の目標と授業方針を理解する。保育とは何かを心理学的な視点から理解する。 ほめる・叱るにかわるアプローチである“勇気づけ”についての基礎理論を理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
2	保育のための心理学 交流分析	自己についてエゴグラムを用いた交流分析によって理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
3	保育のための心理学 ー発達心理学ー	子どもの発達や成長に関して、心理的な知見や関わり方を理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
4	保育のための心理学 ー保育の目標 ①ー	保育の目標や保育者の対応について心理学的な視点から理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
5	保育のための心理学 ー保育の目標 ②ー	保育の目標や保育者の対応について心理学的な視点から理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
6	保育のための心理学 ー保育者の役割 1 ー	保育者との信頼関係や、保育者による子ども承認認知の重要性を理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
7	保育のための心理学 ー運動や遊びの本質ー	保育や心理学的な視点から、子どもの運動や遊びの本質について理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
8	保育のための心理学 ー運動や遊びの本質 2 ー	保育や心理学的な視点から、子どもの運動や遊びの本質について理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
9	保育のための心理学 ー保育者の役割 2 ー	保育者との信頼関係や、保育者による子ども承認認知の重要性を理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
10	保育のための心理学 ー動機づけの理論ー	人間のやる気や意欲にかかわる動機づけの理論の基礎を理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
11	保育のための心理学 ー保育者の役割 3 ー	動機づけ理論の基礎を基に、ほめる・叱るといった賞罰についての心理学的知見を理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
12	保育のための心理学 ーアドラー心理学 1 ー	子どもの適応を育むための、アドラー心理学の理論を理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
13	保育のための心理学 ーアドラー心理学 2 ー	子どもとの良好な関係性を築くため、アドラー心理学の理論を理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
14	保育のための心理学 教師のリーダーシップ	教師の果たす役割やあり方、実際の指導行動の状態、時代が求める望まれるリーダーシップについての理解を深める。時代が求めるリーダーシップについてのディスカッションを行う。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
15	本講義のまとめ	試験を実施し、本講義を振り返り保育に関する心理学的視点を復習する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60

授業名	教育心理学	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修	
担当教員名	◎折笠 国康			
開講期				
授業の概要	教育心理学は、教育活動をより効果的に行うための心理学的な知見や技術を提供する学問である。本科目を通して、より効果的な教育実践が可能となる教育に関する心理学的な知識や方法を理解することを目標とする。 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。 位置づけ・水準 CE2112			
授業の到達目標	①認知や感情などの「心の発達」に関する基本概念をどの程度理解できたか。 ②「自己」に関する基本概念をどの程度理解できたか。 ③近年の教育現場で問題となっている事柄をどの程度理解できたか。 単位認定の最低基準は、：「内容の7割を理解していること」			
履修条件	短期大学部 幼児教育学科 1年	成績の 評価方法・基準	授業内容の「70％程度」の理解が必要。理解度の評価は、授業の参加の様子やリアクションシート30％、試験70％で行う。	
テキスト	特に指定はない。			
参考書	講義の中で、適宜紹介する。			
学生への要望	講義への協力的な参加を要望する。			
位置付け・水準	CE2112			
ディプロマポリシーとの関係	子どもの支援の方法・技術力			
オフィスタイム	金曜1、2限 835			
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴	中学校教諭(数学)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	この授業の目的と授業方針を理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
2	人間の発達ー発達心理学ー	人間の発達や成長に関して、心理学的な知見や理論を学び理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
3	自己とは(1) 認知について	認知心理学の基礎を学び、自己に対する認識について理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
4	自己とは(2) 認知について	ピアジェの認知の発達に関する理論を学び理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
5	自己とは(3) 自我同一性	自我同一性を中心に心理学的な枠組みで自己とは何かを理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
6	自己とは(4) 自己概念	心理学的な構成概念としての自己概念の理論的枠組みを理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
7	自己とは(5) 自尊感情と自己評価	自尊感情や自己評価に関する心理学的知見を概観し理解する。 「本当の自分」に関して、心理学的視野から理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
8	自己とは(6) 自己受容、防衛機制	C. ロジャースの理論を用いて、自己受容について理解する。 A. フロイトによる防衛機制の概念を学び、自己についての理解を深める。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
9	自己とは(7) 交流分析	自己についてエゴグラムを用いて理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
10	動機づけの理論	内発的動機、外発的動機づけに関する理論を理解する。 E. デシの自己決定理論の基礎を理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
11	学級のアセスメント1	標準化された心理尺度による客観的な指標を基にした学級のアセスメントについて理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
12	学級のアセスメント2	標準化された心理尺度による客観的な指標を基にした学級のアセスメントについて理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
13	教師のリーダーシップ1	教師の果たす役割やあり方、実際の指導行動の状態、時代が求める望まれるリーダーシップについての理解を深める。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
14	教師のリーダーシップ2	教師の果たす役割やあり方、実際の指導行動の状態、時代が求める望まれるリーダーシップについての理解を深める。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
15	本講義のまとめ	試験を実施し、本講義の振り返りを通して教育の実践に必要な心理学的な知見を復習する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60

授業名	子ども家庭支援の心理学	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択	
担当教員名	◎宇治 和子			
開講期				
授業の概要	昨今の保育現場では、家族構造の変化を背景として、保育者も、子どもの発達や学びの過程、生涯発達、多様な育ちなど、保育や子育て支援に関する内容を包括的に理解することが必要になってきました。子どもと家庭を支援していくために保育者としてどのようなかわりをもてばいいのか、心理学の知見から考えます。各種課題は授業内にて随時返却 or 口頭フィードバックしていきます。			
授業の到達目標	本授業は、以下2点を達成目標（8割以上で単位認定）とします。 ・心理学的な考え方にに基づき、人の気持ちを推測できるようになる。 ・発達の観点から、子ども家庭支援を捉えることができるようになる。			
履修条件	幼児教育学科2年	成績の 評価方法・基準	積極的な授業参加（30％）、授業内課題（複数回実施予定：70％）により評価します。	
テキスト	事例で楽しく学ぶ「子ども家庭支援の心理学」（2023）中央法規			
参考書	授業の中で、随時紹介します。			
学生への要望	資料等を工夫してイメージしやすい授業を心がけるので、積極的な授業参加を期待します。			
位置付け・水準	CE2213			
ディプロマポリシーとの関係	この科目は、本学科DPの「子どもの支援の方法・技術力」「問題解決力」に関連しています。			
オフィスタイム	授業の前後に質問を受け付けます（研究室836）。			
アクティブラーニング実施内容	ディスカッションなど			
実務家教員の経歴	この授業は、子ども家庭福祉の現場で心理職として支援の実務経験がある教員が担当します。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 発達について	・授業内容、評価方法について説明する ・生涯発達、初期経験の重要性、発達課題等について説明する	教科書をよく読みこんで、予習・復習すること	60
2	発達の理解 1	・胎生期～乳児期にかけての発達を説明する	教科書をよく読みこんで、予習・復習すること	60
3	発達の理解 2	・幼児期前期（1）の発達について説明する	教科書をよく読みこんで、予習・復習すること	60
4	発達の理解 3	・幼児期前期（2）の発達・精神保健について説明する	教科書をよく読みこんで、予習・復習すること	60
5	発達の理解 4	・幼児期後期（1）の発達について説明する	教科書をよく読みこんで、予習・復習すること	60
6	発達の理解 5	・幼児期後期（2）の発達・精神保健について説明する	教科書をよく読みこんで、予習・復習すること	60
7	発達の理解 6	・幼児期後期・児童期の発達について説明する	教科書をよく読みこんで、予習・復習すること	60
8	発達の理解 7	・思春期の発達について説明する	教科書をよく読みこんで、予習・復習すること	60
9	発達の理解 8	・青年期の発達について説明する	教科書をよく読みこんで、予習・復習すること	60
10	発達の理解 9	・成人期・老年期の発達について説明する	教科書をよく読みこんで、予習・復習すること	60
11	子育て家庭に関する現状と課題 1	・子どもが育つ場としての「家族」「家庭」を説明する	教科書をよく読みこんで、予習・復習すること	60
12	子育て家庭に関する現状と課題 2	・子育てを取り巻く社会的状況、ライフコースと仕事や子育てについて説明する	教科書をよく読みこんで、予習・復習すること	60
13	子育て家庭に関する現状と課題 3	・ひとり親家庭・ステップファミリー・里親家庭・外国籍の家族などについて説明する	教科書をよく読みこんで、予習・復習すること	60
14	子育て家庭に関する現状と課題 4	・子どもの精神保健とその課題	教科書をよく読みこんで、予習・復習すること	60
15	子育て家庭に関する現状と課題 5	・障害受容について説明する	教科書をよく読みこんで、予習・復習すること	60

授業名	子どもの理解と支援	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 必修	
担当教員名	◎宇治 和子			
開講期				
授業の概要	どんなに社会が変わっても、子どもの成長発達というものは基本的なところでは大きく変わりません。まずは定型発達の子どもの育ちをきちんと観察し、情報を整理して全体像を捉えられることを目指します。そのうえで、保育者としてどのようなかわりをもつのかについて考えます。各種課題は授業内にて随時返却 or 口頭フィードバックしていきます。			
授業の到達目標	本授業は、以下2点を達成目標（8割以上で単位認定）とします。 ・保育実践において子どもの成長を自分なりに捉えられる。 ・子どもの現状を理解し、対応を考えることができる。			
履修条件	幼児教育学科2年	成績の 評価方法・基準	積極的な授業参加（50％）、授業内課題（複数回実施予定：50％）により評価します。	
テキスト	教科書は使わず、レジュメ、資料を配布します。			
参考書	授業の中で、随時紹介します。			
学生への要望	資料等を工夫してイメージしやすい授業を心がけるので、積極的な授業参加を期待します。			
位置付け・水準	CE2214			
ディプロマポリシーとの関係	この科目は、本学科DPの「教育・保育の総合的計画・実践力」「子どもの支援の方法・技術力」に関連しています。			
オフィスタイム	授業の前後に質問を受け付けます（研究室836）。			
アクティブラーニング実施内容	グループワーク・ディスカッションなど			
実務家教員の経歴	この授業は、子ども家庭福祉の現場で心理職として支援の実務経験がある教員が担当します。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 子どもを理解すること 1	・授業内容、評価方法について説明する ・子どもの実態に応じた発達や学びの把握について説明する	このテーマに関連する資料などを探して読み、知見を広げる	60
2	子どもを理解すること 2	・共感的理解についての説明の後、ワーク 1 を行う	このテーマに関連する資料などを探して読み、知見を広げる	60
3	子どもを理解する視点や方法 1	・子どもの生活面での発達を捉える視点について説明する ・グループに分かれ、3歳の子どもの様子について調べ、整理してまとめる	このテーマに関連する資料などを探して読み、知見を広げる	60
4	子どもを理解する視点や方法 2	・子どもの遊び面での発達を捉える視点について説明する ・グループに分かれ、4歳の子どもの様子について調べ、整理してまとめる	このテーマに関連する資料などを探して読み、知見を広げる	60
5	子どもを理解する視点や方法 3	・子どもの集団における経験と育ち（自己主張と自己抑制・自己の主体性の形成）を捉える視点について説明する ・ワーク 2 として、5歳の子どもの様子について調べ、整理してまとめる	このテーマに関連する資料などを探して読み、知見を広げる	60
6	子どもを理解する視点や方法 4	・子どもの葛藤やつまずきを捉える視点について説明する ・グループに分かれ、異年齢保育の子どもの様子について調べ、整理してまとめる	このテーマに関連する資料などを探して読み、知見を広げる	60
7	子どもの理解に基づく発達援助 1	・子どもを理解する方法について説明する ・ワーク 3 として、前項でまとめたものを使って、省察と評価を行い、対応を考えてみる	このテーマに関連する資料などを探して読み、知見を広げる	60
8	子どもの理解に基づく発達援助 2	・発達の課題に応じた援助と関わりについて説明する ・特別な配慮を要する子どもの理解と援助について説明する ・発達の連続性と就学への支援について説明する	このテーマに関連する資料などを探して読み、知見を広げる	60

授業名	子どもの保健	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎永瀬 悦子			
開講期	Ⅱ			
授業の概要	子どもの健康の保持・増進と精神安定を図るために必要な子どもの保健について学ぶ。子どもの心身の発育発達には個別性があることを踏まえ、子どもに多い疾患と体調不良時の症状に対する対処法について学ぶ。助産師・看護師として医療機関に、保健師・看護師教育の専任教員として教育機関に勤務してきた経験を活かして講義を行う。課題については、最終授業で全体に対するフィードバックを行う。			
授業の到達目標	①子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解しているか。 ②子どもの健康状態の方法について理解しているか。 ③子どもの体調不良時の対応について理解しているか。 ④感染症の予防と対策について理解しているか。 ※単位認定の最低基準：内容を7割以上理解していること。			
履修条件	保育士資格取得を希望する学生	成績の 評価方法・基準	筆記試験80点・レポート20点	
テキスト	谷川友美編著『知のゆりかご 子どもの保健』みらい 2025年 ※資料を随時配布する。			
参考書	丸尾良浩/竹内義博編著『新版 よくわかる子どもの保健』ミネルヴァ書房 2021年 日本保育保健協議会編『新・保育保健の基礎知識』全国社会福祉協議会 2023年 飯島一誠監修『保育者のためのわかりやすい子どもの保健 第2版』総合医学社 2024年			
学生への要望	積極的に臨むことを期待する。			
位置付け・水準	CE2115			
ディプロマポリシーとの関係	「教育・保育の総合的計画・実践力」「子どもの支援の方法・技術力」「問題解決力」			
オフィスタイム	月曜日 Ⅰ時限（9：00～10：30） 832研究室			
アクティブラーニング実施内容	第8回：グループワーク			
実務家教員の経歴	有（看護・医療全般。傷病に対する医療・ケア実践、救命救急、保健指導、乳幼児健診、助産等。）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	命のはじまりと子どもの誕生	命の始まりと子どもの誕生について学ぶ。	自分および身近な子どもの誕生から命について考えてみる。	60
2	子どもの健康と保健の意義	子どもを取り巻く環境と子どもの健康課題について学ぶ。	新聞記事や書籍、ニュース等を通して、現代の子どもの健康問題について調べる。	60
3	子どもの発育発達①	子どもの発育発達過程と生理機能の特徴について学ぶ。	子どもの原始反射の種類及び発育発達について教科書を読む。	60
4	子どもの発育発達②	子どもの発育発達過程には個人差があることを事例をもとに学ぶ。	教科書をよく読み学びを深める。	60
5	子どもの健康状態の把握	子どもの健康状態の観察と体調不良の子どもへの対応、保護者等との情報共有について学ぶ。	教科書をよく読み学びを深める。	60
6	感染症の予防と対策 子どもの代表的な感染症①	感染症の要因と感染経路・対策について学ぶ。学校保健安全法施行規則19条にある感染症の種類と登園停止期間について学ぶ。子どもの代表的な感染症について理解する。	「2018年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」（平成30年3月厚生労働省）をよく読む。学校保健安全法施行規則第20条についてまとめる。	60
7	子どもの代表的な感染症②	子どもの代表的な感染症について理解する。	「2018年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」（平成30年4月厚生労働省）をよく読む。学校保健安全法施行規則第20条についてまとめる。	60
8	多様な子どもの存在と保健的対応	多様な子どもの存在について理解し「障害」について考えを深める。※グループワーク	教科書をよく読み学びを深める。	60
9	子どもの病気の予防と適切な対応①	子どもの主な病気の特徴(呼吸器系、循環器系、消化器系、血液系)と対応・予防について学ぶ。	教科書をよく読み学びを深める。	60
10	子どもの病気の予防と適切な対応②	子どもの主な病気の特徴(泌尿器系、生殖器系、内分泌系)と対応について学ぶ。	教科書をよく読み学びを深める。	60
11	子どもの病気の予防と適切な対応③	子どもの主な病気の特徴(皮膚、神経系、骨・関節・筋肉系、感覚器系)と対応について学ぶ。	教科書をよく読み学びを深める。	60
12	子どもの病気の予防と適切な対応④	子どもの主な病気の特徴(アレルギー・免疫系)と対応について学ぶ。	教科書をよく読み学びを深める。	60
13	体調の良くない子どもへの対応①	子どもの健康状態の観察の方法及び主な症状(発熱・脱水咳嗽・喘鳴)の見方と対処法について学ぶ。	教科書をよく読み学びを深める。	60
14	体調の良くない子どもへの対応②	子どもの健康状態の観察の方法及び主な症状(腹痛、下痢、嘔吐、便秘)の見方と対処法について学ぶ。	教科書をよく読み学びを深める。	60
15	体調の良くない子どもへの対応③	子どもの健康状態の観察の方法及び主な症状(けいれん、熱中症、鼻出血、耳の異物、虫刺され、発疹)の見方と対処法について学ぶ。	教科書をよく読み学びを深める。	60

授業名	子どもの食と栄養	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択
担当教員名	◎大泉 由美		
開講期	Ⅲ期		
授業の概要	・乳幼児の栄養・食生活の特徴を知るとともに、保育所での食事の在り方、食育について具体的な実践や事例に基づき検討します。 ・保育所における食に関する指導方法を理解し、実践できる力を身につけることを目的とします。 〔課題に対するフィードバック（評価の伝達）方法〕 課題・レポート・小テストについて、提出後（実施後）に授業内でフィードバックする。		
授業の到達目標	①子どもの健やかな発育・発達のために食事が重要な役割を果たすことを理解している。 ②栄養に関する基本的知識を理解している。 ③食育の重要性や内容を理解している。 ④特別な配慮を要する子どもへの対応について理解している。 ⑤乳児期・幼児期・学童期の食生活の特徴、望ましい食生活について理解している。 単位認定の最低基準は、内容の8割を理解していること。		
履修条件	特にありません	成績の 評価方法・基準	授業内容の理解度の確認 60点 レポート(感想・振り返りシート)の提出 40点 60%以上で合格とする。
テキスト	子どもの食と栄養 -保育現場で活かせる食の基本- (太田百合子・堤ちはる 編著, 羊土社, , 2,400円〔税別〕)		
参考書	必要に応じて連絡する。		
学生への要望	子どもの食について興味と関心を持ち生活してください。		
位置付け・水準	CE2216		
ディプロマポリシーとの関係	「教育・保育の総合的計画・実践力」 「子どもの支援の方法・技術力」 「問題解決力」		
オフィスタイム	創学館4階No.3 研究室 火曜・水曜日Ⅰ限 それ以外は個別相談 (y-oizumi@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定)		
アクティブラーニング実施内容	実習施設で経験した食育などを振り返り、簡単な報告会を行う。		
実務家教員の経歴	家庭科教員として私立高等学校に勤務		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス 子どもの健康と食生活の意義	食生活と健康のかかわりを理解する。	事前：シラバスに目を通し、授業内容を理解する。 事後：授業の内容を振り返る。	30
2	子どもの食生活の理解	子どもの食生活の現状と課題および子どもの発育・発達と栄養身体発育について理解する。	授業の内容を振り返る。	30
3	栄養に関する基礎知識 1	栄養素の消化・吸収の仕組み、五大栄養素＋食物繊維、水分、水分俵給について学び理解する。	授業の内容を振り返る。	30
4	栄養に関する基礎知識 2	日本人の食事摂取基準、食事バランスガイド、食生活指針について学び、どのように組み合わせ、食べればよいかを理解する。 ・食中毒予防と衛生管理についても触れる。	授業の内容を振り返る。	30
5	食育の基本と内容（1）	食育とは何か、食育基本法、保育所で食育を行う意義について学び理解する。	授業の内容を振り返る。	30
6	食育の基本と内容（2）	月・年齢に応じた食育について学び、給食を通してどのような食育ができるのか、地域と連携をとることでのような食育ができるのかを理解する。	授業の内容を振り返る。	30
7	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	疾病及び体調不良の子ども、障がいのある子ども、それぞれの配慮を要する子どもへの理解と、食事の対応や栄養について学び理解する。	授業の内容を振り返る。	30
8	栄養に関する基礎知識、食育の基本と内容についてのまとめ	第1回～第8回までの授業内容に関する理解度の確認、復習、まとめを行う。	第1回～第8回の授業の振り返る。	50
9	食育に関する報告会	実習施設で経験した食育などを振り返り、報告会を行う。	第1回～第8回の授業の振り返る。	50
10	子どもの発育発達と食生活 1 乳児期	乳児の食べる機能の変化と栄養補給法（乳汁栄養・離乳）について学び、乳児栄養について理解する。また、調乳方法について学び理解する。	授業の内容を振り返る。	30
11	子どもの発育発達と食生活 2 幼児期	幼児期の食機能の特徴と間食が必要な理由と与え方について学び、幼児期栄養について理解する。また、保育所給食の実際について学び理解する。	授業の内容を振り返る。	30
12	子どもの発育発達と食生活 3 学童期・思春期	「食習慣の完成期」である学童期・思春期の食行動の実態や動向、また学童期・思春期の食生活の特徴について学び理解する。	授業の内容を振り返る。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	アレルギー疾患をもつ子どもの食と栄養	食物アレルギーの基礎知識・保育所での食物アレルギー対応について学び理解する。	授業の内容を振り返る。	30
14	児童福祉施設における食事と栄養	児童福祉施設における食事と栄養、食事環境の配慮、家庭への給食情報の提供について学び理解する。	授業の内容を振り返る。	30
15	授業のまとめ	第10～14回授業の振り返りを行う。	「子どもの食と栄養」で学んだ内容の復習を行う。	50

授業名	教育・保育課程論	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎安部 高太郎 賀門 康博			
開講期	Ⅱ期			
授業の概要	生涯にわたる人格形成の基礎を培う幼児教育において、幼児期にふさわしい教育・保育課程はどのようなものか。「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を基準にした計画を立てられるために必要な基礎を講義する。具体的には、教育・保育課程の役割や意義、編成の方法、指導案の作成、カリキュラム・マネジメントなどを取りあげる。また附属幼稚園での勤務をもとに、実際の保育現場での子どもの姿等や保育者の関わり様子をスライドやビデオなどで示しつつ、具体的な子どもの姿や保育についての現代的な課題についての話題を提供し、指導計画作成のイメージがつくように活動グループ・ワークを行いつつ、現場に直結する力を身につけていく。なお、最終授業で全体に対するフィードバックを行う。			
授業の到達目標	①教育・保育課程の役割と意義を、7割以上理解できたか。 ②教育・保育課程の編成と指導計画の作成方法について、7割以上理解できたか。 ③教育・保育課程のマネジメントの必要性を、7割以上理解できたか。			
履修条件	原則として、幼稚園教諭二種、保育士資格取得希望者	成績の 評価方法・基準	①授業参加度：30％ ②授業内試験：70％ ①＋②以上で100％	
テキスト	・古林ゆり(監修・執筆)『0～5歳児年齢別 実習の日誌と指導案 完全サポート』新星出版社、2017年			
参考書	・文部科学省『幼稚園教育要領(平成29年3月告示)』フレーベル館、2017年 ・厚生労働省『保育所保育指針(平成29年3月告示)』フレーベル館、2017年 ・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示)』フレーベル館、2017年 (上記3冊の持参は不要) ・その他、授業中に適宜プリントを配布する。			
学生への要望	授業用のノートを用意すること。 欠席、遅刻はしないようにすること。 指導計画の作成にはイメージの豊かさが大事である。授業内容に沿った気づきや発想を、積極的に発言すること。			
位置付け・水準	CE2121			
ディプロマポリシーとの関係	教育・保育の総合的計画・実践力、子どもの支援の方法・技術力			
オフィスタイム	・火曜日Ⅳ限(14:30～16:00) ・火曜日Ⅴ限(16:10～17:40) いずれも、83年館2階の安部研究室(821研究室)とする。そのほかの時間帯を希望する場合は、予め、安部(k-abe@koriyama-kgc.ac.jp)までメールで連絡を入れること。			
アクティブラーニング実施内容	ほとんど全ての授業回で、グループ討議を行い、その成果を共有する時間を設けている。			
実務家教員の経歴	実務経験(賀門博康):幼稚園教諭(現在は園長)として郡山女子大学附属幼稚園に勤務			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション (担当：安部 高太郎)	・講義内容について説明を受け、到達目標や評価方法を確認する。保育活動がどのように行われているのか、気づいたことを共有する。	事前にシラバスを確認し、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の記載を概観する。	60
2	教育・保育課程とは何か (担当：安部 高太郎)	・カリキュラムの発生を知ることとおして、経験カリキュラムについて学ぶ。また、我が国日本で告示された教育要領等の学校教育における位置づけや性格を学び、教育課程等を作成する必要性について考える。	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の内容を確認する。	60
3	教育要領の変遷 (担当：安部 高太郎)	・戦後「保育要領」として生まれ、「幼稚園教育要領」として今日まで改訂されてきた変遷を知る。その際、社会からの要請が関連していたことを理解する。また、同時に「保育所保育指針」の変遷についても学ぶ。これまで学んだことをまとめる。	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の変遷をまとめる。	60
4	教育課程・指導計画の種類 (担当：賀門 康博)	・保育三法令(幼稚園教育要領・保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領)について、29年度の改訂版をもとに、それぞれの内容と関連性を話しつつ、“3つの視点（0歳)”“5領域（1～5歳)”“10の姿”などのキーワードを学び、保育の置けるその位置づけを理解する。	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」で要となる“3つの視点（0歳)”“5領域（1～5歳)”“10の姿”について、語彙等を理解する。	60
5	子どもの多面的な理解（5領域・10の姿等から） (担当：賀門 康博)	・5領域や10の姿等の内容を照らし合わせながら、子どもの姿や日々の生活・体験が子ども達の成長にとってどういった意味を持つのかについて、ビデオなどの視聴をつつ、理解を深める。	「5領域」及び「10の姿」といった観点の存在について理解する。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	指導計画の構成について① (担当：賀門 康博)	・指導計画はどういった構成になっており、それぞれがどういった関係であるのかについて、全体像を理解する。また、構成要素のうち、「子どもの姿」「ねらい」「内容」について掘り下げ、その意味を理解する。	指導計画における「子どもの姿」「ねらい」「内容」についてそれぞれの意味と違いを理解する。	60
7	指導計画の構成について② (担当：賀門 康博)	・前回に続き、指導計画の構成について学ぶ。全体の構成を考えつつ、構成要素のうち「環境の構成」「予想される子どもの姿」「保育者の援助・配慮」について掘り下げ、その意味を理解する。	指導計画における「環境の構成」「予想される子どもの姿」「保育者の援助・配慮」についてそれぞれの意味と違いを理解する。	60
8	指導計画作成の実際①（子どもの姿①） (担当：賀門 康博)	・前回までに学んだ指導計画の全体像の理解を踏まえ、以後4回にわたり各論的にワークを行い、実際の記述の仕方などを学ぶ。この回では指導計画の基礎となる「子どもの姿」について、“個の理解”と“全体の理解”の重要性について学ぶ。また、ビデオなどを用いながら行動観察などでのポイントやその意味を理解する。	子どもの定型的な発達の姿を理解しつつ、各年齢において重要とされる関わりについてポイントを理解する。	60
9	指導計画作成の実際①（子どもの姿②） (担当：賀門 康博)	・前回から引き続き、子どもの姿についてのワークを行う。実際に実習でクラス担当になり、部分実習などで全体への指導を行う際に、クラス全体の状態をどのように指導計画に反映させるかについて、幾つかの視点を提示しつつ、指導計画への記述について理解する。	個の発達の姿を理解しつつ、集団保育の中で重要とされる関わりについてポイントを理解する。	60
10	指導計画作成の実際②（ねらい・内容） (担当：賀門 康博)	・前回に引き続きワークを行う。この回では、子どもの姿を踏まえた上で、どのように「ねらい」や「内容」を立てていくかについてそのポイントを学び、指導計画への記述の手順などを理解する。	子どもの姿をもとにした「ねらい」の立て方について、5領域等の視点を持った考え方のポイントを理解する。	60
11	指導計画作成の実際③（環境設定・予想される子どもの姿） (担当：賀門 康博)	・前回に引き続きワークを行う。この回では、前回理解したねらいや内容に準じて、どういった形で「環境構成」をし、「子どもの姿を予想する」かについてそのポイントを学び、指導計画への記述の手順などを理解する。	「ねらい」を実現するために必要な「環境構成」と「子どもの予想される姿」について、記載の項目とポイントを理解する。	60
12	指導計画作成の実際④（保育者の援助・配慮） (担当：賀門 康博)	・前回に引き続きワークを行う。この回では、活動の内容や予想される子どもの姿に対して、ねらいを達成するための「保育者の援助や配慮」についてそのポイントを学び、指導計画への記述の手順などを理解する。	「予想される子どもの姿」に対して保育者としての関わり方(援助・配慮)の重要性について理解する。	60
13	カリキュラム・マネジメントについて① (担当：賀門 康博)	・これまでに学んだ指導計画(部分指導・一日指導)が、子どもたちの日々の成長の中でどういった見通しをもって作成されるべきであるかについて、より長期的な教育課程との関連や、小学校との連携（指導要録の作成）の意味と関連させながら学ぶ。	保育における現代的な課題について概観する。	60
14	カリキュラム・マネジメントについて② (担当：賀門 康博)	・カリキュラムの評価や発達や環境の違いに応じて、柔軟に対応(ネージメント)していくことの大切さを知る。	PDCAサイクルについて理解し、現代的な課題に対して指導計画を体操させていく重要性を理解する。	60
15	まとめ (担当：安部 高太朗)	・これまで授業で学んできたことを、実習で経験したことをとおして振り返り、授業内試験を受け、教育・保育課程の役割や意義等を再確認する。	ノートやプリントを整理し、幼稚園実習及び保育実習に向けて基礎となる視点を再確認する。	60

授業名	特別支援教育基礎論	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修	
担当教員名	◎小林 徹			
開講期	後期			
授業の概要	1. 特別支援教育を支える理念や歴史の変遷について理解する。 2. 特別支援教育の場（機関）と制度の現状をとらえる。 3. さまざまな障がいと障がい児、特別な配慮を要する子どもの理解の視点と方法について理解する。 4. 障がい児等の個別支援計画の作成、評価について理解する。 5. 特別支援教育の実際について理解を深める。 課題、レポート、実技については、実施後に授業内でフィードバックを行う。			
授業の到達目標	1. 特別支援教育の理念や制度、その歴史や支援機関の現状をどの程度理解できたか。 2. 障がい児や特別な配慮を要する子どもの個別指導（支援）計画の作成、評価についてどの程度理解できたか。 3. さまざまな障がいと障がい児や特別な配慮を要する子どもを支援するための視点と方法について理解できたか。 単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。			
履修条件	幼児教育学科の学生を中心とする	成績の 評価方法・基準	平常点50点（小テスト、提出物、授業態度による減点） 期末試験50点	
テキスト	小林徹・栗山宣夫編著『ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教育』みらい,2020 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館,2018 厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館,2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館,2018			
参考書	七木田敦編著『保育そこが知りたい！気になる子Q＆A』チャイルド本社,2008			
学生への要望	障がいや障がい児について関心を持ち、学習を深めてほしい。			
位置付け・水準	CE2116			
ディプロマポリシーとの関係	保育の内容理解と総合的計画力、子どもの発達の理解と支援の力、保育の方法と技術力			
オフィスタイム	小林：毎週水曜9：10～12：05、小林徹研究室。それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）			
アクティブラーニング実施内容	履修者が「個別の指導計画」を作成・発表した内容についてディスカッションを行う。			
実務家教員の経歴	小林徹は、東京都の公立中学校において特別支援学級の担任教諭として25年間勤務した。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	特別支援教育の考え方	障がい児、特別な配慮を要する子ども、特別支援教育の基礎概念について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
2	特別支援教育の歴史	特別支援教育と障がい児保育の歴史の変遷について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
3	特別支援教育の制度と仕組み	特別支援教育と障がい児福祉の制度とその仕組みについて学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
4	発達障がいの理解と支援①	さまざまな発達理論の基礎概念と障がいとの関連について映像を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
5	発達障がいの理解と支援②	障がいの基礎概念とその発見、支援の流れについて映像を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
6	発達障がいへのアプローチ	映像を通して発達障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
7	障がい児の子育て	障がいのある子どもの子育ての考え方と療育の実際を映像を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
8	知的障がい	映像を通して知的障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
9	自閉症	映像を通して自閉症に関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
10	その他の障がい	映像を通してその他の障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	障がい児支援の工夫	障がい児支援に関わるさまざまな工夫について紹介し、理解を深める。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
12	他機関との連携	ゲストスピーカーを招いて、特別支援教育に関するさまざまな機関との連携について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
13	子ども理解と保育方法①	子どもとその特別な教育的ニーズをどのように見出し、理解するかを個別の指導計画の作成を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
14	子ども理解と保育方法②	子どもとその特別な教育的ニーズから、個別の指導計画を作成し、適切で具体的な保育方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
15	まとめ	学習内容を振り返り、保育者として特別支援教育にどう取り組むかを考察する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

授業名	教育方法論	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 必修	
担当教員名	◎賀門 康博 奥 美代			
開講期	Ⅳ期			
授業の概要	この授業では、幼児の発達の姿と、幼保3法令の理解を基にし、保育者としての「保育実践力」を習得することを学修する。保育において重要な「ねらい」を達成するために行う保育内容が、子どもの姿に即し、適切なものなのかを考えるには、自らの保育技能や知識の幅と深さが必要である。具体的には、実践場面のビデオなどを使つてのケーススタディや、グループワークなどを行い、保育への多角的な視野を獲得し、保育観の醸成へと繋げていくこととする。 なお、本授業では基本的な保育方法や技術の学修に加え、園庭の有無など様々な保育環境に対応するために情報機器(ICT機器)等を活用した現代的な保育方法についても講義する。 最終授業で全体に対するフィードバックを行います。			
授業の到達目標	一人ひとりの子どもの発達段階に即しつつ、「環境を通じた指導(保育)」の意義・意味を理解するとともに、保育の「ねらい」に応じた様々な指導方法を学ぶ。それらを通じ、指導計画における「方法(内容)」の作成能力、そしてその実践力の基礎を身につける。 ①保育における「環境を通じた指導」の意義・意味を理解できたか ②指導を行う上でのさまざまな指導方法を理解し、指導のねらいと併せた理解ができたか ③グループや全体での話し合いを通じ、ねらいに対して様々な方法があることを知り、自分の保育観の幅を広げることができたか。 単位認定の最低基準：「内容の7割を理解していること」			
履修条件	原則として、幼稚園教諭二種、保育士資格取得希望者	成績の 評価方法・基準	授業参加度30% レポート70%	
テキスト	特になし			
参考書	・幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） ・保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府） ※上記3つについては参考にはしますが、授業に持参しなくて良いです。必要に応じて提示します。			
学生への要望	授業用のノートを用意すること。 欠席、遅刻はしないようにすること。 保育における「ねらい」と「方法」(内容)の関係を意識し、授業内容に沿った気づきや発想を、積極的に発言すること。			
位置付け・水準	CE2218			
ディプロマポリシーとの関係	本科目は、ディプロマ・ポリシーの「保育を実践するための方法や技術」と「学習した知識や技術を統合し、問題を解決する能力」に対応している。			
オフィスタイム	授業後			
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴	賀門康博）：幼稚園教諭（現在は園長）として郡山女子大学附属幼稚園に勤務 （奥美代）：幼稚園教諭（現在は副園長）として郡山女子大学附属幼稚園に勤務			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション(賀門、奥) ～本授業のねらいと概要(賀門、奥)～	講義の内容、予定、評価など、授業に関する説明を聞く。 授業を構成する三要素(「園児」と「教員」と「教材」)について知る。	自らの実習体験等から、そこで行われていた保育方法について振り返り、その意味を考察する。	30
2	各カリキュラムと教育方法の関係の理解(賀門) ～子どもの姿、ねらいと方法～	保育三法令を含め、保育に関するカリキュラムの存在について再確認するとともに、そこにあるねらいを達成するための「方法」との関連性について知るとともに、子どもの姿と連携する重要性について知る。	「ねらい」と「方法(内容)」についての位置づけについて、実習やこれまでの授業を振り返り考察する。	30
3	教育機器の使用① ビデオを使つてのケーススタディ(賀門、奥) ～教材の特性、関わりのタイミング、保育実践(指導計画)への反映等～	前回までの知識を基に、実際の保育場面の様子を視覚的に見る中で、教材の出し方やそのタイミング等についてワーク等を通じ考察や理解を深める。そうした考察を元に、指導計画を作成し、実践力を高める。	一年次の授業(教育保育課程論など)のノートなどを振り返り、指導計画の作成について復習をしておく。	30
4	教育機器の使用② ビデオを使つてのケーススタディ(賀門、奥) ～、模擬保育の実践と振り返り～	ビデオを使つてのケーススタディを行いつつ、前回作成した指導計画に従った模擬保育の実践を行い、実際の保育場面でのより効果的な教材の活用方法について考察を行い、理解を深める。	前回作成した指導計画を用いた保育をイメージしながら、その保育に必要な物や使い方などを考えておく(教材研究)。	30
5	VUCAの時代における子どもたちが不足した経験をどう補っていくかについて考察を行うと共に、様々な教育・保育実践が存在を知り、現代の子ども達に必要な教育について自分なりに考えていく	パソコンやタブレットなど先進的なICT機器を活用した保育の存在を知ると共に、現代の子どもたちが不足した経験をどう補っていくかについて考察を行う。	現代の子ども達に必要な教育について自分なりに考える	30
6	保護者との連携～保育を伝えるスキルを磨く～ (賀門)	保育の中での一つ一つの関わりに込められた保育者の意図を、保護者に伝える中でより良い保護者との関係になることを知り、そのスキルを磨く。	保護者の視点を意識し、どういった考えがあるかについて考えておく。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	保育内容の評価について ～カリキュラムマネジメント、PDCAと併せた保育方法の再考～(賀門)	これまでのワークなどを踏まえ、保育実践そのものが一回で終わるものではなく、振り返りを行い、より良い方法を考える必要がある事を知る。その評価が子ども主体である事が重要である事を知る。	教科書などからPDCAとは何かについて予習しておく。	30
8	振り返りとまとめ、自らの保育観の醸成(賀門、奥)	これまで学んできたことから、望ましい保育実践についてまとめる。	ノートやプリントを整理し、保育をいかに進めていくかを考える基礎となる視点を再確認する。	30

授業名	保育相談支援	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修	
担当教員名	◎宇治 和子			
開講期				
授業の概要	昨今の保育現場では、家族構造の変化を背景として、養育者（保護者）の相談ニーズが増加しています。養育者と信頼関係を形成し、家族が抱える支援のニーズに気づき、実際に援助を行える保育者を目指して、相談、助言、情報提供、モデルの提示等のさまざまな支援のあり方を具体的に検討します。各種課題は授業内にて随時返却 or 口頭フィードバックしていきます。			
授業の到達目標	本授業は、以下2点を達成目標（8割以上で単位認定）とします。 ・養育者（保護者）や子どもと信頼関係を作る方法を理解する。 ・相談者の状況を把握し、子ども発達に応じた支援計画を自分なりに立てることができる。			
履修条件	幼児教育学科2年	成績の 評価方法・基準	積極的な授業参加（30％）、授業内課題（複数回実施予定：70％）により評価します。	
テキスト	教科書は使わず、レジュメ、資料を配布します。			
参考書	授業の中で、随時紹介します。			
学生への要望	資料等を工夫してイメージしやすい授業を心がけるので、積極的な授業参加を期待します。			
位置付け・水準	CE2224			
ディプロマポリシーとの関係	この科目は、本学科DPの「問題解決力」「教養と他者と関わる力」に関連しています。			
オフィスタイム	授業の前後で質問を受け付けます（研究室836）。			
アクティブラーニング実施内容	ロールプレイなど			
実務家教員の経歴	この授業は、子ども家庭福祉の現場で心理職として相談の実務経験がある教員が担当します。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 保育相談支援の社会的背景	・授業内容、評価方法について説明する ・子育てをしている家庭に対する支援の意義や目的、役割を説明する	このテーマに関連する資料やニュース、新聞記事を探して読み、知見を広げる	60
2	保育相談・支援とは1	・保育者に求められる基本的態度について説明する	このテーマに関連する資料やニュース、新聞記事を探して読み、知見を広げる	60
3	保育相談・支援とは2	・保育の専門性を活かした子育て支援について説明する	このテーマに関連する資料やニュース、新聞記事を探して読み、知見を広げる	60
4	相談業務を組み立てる1	・インテーク面接での基本について説明する	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
5	相談業務を組み立てる2	・質問の立て方について検討した後、相談ロールプレイ、情報整理シートの記入を行う	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
6	相談業務を組み立てる3	・アセスメントツールについて説明する ・ジェノグラムの書き方・読み方について説明する	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
7	相談業務を組み立てる4	・エコマップの書き方・読み方について説明する	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
8	相談業務を組み立てる5	・行動観察の方法を説明する ・行動観察のトレーニングを行う（動画によるワーク）	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
9	相談業務を組み立てる6	・発達検査について説明する（乳幼児発達検査：遠城寺式・新版K式・田中ビネー） ・読み取りトレーニングを行う（分析練習課題実施）	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
10	相談業務を組み立てる7	・これまで学んだ方法や技術の復習を行う ・架空事例を使って面接相談のロールプレイを実施する ・支援計画を含む面接相談記録の作成を行う	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
11	多様な支援の展開と関係機関との連携 1	・保育者の倫理、信頼関係の作り方、内省力の必要性について説明する	このテーマに関連する資料やニュース、新聞記事を探して読み、知見を広げる	60
12	多様な支援の展開と関係機関との連携 2	・社会資源について説明し、どのように活用することが出来るかを検討する ・きもちのワークを行う	このテーマに関連する資料やニュース、新聞記事を探して読み、知見を広げる	60
13	多様な支援の展開と関係機関との連携 3	・傾聴や対話の工夫など、状況に応じた支援の具体例を説明する	このテーマに関連する資料やニュース、新聞記事を探して読み、知見を広げる	60
14	多様な支援の展開と関係機関との連携 4	・オンライン相談支援について説明する	このテーマに関連する資料やニュース、新聞記事を探して読み、知見を広げる	60
15	多様な支援の展開と関係機関との連携 5	・自分自身のストレスと向き合うことについて説明する	このテーマに関連する資料やニュース、新聞記事を探して読み、知見を広げる	60

授業名	幼児と健康	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 必修	
担当教員名	◎永瀬 悦子			
開講期	I 期			
授業の概要	領域「健康」についての指導をするにあたり、保育者として専門的に身につけるべき内容についてより詳細に扱う。発達臨床的観点からの心身の健康を考え、基本的生活習慣の確保および心身の健康を基盤としての怪我や病気の予防に対する知識、身体運動機能の具体的発達内容の専門的事項についての知識を身に付け指導に役立てる。 【課題に対するフィードバック方法】最終授業で全体に対するフィードバックを行う。 【授業の目的】幼児の健康に関する理論や知識、保育・教育の展開を理解する。			
授業の到達目標	幼児期の心身の健康について、下記のようなテーマで目標を定める。 ①幼児期の心身の健康についての課題と発達の意義を理解することができる ②幼児の基本的生活習慣の形成、安全な生活と病気・怪我の予防について理解することができる。 ③学術的基盤や専門性をもって健康に関わる幼児期の課題を考えることができる。 7割達成すれば単位認定とする。			
履修条件	短期大学部 幼児教育学科 1年 AB	成績の 評価方法・基準	授業内試験50点、課題(レポート)50点 合計100点	
テキスト	浮田咲子・町田太郎編著『新・保育内容 健康』教育情報出版			
参考書	随時、資料配布をする。			
学生への要望	乳幼児の健康に関する基本的な観点を学ぶことを期待する。			
位置付け・水準	CE2125			
ディプロマポリシーとの関係	教育・保育の本質理解、教育・保育の総合的計画・実践力			
オフィスタイム	月曜日9：00～10：30 場所：832研究室			
アクティブラーニング実施内容	授業内においてグループワークとしての話し合いの時間を設ける			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	領域「健康」と幼児の発育発達	「健康」の概念および幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の考え方を学ぶ。	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の健康に関するページを読む。	40
2	幼児の心身の発育発達と健康	幼児の心身の発育発達と運動能力と遊びについて学ぶ	テキストの授業内容に係るページを読む	40
3	基本的生活習慣の形成と保育・教育	基本的生活習慣行動の形成について理解し、保育・教育の方法について学ぶ	テキストの授業内容に係るページを読む	40
4	健やかな成長を願う年間行事	保育・教育の場で行われる年間行事の意味・目的・内容について理解する。	文献や新聞記事、ニュース等を通して、年間行事について調べる。	40
5	幼児の発育発達と保育・教育の指導法Ⅰ	幼児の心身の発育発達の特徴を理解し、遊び・生活から健康が育つことを学ぶ。	テキストの授業内容に係るページを読む	40
6	幼児の発育発達と保育・教育の指導法Ⅱ	幼児の心身の発育発達の特徴を理解し、遊び・生活から健康が育つことを学ぶ。	テキストの授業内容に係るページを読む	40
7	安全な生活と病気・怪我の予防Ⅰ 永瀬悦子	幼児の安全教育・健康管理について理解する。	テキストの授業内容に係るページを読む	40
8	安全な生活と病気・怪我の予防Ⅱ 永瀬悦子	幼児の病気・怪我の特徴や病気の予防、安全管理、安全教育について理解する。	テキストの授業内容に係るページを読む	40

授業名	幼児と人間関係	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 必修	
担当教員名	◎宇治 和子			
開講期				
授業の概要	この授業では、幼児が他の人と仲良く支え合って生活するために大切なことを事例から実践的に学び、昨今の社会環境ゆえの問題や課題、自立心を育てることについて考え、人と関わる力を養うための方法について検討します。 各種課題は授業内にて随時返却 or 口頭フィードバックしていきます。			
授業の到達目標	本授業は、以下3点を達成目標（8割以上で単位認定）とします。 ・ 幼児が人と関わることの重要性について説明できる ・ 幼児を取り巻く人間関係における現代の問題や課題を分析できる ・ 幼児期の人間関係を発達の視点から理解できる			
履修条件	幼児教育学科1年	成績の 評価方法・基準	グループワークへの取り組み、積極的な授業参加（40％）、授業内課題提出（複数回実施予定：60％）により評価します。	
テキスト	教科書は使わず、資料を配布します。			
参考書	授業の中で、随時紹介します。			
学生への要望	資料等を工夫してイメージしやすい授業を心がけるので、積極的な授業参加を期待します。			
位置付け・水準	CE2126			
ディプロマポリシーとの関係	この科目は、本学科DPの「子どもの支援の方法・技術力」「教養と他者と関わる力」に関連しています。			
オフィスタイム	授業の前後に質問を受け付けます（研究室836）。			
アクティブラーニング実施内容	グループワーク・ディスカッションなど			
実務家教員の経歴	この授業は、子ども家庭福祉の現場で臨床心理士・公認心理師として実務経験のある教員が担当します。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	概説	・授業内容、評価方法について説明する ・人間関係を学ぶことの重要性、現代と昔の違い等について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
2	人間関係理解 1 グループワーク 1	・人間関係を理解する上での土台となるものについて説明する ・0～2歳児の園内トラブル事例から人間関係の発達について考えるワークを行う	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
3	人間関係理解 2 グループワーク 2	・発達レベルの視点について説明する ・3歳児の園内トラブル事例から人間関係の発達について考えるワークを行う	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
4	人間関係理解 3 グループワーク 3	・個人的能力の違いについての説明をする ・4歳児の園内トラブル事例から人間関係の発達について考えるワークを行う	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
5	人間関係理解 4 グループワーク 4	・私たちの中にある矛盾・ジェンダーの問題について説明する ・5～6歳児の園内トラブル事例から人間関係の発達について考えるワークを行う	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
6	人間関係理解 5 グループワーク 5	・子どもの個性の尊重について説明する ・様々な親子関係に焦点を当て、子どもへの影響を説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
7	人間関係理解 6 グループワーク 6	・自身が子どもに読み取られているものについて説明する ・家族や親族内での人間関係について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
8	地域と子ども 子どもの自立心	・昨今の社会環境ゆえの問題や課題について説明する ・子どもの主体性を育てることの重要性とそれを促進する関わりについて説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60

授業名	幼児と環境	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 必修	
担当教員名	◎佐々木 郁子			
開講期	Ⅱ期			
授業の概要	保育内容「環境」のねらいと内容を理解し、子どもを取り巻く環境について、具体的な保育内容を検討しつつ学びを深めることにより、総合的に保育を展開していくために必要となる理論や知識を習得する。特に、幼児期において育みたい「資質・能力の三つの柱」の視点を念頭に、身近な環境とのかかわりから導かれる子どもの育ちを理解した上で、好奇心や探究心を持って子どもが自ら活動に取り組むことのできるような環境の設定方法について学ぶ。授業は演習形式で学ぶことにより、本授業で習得した理論や知識への理解をさらに深め実際の保育現場での指導につながる実践力を養う。 フィードバック方法：授業内の質問、リフレクションシートをもとに、全体に向けて（個別に）フィードバックを行います。			
授業の到達目標	・領域「環境」について学び、養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を習得する。 ・子どもの発達を領域「環境」の観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学び、実践できるようになる。 ・子どもと子どもを取り巻く身近な環境との相互作用から導かれる子どもの育ちを考察し、保育計画に基づいて環境を具体的に設定することができる。 ※単位認定の最低基準は、内容の7割以上を理解していること。			
履修条件	幼児教育学科1年生	成績の 評価方法・基準	授業全体に対する取り組み状況：50%、提出物：30%、 試験（レポート）：20%、をもとに総合的に判断する。	
テキスト	・文部科学省幼稚園教育要領解説(フレール館) ・厚生労働省保育所保育指針(フレール館) ・内閣府幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(フレール館)			
参考書	適宜指示する			
学生への要望	・授業・実習に関する資料を随時、配布する。配布された資料を丁寧にファイリングすること。 ・平日頃から基本的な生活態度を身につけ、目的意識をもって主体的意欲的に受講する。 ・欠席・遅刻はしないこと。（やむを得ない場合は担当教員にメールで連絡をすること） ・講義室の座席は、学籍番号順とする。 ・授業連絡はメールで行うので、常にメールを確認すること。			
位置付け・水準	CE2127			
ディプロマポリシーとの関係	教育・保育の本質理解、教育・保育の総合的計画・実践力、子どもの支援の方法・技術力			
オフィスタイム	毎週火・木曜日 12：20～12：50 佐々木研究室（83年館 3階 834研究室）			
アクティブラーニング実施内容	協働学習、ディベート			
実務家教員の経歴	公立保育園における保育士			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 保育内容「環境」について	・本授業の概要、目的、内容を理解する ・保育内容「環境」の概要を理解する ・現代社会の幼児を取り巻く環境とその課題を学ぶ	・本日の講義内容を復習する。 ・配布資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。	45
2	乳幼児期の発達と環境との関わり	・乳幼児の発達と保育内容「環境」について学ぶ ・事例研究を通して、幼児期の環境との関わりを捉える心理的観点を学ぶ	・本日の講義内容を復習する。 ・配布資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。	45
3	国や地域社会における文化や伝統 伝承遊び/童歌/手遊び	・伝承遊びとは何かを理解し、発達段階に合わせた童歌や手遊びを学ぶ ・昔遊びを通して、安全な環境設定を学ぶ	・本日の講義内容を復習する。 ・配布資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。	45
4	乳幼児の物理的、数量・図形との関わり 目付字/三角コマ	・乳幼児期の認知的発達の特徴を学ぶ ・数量・図形との関わり的事象に対する興味・関心を知り、理解の発達を学ぶ	・本日の講義内容を復習する。 ・配布資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。	45
5	乳幼児の数量との関わり 数概念の獲得/高さ測定	・乳幼児期の認知的発達の特徴を学ぶ ・数量・図形との関わり的事象に対する興味・関心を知り、理解の発達を学ぶ	・本日の講義内容を復習する。 ・配布資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。	45
6	乳幼児の標識・文字との関わり 標識かるた/国旗カルタ	・乳幼児を取り巻く標識・文字環境を知る ・遊びを通して、標識や文字に触れる	・本日の講義内容を復習する。 ・配布資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。	45
7	乳幼児の情報・施設との関わり 施設マップ	・幼児期の生活に関係の深い情報・施設を知る ・様々な施設での活動内容とその教育的意義を検討する	・本日の講義内容を復習する。 ・配布資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。	45
8	授業のまとめと振り返り	・「環境を通して行う教育」についてレポートにまとめる	・本日の講義内容を復習する。 ・配布資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。	45

授業名	幼児と言葉	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 必修	
担当教員名	◎佐々木 郁子			
開講期	I 期			
授業の概要	本授業では、領域「言葉」の指導の基盤となる幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な知識を身につける。乳幼児期の言葉の発達と言語環境の理論的理解を通して、乳幼児期の豊かな心身の育ちを培うための保育者の役割を考察する。また、豊かな想像性と言語表現を促す児童文化財について、理論と実践を通してその意義と価値を理解し、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を身に付ける。 フィードバック方法：授業内の質問、リフレクションシートをもとに、全体に向けて（個別に）フィードバックを行います。			
授業の到達目標	・領域「言葉」の内容と意味を理解する。 ・乳幼児期の言葉の発達を捉える視点と言葉の発達の様相を理解する。 ・乳幼児期の言葉を育む環境と保育者の援助を理解する。 ・領域「言葉」の指導方法を実践的活動場面から学び、子どもの言葉を育てる保育実践の力を身につける。 ・言葉をめぐる現代社会の現状と課題を理解し、保育者の役割の理解を深める。 ・児童文化財（絵本や紙芝居など）の基本的な技術を習得し、保育の展開や環境設定を考察し、実践力を高める。 ※単位認定の最低基準は、内容の7割以上を理解していること。			
履修条件	短期大学部 幼児教育学科 1年	成績の 評価方法・基準	授業全体に対する取り組み状況：50%、提出物：30%、 試験（レポート）：20%、をもとに総合的に判断する。	
テキスト	毎回プリントを配布する			
参考書	幼稚園教育要領解説（フレーベル館） 保育所保育指針解説（フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館）			
学生への要望	・授業・実習に関する資料を随時、配布する。配布された資料を丁寧にファイリングすること・ ・平日頃から基本的な生活態度を身につけ、目的意識をもって主体的意欲的に受講する。 ・欠席・遅刻はしないこと。（やむを得ない場合は担当教員にメールで連絡をすること） ・講義室の座席は、学籍番号順とする。 ・授業連絡はメールで行うので、常にメールを確認すること。			
位置付け・水準	CE2128			
ディプロマポリシーとの関係	教育・保育の総合的計画・実践力、子どもの支援の方法・技術力、問題解決力			
オフィスタイム	毎週火・木曜日 12：20～12：50 佐々木研究室（83年館 3階 834研究室）			
アクティブラーニング実施内容	協働学習、ディベート			
実務家教員の経歴	公立保育園における保育士			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 保育内容「言葉」について	・本授業の概要、目的、内容を理解する ・保育内容「言葉」の概要を理解する ・現代社会の幼児を取り巻く環境とその課題を学ぶ	・本日の講義内容を復習する。 ・配布資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。	45
2	子どもの言葉の獲得について	・子どもの言葉の発達過程とコミュニケーションを知る ・言葉のもつ意義と機能について学ぶ	・本日の講義内容を復習する。 ・配布資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。	45
3	言葉に対する感覚について	・言葉の美しさ、楽しさを体験する ・乳幼児期の言葉を育む環境と保育者の援助を理解する	・本日の講義内容を復習する。 ・配布資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。	45
4	言葉に対する感覚の豊かさについて	・子どもが楽しめる言葉遊びを考える ・子どもの言葉を育てる保育実践力を身につける	・本日の講義内容を復習する。 ・配布資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。	45
5	児童文化財の意義と役割	・子どもにとっての児童文化財の意義と役割を学ぶ ・言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財を調べる	・本日の講義内容を復習する。 ・配布資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。	45
6	児童文化財の種類や歴史について	・様々な児童文化財の種類や歴史を知る ・児童文化財（絵本や紙芝居など）の基本的な技術を習得する ・保育現場への取り上げ方を学ぶ	・本日の講義内容を復習する。 ・配布資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。	45
7	児童文化財を用いた実践	・言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財を学ぶ ・保育の展開や環境設定を考察し、保育実践力を高める。	・本日の講義内容を復習する。 ・配布資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。	45

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	授業のまとめと振り返り	・ 振り返りと確認テスト	・ 本日の講義内容を復習する。 ・ 配布資料の整理をし、ファイリングする。 ・ 幼稚園教育要領を読む。	45

授業名	幼児と表現	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 必修
担当教員名	◎磯部 哲夫 沼田 春香		
開講期	I 期		
授業の概要	「幼稚園教育要領」における領域「表現」のねらいと内容を理解し、「表現」の観点から子どもの発達を捉え、発達段階に沿った子どもの感性と表現について体験を通して学び、表現についてディスカッションしながら授業を展開し、学生自身の感受性と感覚を培いながら、総合的な表現活動について学修する。各自作成した表現領域における指導計画を振り返りフィードバックを行う。		
授業の到達目標	1.「教育要領」中の「領域表現」の『ねらい』と『内容』に沿いながら、子どもの表現の要因を分析し、かわることについて基本的な理解を有している。 2.「領域表現」の内容について、素材、楽器、遊具、身体、言葉等による表現内容を、体験を通して理解している。 3.他者との関わり対応の中で感性を働かせ、状況に応じて能動的又は、受動的に動き表現することができる。単位認定の最低基準は、1～3の内容の7割を理解し、授業、小テスト、レポートや指導案作成において確認出来ること。		
履修条件	幼児教育学科1年	成績の 評価方法・基準	小テスト：30％、レポート：30％、指導計画作成40％
テキスト	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、厚生労働省『保育所保育士指針開設』フレーベル館 今泉明美 他編著『子どものための音楽表現技術』萌文書林.2017 適宜資料を配布する。		
参考書	大場牧夫著「表現原論－幼児の『あらわし』と領域『表現』」 1996年 萌文書林		
学生への要望	幼稚園教育要領解説を熟読しておくこと。		
位置付け・水準	CE2129		
ディプロマポリシーとの関係	教育・保育の本質理解、教育・保育の総合的計画・実践力、子どもの支援の方法・技術力		
オフィスタイム	磯部：月曜日Ⅲ限、水曜日Ⅳ限 841研究室、沼田：火曜日Ⅱ限、木曜日Ⅲ限 827研究室		
アクティブラーニング実施内容	指導計画についてグループでディスカッションを行う。表現する方法をグループワークで検討する。		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス・表現領域について①（担当：磯部）	本科目の流れについて説明する。「幼稚園教育要領」における領域「表現」のねらいと内容（1）について理解する。	「幼稚園教育要領解説」第2章「ねらい及び内容」の表現領域に関する項目を熟読しておくこと。記録ノートをまとめる。	40
2	表現領域について②（担当：磯部）	「幼稚園教育要領」における領域「表現」のねらいと内容（2）、内容の取扱いについて理解する。	「幼稚園教育要領解説」第2章「ねらい及び内容」の表現領域に関する項目を熟読しておくこと。記録ノートをまとめる。	40
3	表現領域における指導計画作成（担当：磯部）	表現活動における指導計画作成の方法とポイントについて理解し、指導計画についてグループでディスカッションを行う。	表現活動における指導計画作成を作成する。	40
4	あそびの理解と援助の方法（担当：沼田）	幼児期の発達段階における、総合的なあそびと保育教材や援助の方法を、ICTを活用しながら実践を通して学ぶ。	記録ノートをまとめる。	40
5	五感あそびについての体験と理解（1）一言葉と音の共感覚を探る。（担当：沼田）	絵本（コトバ）から音の要素を拾い出し、表現する方法をグループワークで検討する。	記録ノートをまとめる。	40
6	五感あそびについての体験と理解（2）一言葉と音の共感覚を探る。（担当：沼田）	表現する方法をグループワークで実演発表する。	記録ノートをまとめる。	40
7	五感あそびについての体験と理解（3）（担当：沼田）	自然のものや光・風などに触れることを通して、自己の感覚を深める体験をすると共に幼児の感覚の発達について学ぶ。	記録ノートをまとめる。	40
8	領域「表現」のまとめと指導計画（担当：磯部）	領域「表現」について総括し小テストを実施する。表現領域における指導計画の見直し。	「幼稚園教育要領解説」第2章「ねらい及び内容」の表現領域に関する項目を暗記すること。	80

授業名	保育内容総論	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択	
担当教員名	◎安部 高太郎			
開講期	Ⅳ期			
授業の概要	【授業の目的及び内容】 この授業では、幼稚園や保育所等で展開される保育内容について総合的に学ぶ。現代日本の保育方法論を紹介すると共に、演習課題を通じて、保育の構想力を身につけることを目的とする。授業においては、2017年改訂の現行の保育所保育指針・幼稚園教育要領等を踏まえ、現在の保育内容がどのように規定されているのかを構造的に提示し、グループワーク等のアクティヴ・ラーニングの手法を用いて学生の理解が深まるよう工夫する。 【課題に対するフィードバックの方法】 授業内で返却できるノート等の提出物へのフィードバックは授業内に行う。なお、最終回に回収予定のグループワークの課題等へのフィードバックはめばえ等で課題に関する補足説明・解説のコメントを配信し、個別の評定等については授業時間外に個人面談等の手法を用いてフィードバックする。			
授業の到達目標	この授業では、次の四つの到達目標を定める。 (1) 保育所保育指針・幼稚園教育要領等における保育の目標・子どもの発達・保育内容を総合的に捉え、保育の全体的な構造を理解する。 (2) 明治時代以降の我が国において保育内容がどのように変遷してきたのかを知る。 (3) 子どもの発達過程を踏まえて保育内容を計画として構想する力を身につけると共に、保育のリフレクションについて保育記録論と併せて把握する。 (4) 保育の多様な形態について認識を深めつつ、「養護と教育の一体性」をはじめとする現代日本の保育の基本的な発想を理解する。 ●単位認定の最低基準：内容の7割を理解していること。			
履修条件	原則として、幼稚園教諭二種、保育士資格取得希望者	成績の 評価方法・基準	①授業参加度(受講態度やノート等の提出物の提出状況)：50% ②グループワーク課題(第8回に回収予定)：50% 上記①・②の合計：100%	
テキスト	厚生労働省編(2018)『保育所保育指針解説(平成30年3月)』、フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省(2018)『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月)』、フレーベル館 文部科学省(2018)『幼稚園教育要領解説(平成30年3月)』、フレーベル館 ※加えて、適宜、必要に応じて授業担当者が資料を配布する。			
参考書	井上孝之・山崎敦子編(2018)『子どもと共に学びあう 演習・保育内容総論(第2版)』、みらい 加藤繁美・神田英雄監修(2011)『子どもとつくる0歳児保育：心も体も気持ちいい』、ひとなる書房 加藤繁美・神田英雄監修(2012)『子どもとつくる2歳児保育：思いがふくらみ響きあう』、ひとなる書房 加藤繁美・神田英雄監修(2013)『子どもとつくる1歳児保育：イッショ!がたのしい』、ひとなる書房 加藤繁美監修(2016a)『子どもとつくる4歳児保育：揺れる心をドラマにかえて』、ひとなる書房 加藤繁美監修(2016b)『子どもとつくる5歳児保育：本気と本気がつながって』、ひとなる書房 加藤繁美監修(2016c)『子どもとつくる3歳児保育：イチチョマエ!が誇らしい』、ひとなる書房 神田英雄(2008)『育ちのきほん：0歳から6歳』、ひとなる書房 ※その他、適宜授業において紹介する。			
学生への要望	本科目を受講する学生には以下のことを求める。 ・欠席、遅刻はしないこと。 ・授業ノートを用意し、予習・復習等も含めて活用すること。 ・わからないことや疑問に思ったことは積極的に質問すること。 ・新聞やTV番組等を通じて、保育に関わる情報や話題を自ら収集すること。			
位置付け・水準	CE2224			
ディプロマポリシーとの関係	保育の内容理解と総合的計画力、保育の方法と技術力			
オフィスタイム	・火曜日Ⅳ限(14：30～16：00) ・火曜日Ⅴ限(16：10～17：50) いずれも、83年館2階の安部研究室(821研究室)とする。そのほかの時間帯を希望する場合は、予め、安部(k-abe@koriyama-kgc.ac.jp)までメールで連絡を入れること。			
アクティブラーニング実施内容	第5回・第6回にグループワークを予定している。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	保育を支える「発達」の概念	保育内容を規定する要素の一つである子どもの「発達」について概念的な整理をする。	『保育所保育指針解説』・『幼稚園教育要領解説』で「発達」が保育・幼児教育を行うことにどう関わりと記載されているか、ノートに整理しておく。	60
2	現行指針・要領等に見る保育・幼児教育の構造：養護と教育の一体性	生命の保持・情緒の安定を意味する「養護」と5領域という形で示される「教育」が一体的であるとはどのようなことかを学ぶ。	主として『保育所保育指針解説』を参照し、養護と教育の一体性について記されている箇所を熟読し、自分なりにノートに整理しておく。	60
3	現代保育の基本理念と実践の関連①：「環境を通して行う保育」・「子どもの主体性」	「環境を通して行う」こと・「子どもの主体性」を尊重することの意義を要領・指針に基づいて解説し、関連する論者の議論を参照した上で整理する。	実習先の保育所等における保育室で設定されていた保育環境の特徴をノートに書き出しておく。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
4	現代保育の基本理念と実践の連関②：「遊び＝幼児期特有の学習」の含意	「遊び」が学習だとされる含意を要領・指針に基づきながら、関連する論者の議論を参照した上で整理する。	子どもの頃に夢中になって遊んだもの・ことについてノートに書き出してくる。	30
5	グループワーク①	保育の多様性を主たるテーマとし、「多文化共生」あるいは「インクルーシブ保育」をキーワードにグループごとに具体的なテーマを設定する。	参考書『子どもと共に学びあう 演習・保育内容総論』（第2版）の第14章等を読んでおく。	60
6	グループワーク②	各グループのテーマに即して、調べ学習を進める。その際、CiNii等の検索サイトについて紹介し、学術研究のリソースを基にして調べを進められるように工夫する。	グループ内の分担に即して、下調べをしてくる。	60
7	幼保一元化と小学校教育との接続	幼保この一元化について子育て支援新制度と関連づけて紹介し、小学校教育との接続に関し、スタートカリキュラムとアプローチカリキュラムの要点を解説する。	認定こども園について内閣府のリーフレットを基に調べてくる。	60
8	保育内容の歴史的変遷：戦後～現代	保育要領以降の要領・指針の改訂について概観する。特に、保育内容が大きく変わったとされる平成初期の要領・指針について中心的に扱う。	参考書『子どもと共に学びあう 演習・保育内容総論』（第2版）の第13章等を読んでおく。	60

授業名	保育内容指導法 健康		配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 必修
担当教員名	◎柴田 卓			
開講期	2期			
授業の概要	〔授業の概要〕 さまざまな視点から幼児の健康問題を探究し、子どもが意欲的かつ主体的に基本的な生活習慣を獲得するための方法や環境の構成方法を理解する。対象年齢に応じた指導のポイントや環境設定等を実践的に学習するため、教材研究や模擬保育を多く実施する。また、ICTおよびポートフォリオを活用した振り返りによって、専門性や実践力を高める。 ＊毎回のリフレクションおよびポートフォリオの提出時にフィードバックを行う。			
授業の到達目標	①領域「健康」を理解した上で、幼児の現代的健康問題を理解する。 ②模擬保育を通して、指導計画・指導方法・評価方法を理解する。 ③健康教育と小学校とのつながりを理解する。 ※単位認定の最低基準は、到達目標に対してその内容を7割以上習得していること。			
履修条件	幼児教育学科1年生	成績の 評価方法・基準	ポートフォリオ（ノート）70点 実技20点 リフレクションシート10点	
テキスト	柴田卓 石森真由子編,楽しく学ぶ運動遊びのすすめーポートフォリオを活用した保育実践力の探求ー,みらい,2017			
参考書	幼児期運動指針策定委員会,幼児期運動指針ガイドブック,文部科学省,2013			
学生への要望	テキスト、筆記用具を持参すること 運動着であること アクセサリーを身に着けないこと 気温によってタオル、水分補給、着替えを準備すること			
位置付け・水準	位置づけ・水準CE2131			
ディプロマポリシーとの関係	教育・保育の総合的計画・実践力、子どもの支援の方法・技術力、問題解決力、教養と他者と関わる力			
オフィスタイム	月曜日5限、水曜日4・5限（83年館824研究室）			
アクティブラーニング実施内容	教材研究（探求学習）や模擬保育の実施、ICTの活用、ポートフォリオを活用したリフレクション			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	領域「健康」の理解	事前：幼稚園教育要領を読む。	45
2	幼児期の発達と運動発達	園庭環境や遊具から心身の発達と運動の発達を探究する。 遊びを通した36の動きの理解	事前：36の動きについて調べてまとめる。	45
3	運動会の指導と留意点①	運動発達の側面から見た運動会の意義 バレー種目	事前：運動会の意義について調べる。 事後：学習した内容や疑問に思う点をポートフォリオにまとめる。	45
4	運動会の指導と留意点②	年長種目の検討 クラス対抗リレー 組体操	事前：運動会の年長種目について調べる。 事後：学習した内容や疑問に思う点をポートフォリオにまとめる。	45
5	運動会の指導と留意点③	年齢に応じた種目の探究・計画 グループワーク	事前：年齢に応じた種目について調べる。 事後：学習した内容や疑問に思う点をポートフォリオにまとめる。	45
6	模擬保育の実施と振り返り	運動会の実施 運営方法や役割分担を考える。	事前：教材準備 事後：指導案作成	45
7	多様な動きを促す運動遊びの指導と留意点①	マット運動 幼児期におけるマット運動の意義を考える。 年齢に応じた教材を探究する。	事前：マットを使用した運動遊びを調べる。 事後：学習した内容や疑問に思う点をポートフォリオにまとめる。	45
8	多様な動きを促す運動遊びの指導と留意点②	跳び箱 幼児期における跳び箱の意義を考える。 年齢に応じた教材を探究する。	事前：跳び箱を使用した運動遊びを調べる。 事後：学習した内容や疑問に思う点をポートフォリオにまとめる。	45
9	多様な動きを促す運動遊びの指導と留意点③	鉄棒 幼児期における鉄棒の意義を考える。 年齢に応じた教材を探究する。	事前：鉄棒を使用した運動遊びを調べる。 事後：学習した内容や疑問に思う点をポートフォリオにまとめる。	45
10	多様な動きを促す運動遊びの指導と留意点④	身近な素材を活用した運動遊びの探究 新聞・フープ・縄跳び等、年齢に応じた教材を探究する。	事前：新聞を使用した運動遊びを調べる。 事後：学習した内容や疑問に思う点をポートフォリオにまとめる。	45
11	模擬保育の実施と振り返り	模擬保育の実施 指導計画を基に多様な動き促す運動遊びを展開する。 実施内容を振り返り、指導計画を修正する。	事前：指導案の作成 事後：学習した内容や疑問に思う点をポートフォリオにまとめる。	45
12	幼児期の健康課題と発達の理解	安全な生活と怪我や病気の予防 事故事例からその対策・対応について考える。 グループワーク	事前：幼児期のケガや病気について調べる。 事後：学習した内容や疑問に思う点をポートフォリオにまとめる。	45
13	基本的生活習慣の形成とその意義	基本的生活習慣の探究 トイレトレーニング 歯磨き 着替えなどについて、どのようにアプローチすべきか探究する。グループワーク	事前：基本的生活習慣について調べる。 事後：学習した内容や疑問に思う点をポートフォリオにまとめる。	45

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	子ども主体の健康と安全教育の 実際	安全教育 子ども主体の健康教育や安全教育の在り方について探求し、良い事例を発表する。グループワーク	事前：安全教育等の事例について調べる。 事後：学習した内容や疑問に思う点をポートフォリオにまとめる。	45
15	まとめ	幼児期における健康教育の意義と指導法を整理する。	事前：これまでの授業内容を振り返る。	45

授業名	保育内容指導法 人間関係		配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 必修
担当教員名	◎宇治 和子			
開講期				
授業の概要	幼児が他の人々と親しみ、支え合って生活するためには、彼らの自立心を育て、人と関わっていく力に注目しそれを育んでいく必要があります。幼児期までの人間関係の発達について、親、きょうだい、保育者、仲間との関係を中心に、具体的な指導場面を想定して保育を構想し実践していく方法を学びます。各種課題は授業内にて随時返却 or 口頭フィードバックしていきます。			
授業の到達目標	本授業は、以下2点を達成目標（8割以上で単位認定）とします。 ・幼稚園教育において育みたい「人間関係」に関する資質能力について理解できる ・人間関係の発達を月齢・年齢に即して具体的に把握し、時期に応じた保育者のかかわり方について実践的に学ぶ			
履修条件	幼児教育学科1年	成績の 評価方法・基準	グループワークへの貢献や積極的な授業参加（40％）、授業内課題提出（複数回実施予定：60％）により評価します。	
テキスト	教科書は使わず、資料を配布します。			
参考書	授業の中で、随時紹介します。			
学生への要望	資料等を工夫してイメージしやすい授業を心がけるので、積極的な授業参加を期待します。			
位置付け・水準	CE2132			
ディプロマポリシーとの関係	この科目は、本学科DPの「子どもの支援の方法・技術力」「問題解決力」「教養と他者と関わる力」に関連しています。			
オフィスタイム	授業の前後に質問を受け付けます（研究室836）。			
アクティブラーニング実施内容	ロールプレイなど			
実務家教員の経歴	この授業は、子ども家庭福祉の現場で臨床心理士・公認心理師として実務経験のある教員が担当します。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーションと概説 1	・ 授業内容、評価方法について説明する ・ 幼稚園教育要領と人間関係について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
2	概説 2	・ 幼稚園教育要領と指導案、模擬保育について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
3	発達状況に即した人間関係の展開 1	・ 胎生期～新生児期の発達と人間関係について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
4	発達状況に即した人間関係の展開 2	・ 0～2歳児の発達と人間関係について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
5	発達状況に即した人間関係の展開 3	・ 3歳児の発達（前半）と人間関係について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
6	発達状況に即した人間関係の展開 4	・ 3歳児の発達（後半）と人間関係について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
7	発達状況に即した人間関係の展開 5	・ 4歳児の発達（前半）と人間関係について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
8	発達状況に即した人間関係の展開 6	・ 4歳児の発達（後半）と人間関係について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
9	発達状況に即した人間関係の展開 7	・ 5歳児の発達と人間関係について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
10	発達状況に即した人間関係の展開 8	・ 5～6歳児の発達（前半）と人間関係について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
11	発達状況に即した人間関係の展開 9	・ 5～6歳児の発達（後半）と人間関係について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
12	グループワーク 1	・ グループに分かれて、上記のテーマから人間関係に関する指導案を立てる	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
13	グループワーク 2	・ グループごとに、上記のテーマによる人間関係に関する指導案を発表する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
14	グループワーク 3	・ グループごとに模擬保育を行い、その様子をICT機器を使って録画する ・ 振り返りを行い、改善点を検討する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
15	スピンオフテーマ	・ 妊娠や出産の話	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60

授業名	保育内容指導法 環境	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 必修	
担当教員名	◎柴田 卓			
開講期	2期			
授業の概要	授業の概要 〔授業の目的・ねらい〕 幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域環境に示されている「ねらい」と「内容」を理解し、事例や実践を基に幼児が環境と関わる様子や環境を通して学ぶ姿を理解する。また、子どもを取りまく理想的な保育環境について、他の専門領域と関連させて理解を深める。ディスカッションや模擬保育などのアクティブラーニングを通して、保育実践力の向上を目指す。 * 毎回のリフレクションシートおよび模擬保育時にフィードバックを行う。			
授業の到達目標	授業のテーマ及び到達目標 1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解することができる。 2) 子どもの学びと発達の視点から保育環境を捉え、教材や環境構成の意義を理解することができる。 3) 発達段階を踏まえた教材や保育環境を探究し、指導場面を構想しながら保育活動を計画および展開することができる。 ※単位認定の最低基準は、達成目標に対して7割を理解し習得していること。			
履修条件	幼児教育学科1年生	成績の 評価方法・基準	リフレクションシート30点 課題発表20点 最終レポート50点	
テキスト	幼稚園教育要領解説 フレーベル館 保育所保育指針解説 フレーベル館			
参考書	北欧スウェーデン発 科学する心を育てるアウトドア活動事例集 北大路書房			
学生への要望	事前および事後学習をして授業に臨むこと			
位置付け・水準	位置づけ・水準CE2133			
ディプロマポリシーとの関係	教育・保育の総合的計画・実践力、子どもの支援の方法・技術力、問題解決力、教養と他者と関わる力			
オフィスタイム	月曜日5限、水曜日4・5限（83年館824研究室）			
アクティブラーニング実施内容	ディスカッションや模擬保育、グループワーク			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス 領域「環境」の理解①	・授業の進め方や評価の仕方等に関する説明 ・幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本や保育所保育指針に示された保育の基本等を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解する。	幼稚園教育要領を参考に授業内容に関して予習し、授業で学習したことを各自調べながらリフレクションシートへ記入する。	45
2	領域「環境」の理解②	地球環境・自然環境としての環境 ・国内外における環境教育の歴史と背景の理解 ・自然を活かした保育活動の実践	幼稚園教育要領を参考に授業内容に関して予習し、授業で学習したことを各自調べながらリフレクションシートへ記入する。	45
3	教材研究①	教材研究 カプラや木育玩具など、文字や数字に触れる教材と保育活動および環境構成について探究する。 グループワーク	文字・数字に関する教材について予習し、授業で学習したことを各自調べながらリフレクションシートへ記入する。	45
4	教材研究②	教材研究 モルックや集団遊びなど、健康や運動、安全を促す教材と保育活動および環境構成について探究する。 グループワーク	健康や運動、安全を促す教材について予習し、授業で学習したことを各自調べながらリフレクションシートへ記入する。	45
5	教材研究③	教材研究 廃材や自然の素材など、音楽やアートに触れる教材と保育活動および環境構成について探究する。 グループワーク	音やアートの活用に関して予習し、授業で学習したことを各自調べながらリフレクションシートへ記入する。	45
6	教材研究④	教材研究 水の保育活動や食育など、ESDおよびSDGsに係る教材と保育活動および環境構成について探究する。 グループワーク	SDGsの取り組みに関して予習し、授業で学習したことを各自調べながらリフレクションシートへ記入する。	45
7	グループ演習①	保育の構想と計画 これまで探究した教材研究を活かし、壁面制作を行う。 グループワーク①計画	予習として教材研究①～④の教材と環境構成について整理する。また、学習したことをリフレクションシートへ記入する。	45
8	グループ演習②	保育の構想と計画 これまで探究した教材研究を活かし、壁面制作を行う。 グループワーク②制作	発表に向けての準備を行い、学習したことをリフレクションシートへ記入する。	45
9	グループ演習③	保育の構想と計画 これまで探究した教材研究を活かし、壁面制作を行う。 グループワーク③制作	発表に向けての準備を行い、学習したことをリフレクションシートへ記入する。	45
10	グループ演習④	保育の構想と計画 制作した壁面のプレゼンテーションと評価 グループワーク④制作	他のグループの発表や壁面の構成について、参考になる点等をリフレクションシートにまとめる。	45

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	教材研究⑤	教材研究 ネイチャーゲームなど、自然観や道徳観を育む教材と保育活動および環境構成について探求する。 グループワーク	自然物に関する教材について予習し、授業で学習したことを各自調べながらリフレクションシートへ記入する。	45
12	教材研究⑥	教材研究 国外の保育環境や国内の伝統文化に係る教材と保育活動および環境構成について探求する。 グループワーク	保育と伝統文化に関連した教材を調べ、準備する。また、学習したことをリフレクションシートへ記入する。	45
13	教材研究⑦	教材研究 開成山公園での園外保育を体験し、地域と関わる保育活動および環境構成について探求する。 グループワーク	保育に活かせる地域資源について予習し、授業で学習したことを各自調べながらリフレクションシートへ記入する。	45
14	グループ演習⑤	理想とする保育環境を構想し、発表する。	これまでの教材研究の内容を踏まえ、自身の理想の保育環境を構想し、発表する。	45
15	まとめ	本授業で学習した内容を振り返り、レポートにまとめる。指導案とドキュメンテーションを提出する。	リフレクションシートを振り返り、本授業で学習したことをレポートにまとめる。	60

授業名	保育内容指導法 言葉	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 必修	
担当教員名	◎佐々木 郁子			
開講期	Ⅱ期			
授業の概要	本授業では幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について、幼児の言葉に関する知識・技能と専門的知識を関連付けて理解を深める。また、幼児の言葉の発達過程を理解した上で、協働の学びを通して、具体的な保育場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 フィードバック方法：授業内の質問、リフレクションシートをもとに、全体に向けて（個別に）フィードバックを行います。			
授業の到達目標	・幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「言葉」のねらいと内容を理解する。 ・領域「言葉」のねらいと内容をもとに、幼児の言葉の発達を捉える視点と言葉の発達の様相を理解する。 ・領域「言葉」の指導方法を実践的活動場面から学び、幼児教育における評価の考え方を理解し、その振り返りを通して、保育を改善する方法と行動する力を身に付けている。 ・指導案の意味と構造を理解し、実際の保育場面を想定した指導案を作成することができる。 ・領域「言葉」の内容や幼児の生活や遊びとの関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解して、保育に活用することができる。 ※単位認定の最低基準は、内容の7割以上を理解していること。			
履修条件	幼児教育学科 1年「幼二種」免許取得希望者	成績の 評価方法・基準	授業全体に対する取り組み状況：50% 試験（レポート）：50%、をもとに総合的に判断する。	
テキスト	適宜指示する			
参考書	適宜指示する			
学生への要望	・授業・実習に関する資料を随時、配布する。配布された資料を丁寧にファイリングすること・ ・常日頃から基本的な生活態度を身につけ、目的意識をもって主体的意欲的に受講する。 ・欠席・遅刻はしないこと。（やむを得ない場合は担当教員にメールで連絡をすること） ・講義室の座席は、学籍番号順とする。 ・授業連絡はメールで行うので、常にメールを確認すること。			
位置付け・水準	CE2134			
ディプロマポリシーとの関係	教育・保育の総合的計画・実践力、子どもの支援の方法・技術力、問題解決力			
オフィスタイム	毎週火・木曜日 12：20～12：50 佐々木研究室（83年館 3階 834研究室）			
アクティブラーニング実施内容	協働学習、ディベート			
実務家教員の経歴	公立保育園における保育士			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 保育内容「言葉」について	・本授業の意義、目的、概要、評価方法について理解する。 ・幼稚園教育要領における保育内容「言葉」のねらい及び内容を理解する	・本日の講義内容を復習する。 ・配布資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。	45
2	言葉の発達を育てる表現方法と援助 ～オノマトペ～	・子どもの言葉を育てる環境構成と保育者の援助を考える ・オノマトペが子どもに与える影響を学ぶ ・子どもが「話したい」「聞きたい」という意欲を生むための援助を学ぶ	・本日の講義内容を復習する。 ・配布資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。	45
3	言葉から見直す不適切保育と育児支援①	・実際の現場での不適切保育に該当する言葉かけを取り上げる ・保護者からの相談事例を取り上げ、子どもの「言葉」をめぐる現代的課題の理解と指導内容と対応の検討を行う	・本日の講義内容を復習する。 ・配布資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。	45
4	言葉から見直す不適切保育と育児支援①	・実際の現場での不適切保育に該当する言葉かけを取り上げ、不適切保育に陥らないための言葉かけを学ぶ ・保護者からの相談事例を取り上げ、子どもの「言葉」をめぐる現代的課題の理解と指導内容と対応の検討を行う	・本日の講義内容を復習する。 ・配布資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。	45
5	子どもの言葉の発達過程（1） ～言葉は何を基盤にどのように発達するか～	・年齢別（0～3歳）の言葉の発達の流れとコミュニケーションの特徴を知る ・子どもの言葉を育てる環境構成と保育者の援助を考える	・本日の講義内容を復習する。 ・配布資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。	45
6	子どもの言葉の発達過程（2） ～話し言葉と書き言葉の発達の過程について～	・年齢別（4～6歳）の言葉の発達の流れとコミュニケーションの特徴を知る ・子どもの言葉を育てる環境構成と保育者の援助を考える	・本日の講義内容を復習する。 ・配布資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。	45
7	子どもの言葉を育てる環境構成と保育者の援助（1）	・子どもが「話したい」「聞きたい」という意欲を生むための援助を学ぶ ・子どもの言葉を育てる環境構成と保育者の援助を考える	・本日の講義内容を復習する。 ・配布資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。	45

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	子どもの言葉を育てる環境構成と保育者の援助（２）	・生活に必要な言葉の習得を支えるための援助を学ぶ ・子どもの言葉を育てる環境構成と保育者の援助を考える	・本日の講義内容を復習する。 ・配布資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。	45
9	子どもの言葉を豊かに育む児童文化財（１）	・児童文化財とは何かを学ぶ ・様々な児童文化財を知り、絵本の歴史を学ぶ ・絵本の実際と保育の中での活かし方を学ぶ	・本日の講義内容を復習する。 ・配布資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。	45
10	子どもの言葉を豊かに育む児童文化財（２）	・絵本論について学ぶ ・絵本読み聞かせの実演演習と振り返り ・子どもに年齢に適した絵本と保育の中での活かし方を学ぶ	・本日の講義内容を復習する。 ・配布資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。	45
11	子どもの言葉を豊かに育む児童文化財（３）	・紙芝居の歴史を学ぶ ・紙芝居の実演演習と振り返り ・子どもに年齢に適した紙芝居と保育の中での活かし方を学ぶ	・本日の講義内容を復習する。 ・配布資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。	45
12	幼児期から児童期の言葉（１）	・幼児期から児童期の言葉について学ぶ ・幼小の接続期で大切なことを学ぶ ・言葉に関する家庭との連携を学ぶ	・本日の講義内容を復習する。 ・配布資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。	45
13	幼児期から児童期の言葉（２）	・自分の思いを言葉にして伝える楽しさを学ぶ ・出来事を他人に伝える言葉を学ぶ ・言葉で伝え合うことの難しさや楽しさを知る	・本日の講義内容を復習する。 ・配布資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。	45
14	言葉に関わる現代社会の課題	・言葉の発達に影響をもたらすICT教材を学ぶ ・デジタル絵本について学ぶ ・子どもを取り巻く環境の中で言葉に関する課題をあげ、検討する	・本日の講義内容を復習する。 ・配布資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。	45
15	授業のまとめと確認テスト	・授業の振り返り確認テスト（レポート）	・本日の講義内容を復習する。 ・配布資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。	45

授業名	保育内容指導法 音楽表現		配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 必修
担当教員名	◎横溝 聡子 深谷 悠里絵 菅原 美謝			
開講期	Ⅱ期			
授業の概要	[授業の目的・ねらい] 幼稚園教育要領に示された、幼稚園教育の基本を踏まえ、感性と表現に関する領域「表現」のねらい及び内容を理解し、また幼児の発達や学びを理解し、具体的な保育場面を想定した音楽表現における表現技術と指導法を修得する。 [授業全体の内容の概要] 幼児の発達段階における音楽表現技術、教育法を考察する。幼児達が主体的に音楽に関わることができるように、保育現場で使用している楽曲を取り上げ、弾き歌いやコードによる伴奏づけ、手遊び歌、楽器あそび、グループワーク等の体験を通して、音楽と身体表現、音楽と表情などの表現の関係性を理解しながら音楽表現の技術を学修し、指導法を身につける。確実な音楽表現、音楽表現教育法を身に付けるため、弾き歌いやコードによる伴奏づけでは双方向の授業であるアクティブラーニング、手遊び歌、楽器あそびでは、グループワークでのディスカッション、協働的体験によるアクティブラーニングで授業を実施する。授業内でグループ発表を実施し、終了後コメントによるフィードバックを行う。			
授業の到達目標	目標は ①感性と表現に関する領域「表現」の音楽表現のねらい及び内容を踏まえ、幼児が身に付けていく音楽表現内容と指導上の留意点を理解している。 ②様々な音楽表現の実践を通して、音楽の基礎知識、幼児の音楽表現、コミュニケーションとしての音楽の役割を理解する。 ③幼児の生活の中での音楽や、音楽表現の具体的な保育場面が想定できる。 単位認定の最低基準は、①～③の内容の7割を理解し、授業や発表において確認出来ること。			
履修条件	短期大学部 幼児教育学科 1年	成績の 評価方法・基準	小テスト（筆記）・課題提出40％、手遊び歌20％、楽器20％、弾き歌い20％	
テキスト	今泉明美 他編著『子どものための音楽表現技術』明文書林,2017 保育者になるためのピアノ教本 子どもの歌でいつのまにか上達する エイデル研究所 全国大学音楽教育学会編著『明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌』音楽之友社 現場で生かせる幼児合奏～リズムあそびから発表会まで～ 圭文社 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館,2018、厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館,2018			
参考書	授業内で指示			
学生への要望	指導案作成、弾き歌い、手遊び歌、楽器あそびの各領域の自学自習をしっかりと行うこと。			
位置付け・水準	CE2135			
ディプロマポリシーとの関係	「教育・保育の総合的計画・実践力」「子どもの支援の方法・技術力」「問題解決力」「教養と他者と関わる力」			
オフィスタイム	横溝・深谷：水曜日Ⅳ限、金曜日Ⅱ限、No.1幼児教育学研究室、菅原：火曜日10:30～10:40 83年館4階非常勤講師控室			
アクティブラーニング実施内容	弾き歌いやコードによる伴奏づけでは双方向の授業であるアクティブラーニング、手遊び歌、楽器あそびでは、グループワークでのディスカッション、協働的体験によるアクティブラーニングで授業を実施する。授業内でグループ発表を実施し、終了後コメントによるフィードバックを行う。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	幼児の音楽的活動と音楽基礎知識① 横溝	幼稚園教育要領の領域「表現」のねらいについて理解する。子どもの歌と歴史について学ぶ。幼児曲を学びながら、楽譜の記譜法やリズムについて理解する。	事前にシラバスを目を通して、本講義の流れを確認する。幼稚園教育要領解説を読んでおくこと。『子どものための音楽表現技術』の「楽譜のしくみ」「音名」「音符と休符」「子どもの歌と歴史」を読んでおくこと。	30
2	音楽基礎知識②と幼児曲 横溝	楽譜の表記法と音階などについて、幼児曲を通して理解する。	『子どものための音楽表現技術』の「音階と調」を読んでおくこと。	30
3	音楽基礎知識③と幼児曲 横溝	楽譜の記譜法と音程について、幼児曲を通して理解する。	『子どものための音楽表現技術』の「音程」を読んでおくこと。	30
4	音楽基礎知識④と幼児曲 横溝	和音とコードについて理解する。幼児曲やピアノ教本を通してコードへの理解を深める。	『子どものための音楽表現技術』の「和音とコードネーム」を読んでおくこと。	30
5	音楽基礎知識⑤と幼児曲 横溝	幼児曲を通して楽譜への理解を深める。幼児の声と歌唱表現の発達について学ぶ。	『子どものための音楽表現技術』の「声と歌唱表現の発達」を読んでおくこと。	30
6	弾き歌い① 横溝	子どもの歌唱活動と保育者の支援について学ぶ。	弾き歌いの練習をしておくこと。『子どものための音楽表現技術』の「子どもの歌唱の実態と保育者の支援」を読んでおくこと。	30
7	弾き歌い② 横溝	弾き歌いの実践と歌唱の指導法について学ぶ。	幼児曲を弾き歌いできるようにする。	30
8	季節のうた・手作り楽器① 深谷	実習に向けた「季節のうた」について考え、子どもの音楽的表現の発達と音楽活動について学ぶ。手作り楽器紹介。	「季節のうた」を練習し、実践で使えるようレパートリーを増やす。	30
9	季節のうた・手作り楽器② 深谷	手作り楽器を制作し、グループワークで発表に向けて話し合い・練習を行う。	手作り楽器の制作工程案考える。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	季節のうた・手作り楽器③ 深谷	子どもたちにわかりやすい手作り楽器の制作工程と発表曲について説明し、グループ発表を行う。	グループ発表の準備、練習を行う。	30
11	楽器あそび① 菅原	子どもの楽器活動の流れについて学ぶ。楽器の扱い方、奏法を理解する。	楽器の扱い方、奏法を調べる。	30
12	楽器あそび② 菅原	子どもの楽器活動でのリズムについて考える。楽器あそびの様々な方法を学ぶ。	テキストのリズム打ちを行う。	30
13	楽器あそび③ 菅原	小打楽器を用いた楽器あそびを行う。	楽器を取り扱う音楽遊び指導案を作成する。	30
14	楽器あそび④ 菅原	各年齢に応じた指導法、小打楽器を用いた楽器あそびを行う。	楽器を取り扱う音楽遊び指導案を作成する。	30
15	楽器あそび⑤とまとめ 菅原・深谷	年齢に応じた音楽表現について整理し、楽器あそびをグループごとに発表する。授業の振り返りとまとめを行う。	グループ発表の準備、練習を行う。	30

授業名	保育内容研究 造形表現		配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員名	◎松田 理香			
開講期	Ⅲ期			
授業の概要	保育に関する環境構成や現場を想定した素材研究・用具知識・技法等について幼児発達過程（年齢ごと）の理解と共に学ぶ。自己研究を積み重ね、造形活動の側面から保育の実践力・発表力を身に付ける。 ・課題作品は返却時に簡略なコメントを記す。 ・研究発表に対しては随時内容に対するフィードバックを全体、または個々に対して行う。			
授業の到達目標	1. 保育における造形活動に適した環境構成・造形素材・用具などの知識、基礎技法を修得する 2. 描画基礎を身に付けると共に他者の作品の良さに気づくこと 3. 幼児の発達過程を造形表現の側面から理解できるようにする			
履修条件	幼児教育学科2年生		成績の 評価方法・基準	制作姿勢（20％）・課題作品の提出状況と達成度（80％）の他、授業目標への意欲や関心などを含めて総合的に判断します。
テキスト	特になし			
参考書	文部科学省 「幼稚園教育要領解説」 フレーベル館			
学生への要望	動きやすく、造形作業に適した服装・活動材料・用具を整えて授業に臨むこと。 課題作品提出の締切日を厳守すること。			
位置付け・水準	CE2250			
ディプロマポリシーとの関係	①子どもの支援の方法・技術力 ②問題解決力 ③教養と他者と関わる力			
オフィスタイム	金曜日Ⅰ・Ⅱ時限 研究室			
アクティブラーニング実施内容	造形表現活動においてグループ・ディスカッションやグループワークなどを取り入れます。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス （授業内容説明・日程確認）	授業内容および課題について 造形活動の発達段階 ・なぐり描き体験	授業の目的、使用する材料や道具について 確認し準備する	30
2	造形表現 1	〔自然素材アート〕 ・複数の自然素材に描画材で生物を表現する。	さまざまな自然素材の特徴や性質を調べる。	30
3	〃	・前回の授業で制作した作品を学内の自然環境や生活環境に設置して記録（撮影・スケッチなど）する。	モノと自然環境・生活環境との関係性を考える。	30
4	〃	・作品鑑賞と講評・レポート制作	〃	30
5	造形表現 2	〔イメージアート〕 ・色紙を加工（切る・破く）して作ったパーツで新しい作品を作る。	色と形の可能性を考える。	30
6	〃	・画用紙に描画材で自由に線を描き隣りの人と交換し、新しい作品を作る。	〃	30
7	〃	・前回と前々回の授業で制作した作品を複数枚セットにし、制作者がグループになって物語を作り発表する。	〃	30
8	まとめ	保育現場での造形表現活動にスポットを当てながら、各発達段階における造形活動の意義と課題を探る。	造形表現活動現場の実態と課題について調べる。	30

授業名	保育内容研究 身体表現	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択	
担当教員名	◎柴田 卓			
開講期	3期			
授業の概要	〔授業の目的・ねらい〕 ①幼児体育・運動遊びに関する教材を研究する。 ②指導計画を立案し、模擬保育を行い、安全面や環境構成、指導内容などについて相互に評価を行う。 ③評価に基づき、指導計画や指導方法の見直しを行い、保育者としての実践的なスキルを習得する。 〔授業全体の概要〕 教材研究を通して、さまざまな視点から運動の面白さを探究し、子どもが意欲的かつ主体的に取り組む運動遊びの内容や指導方法を習得する。また、対象年齢に応じた運動遊び指導のポイント、安全面や環境設定等を実践的に学習するために模擬保育を実施する。また、振り返りによって、専門性や実践力を高める。 ＊指導計画の提出、模擬保育時にフィードバックを行う。			
授業の到達目標	①幼児期の運動・健康の指導法について理解する。 ②幼児体育・運動遊びの指導計画・指導方法・評価方法を理解する。 ③幼体体育・運動遊びの実践力を習得する。 ※単位認定の基準は：内容の7割を理解していること。			
履修条件	幼児教育学科2年	成績の 評価方法・基準	課題（教材研究）30点 提出物（指導案等）30点 まとめのレポート30点 平常点10点	
テキスト	柴田卓 石森真由子編,楽しく学ぶ運動遊びのすすめーポートフォリオを活用した保育実践力の探求ー,みらい,2017			
参考書	幼児期運動指針策定委員会,幼児期運動指針ガイドブック,文部科学省,2013			
学生への要望	各実習に向けた教材研究及び模擬保育を行います。各自で教材の準備や指導案の作成を行うなど、主体的に学習して自身の実践力を高めて下さい。 毎回、運動できる服装、筆記用具を持参し、主体的に教材研究や教材準備を行うこと。			
位置付け・水準	CE2251			
ディプロマポリシーとの関係	教育・保育の総合的計画・実践力、子どもの支援の方法・技術力			
オフィスタイム	月曜日5限、水曜日4・5限（83年館824研究室）			
アクティブラーニング実施内容	教材研究、模擬保育、グループによるリフレクションと評価			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	授業内容の概要	事後：第2回に向けた教材研究	45
2	教材研究①集団遊び	教材研究および指導案の作成 集団遊びを促す導入教材	事前：教材の準備 事後：指導案の作成	45
3	教材研究②道具を使った遊び	教材研究および指導案の作成 道具を使った遊びを行うための環境構成	事前：教材の準備 事後：指導案の作成	45
4	教材研究③園庭・戸外遊び	教材研究および指導案の作成 園庭環境を活用した運動遊びの計画	事前：教材の準備 事後：指導案の作成	45
5	教材研究④リズムダンス	教材研究および指導案の作成 リズムダンスの制作と展開方法	事前：教材の準備 事後：指導案の作成	45
6	模擬保育①	グループ毎に模擬保育を実施する。 実施後リフレクションを行い、保育内容を検証する。	事前：指導案の作成 事後：指導案の修正	45
7	模擬保育②	グループ毎に模擬保育を実施する。 実施後リフレクションを行い、保育内容を検証する。 各実習に向けて	事前：模擬保育②に向けた指導案の作成 事後：指導案の修正	45
8	まとめ	自身で計画した教材が教育実習において、どのように役立ったのか、どこを改善すべきかなど、振り返り、レポートにまとめる。	実習日誌・指導案	45

授業名	子どもの器楽Ⅰ			配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 必修
担当教員名	◎深谷 悠里絵 鈴木 明美 佐久間 智子 加藤 幸恵 本橋 美恵子 菅原 美謝 佐藤 美鶴稀				
開講期	Ⅰ期				
授業の概要	ML授業において音楽理論への理解を深め、個人レッスンにおいて個々のレベルに合わせた基礎的なピアノ演奏技術（タッチ、音色、指の形、指使い等）の修得を目指す。また演奏技術のみの学習にとどまらず、ディスカッションを重ねながら、音楽に対する興味、関心の伸長をはかることを基本としたい。 試験後に時間を設け、コメントによるフィードバックを行う。				
授業の到達目標	保育者として必要なピアノ演奏の基礎技法を習得し、豊かな音楽性を自主的に体得することを目的とする。 ①保育者になるためのピアノ教本 課題33まで終了している。 ②楽譜の基本的な記譜法や音楽理論を理解し、演奏に活かすことができる。 単位認定の最低基準：個人レッスンの①は必須条件である。②は内容の7割を理解し、授業や演奏発表において確認できること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：「子どもの支援の方法・技術力」「問題解決力」「教養と他者と関わる力」				
履修条件	幼児教育学科1年	成績の 評価方法・基準	毎授業でのレッスン成果（態度、課題に対する取り組み姿勢・意欲、進度等）30点、ML：平常点（意欲・態度等）15点、課題15点、定期試験40点		
テキスト	保育者になるためのピアノ教本 子どもの歌でいつのまにか上達する（山田学編著、エイデル研究所） 子どものための音楽表現技術（今泉明美 他編著、萌文書林）				
参考書	授業内で適宜資料を配布する。				
学生への要望	○毎時間休まないでレッスンを受けること。 ○毎日最低30分は練習し、自己の課題に取り組むこと。 ○爪をカットし、マニキュアはつけないこと。髪の毛が前に下らないようにまとめてくること。				
位置付け・水準	CE2138				
ディプロマポリシーとの関係	「子どもの支援の方法・技術力」「問題解決力」「教養と他者と関わる力」				
オフィスタイム	月曜日・金曜日 12:10～13:00 場所：83年館4F コピー室兼非常勤控室 深谷：木曜日Ⅰ限・金曜日Ⅰ限 場所：芸術館3F No.1幼児教育学研究室				
アクティブラーニング実施内容	ディスカッションを重ねながら、音楽に対する興味、関心の伸長をはかる。				
実務家教員の経歴	なし				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	音符と休符、大譜表、拍子についてと基本的なピアノ演奏法 鈴木明美、佐久間智子、加藤幸恵、本橋美恵子、菅原美謝、佐藤美鶴稀	・ 器楽演習の授業形態の説明→Ⅰコマ90分を45分ずつに分割し、個人レッスンとMLのレッスンとする。 ・ MLでは、項目に記載の内容を学ぶ。 ・ 各グレード別のグループ分けの結果を受け、個人レッスンの担当者が決定する。 ・ 使用テキストの紹介。	各人の進度に合わせて、基礎的な技法（タッチ、音色、指の形、指使い等）を習得する。	30
2	ト音譜表とヘ音譜表の読み方と基本的なピアノ演奏法 鈴木明美、佐久間智子、加藤幸恵、本橋美恵子、菅原美謝、佐藤美鶴稀	・ 各人の進度に合わせて、基礎的な技法（タッチ、音色、指の形、指使い等）を習得する。 ・ MLでは、項目に記載の内容を学ぶ。 ・ テキスト「保育者になるためのピアノ教本」課題33までの内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンをする。	各人の進度に合わせて、基礎的な技法（タッチ、音色、指の形、指使い等）を習得する。	30
3	ヘ音譜表の読み方と基本的なピアノ演奏法 鈴木明美、佐久間智子、加藤幸恵、本橋美恵子、菅原美謝、佐藤美鶴稀	・ 各人の進度に合わせて、基礎的な技法（タッチ、音色、指の形、指使い等）を習得する。 ・ MLでは、項目に記載の内容を学ぶ。 ・ テキスト「保育者になるためのピアノ教本」課題33までの内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンをする。	各人の進度に合わせて、基礎的な技法（タッチ、音色、指の形、指使い等）を習得する。	30
4	4分音符と2分音符のリズムについてと基本的なピアノ演奏法 鈴木明美、佐久間智子、加藤幸恵、本橋美恵子、菅原美謝、佐藤美鶴稀	・ 各人の進度に合わせて、基礎的な技法（タッチ、音色、指の形、指使い等）を習得する。 ・ MLでは、項目に記載の内容を学ぶ。 ・ テキスト「保育者になるためのピアノ教本」課題33までの内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンをする。	各人の進度に合わせて、基礎的な技法（タッチ、音色、指の形、指使い等）を習得する。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	8分音符のリズムと基本的なピアノ演奏法 鈴木明美、佐久間智子、加藤幸恵、本橋美恵子、菅原美謝、佐藤美鶴稀	・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・MLでは、項目に記載の内容を学ぶ。 ・テキスト「保育者になるためのピアノ教本」課題33までの内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
6	付点音符のリズムと基本的なピアノ演奏法 鈴木明美、佐久間智子、加藤幸恵、本橋美恵子、菅原美謝、佐藤美鶴稀	・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・MLでは、項目に記載の内容を学ぶ。 ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。 ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その6]表現のための音楽の内容をレッスンする。	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
7	シンコペーションのリズムと基本的なピアノ演奏法 鈴木明美、佐久間智子、加藤幸恵、本橋美恵子、菅原美謝、佐藤美鶴稀	・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・MLでは、項目に記載の内容を学ぶ。 ・テキスト「保育者になるためのピアノ教本」課題33までの内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
8	コードについてと基本的なピアノ演奏法 鈴木明美、佐久間智子、加藤幸恵、本橋美恵子、菅原美謝、佐藤美鶴稀	・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・MLでは、項目に記載の内容を学ぶ。 ・テキスト「保育者になるためのピアノ教本」課題33までの内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
9	スリーコードの知識と基本的なピアノ演奏法 鈴木明美、佐久間智子、加藤幸恵、本橋美恵子、菅原美謝、佐藤美鶴稀	・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・MLでは、項目に記載の内容を学ぶ。 ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。 ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その9]表現のための音楽の内容をレッスンする。	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
10	スリーコードの修得と基本的なピアノ演奏法 鈴木明美、佐久間智子、加藤幸恵、本橋美恵子、菅原美謝、佐藤美鶴稀	・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・MLでは、項目に記載の内容を学ぶ。 ・テキスト「保育者になるためのピアノ教本」課題33までの内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
11	演奏記号の理解と基本的なピアノ演奏法 鈴木明美、佐久間智子、加藤幸恵、本橋美恵子、菅原美謝、佐藤美鶴稀	・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・MLでは、項目に記載の内容を学ぶ。 ・テキスト「保育者になるためのピアノ教本」課題33までの内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
12	楽語の理解と基本的なピアノ演奏法 鈴木明美、佐久間智子、加藤幸恵、本橋美恵子、菅原美謝、佐藤美鶴稀	・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・MLでは、項目に記載の内容を学ぶ。 ・テキスト「保育者になるためのピアノ教本」課題33までの内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
13	基本的なピアノ演奏法・表現の理解 鈴木明美、佐久間智子、加藤幸恵、本橋美恵子、菅原美謝、佐藤美鶴稀	・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・MLでは、項目に記載の内容を学ぶ。 ・テキスト「保育者になるためのピアノ教本」課題33までの内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。	試験に向けて演奏技術と表現力の向上を目指しながら練習に取り組む。	30
14	基本的なピアノ演奏法・表現技術について 鈴木明美、佐久間智子、加藤幸恵、本橋美恵子、菅原美謝、佐藤美鶴稀	・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・MLでは、項目に記載の内容を学ぶ。 ・テキスト「保育者になるためのピアノ教本」課題33までの内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。	試験に向けて演奏技術と表現力の向上を目指しながら練習に取り組む。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	基本的なピアノ演奏法・豊かな表現について 鈴木明美、佐久間智子、加藤幸恵、本橋美恵子、菅原美謝、佐藤美鶴稀	15回のレッスンを通して得た奏法を振り返り、確認テストの準備をする。	試験に向けて演奏技術と表現力の向上を目指しながら練習に取り組む。	30

授業名	子どもの器楽Ⅱ		配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 必修
担当教員名	◎深谷 悠里絵 鈴木 明美 佐久間 智子 加藤 幸恵 本橋 美恵子 菅原 美謝 佐藤 美鶴稀			
開講期	Ⅱ期			
授業の概要	個人レッスンにおいて個々のレベルに合わせた基礎的なピアノ演奏技術の修得を目指す。読譜力とピアノ演奏の基本技術を向上させると同時に、幼稚園・保育所での「生活のうた」5曲(おはようのうた2種類・おべんとう・おかえりのうた2種類)にも取り組み、保育現場で求められる実践力を身につける。ML授業については、2人1組のグループを作り、ディスカッションを重ねながら1コマにアンサンブル曲を1曲仕上げる。アンサンブルによる音楽の楽しさを体得し、アンサンブルを通して表現力や協調性、コミュニケーション能力を伸長させていく。 試験後に時間を設け、コメントによるフィードバックを行う。			
授業の到達目標	保育者として必要なピアノ演奏の基礎技法を習得し、豊かな音楽性を自主的に体得することを目的とする。 個人レッスン ①保育者になるためのピアノ教本 課題34～実践編①まで終了している。 ②「生活のうた」の伴奏が弾ける。 ③楽譜の基本的な演奏技術を理解し、積極的に表現しようとしている。 ML授業 ①2人のテンポやリズム感等を共感し、協力して演奏できる。 ②ハーモニーの美しさを感じることができる。 ③他の人の演奏を聴きながら、自分の演奏ができる。 単位認定の最低基準：個人レッスンの①は必須条件である。その他の項目は内容の7割を理解し、授業や演奏発表において確認できること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：「子どもの支援の方法・技術力」「問題解決力」「教養と他者と関わる力」			
履修条件	幼児教育学科1年生	成績の 評価方法・基準	毎授業でのレッスン成果（態度、課題に対する取り組み姿勢・意欲、進捗等）30点、ML：平常点（課題に対する取り組み姿勢・意欲・態度等）30点、定期試験40点	
テキスト	山田学編著 『保育者になるためのピアノ教本 子どもの歌でいつのまにか上達する』エイデル研究所 全国大学音楽教育学会 編著 『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌—唱歌童謡140年の歩み』音楽之友社 の中から選択			
参考書	授業内で適宜資料を配布する。			
学生への要望	○毎時間休まないでレッスンを受けること。 ○毎日最低30分は練習し、自己の課題に取り組むこと。 ○爪をカットし、マニキュアはつけないこと。髪の毛が前に下がらないようにまとめてくること。			
位置付け・水準	CE2139			
ディプロマポリシーとの関係	「子どもの支援の方法・技術力」「問題解決力」「教養と他者と関わる力」			
オフィスタイム	月曜日・金曜日 12:10～13:00 場所：83年館4F コピー室兼非常勤控室 深谷：火曜日Ⅰ限・金曜日Ⅰ限 場所：芸術館3F No.1幼児教育学研究室			
アクティブラーニング実施内容	アンサンブルにおいてパートナーとディスカッションを重ねながら取り組む。			
実務家教員の経歴	なし			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	基本的なピアノ技術確認とアンサンブルについて 鈴木明美、佐久間智子、加藤幸恵、本橋美恵子、菅原美謝、佐藤美鶴稀	・個人レッスン→Ⅰ期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた2種類・おべんとう・おかえりのうた2種類)を課題とする。 ・MLレッスン→アンサンブル体験	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
2	基本的なピアノ技術確認とアンサンブルの基礎 鈴木明美、佐久間智子、加藤幸恵、本橋美恵子、菅原美謝、佐藤美鶴稀	・個人レッスン→Ⅰ期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた2種類・おべんとう・おかえりのうた2種類)を課題とする。 ・MLレッスン→アンサンブル体験	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
3	基本的なピアノ技術向上とアンサンブル 鈴木明美、佐久間智子、加藤幸恵、本橋美恵子、菅原美謝、佐藤美鶴稀	・個人レッスン→Ⅰ期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた2種類・おべんとう・おかえりのうた2種類)を課題とする。 ・MLレッスン→アンサンブル体験	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
4	基本的なピアノの演奏表現技術の基礎とアンサンブル 鈴木明美、佐久間智子、加藤幸恵、本橋美恵子、菅原美謝、佐藤美鶴稀	・個人レッスン→Ⅰ期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた2種類・おべんとう・おかえりのうた5種類)を課題とする。 ・MLレッスン→アンサンブル体験	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
5	基本的なピアノの演奏表現技術の応用とアンサンブル 鈴木明美、佐久間智子、加藤幸恵、本橋美恵子、菅原美謝、佐藤美鶴稀	・個人レッスン→Ⅰ期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた2種類・おべんとう・おかえりのうた2種類)を課題とする。 ・MLレッスン→アンサンブル体験	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
6	基本的なピアノ演奏法と「朝のうた」、アンサンブル 鈴木明美、佐久間智子、加藤幸恵、本橋美恵子、菅原美謝、佐藤美鶴稀	・個人レッスン→Ⅰ期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた2種類・おべんとう・おかえりのうた7種類)を課題とする。 ・MLレッスン→アンサンブル体験	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
7	基本的なピアノ演奏法と「おはようの歌」、アンサンブル 鈴木明美、佐久間智子、加藤幸恵、本橋美恵子、菅原美謝、佐藤美鶴稀	・個人レッスン→Ⅰ期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた2種類・おべんとう・おかえりのうた2種類)を課題とする。 ・MLレッスン→アンサンブル体験	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
8	基本的なピアノ演奏法と「おべんとう」、アンサンブル 鈴木明美、佐久間智子、加藤幸恵、本橋美恵子、菅原美謝、佐藤美鶴稀	・個人レッスン→Ⅰ期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた2種類・おべんとう・おかえりのうた2種類)を課題とする。 ・MLレッスン→アンサンブル体験	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
9	基本的なピアノ演奏法と「おかえりのうた」、アンサンブル 鈴木明美、佐久間智子、加藤幸恵、本橋美恵子、菅原美謝、佐藤美鶴稀	・個人レッスン→Ⅰ期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた2種類・おべんとう・おかえりのうた2種類)を課題とする。 ・MLレッスン→アンサンブル体験	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
10	基本的なピアノ演奏法と「さよならのうた」、アンサンブル 鈴木明美、佐久間智子、加藤幸恵、本橋美恵子、菅原美謝、佐藤美鶴稀	・個人レッスン→Ⅰ期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた2種類・おべんとう・おかえりのうた2種類)を課題とする。 ・MLレッスン→アンサンブル体験	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
11	試験曲の選曲と生活のうた、アンサンブル表現 鈴木明美、佐久間智子、加藤幸恵、本橋美恵子、菅原美謝、佐藤美鶴稀	・個人レッスン→Ⅰ期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた2種類・おべんとう・おかえりのうた2種類)を課題とする。 ・MLレッスン→アンサンブル体験	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
12	試験曲の読譜と生活のうた、アンサンブル表現 鈴木明美、佐久間智子、加藤幸恵、本橋美恵子、菅原美謝、佐藤美鶴稀	・個人レッスン→Ⅰ期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた2種類・おべんとう・おかえりのうた2種類)を課題とする。 ・MLレッスン→アンサンブル体験	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
13	試験曲の表現と生活のうた、アンサンブル表現 鈴木明美、佐久間智子、加藤幸恵、本橋美恵子、菅原美謝、佐藤美鶴稀	・個人レッスン→Ⅰ期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた2種類・おべんとう・おかえりのうた2種類)を課題とする。 ・MLレッスン→アンサンブル体験	試験に向けて演奏技術と表現力の向上を目指しながら練習に取り組む。生活のうたの暗譜を確実にする。	30
14	試験曲の演奏表現技術、生活のうた、アンサンブル表現 鈴木明美、佐久間智子、加藤幸恵、本橋美恵子、菅原美謝、佐藤美鶴稀	・個人レッスン→Ⅰ期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた2種類・おべんとう・おかえりのうた2種類)を課題とする。 ・MLレッスン→アンサンブル体験	演奏技術と表現力の向上を目指しながら練習に取り組む。生活のうたの暗譜を確実にする。	30
15	試験曲の演奏表現技術のまとめとアンサンブル表現 鈴木明美、佐久間智子、加藤幸恵、本橋美恵子、菅原美謝、佐藤美鶴稀	15回のレッスンを通して得た奏法を振り返り、確認テストの準備をする。	演奏技術と表現力の向上を目指しながら練習に取り組む。生活のうたの暗譜を確実にする。	30

授業名	ピアノⅠ（主科）	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修	
担当教員名	◎横溝 聡子 深谷 悠里絵			
開講期	Ⅰ・Ⅱ期			
授業の概要	ピアノ演奏の基礎的技術の習得と豊かな表現力を体得することを目的とする。手、腕、身体の使用方や読譜など基礎的な知識や技術の習得のために個々のレベルに合わせて授業を展開する。基礎の練習曲や多声音楽、古典派などの楽曲などを通して音楽理論や作品の様式を理解し、表現するための技術や演奏法を学ぶ。加えて幼児教育現場で歌われる「生活のうた」を学び、保育者としての実践力を養う。また、マンツーマンの授業やアンサンブル、ディスカッションを通して豊かな人間性やコミュニケーション能力を高め、自発的で豊かな演奏表現ができることを目指す。各試験後、個々に時間を設定しフィードバックを行います。			
授業の到達目標	目標は ①ピアノの基本的技術や音楽理論を理解し、演奏技術の訓練に励むことができる。 ②多声音楽作品や古典派などの楽曲を学び、基本的な演奏法を理解できている。 ③自己の表現力や人間性を高めることができている。 ④「生活のうた」の弾き歌いができる。 単位認定の最低基準：④は必須である。①から③までの内容の7割は理解し、授業や演奏発表で確認できること。			
履修条件	幼児教育学科チャイルド・ミュージックコース1年	成績の 評価方法・基準	実技試験90％、平常点10％	
テキスト	ツェルニー、バッハ、古典派作品など進度に応じてその都度指示。 保育者になるためのピアノ教本 子どもの歌でいつのまにか上達する 増補版 エイデル研究所 全国大学音楽教育学会 編著『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌ー唱歌童謡140年の歩み』音楽之友社			
参考書	進度に合わせて、適宜楽譜を紹介する。			
学生への要望	実技科目のため積極的な練習の積み重ねが重要です。授業での課題を次の授業までに出来るよう、よく考えながら根気強く取り組みましょう。			
位置付け・水準	CE2140			
ディプロマポリシーとの関係	「子どもの支援の方法・技術力」「問題解決力」「教養と他者と関わる力」「音楽表現力」			
オフィスタイム	水曜日Ⅳ限、金曜日Ⅱ限、No.1幼児教育学研究室			
アクティブラーニング実施内容	実技のため、マンツーマンでの双方向型の授業を行う。アンサンブル、ディスカッションを通して豊かな人間性やコミュニケーション能力を高め、自発的で豊かな演奏表現ができることを目指す。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	基礎技術の学習1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派などの作品の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を、次週までにできるようにする。事前事後学習の目安時間は最低必要な時間である。各自授業に対応できるよう準備が必要である。	120
2	基礎技術の学習2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派などの作品の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
3	基礎技術の学習3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派などの作品の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
4	基礎技術の学習4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派などの作品の学習。楽曲分析と演奏法の学習。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
5	基礎技術の学習5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派などの作品の学習。楽曲分析と演奏法の学習。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
6	基礎技術の学習6	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派などの作品の学習。試験曲の選定。正確な読譜を行う。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
7	基礎技術の学習7	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派などの作品の学習。試験曲の正確な読譜を行う。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
8	基礎技術の学習8	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。楽曲分析と演奏法の学習。	基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	基礎技術の学習 9	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。楽曲への理解を深め演奏表現に繋げる。	基礎的な技術と表現力の向上に向け練習を行う。	120
10	基礎技術の学習10	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。楽曲への理解を深め演奏表現に繋げる。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
11	演奏表現の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。楽曲への理解を深め演奏表現に繋げる。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
12	演奏表現の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。楽曲への理解を深め演奏表現に繋げる。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
13	演奏表現の学習 3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。自発的な演奏表現を目指す。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
14	演奏表現の学習 4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。自発的な演奏表現を目指す。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
15	演奏表現の学習とまとめ	試験に向けステージを想定した発表を行い、ディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる演奏表現の向上を目指す。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を試験までにできるようにする。	120
16	演奏技術の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。アンサンブル曲の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
17	演奏技術の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。アンサンブル曲の学習。正確な読譜力を身につける。	アンサンブルでの演奏発表に向けて合わせも含め練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
18	演奏技術の学習 3	古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。アンサンブル曲の学習。演奏発表に向けグループでディスカッションを行いながらアンサンブルでのより良い表現を目指す。	アンサンブルでの演奏発表に向けて合わせも含め練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
19	演奏技術の学習 4	アンサンブルの演奏発表を行う。演奏後それぞれの演奏表現についてディスカッションする。	次の授業に向けた譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。	120
20	演奏技術の学習 5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。「生活のうた」の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
21	演奏技術の学習 6	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。「生活のうた」の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
22	演奏技術の学習 7	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。「生活のうた」の学習。試験曲の選定。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を、次週までにできるようにする。	120
23	演奏技術の学習 8	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲と「生活のうた」の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
24	演奏技術の学習 9	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。正確な読譜力を身につける。「生活のうた」の学習。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。「生活のうた」弾き歌いテストに向けて準備する。	120
25	演奏表現の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。楽曲分析と演奏法の学習。「生活のうた」の学習。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
26	演奏表現の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。楽曲分析と演奏法の学習。「生活のうた」の学習。	楽曲への理解を深め、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
27	演奏表現の学習 3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。楽曲への理解を深め演奏表現に繋げる。「生活のうた」の学習。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
28	演奏表現の学習 4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。自発的な演奏表現を目指す。「生活のうた」の学習。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
29	演奏表現の学習 5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。自発的な演奏表現を目指す。「生活のうた」の学習。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の更なる向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
30	演奏表現の学習 6 とまとめ	試験に向けステージを想定した発表を行い、ディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる演奏表現の向上を目指す。	試験に向け確実性のある演奏技術と表現力の更なる向上を目指し練習を行う。授業での課題を試験までにできるようにする。	120

授業名	ピアノⅠ（副科）	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 必修	
担当教員名	◎横溝 聡子 深谷 悠里絵			
開講期				
授業の概要	ピアノ演奏の基礎的技術の習得と豊かな表現力を体得することを目的とする。手、腕、身体 of の使い方や読譜に必要な音楽理論など基礎的な知識や技術の習得のために個々のレベルに合わせて授業を展開する。幼児曲を中心として表現するための技術や演奏法を学び、保育者としての実践力を養う。また、マンツーマンの授業やディスカッションを通して豊かな人間性やコミュニケーション能力を高め、自発的で豊かな演奏表現ができることを目指す。各試験後、個々に時間を設定しフィードバックを行います。			
授業の到達目標	目標は ①ピアノの基本的技術や音楽理論を理解し、演奏技術の訓練に励むことができる。 ②「生活のうた」の弾き歌いができる。 ③ピアノ初心者については、実践編①と実践編⑤「生活の歌」まで終了している。 ④自己の表現力や人間性を高めることができている。 単位認定の最低基準：②③は必須である。①と④は内容の7割を理解し、授業や試験において確認できること。			
履修条件	幼児教育学科チャイルド・ミュージックコース1年	成績の 評価方法・基準	実技試験90％、平常点(ラーニングポートフォリオ含む) 10％	
テキスト	保育者になるためのピアノ教本 子どもの歌でいつのまにか上達する 増補版 エイデル研究所 全国大学音楽教育学会 編著『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌ー唱歌童謡140年の歩み』音楽之友社 進度に応じてその都度指示。			
参考書	進度に合わせて、適宜楽譜を紹介する。			
学生への要望	実技科目のため積極的な練習の積み重ねが重要です。授業での課題を次の授業までに出来るよう、よく考えながら根気強く取り組みましょう。			
位置付け・水準	CE2141			
ディプロマポリシーとの関係	「子どもの支援の方法・技術力」「問題解決力」「教養と他者と関わる力」「音楽表現力」			
オフィスタイム	水曜日Ⅳ限、金曜日Ⅱ限、No.1幼児教育学研究室			
アクティブラーニング実施内容	実技のため、マンツーマンでの双方向型の授業を行う。ディスカッションを通して豊かな人間性やコミュニケーション能力を高め、自発的で豊かな演奏表現ができることを目指す			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 基礎技術の学習1	入学前課題の確認。シラバスを用いたオリエンテーション。テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を、次週までにできるようにする。事前事後学習の目安時間は最低必要な時間である。各自授業に対応できるよう準備が必要である。	60
2	基礎技術の学習2	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
3	基礎技術の学習3	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
4	基礎技術の学習4	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
5	基礎技術の学習5	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
6	基礎技術の学習6	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
7	基礎技術の学習7	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
8	基礎技術の学習8	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。試験曲の選定。	基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
9	基礎技術の学習9	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。試験曲の譜読みを進める。	基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。	60
10	基礎技術の学習10	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。試験曲の楽曲分析と演奏法の学習。	試験に向け技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	演奏表現の学習 1	試験曲の学習。演奏に必要な技術を確実に身につけ表現に結びつける。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
12	演奏表現の学習 2	試験曲の学習。演奏に必要な技術を確実に身につけ表現に結びつける。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
13	演奏表現の学習 3	試験曲の学習。楽曲を理解し演奏に必要な技術を確実に身につけ表現に結びつける。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
14	演奏表現の学習 4	試験曲の学習。楽曲を理解し演奏に必要な技術を確実に身につけ自発的な表現に結びつける。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
15	演奏表現の学習とまとめ	試験に向けステージを想定した発表を行い、グループでのディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる演奏表現の向上を目指す。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を試験までにできるようにする。	60
16	基礎技術の学習 1	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
17	基礎技術の学習 2	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
18	基礎技術の学習 3	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
19	基礎技術の学習 4	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
20	基礎技術の学習 5	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
21	演奏技術の学習 1	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。「生活のうた」の学習。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
22	演奏技術の学習 2	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。「生活のうた」の学習。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を、次週までにできるようにする。	60
23	演奏技術の学習 3	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。「生活のうた」の学習。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
24	演奏技術の学習 4	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。「生活のうた」の学習。試験曲の選定。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。「生活のうた」の弾き歌いテストに向けての準備。	60
25	演奏表現の学習 1	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。試験曲を正確に譜読みする。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
26	演奏表現の学習 2	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。試験曲を正確に譜読みする。	楽曲への理解を深め、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
27	演奏表現の学習 3	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。試験曲への理解を深め、表現について考える。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
28	演奏表現の学習 4	試験曲の確実な技術の習得と自発的な演奏表現を目指す。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
29	演奏表現の学習 5	試験曲の確実な技術の習得と自発的な演奏表現を目指す。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の更なる向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
30	演奏表現の学習とまとめ	試験に向けステージを想定した発表を行い、ディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる演奏表現の向上を目指す。	試験に向け確実性のある演奏技術と表現力の更なる向上を目指し練習を行う。授業での課題を試験までにできるようにする。	60

授業名	子どもの器楽Ⅲ			配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員名	◎深谷 悠里絵 本橋 美恵子 横溝 聡子 佐藤 美鶴稀 鈴木 明美 佐久間 智子 加藤 幸恵				
開講期	Ⅲ期				
授業の概要	個人レッスンでは幼児曲の弾き歌いを中心に学習する。子どもたちを意識した演奏表現技術と保育の方法を身につける。ML授業については、アンサンブルにおいてパートナーとディスカッションを重ねながら取り組み、更なる表現力の向上やコミュニケーション能力の伸長を図り、保育現場での実践力を養う。各期の試験後に時間を設け、コメントによるフィードバックを行う。				
授業の到達目標	個人レッスン ①幼児曲を最低7曲仕上げる。 ②幼児曲の弾き歌いにおいて、歌を生かす伴奏ができる。 ③幼児曲の弾き歌いにおいて曲想をイメージして歌うことができる。 ML授業 ①他の人のテンポやリズム感到共感し、協力して演奏できる。 ②ハーモニーの美しさやアンサンブルの楽しさを感じることができる。 ③表情豊かな演奏ができる。 単位認定の最低基準：個人レッスンの①は必須条件である。その他の項目は内容の7割を理解し、授業や演奏発表において確認できること。				
履修条件	幼児教育学科2年幼児教育コース		成績の 評価方法・基準	毎授業でのレッスン成果（態度、課題に対する取り組み姿勢・意欲、進捗等）40点、ML：平常点（課題に対する取り組み姿勢・意欲・態度等）40点、定期試験20点	
テキスト	保育・教育の現場で使える！弾き歌いピアノ曲集（津布楽杏里・桑原章寧共著、ドレミ楽譜出版社） 明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌（全国大学音楽教育学会編著、音楽之友社） その他、授業内で適宜楽譜を配布する。				
参考書	特になし				
学生への要望	○毎時間休まないでレッスンを受けること。 ○毎日最低30分は練習し、自己の課題に取り組むこと。 ○爪をカットし、マニキュアはつけないこと。髪の毛が前に下らないようにまとめてくること。				
位置付け・水準	CE2236				
ディプロマポリシーとの関係	「保育内容理解と総合的計画力」「保育の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「豊かな人間性と規範意識」				
オフィスタイム	月曜日 12:10～13:00 場所：83年館4F コピー室兼非常勤控室 横溝・深谷：水曜日Ⅳ限・金曜日Ⅰ限 場所：芸術館3F No.1幼児教育学研究室				
アクティブラーニング実施内容	アンサンブルにおいてパートナーとディスカッションを重ねながら取り組む。				
実務家教員の経歴					

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 横溝・深谷・渡辺・鈴木・加藤・佐久間・本橋	・担当教員を決定する。 ・授業形態は、Ⅰコマ90分を45分ずつに分割し、個人レッスンとMLのレッスンとする。 ・授業内容については、添付資料(参考曲)を参照する。行事のうた(8曲) 季節のうた(13曲) その他(24曲) ・個人レッスン→春休みの課題の確認を行う。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。（ちょうちょ、ほたるこい）	春休みの課題確認の結果を振り返り、弾けなかった部分を再度練習する。	30
2	幼児曲の弾き歌いのレパートリーを増やす MLによるアンサンブル体験①渡辺・鈴木・加藤・佐久間・本橋	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。（きらきらぼし、メリーさんのひつじ）	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパートリーを増やす。	30
3	幼児曲の弾き歌いのレパートリーを増やす MLによるアンサンブル②渡辺・鈴木・加藤・佐久間・本橋	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。（フレールジャック、ぶんぶんぶん）	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパートリーを増やす。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
4	幼児曲の弾き歌いのレパトリーを増やす MLによるアンサンブル③渡辺・鈴木・加藤・佐久間・本橋	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。(10人のインディアン、1本指のエチュード3拍子)	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパトリーを増やす。	30
5	幼児曲の弾き歌いのレパトリーを増やす MLによるアンサンブル④渡辺・鈴木・加藤・佐久間・本橋	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。(1本指のエチュード4拍子)	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパトリーを増やす。	30
6	幼児曲の弾き歌いのレパトリーを増やす MLによるアンサンブル⑤渡辺・鈴木・加藤・佐久間・本橋	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。(手をたたきましょう)	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパトリーを増やす。	30
7	幼児曲の弾き歌いのレパトリーを増やす MLによるアンサンブル体験⑥渡辺・鈴木・加藤・佐久間・本橋	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。(大きな栗の木の下で)	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパトリーを増やす。	30
8	幼児曲の弾き歌いのレパトリーを増やす MLによるアンサンブル体験⑦渡辺・鈴木・加藤・佐久間・本橋	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。(こぎつね)	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパトリーを増やす。	30
9	幼児曲の弾き歌いのレパトリーを増やす MLによるアンサンブル体験⑧渡辺・鈴木・加藤・佐久間・本橋	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。(糸まきのうた)	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパトリーを増やす。	30
10	幼児曲の弾き歌いのレパトリーを増やす MLによるアンサンブル体験⑨渡辺・鈴木・加藤・佐久間・本橋	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。(大きな古時計)	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパトリーを増やす。	30
11	幼児曲の弾き歌いのレパトリーを増やす MLによるアンサンブル・即興演奏体験⑩渡辺・鈴木・加藤・佐久間・本橋	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。(気のいいアヒル)	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパトリーを増やす。	30
12	幼児曲の弾き歌いのレパトリーを増やす MLによるアンサンブル体験⑪渡辺・鈴木・加藤・佐久間・本橋	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。(山の音楽家)	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパトリーを増やす。	30
13	幼児曲の弾き歌いのレパトリーを増やす MLによるアンサンブル体験⑫渡辺・鈴木・加藤・佐久間・本橋	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。(あわてんぼうのおつかい)	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパトリーを増やす。	30
14	幼児曲の弾き歌いのレパトリーを増やす MLによるアンサンブル体験⑬渡辺・鈴木・加藤・佐久間・本橋	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。(パフ)	確認テストに向け練習に取り組む。	30
15	Ⅲ期のまとめ、及び確認横溝・深谷・渡辺・鈴木・加藤・佐久間・本橋	15回のレッスンで挑戦した幼児曲を振り返り、定期試験の準備をする。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。(小さな世界)	確認テストに向け練習に取り組む。	30

授業名	子どもの器楽Ⅳ		配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員名	◎深谷 悠里絵 佐久間 智子 鈴木 明美 加藤 幸恵 佐藤 美鶴稀			
開講期	Ⅳ期			
授業の概要	個人レッスンでは幼児曲の弾き歌いを中心に学習する。教育実習・保育実習をすべて終えたことを踏まえ、これまで学んだことを基盤に置き、演奏技術のみの学習に留まらず、子どもの発達に応じてピアノであそぶことが出来る表現力、即興力、応用力の伸長を図る。ML授業については、アンサンブルにおいてパートナーとディスカッションを重ねながら取り組み、更なる表現力の向上やコミュニケーション能力の伸長を図り、保育現場での実践力を養う。各期の試験後に時間を設け、コメントによるフィードバックを行う。			
授業の到達目標	個人レッスン ①幼児曲を最低8曲仕上げる。 ②幼児曲の弾き歌いにおいて、歌を生かす伴奏ができる。 ③幼児曲の弾き歌いにおいて曲想をイメージして歌うことができる。 ML授業 ①他の人のテンポやリズム感到共感し、協力して演奏できる。 ②ハーモニーの美しさやアンサンブルの楽しさを感じることができる。 ③表情豊かな演奏ができる。 単位認定の最低基準：個人レッスンの①は必須条件である。その他の項目は内容の7割を理解し、授業や演奏発表において確認できること。			
履修条件	幼児教育学科2年幼児教育コース	成績の 評価方法・基準	毎授業でのレッスン成果（態度、課題に対する取り組み姿勢・意欲、進度等）30点、ML：平常点（課題に対する取り組み姿勢・意欲・態度等）30点、定期試験40点	
テキスト	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士養成課程のためのピアノ・テキスト』改訂版（吉野 幸男・三瓶 令子 外10名 執筆・編集者、ドレミ楽譜出版社） 子どものための音楽表現技術（今泉明美 他編著、萌文書林） 保育・教育の現場で使える！弾き歌いピアノ曲集（津布楽杏里・桑原章寧共著、ドレミ楽譜出版社） その他授業内で適宜資料を配布する。			
参考書	特になし			
学生への要望	○毎時間休まないでレッスンを受けること。 ○毎日最低30分は練習し、自己の課題に取り組むこと。 ○爪をカットし、マニキュアはつけないこと。髪の毛が前に下らないようにまとめてくること。			
位置付け・水準	CE2243			
ディプロマポリシーとの関係	「子どもの支援の方法・技術力」「問題解決力」「教養と他者と関わる力」			
オフィスタイム	月曜日・金曜日 12:10～13:00 場所：83年館4F コピー室兼非常勤控室 深谷：木曜日Ⅰ限・金曜日Ⅰ限 場所：芸術館3F No.1幼児教育学研究室			
アクティブラーニング実施内容	アンサンブルにおいてパートナーとディスカッションを重ねながら取り組む。			
実務家教員の経歴	なし			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 鈴木・佐久間・加藤・本橋・佐藤	・担当教員を決定する。 ・授業形態は、Ⅰコマ90分を45分ずつに分割し、個人レッスンとMLのレッスンとする。 ・個人レッスン→Ⅲ期からの確認。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。（聖者の行進）	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパートリーを増やす。	30
2	幼児曲の弾き歌いのレパートリーを増やす MLによるアンサンブル体験 鈴木・佐久間・加藤・本橋・佐藤	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。（遠い日々）	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパートリーを増やす。	30
3	幼児曲の弾き歌いのレパートリーを増やす MLによるアンサンブル体験 鈴木・佐久間・加藤・本橋・佐藤	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。（よろこびのうた）	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパートリーを増やす。	30
4	幼児曲の弾き歌いのレパートリーを増やす MLによるアンサンブル体験 鈴木・佐久間・加藤・本橋・佐藤	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。（クラリネットをこわしちゃった）	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパートリーを増やす。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	幼児曲の弾き歌いのレパトリーを増やす MLによるアンサンブル体験 鈴木・佐久間・加藤・本橋・佐藤	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。（ファランドール）	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパトリーを増やす。	30
7	幼児曲の弾き歌いのレパトリーを増やす MLによるアンサンブル体験 鈴木・佐久間・加藤・本橋・佐藤	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。（かけるのうた（4手））	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパトリーを増やす。	30
8	幼児曲の弾き歌いのレパトリーを増やす MLによるアンサンブル体験 鈴木・佐久間・加藤・本橋・佐藤	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。（10人のインディアン（4手））	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパトリーを増やす。	30
9	幼児曲の弾き歌いのレパトリーを増やす MLによるアンサンブル体験 鈴木・佐久間・加藤・本橋・佐藤	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。（よろこびのうた（4手））	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパトリーを増やす。	30
10	幼児曲の弾き歌いのレパトリーを増やす MLによるアンサンブル体験 鈴木・佐久間・加藤・本橋・佐藤	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。（パフ（4手））	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパトリーを増やす。	30
11	幼児曲の弾き歌いのレパトリーを増やす MLによるアンサンブル体験 鈴木・佐久間・加藤・本橋・佐藤	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。（小さな世界（4手））	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパトリーを増やす。	30
12	幼児曲の弾き歌いのレパトリーを増やす MLによるアンサンブル体験 鈴木・佐久間・加藤・本橋・佐藤	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。（聖者の行進（4手））	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパトリーを増やす。	30
13	幼児曲の弾き歌いのレパトリーを増やす MLによるアンサンブル体験 鈴木・佐久間・加藤・本橋・佐藤	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。（幸せなら手をたたこう（ピアノテキスト））	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパトリーを増やす。	30
14	幼児曲の弾き歌いのレパトリーを増やす MLによるアンサンブル体験 鈴木・佐久間・加藤・本橋・佐藤	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。（アビニョンの橋の上で（ピアノテキスト））	確認テストに向け練習に取り組む。	30
15	IV期のまとめ、及び確認 鈴木・佐久間・加藤・本橋・佐藤	15回のレッスンで挑戦した幼児曲を振り返り、定期試験の準備をする。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。（小鳥のうた（ピアノテキスト））	確認テストに向け練習に取り組む。	30

授業名	子どもの器楽Ⅴハンドベル		配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択
担当教員名	◎佐藤 美鶴稀			
開講期				
授業の概要	ハンドベル（イングリッシュ・ハンドベル）は様々な演奏法により多彩な音楽表現ができる楽器である。ハンドベルの多様な奏法の基礎的な知識や技術を身につけ、美しい音の響きで表現するための演奏法を学ぶ。また、アンサンブルを通して音楽表現力を高め、個人の責任と他との協調を大切にする態度を養い、コミュニケーション能力を身につけることをねらいとする。授業では音楽表現についてディスカッションをしながら曲を創り上げる。また、地域貢献活動など学外での演奏を通して子どもたちと交流し、総合的な実践力を身につける。 演奏発表後や最終授業で、フィードバックを行う。			
授業の到達目標	目標は ①ハンドベルの基本的な取り扱い方や奏法、音楽的知識を身につけている。 ②美しい響きや表現を目指すために、豊かな感性や想像力を持って積極的に演奏に取り組むことができる。 ③個人の責任を果たし、他と協調しながらコミュニケーション能力を高めることができている。 単位認定の最低基準：①～③の内容の7割を理解し、授業や演奏において確認できること。			
履修条件	幼児教育学科 1年	成績の 評価方法・基準	平常点50％（関心・意欲・態度）、成果発表30％、ラーニングポートフォリオ20％	
テキスト	進度に合わせて、その都度指示。			
参考書	進度に合わせて、適宜楽譜を紹介する。			
学生への要望	楽譜を読むことが条件である。手袋・筆記用具・楽譜を必ず持参する。ハンドベルに適した服装にし、長い髪の毛は後ろで結ぶこと。欠席・遅刻をしないようにすること。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係	「保育の内容理解と総合的計画力」「保育の方法と技術力」「表現とコミュニケーション能力」「豊かな人間性と規範意識」			
オフィスタイム	（月）（水）10：30～10：40 ゼミ室D			
アクティブラーニング実施内容	ディスカッション、地域貢献活動、演奏			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	基礎技術の学習 1	ハンドベルの基本的な扱い方と、基礎的な技術の習得を図る。	楽譜の読み方やリズムへの理解を深めておく。	30
2	基礎技術の学習 2	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をラーニングポートフォリオに整理しておく。	30
3	基礎技術の学習 3	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をラーニングポートフォリオに整理しておく。	30
4	基礎技術の学習 4	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をラーニングポートフォリオに整理しておく。	30
5	基礎技術の学習 5	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をラーニングポートフォリオに整理しておく。	30
6	基礎技術の学習 6	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をラーニングポートフォリオに整理しておく。	30
7	基礎技術の学習 7	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をラーニングポートフォリオに整理しておく。譜読みの復習。	30
8	基礎技術の学習 8	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をラーニングポートフォリオに整理しておく。譜読みの復習。	30
9	基礎技術の学習 9	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をラーニングポートフォリオに整理しておく。譜読みの復習。	30
10	基礎技術の学習 10	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をラーニングポートフォリオに整理しておく。譜読みの復習。	30
11	表現技術の学習 1	基本的な技術や奏法を踏まえ、表現についてディスカッションしながら演奏法を考える。	楽譜を整え、必要な点をラーニングポートフォリオに整理しておく。譜読みの復習。	30
12	表現技術の学習 2	基本的な技術や奏法を踏まえ、表現についてディスカッションしながら演奏法を考える。	楽譜を整え、必要な点をラーニングポートフォリオに整理しておく。譜読みの復習。	30
13	表現技術の学習 3	基本的な技術や奏法を踏まえ、表現についてディスカッションしながら演奏法を考える。	楽譜を整え、必要な点をラーニングポートフォリオに整理しておく。譜読みの復習。	30
14	表現技術の学習 4	基本的な技術や奏法を踏まえ、表現についてディスカッションしながら演奏法を考える。	楽譜を整え、必要な点をラーニングポートフォリオに整理しておく。譜読みの復習。	60
15	表現技術の学習 5	基本的な技術や奏法を踏まえ、表現についてディスカッションしながら演奏法を考える。	楽譜を整え、必要な点をラーニングポートフォリオに整理しておく。譜読みの復習。	60
16	トーンチャイムの演奏技術の学習 1	トーンチャイムの基本的奏法の習得。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
17	トーンチャイムの演奏技術の学習 2	トーンチャイムの基本的奏法の習得。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	30
18	トーンチャイムの演奏技術の学習 3	トーンチャイムの基本的奏法の習得と応用。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を、次週までにできるようにする。	30
19	トーンチャイムの演奏技術の学習 4	トーンチャイムの基本的奏法の習得と表現方法について。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	30
20	ハンドベルの演奏技術の学習 1	学内外での演奏発表に向けた練習。ハンドベルの基本的奏法の確認。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を、次週までにできるようにする。	30
21	ハンドベルの演奏技術の学習 2	学内外での演奏発表に向けた練習。ハンドベルの基本的奏法の確認。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	30
22	ハンドベルの演奏技術の学習 3	学内外での演奏発表に向けた練習。ハンドベルの基本的奏法の確認。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を、次週までにできるようにする。	30
23	ハンドベルの演奏技術の学習 4	学内外での演奏発表に向けた練習。ハンドベルの基本的奏法の確認。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	30
24	ハンドベルの演奏技術の学習 5	学内外での演奏発表に向けた練習。ハンドベルの基本的奏法の確認。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	30
25	演奏表現の学習 1	学内外での演奏発表に向けた練習。演奏表現の向上に向け、ディスカッションをしながら表現を創意工夫する。	楽曲への理解を深め、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	30
26	演奏表現の学習 2	学内外での演奏発表に向けた練習。演奏表現の向上に向け、ディスカッションをしながら表現を創意工夫する。	楽曲への理解を深め、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	30
27	演奏表現の学習 3	学内外での演奏発表に向けた練習。演奏表現の向上に向け、ディスカッションをしながら表現を創意工夫する。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	30
28	演奏表現の学習 4	学内外での演奏発表に向けた練習。演奏表現の向上に向け、ディスカッションをしながら表現を創意工夫する。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	30
29	演奏表現の学習 5	学内外での演奏発表に向けた練習。演奏表現の向上に向け、ディスカッションをしながら表現を創意工夫する。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の更なる向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
30	演奏表現の学習 6 とまとめ	演奏発表を行う。ディスカッションを通じて演奏を振り返り、1年間の学習のまとめとしてのフィードバックを行う。	演奏発表を行う。	60

授業名	子どもの器楽Ⅵハンドベル	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択	
担当教員名	◎佐藤 美鶴稀			
開講期				
授業の概要	ハンドベル（イングリッシュ・ハンドベル）は様々な演奏法により多彩な音楽表現ができる楽器である。ハンドベルの多様な奏法の基礎的な知識や技術を身につけ、美しい音の響きで表現するための演奏法を学ぶ。また、ハンドベルだけでなく、トーンチャイムや様々な楽器のアンサンブルを通して音楽表現力を高め、個人の責任と他との協調を大切にする態度を養い、コミュニケーション能力を身につけることをねらいとする。授業では音楽表現についてディスカッションをしながら曲を創り上げる。また、地域貢献活動など学外での演奏を通して子どもたちと交流し、総合的な実践力を身につける。演奏発表後や最終授業で、フィードバックを行う。			
授業の到達目標	目標は ①ハンドベルの基本的な取り扱い方や奏法、音楽的知識を身につけている。 ②美しい響きや表現を目指すために、豊かな感性や想像力を持って積極的に演奏に取り組むことができる。 ③個人の責任を果たし、他と協調しながらコミュニケーション能力を高めることができている。 単位認定の最低基準：①～③の内容の7割を理解し、授業や演奏において確認できること。			
履修条件	幼児教育学科2年	成績の 評価方法・基準	平常点50％（関心・意欲・態度）、成果発表30％、ラーニングポートフォリオ20％	
テキスト	進度に合わせて、その都度指示。			
参考書	進度に合わせて、適宜楽譜を紹介する。			
学生への要望	楽譜を読むことが条件である。手袋・筆記用具・楽譜を必ず持参する。ハンドベルに適した服装にし、長い髪の毛は後ろで結ぶこと。欠席・遅刻をしないようにすること。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係	「保育の内容理解と総合的計画力」「保育の方法と技術力」「表現とコミュニケーション能力」「豊かな人間性と規範意識」			
オフィスタイム	(月) (水) 10：30～10：40 ゼミ室D			
アクティブラーニング実施内容	ディスカッション、地域貢献活動、演奏			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	基礎技術の学習 1	ハンドベルの基本的な扱い方と、基礎的な技術の習得を図る。	楽譜の読み方やリズムへの理解を深めておく。	30
2	基礎技術の学習 2	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をラーニングポートフォリオに整理しておく。	30
3	基礎技術の学習 3	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をラーニングポートフォリオに整理しておく。	30
4	基礎技術の学習 4	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をラーニングポートフォリオに整理しておく。	30
5	基礎技術の学習 5	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をラーニングポートフォリオに整理しておく。	30
6	基礎技術の学習 6	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をラーニングポートフォリオに整理しておく。	30
7	基礎技術の学習 7	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をラーニングポートフォリオに整理しておく。譜読みの復習。	30
8	基礎技術の学習 8	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をラーニングポートフォリオに整理しておく。譜読みの復習。	30
9	基礎技術の学習 9	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をラーニングポートフォリオに整理しておく。譜読みの復習。	30
10	基礎技術の学習 1 0	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をラーニングポートフォリオに整理しておく。譜読みの復習。	30
11	表現技術の学習 1	基本的な技術や奏法を踏まえ、表現についてディスカッションしながら演奏法を考える。	楽譜を整え、必要な点をラーニングポートフォリオに整理しておく。譜読みの復習。	30
12	表現技術の学習 2	基本的な技術や奏法を踏まえ、表現についてディスカッションしながら演奏法を考える。	楽譜を整え、必要な点をラーニングポートフォリオに整理しておく。譜読みの復習。	30
13	表現技術の学習 3	基本的な技術や奏法を踏まえ、表現についてディスカッションしながら演奏法を考える。	楽譜を整え、必要な点をラーニングポートフォリオに整理しておく。譜読みの復習。	30
14	表現技術の学習 4	基本的な技術や奏法を踏まえ、表現についてディスカッションしながら演奏法を考える。	楽譜を整え、必要な点をラーニングポートフォリオに整理しておく。譜読みの復習。	60
15	表現技術の学習 5	基本的な技術や奏法を踏まえ、表現についてディスカッションしながら演奏法を考える。	楽譜を整え、必要な点をラーニングポートフォリオに整理しておく。譜読みの復習。	60
16	トーンチャイムの演奏技術の学習 1	トーンチャイムの基本的奏法の習得。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
17	トーンチャイムの演奏技術の学習 2	トーンチャイムの基本的奏法の習得。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	30
18	トーンチャイムの演奏技術の学習 3	トーンチャイムの基本的奏法の習得と応用。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を、次週までにできるようにする。	30
19	トーンチャイムの演奏技術の学習 4	トーンチャイムの基本的奏法の習得と表現方法について。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	30
20	ハンドベルの演奏技術の学習 1	学内外での演奏発表に向けた練習。ハンドベルの基本的奏法の確認。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を、次週までにできるようにする。	30
21	ハンドベルの演奏技術の学習 2	学内外での演奏発表に向けた練習。ハンドベルの基本的奏法の習得と表現について。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	30
22	ハンドベルの演奏技術の学習 3	学内外での演奏発表に向けた練習。ハンドベルの基本的奏法の習得と表現について。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を、次週までにできるようにする。	30
23	ハンドベルの演奏技術の学習 4	学内外での演奏発表に向けた練習。ハンドベルの基本的奏法の習得と表現について。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	30
24	ハンドベルの演奏技術の学習 5	学内外での演奏発表に向けた練習。ハンドベルの基本的奏法の習得と表現について。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	30
25	演奏表現の学習 1	学内外での演奏発表に向けた練習。演奏表現の向上に向け、ディスカッションをしながら個人表現、他者との表現を創意工夫する。	楽曲への理解を深め、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	30
26	演奏表現の学習 2	学内外での演奏発表に向けた練習。演奏表現の向上に向け、ディスカッションをしながら個人表現、他者との表現を創意工夫する。	楽曲への理解を深め、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	30
27	演奏表現の学習 3	学内外での演奏発表に向けた練習。演奏表現の向上に向け、ディスカッションをしながら個人表現、他者との表現を創意工夫する。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	30
28	演奏表現の学習 4	学内外での演奏発表に向けた練習。演奏表現の向上に向け、ディスカッションをしながら個人表現、他者との表現を創意工夫する。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	30
29	演奏表現の学習 5	学内外での演奏発表に向けた練習。演奏表現の向上に向け、ディスカッションをしながら個人表現、他者との表現を創意工夫する。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の更なる向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
30	演奏表現の学習 6 とまとめ	演奏発表を行う。ディスカッションを通じて演奏を振り返り、1年間の学習のまとめとしてのフィードバックを行う。	演奏発表を行う。	60

授業名	総合表現	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 必修	
担当教員名	◎磯部 哲夫 沼田 春香			
開講期	Ⅱ期			
授業の概要	・保育内容「表現」は、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことを目指すものである。本科目では、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現活動の実践を通して、音楽、造形、身体を融合した総合的な表現についての知識や技能を身につける。・活動内容について収録した授業の活動動画や、教員・他グループ学生間の講評等をもってフィードバックする。			
授業の到達目標	授業の到達目標及びテーマ １．幼児の感性と表現にかかわって、これを促し育むかわり方と内容を実践的に探求する。 ２．学生自身の感受性と感覚を駆使し、生き生きと動きを表現することの基礎を、実技体験を通して養う。 ３．総合的な表現活動の体験を通して表現力を育成する。 単位認定の最低基準は、１～３の内容の７割を理解し、授業や発表において確認出来ること。			
履修条件	短期大学部 幼児教育学科 1年生	成績の 評価方法・基準	練習への積極性 30％ 指導案作成 20％ 指導計画実施能力（発表成果） 50％	
テキスト	文部科学省「幼稚園教育要領解説」平成30年3月 フレーベル館			
参考書	「表現原論－幼児の『あrawし』と領域『表現』」大場牧夫著 1996年 萌文書林			
学生への要望	○動きやすい服装。汚れても良い服装で参加すること。 ○事前・事後学習について記録ノートを準備すること。			
位置付け・水準	CE2146			
ディプロマポリシーとの関係	教育・保育の総合的計画・実践力、子どもの支援の方法・技術力、問題解決力、教養と他者と関わる力			
オフィスタイム	磯部：月曜日Ⅲ限、水曜日Ⅳ限 841研究室 沼田：火曜日Ⅱ限、木曜日Ⅲ限 827研究室			
アクティブラーニング実施内容	音楽、身体表現についてのディスカッション、造形、美術表現についてのディスカッション、教員・他グループ学生間の講評			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業オリエンテーション (担当：磯部哲夫：沼田春香)	・本科目の授業内容、授業の進め方、評価方法について (担当：磯部哲夫) ・グループ分けと演目の選択について（担当：沼田春香） 演目：①ペープサート②絵本・紙芝居③パネルシアター ④ミュージカル ⑤幼児体操 ⑥自由課題	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。	40
2	表現発表計画① (担当：磯部哲夫：沼田春香)	・役割分担（リーダー、キャスト、スタッフ等の決定） (担当：磯部哲夫) ・発表内容打ち合わせと活動日程（工程表）の作成（担当：沼田春香） ・シナリオ・制作物等の準備・計画（担当：Aグループ磯部哲夫、Bグループ沼田春香）	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。	40
3	表現発表計画② (担当：磯部哲夫：沼田春香)	・発表内容打ち合わせと活動日程（工程表）の作成（担当：磯部哲夫） ・シナリオ、制作物等の準備・計画（担当：沼田春香） ・指導計画案の作成（下書き）	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。	40
4	シナリオに基づいたグループ練習、造形制作1 (担当：磯部哲夫：沼田春香)	・音楽、身体表現について ・造形、美術表現について	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。	40
5	シナリオに基づいたグループ練習、造形制作2 (担当：磯部哲夫：沼田春香)	・音楽、身体表現について ・造形、美術表現について	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。	40
6	ディスカッションを交えたグループ発表練習と造形制作1 (担当：磯部哲夫：沼田春香)	・音楽、身体表現についてのディスカッション ・造形、美術表現についてのディスカッション	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。	40
7	それぞれの表現についてディスカッションを交えたグループ発表練習と造形制作2 (担当：磯部哲夫：沼田春香)	・音楽、身体表現についてのディスカッション ・造形、美術表現についてのディスカッション ・指導計画の作成（清書）	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。	40
8	ステージでのグループ練習1 (担当：磯部哲夫：沼田春香)	・音楽、身体表現について ・造形、美術表現について	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。	40
9	ステージでのグループ練習2 (担当：磯部哲夫：沼田春香)	・音楽、身体表現について ・造形、美術表現について	練習内容を振り返り、実施した内容の確認と反省について次の発表に活かす。	40

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	ステージリハーサル (担当：磯部哲夫：沼田春香)	・音楽、身体表現について ・造形、美術表現について	練習内容を振り返り、実施した内容の確認と反省について次回の発表に活かす。	40
11	成果発表 1 (担当：磯部哲夫：沼田春香)	グループ毎の成果発表 1	練習内容を振り返り、実施した内容の確認と反省をする。	40
12	成果発表 2 (担当：磯部哲夫：沼田春香)	グループ毎の成果発表 2	練習内容を振り返り、実施した内容の確認と反省をする。	40
13	発表の映像編集と鑑賞 (担当：磯部哲夫：沼田春香)	ICTを使用し撮影したグループ発表の映像編集 編集した映像の鑑賞 映像編集（担当：磯部哲夫） データ収集（担当：沼田春香）	発表内容を振り返り、実施した内容、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。	40
14	振り返りとグループディスカッション (担当：磯部哲夫：沼田春香)	・発表内容のブラッシュアップ ・異なる環境で実施するためのディスカッション	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。	40
15	まとめ (担当：磯部哲夫：沼田春香)	・総合表現についての振り返りとまとめ	発表内容を振り返り、実施した内容、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。	40

授業名	子どもの遊び	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
担当教員名	◎佐々木 郁子 安部 高太郎		
開講期	I 期		
授業の概要	【授業の目標及び内容】 この授業では、子どもの遊びを文化として理論・実践の両面から捉え直すことを目的とする。前半では、遊びに関する理論の紹介や保育実践で活用される児童文化財の特徴を見ていく。後半では、受講生が実際に保育現場で行われている遊びを行ったり、童歌や日本の伝統的な遊びに親しむことにより、遊びの保育実践における意義や方法を知る。最終的に、幼稚園や保育所等での子どもの遊びを見る視点を受講学生が獲得できるようにしたい。 【課題に対するフィードバック方法】 この科目における成績評価課題に対するフィードバックの方法は、教員から受講学生に対して口頭又はレポート等へのコメントで行うことを基本とする。なお、第15回授業にて、受講学生同士のグループによる振り返りの時間を設け、教員から全体に対して総括的コメントを与える。		
授業の到達目標	この授業では次の三つの到達目標を定める。 (1) ホイジンガやカイヨワ等の著作から遊びに関する古典的理論について理解し、複数の児童文化財で実際に遊ぶことからその特徴を知る。 (2) 保育現場で行われている遊びを知り、楽しさを実感し、遊びの方法を説明することができる。 (3) 童歌や日本の伝統的な遊びに親しんだり、異なる文化の伝統的な遊びに親しんだりすることなどにより、子どもが多様な価値観を醸成したり、国際的な感覚を身につけるのに寄与する経験をし、それらを説明することができる。		
履修条件	短期大学部幼児教育科 1年	成績の 評価方法・基準	①レポート（指導案等）：60％ ②授業態度（コメントシート等）：40％ → ①・②の合計で100％ ● 認定の最低基準：7割の到達度に達していること。
テキスト	必要に応じて授業時に配布		
参考書	カイヨワ, ロジェ (1990) 『遊びと人間』(多田道太郎・塚崎幹夫訳)、講談社 川勝泰介編著 (2020) 『よくわかる児童文化』(やわらかアカデミズム〈わかる〉シリーズ)、ミネルヴァ書房 庭しんぶん編 (2023) 『子どもの生活と遊び vol. 2 絵本：子どもと語り合う道具』庭プレス ホイジンガ, ヨハン (2018) 『ホモ・ルーデンス：文化のもつ遊びの要素についてのある定義づけの試み』(里見元一郎訳)、講談社 松岡享子 (2017) 『えほんのせかい こどものせかい』文藝春秋		
学生への要望	受講学生には、以下のことを求めたい。 ・自分が幼少期に慣れ親しんだ遊びや児童文化財についてなるべく具体的に思い出すこと。 ・（テレビ番組などからでもよいが）子どもの遊びに関連する現代日本の児童文化財や社会事象等に関心を持つこと。 ・保育者の卵の立場から、遊びを保育実践で行うことの楽しさと難しさを理解し、保育の奥深さを感じてほしい。		
位置付け・水準	CE2147		
ディプロマポリシーとの関係	教育・保育の総合的計画・実践力、子どもの支援の方法・技術力、教養と他者と関わる力		
オフィスタイム	日時：毎週火・木曜日 12：20～12：50 場所：佐々木研究室（83年館3階）		
アクティブラーニング実施内容	授業内において、適宜、グループで話し合う時間を設ける。また、遊びの児童文化財としての意味、意義や方法を知るために実際に活動を行う。		
実務家教員の経歴	保育園における保育士		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション：子どもの遊びを問い直す(安部)	ままごとやごっこ遊びの設定などを手がかりにして、子どもの遊びと社会・文化のつながりについて考える。	小さい頃にどのような遊びをしていたかを授業ノートに書き出す。	30
2	遊びの古典的理論：ホイジンガとカイヨワ(安部)	遊びの古典理論として、ホイジンガとカイヨワの議論を紹介する。	参考文献の『遊びと人間』の該当箇所のコピーを配るので、読んでくること。	30
3	子どもの遊びを探る①：社会・文化の変遷から(安部)	高度経済成長期の日本における子どもの遊びと現代日本の遊びについて、社会・文化を軸にして比較することから、その変化を感じ取る。	《サザエさん》・《ドラえもん》などのアニメを参照して、高度経済成長期の子どもの遊びに関して、現在と異なる点や気づいたことを授業ノートに書き出す。	30
4	子どもの遊びを探る②：児童文化財としての絵本(安部)	保育教材としてもお馴染みの絵本について、児童文化財という観点から何冊か紹介する。	子どもの頃に慣れ親しんだ（自分が好きな）絵本について紹介できるように、授業ノートに整理してくる。	30
5	子どもの遊びを探る③：伝承遊びに触れる(安部)	けん玉やコマ、お手玉、あやとり、折り紙などの伝承遊びに実際に触れることで、伝承遊びの面白さを探る。	家にあった伝承遊びの道具を思い返し、童心にかえて遊んでみる。	30
6	子どもの遊びを探る④：伝承遊びに触れる(安部)	けん玉やコマ、お手玉、あやとり、折り紙などの伝承遊びに実際に触れることで、伝承遊びの面白さを探る。	家にあった伝承遊びの道具を思い返し、童心にかえて遊んでみる。	30
7	子どもの遊びを探る⑤：昔話の変化(安部)	『グリム童話』や日本の昔話から代表的なものを取り上げ、子ども向けに話される昔話の特徴を探る。	子どもの頃に聞かされた昔話について思い出し、どんなメッセージが込められていると思うかを授業ノートに書き出してくる。	30
8	保育現場における遊び～室内遊び～①（佐々木）	「ハンカチ落とし」「なべなべそこぬけ」「手遊び」などの室内遊びを体験し、室内遊びの意義や方法、留意点などについて知る。（受講生自ら遊んで考察する）	【予習】事前に配布された資料を読む。 【復習】アクティブ・リコールにより授業内容を定着させ、授業で行った内容を追体験して知識と技能を定着させる。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	保育現場における遊び～室内遊び～②（佐々木）	前週に行った室内遊びについて、模擬授業の流れに沿って、学生が保育者役となり、自らの学びを保育現場で実践する意識を養う。	【予習】事前に配布された資料を読む。 【復習】アクティブ・リコールにより授業内容を定着させ、授業で行った内容を追体験して知識と技能を定着させる。	30
10	保育現場における遊び～外遊び①～（佐々木）	「だるまさんがころんだ」「様々な鬼ごっこ」「影踏み」などの外遊びを体験し、外遊びの意義や方法、留意点などについて知る。（受講生自ら遊んで考察する）	【予習】事前に配布された資料を読む。 【復習】アクティブ・リコールにより授業内容を定着させ、授業で行った内容を追体験して知識と技能を定着させる。	60
11	保育現場における遊び～外遊び～②（佐々木）	前週に行った外遊びについて、模擬授業の流れに沿って、学生が保育者役となり、自らの学びを保育現場で実践する意識を養う。	【予習】事前に配布された資料を読む。 【復習】アクティブ・リコールにより授業内容を定着させ、授業で行った内容を追体験して知識と技能を定着させる。	60
12	保育現場における遊び～製作遊び～①（佐々木）	紙コップや紙皿など、日常生活において身近にある素材でつくる遊びを知る。	【予習】事前に配布された資料を読む。 【復習】アクティブ・リコールにより授業内容を定着させ、授業で行った内容を追体験して知識と技能を定着させる。	60
13	保育現場における遊び～製作遊び～②（佐々木）	前週の製作物を用いて、模擬授業の流れに沿って実演し、自らの学びを保育現場で実践する意識を養う。	【予習】事前に配布された資料を読む。 【復習】アクティブ・リコールにより授業内容を定着させ、授業で行った内容を追体験して知識と技能を定着させる。	60
14	集団伝承遊び（佐々木）	「花一匁」「子とろ子とろ」「あぶくたった」などの集団伝承遊びを体験し、集団伝承遊びの意義や方法を知る。	【予習】事前に配布された資料を読む。 【復習】アクティブ・リコールにより授業内容を定着させ、授業で行った内容を追体験して知識と技能を定着させる。	60
15	まとめ：全体の振り返り（佐々木）	グループでの振り返りを行い、授業全体に対する総括的なフィードバックを受ける。	【予習】事前に配布された資料を読む。 【復習】アクティブ・リコールにより授業内容を定着させ、授業で行った内容を追体験して知識と技能を定着させる。	30

授業名	自然保育演習	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択	
担当教員名	◎柴田 卓			
開講期	4期集中			
授業の概要	授業の概要 〔授業の目的・ねらい〕 幼児と環境および保育内容指導法環境において、幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域環境に示されている「ねらい」と「内容」を理解したことを前提とし、フィールドワークにおける実践を基に地域資源や自然環境における教材の多様性と、環境を通して学ぶ姿を具体的に理解する。また、自然環境や地域資源を活用した園外保育を想定し、教材の選定方法、環境構成、リスクマネジメントの手法について学習する。学習したことを踏まえて、模擬保育を実施し、保育実践力の向上を目指す。なお、本講義は、自然体験活動指導者資格であるNEALリーダーの養成も兼ねており、受講と共にNEALリーダー資格を取得することができる。夏休み中（9月）にガイダンスと事前学習を2時間実施し、主な会場は那須甲子または磐梯青少年自然の家にて、1泊2日で実施する。詳細について第1回の授業において説明する。 課題に対するフィードバックは、模擬保育後と最終回に実施する。			
授業の到達目標	授業のテーマ及び到達目標 1) 幼稚園教育要領や保育所保育指針における領域「環境」のねらい及び内容を理解し、教材や環境構成の意義を理解することができる。 2) 発達段階を踏まえて教材や保育環境を構想し、指導場面を想定しながら保育活動を計画および展開することができる。 3) フィールドワークを通して地域資源や自然環境を活かした保育活動について理解し、保育計画およびリスクマネジメントを遂行することができる。 ※単位認定の最低基準は、達成目標に対して7割を理解し習得していること。			
履修条件	幼児教育学科 2年生（3年履修性含む）	成績の 評価方法・基準	課題発表20点 レポート等提出物70点 平常点10点	
テキスト	幼稚園教育要領解説 フレーベル館 保育所保育指針解説 フレーベル館 北欧スウェーデン発 科学する心を育てるアウトドア活動事例集 北大路書房			
参考書	授業内容に応じて、適宜紹介する。			
学生への要望	・通常の授業とは異なり、宿泊費用とバス移動、3食分の食事第、資格申請代等として8,000円前後の経費が必要となる。 ・自然環境下で活動できる服装を準備すること。例えば、運動できる靴、雨具、リュック、軍手、帽子など、詳細はガイダンスで説明する。 ・フィールドワークの会場へは、バス移動を予定していますが、近隣の方は、現地集合でも構いません。ガイダンス時に申し出る事。			
位置付け・水準	位置づけ・水準CE2248			
ディプロマポリシーとの関係	教育・保育の総合的計画・実践力、子どもの支援の方法・技術力、問題解決力、教養と他者と関わる力			
オフィスタイム	月曜日 5限、水曜日 4・5限 824研究室			
アクティブラーニング実施内容	グループワークによる探求活動、チームビルディング、プレゼンを実施する。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	・授業概要、評価方法の説明 ・フィールドワークの説明	フィールドの特徴を調べる NEALリーダーについて調べる	45
2	講義①	フィールドワーク① ・自然環境下における教材を探求する ・ネイチャーゲームを体験する	自然を活用した保育活動を探求する ネイチャーゲームについて調べる	45
3	フィールドワーク①	・自然環境下における教材を探求する ・ネイチャーゲームを体験する ・自然環境下における幼児トレイルの理解 ・コース設定の方法とリスクマネジメントの理解	さまざまな自然の保育活動を探求する 学修したことを記録する	45
4	フィールドワーク②	・自然を活かしたチームビルディングの体験 ・フィールドワーク③に向けたグルーピングと準備・計画	さまざまなASE活動について探求する 学修したことを記録する	45
5	フィールドワーク③ キャンプファイヤー	・キャンプファイヤーの準備、役割を理解する ・グループごとに計画した保育活動を発表する	キャンプファイヤーについて学習したことを記録する。 模擬保育のふりかえりを各自でまとめる	45
6	講義②	NEALリーダー資格に関する理解	学修したことを記録する	45
7	フィールドワーク④ 野外炊飯	・野外炊飯カレーライスの作り ・野外炊飯の準備・計画について理解する。 ・食中毒や、道具や火を使う際のリスクマネジメントについて、ディスカッションする	ディスカッションしたことを記録する	45
8	ふりかえり	ふりかえり ・フィールドワークを通して学習したことを振り返り、レポートとしてまとめる	フィールドワークを通して学習したことを踏まえ、学習環境としての地域資源の意義と可能性についてレポートにまとめる	60

授業名	保育内容研究 音楽表現		配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員名	◎横溝 聡子 深谷 悠里絵 菅原 美謝			
開講期	Ⅲ期			
授業の概要	幼児が主体的に音楽に関わることができるように、保育現場で使用している楽曲を取り上げ、身体表現を伴った音楽活動や伴奏づけ、楽器を使用した音楽表現活動について研究・考察する。グループワークを織り交ぜながら実践力を養う。授業内で発表を行い、終了後コメントによるフィードバックを行う。			
授業の到達目標	「保育内容指導法 音楽表現」、「子どもの器楽Ⅰ・Ⅱ」で学んだ音楽の表現技術について、更に深めていく。また、幼児の発達、創造性、感覚の実態を把握するとともに、実際に楽器や身体を通して自身の創造性や即興性を深めていく。 ①子どもの育ちやあそびの中で展開される楽器あそびや音楽表現の実践を通して、幼児の表現について理解している。 ②保育実践において子どもの表現に関わる即興的なピアノ伴奏がある程度できる。 単位認定の最低基準は、①～②の内容の7割を理解し、授業や発表において確認出来ること。			
履修条件	幼児教育学科2・3年生	成績の 評価方法・基準	平常点（興味・関心・意欲・態度）60%、課題40%にて評価	
テキスト	子どものための音楽表現技術 感性と実践力豊かな保育者へ（今泉明美・有村さやか編著）萌分書林 保育・教育の現場で使える！弾き歌いピアノ曲集（津布楽杏里・桑原章寧共著、ドレミ楽譜出版社） 明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌（全国大学音楽教育学会編著、音楽之友社） 現場で生かせる幼児合奏（三瓶令子ほか5名著 圭文社） 適宜プリントを配付			
参考書	適宜紹介する。			
学生への要望	ピアノを使用した授業では、爪を短く切ってくること。 弾き歌い、音楽あそび、楽器あそびの各領域の自学自習をしっかりと行うこと。			
位置付け・水準	CE2249			
ディプロマポリシーとの関係	「子どもの支援の方法・技術力」「問題解決力」「教養と他者と関わる力」			
オフィスタイム	横溝・深谷：水曜日Ⅳ限・金曜日Ⅱ限、No.1幼児教育学研究室 菅原：火曜日10：30～10:40 非常勤講師控室			
アクティブラーニング実施内容	確実な音楽表現、音楽表現教育法を身に付けるため、弾き歌いやコードによる伴奏づけでは双方向の授業を、音楽あそびや楽器の表現活動では、グループワークでのディスカッション、協働的体験によるアクティブラーニングで授業を実施する。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	子どもの遊びと表現について （担当：深谷悠里絵）	子どもの音楽的表現の発達と音楽活動について学ぶ。 歌唱教材を基に音楽表現と身近な音素材との関わりから音や楽器とのつながりを理解する。 グループワークで身体の動きを伴った音楽表現活動を考える。	各自歌唱教材を調べ、表現活動に繋げていけるようにする。	30
2	身体を意識した音楽あそびと表現活動（担当：深谷悠里絵）	子どもの身体的発達と音楽活動について学ぶ。 グループワークで身体の動きを伴った表現活動を考え、発表する。	グループ発表の準備、練習を行う。	30
3	歌唱活動について：幼児曲へのコードによる伴奏づけの基礎と応用（担当：横溝聡子）	ピアノを用いてコードによる伴奏付けの基礎理論を確認し、即興的なコードによる伴奏づけを実践する。	多くの幼児曲のコードでの伴奏づけをできるようにする。	30
4	歌唱活動について：幼児曲の伴奏の簡単編曲と弾き歌い（担当：横溝聡子）	幼児曲の伴奏の簡単変曲の方法を学ぶ。更にそれを用いた弾き歌いの実践と幼児への歌唱の指導法について学ぶ。	多くの幼児曲のコードでの伴奏づけと弾き歌いをできるようにする。	30
5	小打楽器による表現活動について（担当：菅原美謝）	小打楽器での簡単なリズム打ちを中心とした合奏を実践する。	楽譜を見てリズムパターンを理解し、リズム打ちをできるようにする。	30
6	音板楽器による表現活動について（担当：菅原美謝）	幼児の木琴、鉄琴の演奏表現を学ぶ。更にそれを用いた幼児曲や即興アンサンブルを実践する。	授業で取り上げた楽曲メロディーやパートを弾いたり歌えるようにする。	30
7	3、4、5歳児の音楽表現について（担当：菅原美謝）	各年齢に応じた指導法を学ぶ。更にそれを踏まえた音板楽器と小打楽器による合奏を実践する。	合奏譜を見て各パートを理解し、演奏表現できるようにする。	30
8	簡単編曲と発表の環境設定について（担当：菅原美謝）	幼児曲を合奏に簡単編曲する方法を学び、グループワークでオリジナル合奏をつくる。更に発表の環境設定について考え、それを踏まえてグループごとに合奏を発表する。	簡単なリズムパターンを用いて幼児曲に楽器をつけられるようにする。発表の環境設定を考えられるようにする。	30

授業名	保育内容研究 造形表現	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択	
担当教員名	◎松田 理香			
開講期	Ⅲ期			
授業の概要	保育に関する環境構成や現場を想定した素材研究・用具知識・技法等について幼児発達過程（年齢ごと）の理解と共に学ぶ。自己研究を積み重ね、造形活動の側面から保育の実践力・発表力を身に付ける。 ・課題作品は返却時に簡略なコメントを記す。 ・研究発表に対しては随時内容に対するフィードバックを全体、または個々に対して行う。			
授業の到達目標	1. 保育における造形活動に適した環境構成・造形素材・用具などの知識、基礎技法を修得する 2. 描画基礎を身に付けると共に他者の作品の良さに気づくこと 3. 幼児の発達過程を造形表現の側面から理解できるようにする			
履修条件	幼児教育学科2年生	成績の 評価方法・基準	制作姿勢（20％）・課題作品の提出状況と達成度（80％）の他、授業目標への意欲や関心などを含めて総合的に判断します。	
テキスト	特になし			
参考書	文部科学省 「幼稚園教育要領解説」フレーベル館			
学生への要望	動きやすく、造形作業に適した服装・活動材料・用具を整えて授業に臨むこと。 課題作品提出の締切日を厳守すること。			
位置付け・水準	CE2250			
ディプロマポリシーとの関係	①子どもの支援の方法・技術力 ②問題解決力 ③教養と他者と関わる力			
オフィスタイム	金曜日Ⅰ・Ⅱ時限 研究室			
アクティブラーニング実施内容	造形表現活動においてグループ・ディスカッションやグループワークなどを取り入れます。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス (授業内容説明・日程確認)	授業内容および課題について 造形活動の発達段階 ・なぐり描き体験	授業の目的、使用する材料や道具について 確認し準備する	30
2	造形表現 1	〔自然素材アート〕 ・複数の自然素材に描画材で生物を表現する。	さまざまな自然素材の特徴や性質を調べる。	30
3	〃	・前回の授業で制作した作品を学内の自然環境や生活環境に設置して記録（撮影・スケッチなど）する。	モノと自然環境・生活環境との関係性を考える。	30
4	〃	・作品鑑賞と講評・レポート制作	〃	30
5	造形表現 2	〔イメージアート〕 ・色紙を加工（切る・破く）して作ったパーツで新しい作品を作る。	色と形の可能性を考える。	30
6	〃	・画用紙に描画材で自由に線を描き隣りの人と交換し、新しい作品を作る。	〃	30
7	〃	・前回と前々回の授業で制作した作品を複数枚セットにし、制作者がグループになって物語を作り発表する。	〃	30
8	まとめ	保育現場での造形表現活動にスポットを当てながら、各発達段階における造形活動の意義と課題を探る。	造形表現活動現場の実態と課題について調べる。	30

授業名	保育内容研究 身体表現	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択	
担当教員名	◎柴田 卓			
開講期	3期			
授業の概要	〔授業の目的・ねらい〕 ①幼児体育・運動遊びに関する教材を研究する。 ②指導計画を立案し、模擬保育を行い、安全面や環境構成、指導内容などについて相互に評価を行う。 ③評価に基づき、指導計画や指導方法の見直しを行い、保育者としての実践的なスキルを習得する。 〔授業全体の概要〕 教材研究を通して、さまざまな視点から運動の面白さを探究し、子どもが意欲的かつ主体的に取り組む運動遊びの内容や指導方法を習得する。また、対象年齢に応じた運動遊び指導のポイント、安全面や環境設定等を実践的に学習するために模擬保育を実施する。また、振り返りによって、専門性や実践力を高める。 ＊指導計画の提出、模擬保育時にフィードバックを行う。			
授業の到達目標	①幼児期の運動・健康の指導法について理解する。 ②幼児体育・運動遊びの指導計画・指導方法・評価方法を理解する。 ③幼体体育・運動遊びの実践力を習得する。 ※単位認定の基準は：内容の7割を理解していること。			
履修条件	幼児教育学科2年	成績の 評価方法・基準	課題（教材研究）30点 提出物（指導案等）30点 まとめのレポート30点 平常点10点	
テキスト	柴田卓 石森真由子編,楽しく学ぶ運動遊びのすすめーポートフォリオを活用した保育実践力の探求ー,みらい,2017			
参考書	幼児期運動指針策定委員会,幼児期運動指針ガイドブック,文部科学省,2013			
学生への要望	各実習に向けた教材研究及び模擬保育を行います。各自で教材の準備や指導案の作成を行うなど、主体的に学習して自身の実践力を高めて下さい。 毎回、運動できる服装、筆記用具を持参し、主体的に教材研究や教材準備を行うこと。			
位置付け・水準	CE2251			
ディプロマポリシーとの関係	教育・保育の総合的計画・実践力、子どもの支援の方法・技術力			
オフィスタイム	月曜日5限、水曜日4・5限（83年館824研究室）			
アクティブラーニング実施内容	教材研究、模擬保育、グループによるリフレクションと評価			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	授業内容の概要	事後：第2回に向けた教材研究	45
2	教材研究①集団遊び	教材研究および指導案の作成 集団遊びを促す導入教材	事前：教材の準備 事後：指導案の作成	45
3	教材研究②道具を使った遊び	教材研究および指導案の作成 道具を使った遊びを行うための環境構成	事前：教材の準備 事後：指導案の作成	45
4	教材研究③園庭・戸外遊び	教材研究および指導案の作成 園庭環境を活用した運動遊びの計画	事前：教材の準備 事後：指導案の作成	45
5	教材研究④リズムダンス	教材研究および指導案の作成 リズムダンスの制作と展開方法	事前：教材の準備 事後：指導案の作成	45
6	模擬保育①	グループ毎に模擬保育を実施する。 実施後リフレクションを行い、保育内容を検証する。	事前：指導案の作成 事後：指導案の修正	45
7	模擬保育②	グループ毎に模擬保育を実施する。 実施後リフレクションを行い、保育内容を検証する。 各実習に向けて	事前：模擬保育②に向けた指導案の作成 事後：指導案の修正	45
8	まとめ	自身で計画した教材が教育実習において、どのように役立ったのか、どこを改善すべきかなど、振り返り、レポートにまとめる。	実習日誌・指導案	45

授業名	乳児保育Ⅰ	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎永瀬 悦子			
開講期	Ⅰ			
授業の概要	乳幼児期は人格形成の基盤を培う重要な時期である。また発育発達の著しい変化があらわれる時期でもある。愛情のある応答的な保育の大切さや子どもの主体を育む保育など、生活や遊びを通した保育者の関わり・配慮について学ぶ。ここでの「乳児」は3歳未満児をいう。 課題については、最終授業で全体に対するフィードバックを行う。			
授業の到達目標	①乳児保育の意義について理解している。 ②乳児の発達や特徴を理解し、多様な保育の場における保育内容を理解している。 ③乳児保育における安全な生活環境について理解している。 ④子どもが遊びを通して発達する環境について理解している。 ⑤乳児保育の指導計画について理解している。 ※単位認定の最低基準：内容を7割以上理解していること。			
履修条件	保育士資格取得希望学生	成績の 評価方法・基準	筆記試験60点、レポート40点	
テキスト	咲間まり子編著『コンパス乳児保育』建帛社 2021年 入江慶太編著『乳児保育—子ども・家庭・保育者が紡ぐ営み— 第3版』教育情報出版 2022年 ※資料を随時配布			
参考書	『保育所保育指針』フレーベル館 2017年 大浦賢治編著『実践につながる新しい乳児保育』ミネルヴァ書房 伊藤美保子・西隆太朗著『写真で描く乳児保育の実践』ミネルヴァ書房			
学生への要望	積極的姿勢を大切にしてください。			
位置付け・水準	CE2152			
ディプロマポリシーとの関係	「保育の本質の理解」「教育・保育の総合的計画・実践力」「子どもの支援の方法・技術力」			
オフィスタイム	月曜日 Ⅰ 時限（9：00～10：30） 832研究室			
アクティブラーニング実施内容	第8回・第10回・第12回：グループワーク・発表			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	乳児保育の意義と役割	乳児保育と社会との関係の中で、乳児保育の意義と役割について学ぶ。乳児にとって「最善の利益」について考える。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	60
2	子どもの誕生と家族のかたち	子どもが生まれる過程(胎児期)と母子関係、家族関係について学ぶ。	生命誕生について自身の考えをまとめる。	60
3	乳児保育の現状と課題	乳児保育および子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題、子育て支援を学ぶ。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	60
4	乳児保育における養護と教育の一体性	養護と教育の一体性について事例を通して学ぶ。乳児保育における「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」の3つの視点、健康・人間関係・環境・言葉・表現の5領域について学ぶ。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	60
5	乳児が育つ場	保育所以外の児童福祉施設(乳児院等)における乳児保育、小規模保育・家庭的保育等における乳児保育の現状と課題について学ぶ。	児童福祉施設の種類と役割を調べる。	60
6	0歳児保育①	胎児期から生後6か月頃までの乳児の発育発達過程を理解し、乳児保育の内容・方法について学ぶ。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	60
7	0歳児保育②	生後6か月以降1歳未満までの乳児の発育発達過程を理解し、乳児保育の内容・方法について学ぶ。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	60
8	個々の育ちを大切にする保育	愛情ある応答的関わり大切さを理解し、事例を基に保育を学ぶ。※グループワーク・発表	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	60
9	1歳児保育①	1歳児の乳児の発育発達過程を理解し、乳児保育の内容・方法について学ぶ。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	60
10	1歳児保育①	2歳児の乳児の発育発達過程を理解し、乳児保育の内容・方法について事例を基に学ぶ。※グループワーク・発表	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	60
11	2歳児保育①	2歳児の乳児の発育発達過程を理解し、乳児保育の内容・方法について学ぶ。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	60
12	2歳児保育②	2歳児の乳児の発育発達過程を理解し、乳児保育の内容・方法について事例を基に学ぶ。※グループワーク・発表	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	60
13	子どもの主体性を尊重する保育	子どもの自己の育ちと主体性や保育者との関係を理解し、事例を基に主体性を尊重する保育について学びを深める。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	乳児保育における計画・記録・評価	長期的・短期的指導計画と個別・集団の指導計画について学ぶ。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	60
15	乳児保育における連携・協働	乳児の健康と安全を守るための職員間の連携・協働、保護者との連携・協働、自治体や地域の関係機関等との連携・協働について学ぶ。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	60

授業名	乳児保育Ⅱ	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択	
担当教員名	◎永瀬 悦子			
開講期	Ⅱ			
授業の概要	子どもの基本的生活習慣に関する保育、主体性を尊重した個々の育ちを大切にする乳児保育について学ぶ。 課題については、最終授業で全体に対するフィードバックを行う。			
授業の到達目標	①乳児の発育発達を促す遊びについて理解しているか。 ②乳児の発育発達を踏まえた保育内容を理解しているか。 ③乳児の抱っこ・衣服の着脱・オムツ交換の養護技術を実施できるか。 ※単位認定の最低基準：内容を7割以上理解していること。			
履修条件	保育士資格取得を希望する学生	成績の 評価方法・基準	筆記試験60点、課題レポート40点	
テキスト	咲間まり子編著『コンパス乳児保育』建帛社 2021年 入江慶太編著『乳児保育ー子ども・家庭・保育者が紡ぐ営みー 第3版』教育情報出版 2022年 ※資料を随時配布			
参考書	『保育所保育指針』フレーベル館 2017年			
学生への要望	グループでの実技体験学習では、ひとり一人確実に体験し保育を身につけるようにしましょう。また、演習はグループで演習を行いますので協調性を大切にしましょう。			
位置付け・水準	CE2153			
ディプロマポリシーとの関係	「教育・保育の総合的計画・実践力」「子どもの支援の方法・技術力」「問題解決力」			
オフィスタイム	月曜日 Ⅰ時限（9：00～10：30） 832研究室			
アクティブラーニング実施内容	第8回目：発表			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	乳児保育の意義	乳児保育の意義について学ぶ。	テキストの授業内容に係るページを読む。	60
2	多様な乳児(子ども)と保育	多様な乳児(子ども)と個性性を尊重した保育の実践について学ぶ。	テキストの授業内容に係るページを読む。	60
3	乳児の生活と保育①	乳児の生活や遊びを支える環境構成、子どもの心身の健康・安全と子どもの情緒の安定を図る保育環境について学ぶ。	テキストの授業内容に係るページを読む。	60
4	乳児の生活と保育②	授乳・食事、排泄の基本的生活習慣と保育の実践について学ぶ。	テキストの授業内容に係るページを読む。	60
5	乳児の生活と保育③	抱っこ・オムツ交換の実践、衣服の着脱の基本的生活習慣と保育の実践について学ぶ。※実技に関する講義(50%)・グループ演習(50%)	テキストの授業内容に係るページを読む。	60
6	乳児保育における計画	保育場面から保育計画・記録を学ぶ。	テキストの授業内容に係るページを読む。	60
7	乳児の発育・発達に応じた遊び①	乳児の発育・発達に応じた遊びの特徴と保育について学ぶ。	玩具の制作と課題レポートをまとめる。	60
8	乳児の発育・発達に応じた遊び②	手作り玩具の発表から乳児の発育・発達に応じた遊びについて学ぶ。※発表	制作した玩具の評価をまとめる。	60

授業名	子どもの健康と安全	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択	
担当教員名	◎永瀬 悦子			
開講期	III			
授業の概要	「子どもの保健」で学んだ内容を基礎として、保育における健康及び安全の管理について学ぶ。助産師・看護師として医療機関に、保健師・看護師教育の専任教員として教育機関に勤務してきた経験を活かして授業を行う。課題については、最終授業で全体に対するフィードバックを行う。			
授業の到達目標	①子どもの体調不良時に適切な対応を理解しているか。 ②子どもの発達を理解し事故防止及び安全対策について理解しているか。 ③保育における感染症対策について理解しているか。 ※単位認定の最低基準：内容を7割以上理解していること。			
履修条件	保育士資格取得を希望する学生	成績の 評価方法・基準	筆記試験60点、レポート40点	
テキスト	飯島一誠監修『保育者のためのわかりやすい子どもの保健 第2版 』総合医学社 2024年 ※随時、資料配布			
参考書	随時、資料配布			
学生への要望	乳幼児のケアをおこなうためには、根拠のある確かな知識（頭）、愛情や相手を思いやる心、適切で正確な技術（技）が大切である。講義は積極的にのぞむことを期待する。			
位置付け・水準	CE2254			
ディプロマポリシーとの関係	「教育・保育の総合的計画・実践力」「子どもの支援の方法・技術力」「問題解決力」			
オフィスタイム	月曜日：1時限（9：00～10：30） 832研究室			
アクティブラーニング実施内容	第8回目「発表」			
実務家教員の経歴	有（看護・医療全般。傷病に対する医療・ケア実践、救命救急、保健指導、乳幼児健診、助産等。）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	保育における衛生管理	安全・衛生的な環境を整えることの大切さを理解する。病気の予防や感染症拡大を防止する衛生管理を学ぶ。	『2018年改訂版、保育所における感染症対策ガイドライン』（厚生労働省）をよく読む。	60
2	子どもの状態観察と評価	子どもの生理機能を理解して、子どもの状態観察と評価を学ぶ。	教科書をよく読み学びを深める	60
3	子どもの病気と対処法	子どもの病気の症状に対する対処法と与薬のしかたについて学ぶ。	教科書をよく読み学びを深める	60
4	子どもの身体計測と評価	保健計画および成長・発達の評価の資料となる身体計測の技術と留意点を理解する。子どもの健康と身体計測・評価について理解し、子どもの生活習慣と心身の健康増進を図るための健康管理について学ぶ。	教科書をよく読み学びを深める	60
5	子どもの応急処置・救急処置	包帯や三角布を利用した子どもの応急処置や乳幼児救急蘇生法について学ぶ(講義・実技)。	救急蘇生法について教科書を用いて学修する。	60
6	子どもの心身の発育発達を促す衛生管理・保健的対応	子どもの心身の発育発達を促す保育について学ぶ：抱っこ・オムツ交換・沐浴・衣服の着脱について学ぶ(講義・実技)。	教科書をよく読み学びを深める。	60
7	保育における事故防止・安全対策	教育・保育施設における事故防止と安全対策の必要性を理解し対応策を学ぶ。職員間の連携・協働と組織的取組、地域関係機関との連携について理解する。	『教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン平成28年3月』（内閣府）をよく読む。『保育所におけるアレルギー対応ガイドライン2019年改訂版』（厚生労働省）をよく読む。	60
8	子どもの健康の維持増進にむけた健康教育	子どもの健康の維持・増進にむけ保健計画について理解し、実践していくことの重要性を理解する。※「保健だより」で取り上げる毎月の健康課題について発表する。	子どもの健康を増進するために必要な健康課題を調べる。「保健だより」を作成する。	60

授業名	社会的養護Ⅱ		配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員名	◎山脇 功次			
開講期	Ⅳ期			
授業の概要	本科目では、「社会的養護Ⅰ」の学んだことを基に、以下のテーマに基づいて基礎学習と事例検討を中心に学びを深めます。 (１) こどもの権利を基軸とした社会的養護の基本的な考えを学びます。 (２) こどもの自己実現・自立に向けた取り組みを学びます。 (３) 地域・学校・家族とのネットワークづくりを学びます。 ＊授業実施方法については、各授業にてグループ・ディスカッション等を通して学びの深化を図る。授業内でグループワークを実施し、終了後コメントによるフィードバックを行う。			
授業の到達目標	(１) こどもに寄り添った伴走型支援（アシスト）の姿勢を実践できる。 (２) 各授業にて扱ったテーマの内容を説明することができる。 (３) 事例検討をとおして社会資源の諸制度と役割を説明することができる。 (４) 単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。			
履修条件	幼児教育学科 2年	成績の 評価方法・基準	授業内で実施するテスト50点、授業内で指定する課題提出50点	
テキスト	保育所保育指針及び解説書、幼稚園教育要領及び解説書 その他随時紹介する。			
参考書	中山正雄(監修)浦田雅夫(編著)「よりそい支える社会的養護Ⅱ」教育情報出版			
学生への要望	配付プリント等を整理し、適宜メモを取り、予習しましょう。			
位置付け・水準	CE2249			
ディプロマポリシーとの関係	教育・保育の総合的計画・実践力、子どもの支援の方法・技術力、問題解決力			
オフィスタイム	水曜日 4 限、木曜日 4 限 場所：822号室（山脇研究室）			
アクティブラーニング実施内容	発見学習／問題解決学習、グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク			
実務家教員の経歴	行政機関委託事業の障がい者基幹相談支援センターおよび障がい者就業・生活支援センター（センター長）、就労移行支援事業（主任）および就業定着支援事業（主任）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス(講義の概要と進め方)	授業内容、評価について説明する。 施設入所について説明する。	教科書を予習・復習すること	80
2	社会的養護における子どもの理解	施設での生活について説明する。	教科書を予習・復習すること	80
3	集団を活用した生活づくり 治療的支援	施設等での治療的支援について説明する。	教科書を予習・復習すること	80
4	里親家庭・ファミリーホームの生活	里親とファミリーホームについて説明する。	教科書を予習・復習すること	80
5	子どもの行動への理解と支援 自立支援	入所児童の特性について説明する。	教科書を予習・復習すること	80
6	親子再統合への取り組み 措置変更の現状と課題	親子再統合・再構築・措置変更について説明する。	教科書を予習・復習すること	80
7	アフターケアの計画と実際 職員のチームワークと働き方	自立に向けた支援について説明する。	教科書を予習・復習すること	80
8	不適切なかかわりの防止と研修 まとめ	施設職員の倫理について説明する。	教科書を予習・復習すること	80

授業名	教育実習Ⅰ	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 必修/短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択	
担当教員名	◎佐々木 郁子 柳沼 真美子			
開講期	I 期			
授業の概要	本授業は、幼稚園教育に関する基本事項（実習の意義・教員の役割・保育の実際・幼児の発達理解）の内容を踏まえた上で、教育実習Ⅱ（附属幼稚園の基礎実習）、教育実習Ⅲ（学外 観察参加実習）、教育実習Ⅳ（学外 本実習）と学内での学習との関連について理解を図る。また、実習の準備および事後の反省を通して、自身の課題・問題を発見し、主体的・自発的に改善しながら幼稚園教育の専門職として確立できるよう授業をする。なお、本授業の内容は、すべての実習の基本となるため、幼稚園教育要領をもとに5領域、子どもの発達、幼児理解、保護者対応、関わり方、環境設定等について基本的な内容を学習する。 フィードバック方法：授業内の質問、リフレクションシートをもとに、全体に向けて（個別に）フィードバックを行います。			
授業の到達目標	①教育実習の意義と目的を理解することができる。 ②幼稚園教育の基本的事項である5領域、子ども理解、環境設定、関わり方、保護者対応等について理解することができる。 ③教育実習Ⅱ（附属幼稚園の基礎実習）、教育実習Ⅲ（学外観察参加実習）に向けた事前学習と事後学習を主体的に進め、理解を深めることができる。 ④実習生としての姿勢や態度、ルールやマナーを理解し、積極的にコミュニケーションを図ることができる。 ※単位認定の最低基準は、内容の7割以上を理解していること。			
履修条件	幼児教育学科 1年「幼二種」免許取得希望者	成績の 評価方法・基準	平常点40％（授業態度、模擬保育等にみる授業への参画状況）、 提出物（製作物等）30％、試験30％をもとに総合的に判断する	
テキスト	・文部科学省幼稚園教育要領解説(フレーベル館) ・厚生労働省保育所保育指針（フレーベル館） ・内閣府幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(フレーベル館)			
参考書	適宜指示する			
学生への要望	・授業・実習に関する資料を随時、配布する。配布された資料を丁寧にファイリングすること・ ・平日頃から基本的な生活態度を身につけ、目的意識をもって主体的意欲的に受講する。 ・欠席・遅刻はしないこと。（やむを得ない場合は担当教員にメールで連絡をすること） ・講義室の座席は、学籍番号順とする。 ・授業連絡はメールで行うので、常にメールを確認すること。			
位置付け・水準	CE2161			
ディプロマポリシーとの関係	教育・保育の本質理解、子どもの支援の方法・技術力、問題解決力			
オフィスタイム	毎週火・木曜日 12：20～12：50 佐々木研究室（83年館 3階 834研究室）			
アクティブラーニング実施内容	協働学習、ディベート			
実務家教員の経歴	公立保育園における保育士			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	・教育実習の意義、目的、概要、評価方法について理解する。 ・教育実習の手引きに沿って教育実習の時期、日数、実習種類などを知る。 ・教育実習を行う前に身につけておくべき内容や留意点について理解する。 ・保育者に求められる資質について学ぶ。 ・学外希望調査書を配布、説明する。	・本日の講義内容を復習する。 ・資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。 ・学外の実習園を探して調べる。 ・教育実習の手引を読んで理解する。 ・製作セットの準備をする。	45
2	手遊びについて/保育教材製作① （スケッチブックシアター） 各年齢の発達段階の理解	・手遊びの効果や良さを知り、実践する ・実習や保育現場で実際に活用できる保育教材を製作する（スケッチブックシアターを使用した自己紹介） ・各年齢の発達段階を理解する	・本日の講義内容を復習する。 ・資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。 ・学外の実習園を探して調べる。 ・手遊びの練習をする。 ・製作セットの準備をする。	45
3	保育教材製作② （スケッチブックシアター）	・実習で実際に活用できる教材を製作する（スケッチブックシアターを使用した自己紹介） ・グループごとに手遊びの発表をする ・学外希望調査書を提出する	・本日の講義内容を復習する。 ・資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。 ・学外の実習園を探して調べる。 ・手遊びの練習をする。 ・模擬保育の練習をする。	45
4	保育教材製作③ （スケッチブックシアター） 模擬保育へ向けての準備	・製作した教材を使って模擬保育の準備をする（流れ、演じ方、時間配分等） ・実際に通してみた後、内容や教材の修正などをする ・グループごとに手遊びの発表をする	・本日の講義内容を復習する。 ・資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。 ・手遊びの練習をする。 ・模擬保育の練習をする。	45

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	模擬保育① (手遊び、スケッチブックシアター)	・実際の場面を想定して、手作りした保育教材を使い模擬保育(手遊び・スケッチブックシアター)を行う ・グループで意見交換をし、自己課題を明確にする	・本日の講義内容を復習する。 ・資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。 ・手遊び、絵本の読み聞かせの練習をする。	45
6	絵本の選定、読み聞かせについて 実習日誌の書き方 ① (全体の書き方)	・絵本の選定、読み聞かせについて具体的な持ち方やめくり方等を学ぶ ・記録の意義、記入上の諸注意を知り、記録のとり方、記入の仕方、記入の実際を学ぶ。 ・表現の仕方の注意点や記入する視点を理解する。 ・オリエンテーションの内容のまとめ方、環境図の書き方を学ぶ ・グループごとに手遊びの発表をする	・本日の講義内容を復習する。 ・資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。 ・手遊び、絵本の読み聞かせの練習をする。	45
7	実習日誌の書き方 ② (各年齢の発達段階の理解と子どもの姿の捉え方)	・記録の意義、記入上の諸注意を知り、記録のとり方、記入の仕方・記入の実際を学ぶ ・映像教材を通して各年齢の子どもの姿の捉え方、書き方を学ぶ ・グループごとに手遊びの発表をする	・本日の講義内容を復習する。 ・資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。 ・手遊び、絵本の読み聞かせの練習をする。	45
8	実習日誌の書き方 ③ (附属幼稚園での書き方のポイント)	・記録の意義、記入上の諸注意を知り、記録のとり方、記入の仕方・記入の実際を学ぶ ・映像教材を通して子どもの姿の捉え方、書き方を学ぶ ・エピソード記録(附属幼稚園対応)の書き方を学ぶ ・グループごとに手遊びの発表をする	・本日の講義内容を復習する。 ・資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。 ・手遊び、絵本の読み聞かせの練習をする。	45
9	実習日誌の書き方 ④ (実習生の動きと気付きの書き方) 附属幼稚園実習に向けて最終確認	・記録の意義、記入上の諸注意を知り、記録のとり方、記入の仕方・記入の実際を学ぶ ・映像教材を通して気づきの書き方を学ぶ ・附属幼稚園実習初日の持ち物や緊急連絡方法などについて再確認する。 ・グループごとに手遊びの発表をする	・本日の講義内容を復習する。 ・資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。 ・手遊び、絵本の読み聞かせの練習をする。	45
10	保育教材製作③(ペープサート等)	・実習で実際に活用できる教材を製作する (年齢・人数・ねらいを明確にした製作物を製作する) ・グループごとに手遊びの発表をする	・本日の講義内容を復習する。 ・資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。 ・手遊び、絵本の読み聞かせの練習をする。	45
11	保育教材製作④(ペープサート等)	・実習で実際に活用できる教材を製作する (年齢・人数・ねらいを明確にした製作物を製作する) ・グループごとに手遊びの発表をする	・本日の講義内容を復習する。 ・資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。 ・手遊び、絵本の読み聞かせの練習をする。	45
12	指導案の書き方 (模擬保育に向けて)	・指導案(模擬保育)の書き方、カリキュラムや指導案の立て方を理解し、学ぶ。 ・グループごとに手遊びの発表をする	・本日の講義内容を復習する。 ・資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。 ・手遊び、絵本の読み聞かせの練習をする。	45
13	模擬保育① (手遊び、絵本、ペープサート等)	・実際の場面を想定して、手作りした保育教材を使い模擬保育(手遊び・絵本読み聞かせを含む)を行う ・グループで意見交換をし、自己課題を明確にする	・本日の講義内容を復習する。 ・資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。 ・手遊び、絵本の読み聞かせの練習をする。	45
14	模擬保育① (手遊び、絵本、ペープサート等)	・実際の場面を想定して、手作りした保育教材を使い模擬保育(手遊び・絵本読み聞かせを含む)を行う ・グループで意見交換をし、自己課題を明確にする	・本日の講義内容を復習する。 ・資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。 ・手遊び、絵本の読み聞かせの練習をする。	45
15	授業のまとめと振り返り 確認テスト	・夏休みの課題「手作り名札」について説明する。 ・漢字テストの総復習、その他実習に向けて授業内で行ったことを確認する	・これまでの資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読んで復習する。 ・漢字練習をする。 ・手遊び、絵本の読み聞かせの練習をする。	45

授業名	教育実習Ⅱ	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 必修/短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択	
担当教員名	◎佐々木 郁子 柳沼 真美子			
開講期	Ⅱ期			
授業の概要	本授業は、幼稚園教育に関する基本事項（実習の意義・教員の役割・保育の実際・幼児の発達理解）の内容を踏まえた上で、教育実習Ⅱ（附属幼稚園の基礎実習）を通して、幼稚園教育の全体像を理解する。また、教育実習Ⅲ（学外 観察参加実習）に向けて、保育内容の理解と総合的な計画力の向上を目指し、保育表現力やコミュニケーション力を習得できるよう授業を実施する。 フィードバック方法：実習園の評価をもとに、個別フィードバックを行います。			
授業の到達目標	①附属幼稚園実習を通して、幼稚園教育の基本事項について理解することができる。 ②附属幼稚園実習を通して、実習生としての姿勢や態度、ルールやマナー、保育者としてのコミュニケーション能力について理解することができる。 ③年齢に応じた保育内容を理解し、保育計画を立てることができる。 ④保育計画に基づき、保育の方法や技術を習得し、表現することができる。 ※単位認定の最低基準は、内容の7割以上を理解していること。			
履修条件	幼児教育学科 1 年「幼二種」免許取得希望者	成績の 評価方法・基準	実習園の評価50%、実習日誌20%、提出物30%（製作物等）をもとに総合的に判断する	
テキスト	・文部科学省幼稚園教育要領解説(フレール館) ・厚生労働省保育所保育指針(フレール館) ・内閣府幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(フレール館)			
参考書	適宜指示する			
学生への要望	・授業・実習に関する資料を随時、配布する。配布された資料を丁寧にファイリングすること ・平日頃から基本的な生活態度を身につけ、目的意識をもって主体的意欲的に受講する。 ・欠席・遅刻はしないこと。（やむを得ない場合は担当教員にメールで連絡をすること） ・講義室の座席は、学籍番号順とする。 ・授業連絡はメールで行うので、常にメールを確認すること。			
位置付け・水準	CE2162			
ディプロマポリシーとの関係	教育・保育の総合的計画・実践力、子どもの支援の方法・技術力、問題解決力、音楽表現力			
オフィスタイム	毎週火・木曜日 12：20～12：50 佐々木研究室（83年館 3階 834研究室）			
アクティブラーニング実施内容	協働学習、ディベート			
実務家教員の経歴	公立保育園における保育士			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	・授業の概要と評価方法を確認する。 ・学外幼稚園実習希望園を確認する。 ・教育実習の手引に沿って、学外実習の流れについて説明する。	・本日の講義内容を復習する。 ・資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。 ・手遊び、絵本の読み聞かせの練習をする。	45
2	実習園の概要について	・実習園の概要について調べてまとめる。 ・実習園の沿革、方針、職員の構成、園児の構成、特色などを理解する。	・本日の講義内容を復習する。 ・資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。 ・実習園の概要を理解する。 ・手遊び、絵本の読み聞かせの練習をする。	45
3	保育教材作成① （年齢に合わせた手袋シアター）	・実習で実際に活用できる教材（手袋シアター）を製作する ・グループごとに手遊びの発表をする ・学外希望調査書を提出する	・資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。 ・手遊び、絵本の読み聞かせの練習をする。	45
4	保育教材作成② （年齢に合わせた手袋シアター）	・実習園の保育・教育方針を理解したうえで、部分実習の指導案を作成する ・保育教材（手袋シアターは必ず）を使った模擬保育の内容を考える ※パソコン持参	・資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。 ・手遊び、絵本の読み聞かせの練習をする。 ・製作セットの準備をする。	45
5	事前オリエンテーションについて	・事前オリエンテーションについての概要を理解する ・電話かけの仕方、持ち物等を確認する ・オリエンテーションで確認すること、留意することを理解する	・本日の講義内容を復習する。 ・資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。 ・手遊び、絵本の読み聞かせの練習をする。	45
6	附属幼稚園実習フィードバック①	・個別面談をし、附属幼稚園実習のフィードバックを行う。 ・園の評価（他者評価）と自己評価を比較し、自分の課題を見つける	・本日の講義内容を復習する。 ・資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。 ・手遊び、絵本の読み聞かせの練習をする。	45

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	指導案の書き方① (PC作成)	・指導案（模擬保育）の書き方、カリキュラムや指導案の立て方を理解し、PCで作成する。 ・グループごとに手遊びの発表をする	・本日の講義内容を復習する。 ・資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。 ・手遊び、絵本の読み聞かせの練習をする。 ・製作セットの準備をする。	45
8	指導案の書き方② (PC作成)	・指導案（模擬保育）の書き方、カリキュラムや指導案の立て方を理解し、PCで作成する。 ・グループごとに手遊びの発表をする	・本日の講義内容を復習する。 ・資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。 ・手遊び、絵本の読み聞かせの練習をする。 ・製作セットの準備をする。	45
9	附属幼稚園実習フィードバック ②	・個別面談をし、附属幼稚園実習のフィードバックを行う。 ・園の評価（他者評価）と自己評価を比較し、自分の課題を見つける	・本日の講義内容を復習する。 ・資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。 ・手遊び、絵本の読み聞かせの練習をする。 ・製作セットの準備をする。	45
10	附属幼稚園実習フィードバック ③	・個別面談をし、附属幼稚園実習のフィードバックを行う。 ・園の評価（他者評価）と自己評価を比較し、自分の課題を見つける	・本日の講義内容を復習する。 ・資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。 ・手遊び、絵本の読み聞かせの練習をする。 ・製作セットの準備をする。	45
11	実習日誌の書き方① (PC作成)	・記録の意義、記入上の諸注意を知り、記録のとり方、記入の仕方・記入の実際を学び、PCで作成する ・映像教材を通して各年齢の子どもの姿の捉え方、書き方を学ぶ ・グループごとに手遊びの発表をする	・本日の講義内容を復習する。 ・資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。 ・手遊び、絵本の読み聞かせの練習をする。 ・製作セットの準備をする。	45
12	実習日誌の書き方① (PC作成)	・記録の意義、記入上の諸注意を知り、記録のとり方、記入の仕方・記入の実際を学び、PCで作成する ・映像教材を通して各年齢の子どもの姿の捉え方、書き方を学ぶ ・グループごとに手遊びの発表をする	・本日の講義内容を復習する。 ・資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。 ・手遊び、絵本の読み聞かせの練習をする。 ・製作セットの準備をする。	45
13	模擬保育①	・実際の場面を想定して、手作りした保育教材を使い模擬保育（手遊び・絵本読み聞かせを含む）を行う ・グループで意見交換をし、自己課題を明確にする	・本日の講義内容を復習する。 ・資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。 ・手遊び、絵本の読み聞かせの練習をする。 ・製作セットの準備をする。	45
14	模擬保育②	・実際の場面を想定して、手作りした保育教材を使い模擬保育（手遊び・絵本読み聞かせを含む）を行う ・グループで意見交換をし、自己課題を明確にする	・本日の講義内容を復習する。 ・資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。 ・手遊び、絵本の読み聞かせの練習をする。 ・製作セットの準備をする。	45
15	実習直前確認	・緊急連絡方法、給食費の支払い、お礼状の書き方について学ぶ。 ・学外実習に向けて準備すること、実習中の注意事項などを確認する。 ・自己評価表を配布する	・これまでの復習する。 ・資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。 ・手遊び、絵本の読み聞かせの練習をする。 ・実習準備をする。	120

授業名	教育実習Ⅲ	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 必修/短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択	
担当教員名	◎佐々木 郁子 柳沼 真美子			
開講期	Ⅲ期			
授業の概要	本授業は、幼稚園教育に関する基本事項（実習の意義・教員の役割・保育の実際・幼児の発達理解）の内容を踏まえた上で、教育実習Ⅱ（附属幼稚園の基礎実習）を通して、幼稚園教育の全体像を理解する。また、教育実習Ⅲ（学外 観察参加実習）に向けて、保育内容の理解と総合的な計画力の向上を目指し、保育表現力やコミュニケーション力を習得できるよう模擬保育を実施する。 フィードバック方法：実習園の評価をもとに、個別フィードバックを行います。			
授業の到達目標	①附属幼稚園実習を通して、幼稚園教育の基本的事項について理解することができる。 ②附属幼稚園実習を通して、実習生としての姿勢や態度、ルールやマナー、保育者としてのコミュニケーション能力について理解することができる。 ③年齢に応じた保育内容を理解し、保育計画を立てることができる。 ④保育計画に基づき、保育の方法や技術を習得し、表現することができる。 ※単位認定の最低基準は、内容の7割以上を理解していること。			
履修条件	幼児教育学科 1年「幼二種」免許取得希望者	成績の 評価方法・基準	実習園の評価50%、実習日誌20%、提出物（製作物）30%をもとに総合的に判断する	
テキスト	・文部科学省幼稚園教育要領解説(フレーベル館) ・厚生労働省保育所保育指針(フレーベル館) ・内閣府幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(フレーベル館)			
参考書	適宜指示する			
学生への要望	・授業・実習に関する資料を随時、配布する。配布された資料を丁寧にファイリングすること・ ・常日頃から基本的な生活態度を身につけ、目的意識をもって主体的意欲的に受講する。 ・欠席・遅刻はしないこと。（やむを得ない場合は担当教員にメールで連絡をすること） ・講義室の座席は、学籍番号順とする。 ・授業連絡はメールで行うので、常にメールを確認すること。			
位置付け・水準	CE2163			
ディプロマポリシーとの関係	教育・保育の総合的計画・実践力、子どもの支援の方法・技術力、問題解決力、音楽表現力			
オフィスタイム	毎週火・木曜日 12：20～12：50 佐々木研究室（83年館 3階 834研究室）			
アクティブラーニング実施内容	協働学習、ディベート			
実務家教員の経歴	公立保育園における保育士経験			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	・授業の概要と評価方法を確認する。 ・学外幼稚園実習希望園を確認する。 ・教育実習の手引に沿って、学外実習の流れについて説明する。	・本日の講義内容を復習する。 ・資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。 ・手遊び、絵本の読み聞かせの練習をする。	45
2	附属幼稚園実習フィードバック①	・個別面談をし、附属幼稚園実習のフィードバックを行う。 ・園の評価（他者評価）と自己評価を比較し、自分の課題を見つける	・本日の講義内容を復習する。 ・資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。 ・実習園の概要を理解する。 ・手遊び、絵本の読み聞かせの練習をする。	45
3	附属幼稚園実習フィードバック②	・個別面談をし、附属幼稚園実習のフィードバックを行う。 ・園の評価（他者評価）と自己評価を比較し、自分の課題を見つける	・本日の講義内容を復習する。 ・資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。 ・実習園の概要を理解する。 ・手遊び、絵本の読み聞かせの練習をする。	45
4	3歳児の保育活動を計画する	・グループワーク 「3歳児の保育活動計画作成」 「導入方法の検討」	・本日の講義内容を復習する。 ・資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。 ・実習園の概要を理解する。 ・手遊び、絵本の読み聞かせの練習をする。	45
5	4歳児の保育活動を理解する	・グループワーク 「4歳児の保育活動事例の収集」 ・音図体の遊び、絵本等を探求する。	・本日の講義内容を復習する。 ・資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。 ・実習園の概要を理解する。 ・手遊び、絵本の読み聞かせの練習をする。	45

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	4 歳児の保育活動を計画する	・ グループワーク 「4歳児の保育活動計画の作成」 「導入方法の検討」	・ 本日の講義内容を復習する。 ・ 資料の整理をし、ファイリングする。 ・ 幼稚園教育要領を読む。 ・ 実習園の概要を理解する。 ・ 手遊び、絵本の読み聞かせの練習をする。	45
7	5 歳児の保育活動を理解する	・ グループワーク 「5歳児の保育活動事例の収集」 ・ 音図体の遊び、絵本等を探求する。	・ 本日の講義内容を復習する。 ・ 資料の整理をし、ファイリングする。 ・ 幼稚園教育要領を読む。 ・ 実習園の概要を理解する。 ・ 手遊び、絵本の読み聞かせの練習をする。	45
8	5 歳児の保育活動を理解する	・ グループワーク 「5歳児の保育活動計画の作成」 「導入方法の検討」	・ 本日の講義内容を復習する。 ・ 資料の整理をし、ファイリングする。 ・ 幼稚園教育要領を読む。 ・ 実習園の概要を理解する。 ・ 手遊び、絵本の読み聞かせの練習をする。	45
9	不適切保育について	・ 不適切な保育がおこる保育現場の実情を知る	・ 本日の講義内容を復習する。 ・ 資料の整理をし、ファイリングする。 ・ 幼稚園教育要領を読む。 ・ 実習園の概要を理解する。 ・ 手遊び、絵本の読み聞かせの練習をする。	45
10	不適切保育に陥らないための言葉かけについて	・ 不適切な保育がおこる保育現場の実情を知る	・ 本日の講義内容を復習する。 ・ 資料の整理をし、ファイリングする。 ・ 幼稚園教育要領を読む。 ・ 実習園の概要を理解する。 ・ 手遊び、絵本の読み聞かせの練習をする。	45
11	附属幼稚園実習フィードバック ③	・ 個別面談をし、附属幼稚園実習のフィードバックを行う。 ・ 園の評価（他者評価）と自己評価を比較し、自分の課題を見つける	・ 本日の講義内容を復習する。 ・ 資料の整理をし、ファイリングする。 ・ 幼稚園教育要領を読む。 ・ 実習園の概要を理解する。 ・ 手遊び、絵本の読み聞かせの練習をする。	45
12	附属幼稚園実習フィードバック ④	・ 個別面談をし、附属幼稚園実習のフィードバックを行う。 ・ 園の評価（他者評価）と自己評価を比較し、自分の課題を見つける	・ 本日の講義内容を復習する。 ・ 資料の整理をし、ファイリングする。 ・ 幼稚園教育要領を読む。 ・ 実習園の概要を理解する。 ・ 手遊び、絵本の読み聞かせの練習をする。	45
13	実習生の姿勢とモラルを理解する	・ 教育実習の手引きを理解する。 ・ 実習における学生の姿勢、積極性とコミュニケーションを考える。	・ 本日の講義内容を復習する。 ・ 資料の整理をし、ファイリングする。 ・ 幼稚園教育要領を読む。 ・ 実習園の概要を理解する。 ・ 手遊び、絵本の読み聞かせの練習をする。	45
14	附属幼稚園実習フィードバック ⑤	・ 個別面談をし、附属幼稚園実習のフィードバックを行う。 ・ 園の評価（他者評価）と自己評価を比較し、自分の課題を見つける	・ 本日の講義内容を復習する。 ・ 資料の整理をし、ファイリングする。 ・ 幼稚園教育要領を読む。 ・ 実習園の概要を理解する。 ・ 手遊び、絵本の読み聞かせの練習をする。	45
15	実習直前確認	・ 緊急連絡方法、給食費の支払い、お礼状の書き方について学ぶ。 ・ 学外実習に向けて準備すること、実習中の注意事項などを確認する。 ・ 自己評価表を配布する	・ これまでの復習する。 ・ 資料の整理をし、ファイリングする。 ・ 幼稚園教育要領を読む。 ・ 手遊び、絵本の読み聞かせの練習をする。 ・ 実習準備をする。	120

授業名	教育実習Ⅳ	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修	
担当教員名	◎佐々木 郁子 柳沼 真美子			
開講期	Ⅳ期			
授業の概要	本授業は、教育実習Ⅲ（学外幼稚園・観察参加実習）の内容を踏まえた上で、自身の課題や問題を明確化する。また、教育実習Ⅳに向けて具体的な保育内容の計画・展開・評価方法を主体的に探求する。教育実習Ⅳの後は、グループワークで実習中の指導計画・日誌・態度・生活・職員とのコミュニケーションなどを振り返り、改善策を検討する。2年間の学びを振り返り、改めて保育の魅力や理想とする保育者像を探求する。 フィードバック方法：実習園の評価をもとに、個別フィードバックを行います。			
授業の到達目標	①学外幼稚園実習を通して、幼稚園教育について理解することができる。 ②学外幼稚園実習を通して、保育者の役割について理解することができる。 ③年齢に応じた保育内容を理解し、保育内容を具体的に計画・立案・展開することができる。 ④2年間の学びを振り返り、自身の課題や問題を客観視することができ、改善に向けて具体的に行動すること、学び続けることができる。 ※単位認定の最低基準は、内容の7割以上を理解していること。			
履修条件	幼児教育学科 2年「幼二種」免許取得希望者	成績の 評価方法・基準	実習園の評価50%、実習日誌20%、提出物30%（製作物等）をもとに総合的に判断する	
テキスト	・文部科学省幼稚園教育要領解説(フレーベル館) ・厚生労働省保育所保育指針(フレーベル館) ・内閣府幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(フレーベル館)			
参考書	適宜指示する			
学生への要望	・授業・実習に関する資料を随時、配布する。配布された資料を丁寧にファイリングすること・ ・常日頃から基本的な生活態度を身につけ、目的意識をもって主体的意欲的に受講する。 ・欠席・遅刻はしないこと。（やむを得ない場合は担当教員にメールで連絡をすること） ・講義室の座席は、学籍番号順とする。 ・授業連絡はメールで行うので、常にメールを確認すること。			
位置付け・水準	CE2253			
ディプロマポリシーとの関係	教育・保育の総合的計画・実践力、子どもの支援の方法・技術力、問題解決力、教養と他者と関わる力、音楽表現力			
オフィスタイム	毎週火・木曜日 12：20～12：50 佐々木研究室（83年館 3階 834研究室）			
アクティブラーニング実施内容	協働学習、ディベート			
実務家教員の経歴	公立保育園における保育士経験			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	・授業の概要と評価方法を確認する。 ・学外幼稚園実習希望園を確認する。 ・教育実習の手引に沿って、学外実習の流れについて説明する。	・本日の講義内容を復習する。 ・資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。 ・手遊び、絵本の読み聞かせの練習をする。	45
2	学外実習フィードバック（教育実習Ⅲ）	・個別面談をし、学外実習のフィードバックを行う。 ・園の評価（他者評価）と自己評価を比較し、自分の課題を見つける	・園からの評価を受け止め、教育実習Ⅳに向けて課題を明確にする	45
3	学外実習フィードバック（教育実習Ⅲ）	・個別面談をし、学外実習のフィードバックを行う。 ・園の評価（他者評価）と自己評価を比較し、自分の課題を見つける	・園からの評価を受け止め、教育実習Ⅳに向けて課題を明確にする	45
4	学外実習フィードバック（教育実習Ⅲ）	・個別面談をし、学外実習のフィードバックを行う。 ・園の評価（他者評価）と自己評価を比較し、自分の課題を見つける	・園からの評価を受け止め、教育実習Ⅳに向けて課題を明確にする	45
5	学外実習フィードバック（教育実習Ⅲ）	・個別面談をし、学外実習のフィードバックを行う。 ・園の評価（他者評価）と自己評価を比較し、自分の課題を見つける	・園からの評価を受け止め、教育実習Ⅳに向けて課題を明確にする	45
6	指導案の書き方①（部分実習） ※PC作成	・室内遊び、室外遊び、製作の主活動を考え、部分実習の指導案を書く	・本日の授業内容をまとめる。	45
7	指導案の書き方②（部分実習） ※PC作成	・室内遊び、室外遊び、製作の主活動を考え、部分実習の指導案を書く	・本日の授業内容をまとめる。	45
8	事前オリエンテーションについて	・事前オリエンテーションについての概要を理解する ・電話かけの仕方、持ち物等を確認する ・オリエンテーションで確認すること、留意することを理解する	・本日の授業内容をまとめる。	45
9	指導案の書き方③（責任実習） ※PC作成	・主活動を組み込み、1日分の指導案を書く	・本日の授業内容をまとめる。	45
10	指導案の書き方④（責任実習） ※PC作成	・主活動を組み込み、1日分の指導案を書く	・実習をふまえて、反省点や課題を明確にする。	45

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	実習直前確認	・緊急連絡方法、給食費の支払い、お礼状の書き方について学ぶ。 ・学外実習に向けて準備すること、実習中の注意事項などを確認する。 ・自己評価表を配布する	・これまでの復習する。 ・資料の整理をし、ファイリングする。 ・幼稚園教育要領を読む。 ・手遊び、絵本の読み聞かせの練習をする。 ・実習準備をする。	45
12	学外実習フィードバック (教育実習Ⅳ)	・個別面談をし、学外実習のフィードバックを行う。 ・園の評価（他者評価）と自己評価を比較し、自分の課題を見つける	・園からの評価を受け止め、就職後に向けて課題を明確にする	45
13	学外実習フィードバック (教育実習Ⅳ)	・個別面談をし、学外実習のフィードバックを行う。 ・園の評価（他者評価）と自己評価を比較し、自分の課題を見つける	・園からの評価を受け止め、就職後に向けて課題を明確にする	45
14	学外実習フィードバック (教育実習Ⅳ)	・個別面談をし、学外実習のフィードバックを行う。 ・園の評価（他者評価）と自己評価を比較し、自分の課題を見つける	・園からの評価を受け止め、就職後に向けて課題を明確にする	45
15	学外実習フィードバック (教育実習Ⅳ)	・個別面談をし、学外実習のフィードバックを行う。 ・園の評価（他者評価）と自己評価を比較し、自分の課題を見つける	・園からの評価を受け止め、就職後に向けて課題を明確にする	45
16	幼稚園教諭免許申請等作成（下書き）	・幼稚園教諭免許申請について理解する ・幼稚園免許申請書の下書きを行う	・幼稚園教諭免許申請について理解する ・下書きまでに必要な書類を準備しておく	45
17	幼稚園教諭免許申請等作成（清書）	・幼稚園教諭免許申請について理解する ・幼稚園免許申請書の清書を行う	・幼稚園教諭免許申請について理解する ・清書までに必要な書類を準備しておく	45

授業名	保育実習指導Ⅰ		配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎安部 高太朗 山脇 功次 沼田 春香			
開講期	Ⅰ・Ⅱ期			
授業の概要	【授業の目的及び内容】 この授業は、保育実習Ⅰ-1（保育所）及び保育実習Ⅰ-2（施設）に向かうための基礎的な事項を学ぶことを目的とする。実習に 【課題に対するフィードバックの方法】 課題等の返却時に授業内で口頭でフィードバックを行う。			
授業の到達目標	この授業では次の三つの到達目標を設ける。 （１）保育実習の意義・目的・内容を理解し、自らの課題を明確にすることができたか。 （２）実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解することができたか。 （３）実習の保育計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解することができたか。 ●単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。			
履修条件	幼児教育学科 1 年		成績の 評価方法・基準	①授業参加度：50%（提出物・授業態度） ②レポート課題(第9回に提示し、第12回到回収予定)：50% 上記①・②の合計100%で成績をつける。
テキスト	福島県保育者養成校連絡会『保育実習の手引き』（2025年度）、2024年 福島県保育者養成校連絡会編『福島県保育実習施設』（2025年度）、2025年			
参考書	厚生労働省編『保育所保育指針解説書』フレーベル館、2018年 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2018年			
学生への要望	本授業はⅠ期に8コマ、Ⅱ期に8コマ（あわせて2単位）、保育実習の事前指導として開設される。 保育実習（保育所・施設）は、保育士資格取得に関わるたいへん重要な科目であり、本授業内容を正確に理解しない場合、資格が取得できない危険性がある。本授業の受講に際しては、慎重かつ真摯な態度が不可欠である。			
位置付け・水準	CE2165			
ディプロマポリシーとの関係	教育・保育の総合的計画・実践力、子どもの支援の方法・技術力			
オフィスタイム	・火曜日Ⅳ限（14：30～16：00） ・火曜日Ⅴ限（16：10～17：50） いずれも、83年館2階の安部研究室（821研究室）とする。そのほかの時間帯を希望する場合は、予め、安部（k-abe@koriyama-kgc.ac.jp）までメールで連絡を入れること。			
アクティブラーニング実施内容	ほとんど全ての授業回でグループワーク等のアクティヴ・ラーニングの手法を用いて授業を展開し、課題等の返却時に授業内でフィードバックを行う。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	保育実習の意義① （担当：安部・沼田）	オリエンテーション、実習の目的、保育実習とは、保育所実習の概要、実習希望先の確認	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。	30
2	実習の内容と課題の明確化① （担当：安部・沼田）	実習の内容および課題、実習希望先の調整	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。	30
3	実習についての留意事項 （担当：安部・沼田）	子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務・信用失墜行為の禁止、個人情報保護法と保育、実習生に求められる情報管理、実習希望先の決定	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。	30
4	保育所実習の実際① （担当：安部・沼田）	保育所実習の留意事項および保育所の基本的な理解と、実習場面における子どもや職員との関わりについて	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。	30
5	実習の記録① （担当：安部・沼田）	実習における実践、観察、記録について、実習日誌の書き方	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。	30
6	実習の記録② （担当：山脇・沼田）	実習における実践、観察、記録について、実習日誌の書き方	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。	30
7	実習の計画① （担当：安部・沼田）	実習における保育計画（指導案）の作成について	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。	30
8	実習の計画② （担当：山脇・沼田）	実習における保育計画（指導案）の作成について	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。	30
9	保育実習の意義② （担当：山脇・沼田）	オリエンテーション、実習の目的、保育実習とは、施設実習の概要	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	実習の内容と課題の明確化② (担当：山脇・沼田)	施設実習における心構え・準備について、実習施設別の基本的な特徴の理解、実習希望先の確認	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。	30
11	施設実習と守秘義務・個人情報の保護 (担当：山脇・沼田)	実習の内容と日誌、ケース記録の書き方の基本、守秘義務を考慮した日誌の書き方、実習希望先の調整	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。	30
12	施設実習の実際 (担当：山脇・沼田)	実習の留意事項について、施設実習の基本的な理解と、実習場面における園生や職員との関わりについて、実習希望先の決定	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。	30
13	保育所実習事前指導① (担当：安部・沼田)	実習生としての心構え、実習日誌の配布、誓約書について	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。	30
14	保育所実習事前指導② (担当：安部・沼田)	実習の課題の明確化、実習日誌の記入、保菌検査・抗体検査について	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。	30
15	保育所実習の実際② (担当：安部・沼田)	保育所実習の留意事項および保育所の基本的な理解と、実習場面における子どもや職員との関わりについて	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。	30
16	保育所実習の実際③ (担当：安部・沼田)	保育所実習の留意事項および保育所の基本的な理解と、実習場面における子どもや職員との関わりについて	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。	30

授業名	保育実習指導Ⅱ又はⅢ		配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員名	◎安部 高太郎 沼田 春香 山脇 功次			
開講期	Ⅲ期			
授業の概要	1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の保育計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、課題や学習目標を明確にする。 グループワーク等のアクティブ・ラーニングの手法を用いて授業を展開し、課題等の返却時に授業内でフィードバックを行う。			
授業の到達目標	1. 保育実習の意義・目的・内容を理解し、自らの課題を明確にすることができたか。 2. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解することができたか。 3. 実習の保育計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解することができたか。 ○単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。			
履修条件	幼児教育学科 2年	成績の 評価方法・基準	①授業参加度（提出物や受講態度）：50点 ②レポート課題（第6回に回収予定）：50点 以上①・②の合計の100点満点で評価する。	
テキスト	福島県保育者養成校連絡会『保育実習の手引き』（2024年度）、2024年。 福島県保育者養成校連絡会編『福島県保育実習施設』（2024年度）、2024年。			
参考書	厚生労働省編『保育所保育指針解説書』、フレーベル館、2018年。 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』、フレーベル館、2018年。			
学生への要望	本授業はⅢ期に8コマ（1単位）、保育実習の事前指導として開設される。保育実習（保育所・施設）は、保育士資格取得に関わるたいへん重要な科目であり、本授業内容を正確に理解しない場合、資格が取得できない危険性がある。本授業の受講に際しては、慎重かつ真摯な態度が不可欠である。			
位置付け・水準	CE2266			
ディプロマポリシーとの関係	教育・保育を総合的に計画して実践できる力、多様な子どもを支援するための方法や技術、教育・保育に関する課題や問題を解決する力			
オフィスタイム	・火曜日Ⅳ限（14：30～16：00） ・火曜日Ⅴ限（16：10～17：50） いずれも、83年館2階の安部研究室（821研究室）とする。そのほかの時間帯を希望する場合は、予め、安部（k-abe@koriyama-kgc.ac.jp）までメールで連絡を入れること。			
アクティブラーニング実施内容	ほとんど全ての授業回でグループワーク等のアクティブ・ラーニングの手法を用いて授業を展開し、課題等の返却時に授業内でフィードバックを行う。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	保育実習の振り返り① （担当：安部・沼田）	オリエンテーション、本授業の目的、保育所実習の概要、反省・感想	予習：当日の内容をテキスト等で確認する。復習：授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
2	保育実習の振り返り② （担当：安部・沼田）	保育所実習の概要、反省・感想	予習：当日の内容をテキスト等で確認する。復習：授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
3	実習で学んだ重要事項① （担当：安部・山脇・沼田）	子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務・信用失墜行為の禁止、個人情報保護法と保育、実習生に求められる情報管理	予習：当日の内容をテキスト等で確認する。復習：授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
4	実習で学んだ重要事項② （担当：安部・山脇・沼田）	保育所実習における保育計画と実践、観察、記録及び評価、実習の内容と日誌、ケース記録の書き方の基本、守秘義務を考慮した日誌の書き方。	予習：当日の内容をテキスト等で確認する。復習：授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
5	福祉職として働くために① （担当：山脇・沼田）	保育所実習の留意事項および保育所の基本的な理解と実習場面における子どもや職員との関わりについて。実習することと実際に保育所に勤務することの接続と困難点。	予習：当日の内容をテキスト等で確認する。復習：授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
6	福祉職として働くために② （担当：山脇・沼田）	施設実習の基本的な理解と実習場面における園生や職員との関わりについて。実習することと実際に保育所に勤務することの接続と困難点。	予習：当日の内容をテキスト等で確認する。復習：授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
7	保育所実習の実際① （担当：安部・沼田）	保育所実習の留意事項および保育所の基本的な理解と実習場面における子どもや職員との関わりについて。	予習：当日の内容をテキスト等で確認する。復習：授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
8	保育所実習の実際② （担当：安部・沼田）	保育所実習の留意事項および保育所の基本的な理解と、実習場面における子どもや職員との関わりについて。	予習：当日の内容をテキスト等で確認する。復習：授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

授業名	保育実習Ⅰ－1	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎安部 高太朗 沼田 春香			
開講期	Ⅱ期			
授業の概要	1 保育所の役割や機能を具体的に理解する。 2 観察や、子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 3 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。 6 実習生としてふさわしい適切な態度で実習に臨む。 実習終了後、事後指導としてグループディスカッションで情報共有する場を設定したうえで、フィードバックを行う。			
授業の到達目標	1 保育所の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解できたか。 2 子どもへの理解を深め、子どもの保育及び保護者への支援について理解できたか。 3 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解できたか。 4 実習生としてふさわしい適切な態度で実習に臨めたか。 ○単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。			
履修条件	原則として、幼児教育学科の学生であること。	成績の 評価方法・基準	①大学による評価：50％ ②福祉施設による実習の評価：50％ ①＋②合計：100％	
テキスト	福島県保育者養成校連絡会『保育実習の手引き』、2022年。 福島県保育者養成校連絡会 編『福島県保育実習施設』、2022年。			
参考書	特に指定しない。			
学生への要望	実習は、実際の保育現場で行われるので、社会人のマナーを厳守し、緊張感と感謝の心をもって取り組むこと。保育実習（保育所・施設）は、保育士資格取得に関わるたいへん重要な科目であり、事前指導の内容を正確に理解しない場合、資格が取得できない危険性がある。実習に際しては、慎重かつ真摯な態度が不可欠である。			
位置付け・水準	CE2167			
ディプロマポリシーとの関係	教育・保育の総合的計画・実践力、子どもの支援の方法・技術力、問題解決力、教養と他者と関わる力			
オフィスタイム	・火曜日Ⅳ限（14：30～16：00） ・火曜日Ⅴ限（16：10～17：50） いずれも、83年館2階の安部研究室（821研究室）とする。そのほかの時間帯を希望する場合は、予め、安部（k-abe@koriyama-kgc.ac.jp）までメールで連絡を入れること。			
アクティブラーニング実施内容	実際に、保育所等で実習を行う。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	保育所実習の内容①	1. 保育所の役割や機能の具体的展開 ・養護と教育が一体となって行われる保育 ・保育所の社会的役割と責任	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
2	保育所実習の内容②	2. 観察に基づく保育理解 ・子どもの心身の状態や活動の記録 ・保育士等の動きや実践の観察 ・保育所の生活の流れや展開の把握	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
3	保育所実習の内容③	3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 ・環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 ・入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 ・地域社会との連携	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
4	保育所実習の内容④	4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 ・保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育課程の理解 ・作成した指導計画に基づく保育実践と評価	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
5	保育所実習の内容⑤	5. 保育士の業務と職業倫理 ・多様な保育の展開と保育士の業務 ・多様な保育の展開と保育士の職業倫理	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
6	保育所実習の内容⑥	6. 自己の課題の明確化	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	実習生としてふさわしい適切な態度	・意欲・積極性 ・責任感 ・探究心 ・協調性	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60

授業名	保育実習Ⅰ－2		配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択
担当教員名	◎山脇 功次 沼田 春香			
開講期				
授業の概要	1 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能を具体的に理解する。 2 観察や、子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 3 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。 6 実習生としてふさわしい適切な態度で実習に臨む。 実習終了後、事後指導としてグループディスカッションの場を設けて情報共有した上で、フィードバックを行う。			
授業の到達目標	1 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解できたか。 2 利用者への理解を深め、支援について理解できたか。 3 支援の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解できたか。 4 実習生としてふさわしい適切な態度で実習に臨めたか。 単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。			
履修条件	幼児教育学科	成績の 評価方法・基準	①大学による評価：50％ ②福祉施設による実習の評価：50％ ①＋②以上の100％	
テキスト	福島県保育者養成校連絡会『保育実習の手引き』（2024年度） 福島県保育者養成校連絡会 編『福島県保育実習施設』（2024年度）			
参考書	保育所保育指針及び解説書、幼稚園教育要領及び解説書 その他随時紹介する。			
学生への要望	実習は、実際の保育現場で行われるので、社会人のマナーを厳守し、緊張感と感謝の心をもって取り組むこと。 保育実習（保育所・施設）は、保育士資格取得に関わるたいへん重要な科目であり、事前指導の内容を正確に理解しない場合、資格が取得できない危険性がある。実習に際しては、慎重かつ真摯な態度が不可欠である。			
位置付け・水準	CE2268			
ディプロマポリシーとの関係	教育・保育の総合的計画・実践力、子どもの支援の方法・技術力、教養と他者と関わる力			
オフィスタイム	水曜日 4 限、木曜日 4 限 場所：822号室（山脇研究室）			
アクティブラーニング実施内容	ビデオ、文献、資料等を教材に、施設利用児・者とかかわり方について、グループ討議等を通して考える時間を設定する。			
実務家教員の経歴	行政機関委託事業の障がい者基幹相談支援センターおよび障がい者就業・生活支援センター（センター長）、就労移行支援事業（主任）および就業定着支援事業（主任）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の内容①	1. 施設の役割と機能 ・施設の生活と一日の流れ ・施設の役割と機能	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	80
2	居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の内容②	2. 利用者の理解 ・利用者の観察とその理解 ・個々の状態に応じた援助やかかわり	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	80
3	居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の内容③	3. 養護内容・生活環境 ・計画に基づく活動や援助 ・利用者の心身の状態に応じた対応 ・利用者の活動と生活の環境 ・健康管理、安全対策の理解	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	80
4	居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の内容④	4. 計画と記録 ・支援計画の理解と活用 ・記録に基づく省察・自己評価	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	80
5	居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の内容⑤	5. 専門職としての保育士の役割と倫理 ・保育士の業務内容 ・職員間の役割分担や連携 ・保育士の役割と職業倫理	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	80
6	実習生としてふさわしい適切な態度	・意欲・積極性 ・責任感 ・探究心 ・協調性	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	80
7	実習日誌の記入方法を理解する①	障害児入所施設を中心に実習日誌の記入方法を理解する。 書き言葉と話し言葉の違い、子どもの様子を表現する言葉の使い方を理解する。	・本日の講義内容をノートにまとめる。 ・資料の整理をする。	80
8	実習日誌の記入方法を理解する②	障害児入所施設（夜間対応や環境構成等）を中心に実習日誌の記入方法を理解する。書き言葉と話し言葉の違い、子どもの様子を表現する言葉の使い方を理解する。	・本日の講義内容をノートにまとめる。 ・資料の整理をする。	80

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	実習日誌の記入方法を理解する③	障害児入所施設（指導計画およびレクリエーション等）を中心に実習日誌の記入方法を理解する。書き言葉と話し言葉の違い、子どもの様子を表現する言葉の使い方を理解する。	・本日の講義内容をノートにまとめる。 ・資料の整理をする。	80
10	児童養護施設等の実習日誌の記入方法を理解する①	児童養護施設を中心に実習日誌の記入方法を理解する。書き言葉と話し言葉の違い、子どもの様子を表現する言葉の使い方を理解する。	・本日の講義内容をノートにまとめる。 ・資料の整理をする。	80
11	児童養護施設等の実習日誌の記入方法を理解する②	児童養護施設（夜間対応や環境構成等）を中心に実習日誌の記入方法を理解する。書き言葉と話し言葉の違い、子どもの様子を表現する言葉の使い方を理解する。	・本日の講義内容をノートにまとめる。 ・資料の整理をする。	80
12	児童養護施設等の実習日誌の記入方法を理解する③	児童養護施設（指導計画およびレクリエーション等）を中心に実習日誌の記入方法を理解する。書き言葉と話し言葉の違い、子どもの様子を表現する言葉の使い方を理解する。	・本日の講義内容をノートにまとめる。 ・資料の整理をする。	80
13	障がい者（大人）の入所施設および通所施設の実習日誌の記入方法を理解する①	通所施設等を中心に実習日誌の記入方法を理解する。書き言葉と話し言葉の違い、利用者の様子を表現する言葉の使い方を理解する。	・本日の講義内容をノートにまとめる。 ・資料の整理をする。	80
14	障がい者（大人）の入所施設および通所施設の実習日誌の記入方法を理解する②	通所施設等（指導計画およびレクリエーション等）を中心に実習日誌の記入方法を理解する。書き言葉と話し言葉の違い、利用者の様子を表現する言葉の使い方を理解する。	・本日の講義内容をノートにまとめる。 ・資料の整理をする。	80
15	学修成果の確認	・まとめた内容をフィードバックし、施設実習への目標・課題・問題を明確にする。準備物等について全体共有を行う。	事前に実習施設の種別および支援内容を確認し、目標設定および準備物を明らかにする。	80

授業名	保育実習Ⅱ	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択	
担当教員名	◎安部 高太朗 沼田 春香			
開講期	Ⅲ期			
授業の概要	1 保育所の役割や機能を具体的に理解する。 2 観察や、子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 3 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。 6 実習生としてふさわしい適切な態度で実習に臨む。 実習終了後、事後指導としてグループディスカッションの場を設けて情報共有した上で、フィードバックを行う。			
授業の到達目標	1 保育所の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解できたか。 2 子どもへの理解を深め、子どもの保育及び保護者への支援について理解できたか。 3 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解できたか。 4 実習生としてふさわしい適切な態度で実習に臨めたか。 ○単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。			
履修条件	幼児教育学科	成績の 評価方法・基準	①大学による評価：50％ ②福祉施設による実習の評価：50％ ①及び②の合計：100％	
テキスト	福島県保育者養成校連絡会編（2022）『保育実習の手引き』（2022年度版）。			
参考書	特に指定しない。			
学生への要望	実習は、実際の保育現場で行われるので、社会人のマナーを厳守し、緊張感と感謝の心をもって取り組むこと。保育実習（保育所・施設）は、保育士資格取得に関わるたいへん重要な科目であり、事前指導の内容を正確に理解しない場合、資格が取得できない危険性がある。実習に際しては、慎重かつ真摯な態度が不可欠である。			
位置付け・水準	CE2258			
ディプロマポリシーとの関係	保育の内容理解と総合的計画力、子どもの発達の理解と支援の力、保育の方法と技術力、表現力とコミュニケーション能力、問題解決力、豊かな人間性と規範意識			
オフィスタイム	・火曜日Ⅳ限（14：30～16：00） ・火曜日Ⅴ限（16：10～17：40） いずれも、83年館2階の安部研究室（821研究室）とする。そのほかの時間帯を希望する場合は、予め、安部（k-abe@koriyama-kgc.ac.jp）までメールで連絡を入れること。			
アクティブラーニング実施内容	実際に、保育所等で実習を行う。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	保育所実習の内容①	1. 保育所の役割や機能の具体的展開 ・養護と教育が一体となって行われる保育 ・保育所の社会的役割と責任	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
2	保育所実習の内容②	2. 観察に基づく保育理解 ・子どもの心身の状態や活動の記録 ・保育士等の動きや実践の観察 ・保育所の生活の流れや展開の把握	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
3	保育所実習の内容③	3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 ・環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 ・入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 ・地域社会との連携	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
4	保育所実習の内容④	4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 ・保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育課程の理解 ・作成した指導計画に基づく保育実践と評価	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
5	保育所実習の内容⑤	5. 保育士の業務と職業倫理 ・多様な保育の展開と保育士の業務 ・多様な保育の展開と保育士の職業倫理	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
6	保育所実習の内容⑥	6. 自己の課題の明確化	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	実習生としてふさわしい適切な態度	・意欲・積極性 ・責任感 ・探究心 ・協調性	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60

授業名	保育実習Ⅲ	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択	
担当教員名	◎山脇 功次 沼田 春香			
開講期				
授業の概要	1 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解を深める。 2 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。 3 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 4 保育士としての自己の課題を明確化する。 実習終了後、事後指導としてグループディスカッションの場を設けて情報共有した上で、フィードバックを行う。			
授業の到達目標	1 児童福祉施設等の役割や機能、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力について実践を通して理解を深めることができたか。 2 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解し、自己の課題を明確にできたか。 単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。			
履修条件	幼児教育学科	成績の 評価方法・基準	①大学による評価：50％ ②福祉施設による実習の評価：50％ ①＋②以上の合計100％	
テキスト	福島県保育者養成校連絡会『保育実習の手引き』（2024年度） 福島県保育者養成校連絡会 編『福島県保育実習施設』（2024年度）			
参考書	保育所保育指針及び解説書、幼稚園教育要領及び解説書 その他随時紹介する。			
学生への要望	実習は、実際の施設で行われるので、社会人のマナーを厳守し、緊張感と感謝の心をもって取り組むこと。 保育実習（保育所・施設）は、保育士資格取得に関わるたいへん重要な科目であり、事前指導の内容を正確に理解しない場合、資格が取得できない危険性がある。実習に際しては、慎重かつ真摯な態度が不可欠である。			
位置付け・水準	CE2259			
ディプロマポリシーとの関係	教育・保育の総合的計画・実践力、子どもの支援の方法・技術力、教養と他者と関わる力			
オフィスタイム	水曜日 4 限、木曜日 4 限 場所：822号室（山脇研究室）			
アクティブラーニング実施内容	ビデオ、文献、資料等を教材に、施設利用児・者とのかわり方について、グループ討議等を通して考える時間を設定する。			
実務家教員の経歴	行政機関委託事業の障がい者基幹相談支援センターおよび障がい者就業・生活支援センター（センター長）、就労移行支援事業（主任）および就業定着支援事業（主任）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能	児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解を深める。	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。復習：実習記録の記入。	80
2	施設における支援の実際	1,受容し、共感する態度 2,個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解 3,個別支援計画の作成と実践 4,子どもの家族への支援と対応 5,多様な専門職との連携 6,地域社会との連携	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。復習：実習記録の記入。	80
3	保育士の多様な業務と職業倫理	保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。復習：実習記録の記入。	80
4	保育士としての自己の課題を明確化	保育士としての自己の課題を明確化する。	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。復習：実習記録の記入。	80
5	居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の内容	施設の役割と機能 ・施設の生活と一日の流れ ・施設の役割と機能	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。☑	80
6	居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の理解	利用者の理解 ・利用者の観察とその理解 ・個々の状態に応じた援助やかかわり	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	80
7	実習日誌の記入方法を理解する①	障害児入所施設を中心に実習日誌の記入方法を理解する。 書き言葉と話し言葉の違い、子どもの様子を表現する言葉の使い方を理解する。	・本日の講義内容をノートにまとめる。 ・資料の整理をする。	80
8	実習日誌の記入方法を理解する②	障害児入所施設（夜間対応や環境構成等）を中心に実習日誌の記入方法を理解する。書き言葉と話し言葉の違い、子どもの様子を表現する言葉の使い方を理解する。	・本日の講義内容をノートにまとめる。 ・資料の整理をする。☑	80
9	実習日誌の記入方法を理解する③	障害児入所施設（指導計画およびレクリエーション等）を中心に実習日誌の記入方法を理解する。書き言葉と話し言葉の違い、子どもの様子を表現する言葉の使い方を理解する。	・本日の講義内容をノートにまとめる。 ・資料の整理をする。	80

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	児童養護施設等の実習日誌の記入方法を理解する①	児童養護施設を中心に実習日誌の記入方法を理解する。書き言葉と話し言葉の違い、子どもの様子を表現する言葉の使い方を理解する。	・本日の講義内容をノートにまとめる。 ・資料の整理をする。☒	80
11	児童養護施設等の実習日誌の記入方法を理解する②	児童養護施設（夜間対応や環境構成等）を中心に実習日誌の記入方法を理解する。書き言葉と話し言葉の違い、子どもの様子を表現する言葉の使い方を理解する。	・本日の講義内容をノートにまとめる。 ・資料の整理をする。	80
12	児童養護施設等の実習日誌の記入方法を理解する③	児童養護施設（指導計画およびレクリエーション等）を中心に実習日誌の記入方法を理解する。書き言葉と話し言葉の違い、子どもの様子を表現する言葉の使い方を理解する。	・本日の講義内容をノートにまとめる。 ・資料の整理をする。	80
13	障がい者（大人）の入所施設および通所施設の実習日誌の記入方法を理解する①	通所施設等を中心に実習日誌の記入方法を理解する。書き言葉と話し言葉の違い、利用者の様子を表現する言葉の使い方を理解する。	・本日の講義内容をノートにまとめる。 ・資料の整理をする。	80
14	障がい者（大人）の入所施設および通所施設の実習日誌の記入方法を理解する②	通所施設等（指導計画およびレクリエーション等）を中心に実習日誌の記入方法を理解する。書き言葉と話し言葉の違い、利用者の様子を表現する言葉の使い方を理解する。	・本日の講義内容をノートにまとめる。 ・資料の整理をする。	80
15	実習生としてふさわしい適切な態度	・意欲・積極性 ・責任感 ・探究心 ・協調性	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。復習：実習記録の記入。	80

授業名	教職・保育実践演習			配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
担当教員名	◎折笠 国康 安部 高太朗 宇治 和子 横溝 聡子 草野 葉子 永瀬 悦子 柴田 卓 深谷 悠里絵 山脇 功次 佐々木 郁子 早川 仁				
開講期	Ⅳ				
授業の概要	達成目標の4項目を踏まえて授業を行う。保育者として必要な資質や知識および技能の再確認を行うとともに、自己分析を通して不足している部分の補完を目指し、保育者として備えるべき資質のさらなる向上を目指す。教員の授業担当はオムニバスになり、最終時間にはまとめと全体に対するフィードバックを行い、レポートの作成や履修カルテを完成させる。 担当教員には、現職の幼稚園教諭、中等教育や児童相談所における経験を活用した指導を行う者がおり、教育現場の実際を意識した学びが重視されている。授業は各担当教員によるクラスごとのローテーションで行う。 位置づけ・水準 CE2271				
授業の到達目標	1. 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項 ①教育現場の現状を再確認し、保育者の使命と役割を理解できたか。 2. 社会性や対人関係能力に関する事項 ②子どもや保護者教との人間関係を円滑に進めるための基礎を培うことができたか。 3. 幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項 ③現在の学級経営上の諸問題を理解し、対応の基礎について理解できたか。 4. 教科・保育内容等の指導力に関する事項 ④時代が求める保育を十分に遂行できる知識と技術を再確認できたか。 単位認定の最低基準は、上記①～④の総合的評価が達成度7割以上であること。				
履修条件	最終学年の後期	成績の 評価方法・基準	教育実習のまとめと振り返り まとめのレポート	50点 50点	
テキスト	授業でプリントを配布				
参考書	授業中に紹介する				
学生への要望	今までの講義、演習、実習などで学習したことを総括し、自分に不足した部分をさらに補う機会となる。 実践的で学びの集大成となるこの授業を通じて、現場での活躍の一助となる力を身につけてほしい。				
位置付け・水準	CE2271				
ディプロマポリシーとの関係	問題解決力				
オフィスタイム	金曜日 1限 2限 835				
アクティブラーニング実施内容	ディスカッション				
実務家教員の経歴	中学校教諭(数学)				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーションと履修カルテ	授業についてのオリエンテーションと履修カルテの記入について説明する。 担当：折笠	それぞれの課題について準備する。	60
2	教育実習のまとめと振り返り1	実習での学びを振り返り、まとめる 担当：佐々木、安部、山脇	それぞれの課題について準備する。	60
3	教育実習のまとめと振り返り2	グループ発表に向けた準備をする 担当：佐々木、安部、山脇	それぞれの課題について準備する。	60
4	教育実習のまとめと振り返り3	グループ発表に向けた準備をする 担当：佐々木、安部、山脇	それぞれの課題について準備する。	60
5	教育実習のまとめと振り返り4	グループごとに発表をする 担当：佐々木、安部、山脇	それぞれの課題について準備する。	60
6	保育における造形表現	保育現場で役立つ造形表現について学ぶ 担当：松田	それぞれの課題について準備する。	60
7	保育における音楽表現	保育現場で役立つ音楽表現について学ぶ 担当：横溝・深谷	それぞれの課題について準備する。	60
8	保育者論	保育者論についての理解を深める 担当：安部	それぞれの課題について準備する。	60
9	家庭支援・社会福祉・児童福祉	家庭支援・児童福祉についての理解を深める 担当：宇治	それぞれの課題について準備する。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	社会福祉	社会福祉についての理解を深める 担当：山脇	それぞれの課題について準備する。	60
11	健康と保育実践	子どもの健康と保育実践についての理解を深める 担当：永瀬	それぞれの課題について準備する。	60
12	世界と日本の保育	世界と日本の保育について学ぶ 担当：柴田	それぞれの課題について準備する。	60
13	実践的保育理論	現場で必要になる実践的な保育理論の知識を学ぶ 担当：佐々木	それぞれの課題について準備する。	60
14	学級経営	時代が求める学級経営について学び、保育者の役割についての学びを深める 担当：折笠	それぞれの課題について準備する。	60
15	まとめと履修カルテ	授業の総括を行う。目標と現在の課題を確認し、自己評価と反省を行い、レポートを提出し履修カルテを完成させる。 担当：折笠	レポートをまとめる。	90

授業名	ピアノⅡ（主科）		配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択
担当教員名	◎横溝 聡子 深谷 悠里絵			
開講期	Ⅲ・Ⅳ期			
授業の概要	ピアノ演奏の基礎的技術の習得と豊かな表現力を体得することを目的とする。練習曲やバロックから近現代までの様々な曲を通して音楽理論や作品の構成、様式を理解し、表現するための技術や演奏法を学ぶ。加えて幼児曲の弾き歌いの伴奏法を学び、保育者としての実践力を養う。授業は個々のレベルに合わせて展開し、アンサンブルやディスカッションを通して問題解決能力やコミュニケーション能力を高め、自発的で豊かな演奏表現ができることを目指す。各試験後、個々に時間を設定しフィードバックを行います。			
授業の到達目標	目標は ①様々な楽曲の学習を通して、曲の構成や様式、演奏法を理解できている。 ②ピアノの基本的な演奏技術が身についている。 ③自発的で豊かな演奏表現ができる。 ④幼児曲の弾き歌いが15曲以上できる。 単位認定の最低基準：④は必須である。①から③までの内容の7割は理解し、授業や演奏発表で確認できること。			
履修条件	幼児教育学科チャイルド・ミュージックコース2年	成績の 評価方法・基準	実技試験90％、平常点（ラーニングポートフォリオ含む）10％	
テキスト	進度に応じてその都度指示。 津布楽杏里・桑原章寧 共著『保育・教育の現場で使える！弾き歌いピアノ曲集』ドレミ楽譜出版社 全国大学音楽教育学会 編著『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌ー唱歌童謡140年の歩み』音楽之友社			
参考書	進度に合わせて適宜楽譜を紹介する。			
学生への要望	実技科目のため積極的な練習の積み重ねが重要です。授業での課題を次の授業までに出来るよう、よく考えながら根気強く取り組みましょう。			
位置付け・水準	CE2281			
ディプロマポリシーとの関係	「子どもの支援の方法・技術力」「問題解決力」「教養と他者と関わる力」「音楽表現力」			
オフィスタイム	水曜日Ⅳ限、金曜日Ⅱ限 No.1幼児教育学研究室			
アクティブラーニング実施内容	実技のため、マンツーマンで双方向型の授業を行う。アンサンブルやディスカッションを通して問題解決能力やコミュニケーション能力を高め、自発的で豊かな演奏表現ができることを目指す。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	基礎技術の学習1	春休み中の課題の確認。練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を、次週までにできるようにする。事前事後学習の目安時間は最低必要な時間である。各自授業に対応できるよう準備が必要である。	120
2	基礎技術の学習2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。ロマン派などの作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
3	基礎技術の学習3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。ロマン派などの作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
4	基礎技術の学習4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。ロマン派などの作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
5	基礎技術の学習5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。ロマン派などの作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
6	基礎技術の学習6	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。ロマン派などの作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。サマーコンサート演奏曲（アンサンブル曲）の選定。正確な読譜を行う。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
7	基礎技術の学習7	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。幼児曲の伴奏についての学習。サマーコンサート演奏曲（アンサンブル曲）の正確な読譜を行う。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
8	基礎技術の学習8	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。サマーコンサート演奏曲の学習。楽曲分析と演奏法の学習。	基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	演奏表現の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。サマーコンサート演奏曲の学習。楽曲への理解を深め演奏表現に繋げる。	基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
10	演奏表現の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。サマーコンサート演奏曲の学習。ペダリングと演奏表現の工夫について。	コンサートに向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
11	演奏表現の学習 3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。サマーコンサート演奏曲の学習。演奏表現を深める。	コンサートに向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
12	演奏表現の学習 4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。サマーコンサート演奏曲の学習。演奏表現を深める。	コンサートに向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
13	演奏表現の学習 5	サマーコンサート演奏曲の学習。アンサンブル力の向上と自発的な演奏表現を目指す。	コンサートに向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
14	演奏表現の学習 6	サマーコンサート演奏曲の学習。アンサンブル力の向上と自発的な演奏表現を目指す。	コンサートに向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
15	演奏表現の学習 7 とまとめ	コンサートに向けステージを想定した発表を行い、ディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる演奏表現の向上を目指す。	コンサートに向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を解決する。	120
16	演奏技術の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
17	演奏技術の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
18	演奏技術と表現の学習 1	古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。読譜力と表現力の向上を目指す。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
19	演奏技術と表現の学習 2	古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。読譜力と表現力の向上を目指す。	次の授業に向けた譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。	120
20	演奏技術の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。読譜力と表現力の向上を目指す。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
21	演奏技術の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の選定。読譜力と表現力の向上を目指す。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
22	演奏技術の学習 3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。試験曲の正確な読譜。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を、次週までにできるようにする。	120
23	演奏技術の学習 4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。正確な読譜と楽曲分析。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
24	演奏技術の学習 5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。正確な読譜と楽曲分析。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
25	演奏表現の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。楽曲分析と演奏法の学習。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
26	演奏表現の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。楽曲分析と演奏法の学習。	楽曲への理解を深め、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
27	演奏表現の学習 3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。楽曲への理解を深め演奏表現に繋げる。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
28	演奏表現の学習 4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。自発的な演奏表現を目指す。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
29	演奏表現の学習 5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。自発的な演奏表現を目指す。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の更なる向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
30	演奏表現の学習 6 とまとめ	試験に向けステージを想定した発表を行い、ディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる演奏表現の向上を目指す。	試験に向け確実性のある演奏技術と表現力の更なる向上を目指し練習を行う。授業での課題を試験までにできるようにする。	120

授業名	ピアノⅡ（副科）	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員名	◎横溝 聡子 深谷 悠里絵		
開講期	Ⅲ・Ⅳ期		
授業の概要	ピアノ演奏の基礎的技術の習得と豊かな表現力を体得することを目的とする。練習曲やバロックから近現代までの様々な曲を通して音楽理論や作品の構成、様式を理解し、表現するための技術や演奏法を学ぶ。加えて幼児曲の弾き歌いの伴奏法を学び、保育者としての実践力を養う。授業は個々のレベルに合わせて展開し、ディスカッションを通して問題解決能力やコミュニケーション能力を高め、自発的で豊かな演奏表現ができることを目指す。試験後、個々に時間を設定しフィードバックを行います。		
授業の到達目標	目標は ①様々な楽曲の学習を通して、曲の構成や様式、演奏法を理解できている。 ②ピアノの基本的な演奏技術が身についている。 ③自発的で豊かな演奏表現ができる。 ④幼児曲の弾き歌いが15曲以上できる。 単位認定の最低基準：④は必須である。①から③までの内容の7割は理解し、授業や演奏発表で確認できること。		
履修条件	幼児教育学科チャイルド・ミュージックコース2年	成績の 評価方法・基準	実技試験90％、平常点（ラーニングポートフォリオ含む）10％
テキスト	進度に応じてその都度指示。 吉野幸男他 執筆・共著『幼稚園教諭・小学校教諭・保育士養成課程のためのピアノ・テキスト』ドレミ楽譜出版社 津布楽杏里・桑原章寧 共著『保育・教育の現場で使える！弾き歌いピアノ曲集』ドレミ楽譜出版社 全国大学音楽教育学会 編著『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌ー唱歌童謡140年の歩み』音楽之友社		
参考書	進度に合わせて適宜楽譜を紹介する。		
学生への要望	実技科目のため積極的な練習の積み重ねが重要です。授業での課題を次の授業までに出来るよう、よく考えながら根気強く取り組みましょう。		
位置付け・水準	CE2282		
ディプロマポリシーとの関係	「子どもの支援の方法・技術力」「問題解決力」「教養と他者と関わる力」「音楽表現力」		
オフィスタイム	水曜日Ⅳ限、金曜日Ⅰ限 No.1幼児教育学研究室		
アクティブラーニング実施内容	実技のため、マンツーマンで双方向型の授業を行う。ディスカッションを通して問題解決能力やコミュニケーション能力を高め、自発的で豊かな演奏表現ができることを目指す。		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	基礎技術の学習1	春休み中の課題の確認。練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を、次週までにできるようにする。事前事後学習の目安時間は最低必要な時間である。各自授業に対応できるよう準備が必要である。	120
2	基礎技術の学習2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
3	基礎技術の学習3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力と演奏技術を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
4	基礎技術の学習4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力と演奏技術を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
5	基礎技術の学習5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力と演奏技術を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
6	基礎技術の学習6	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力と演奏技術を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
7	基礎技術の学習7	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力と演奏技術を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。実習に向けた準備を行う。	120
8	基礎技術の学習8	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力と演奏技術を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。実習に向けた準備を行う。	120
9	演奏表現の学習1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力と演奏技術を身につける。	基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
10	演奏表現の学習2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力と演奏技術を身につける。	確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	演奏表現の学習 3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。楽曲分析と演奏法の工夫。	確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
12	演奏表現の学習 4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。演奏表現を深める。	確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
13	演奏表現の学習 5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。自発的な演奏表現を目指す。	確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
14	演奏表現の学習 6	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。自発的な演奏表現を目指す。	確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
15	演奏表現の学習 7 とまとめ	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。自発的な演奏表現を目指す。	確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
16	演奏技術の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。簡単なアンサンブル曲の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
17	演奏技術の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
18	演奏技術と表現の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
19	演奏技術と表現の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
20	演奏技術の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
21	演奏技術の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
22	演奏技術の学習 3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。試験曲の選定。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を、次週までにできるようにする。	120
23	演奏技術の学習 4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
24	演奏技術の学習 5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
25	演奏表現の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。楽曲分析と演奏法の学習。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
26	演奏表現の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。楽曲分析と演奏法の学習。	楽曲への理解を深め、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
27	演奏表現の学習 3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。楽曲への理解を深め演奏表現に繋げる。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
28	演奏表現の学習 4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。自発的な演奏表現を目指す。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
29	演奏表現の学習 5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。自発的な演奏表現を目指す。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の更なる向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
30	演奏表現の学習 6 とまとめ	試験に向けステージを想定した発表を行い、グループでのディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる演奏表現の向上を目指す。	試験に向け確実性のある演奏技術と表現力の更なる向上を目指し練習を行う。授業での課題を試験までにできるようにする。	120

授業名	ボーカルⅠ（主科）	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎磯部 哲夫			
開講期	Ⅰ・Ⅱ期			
授業の概要	[授業の目的・ねらい] 保育者が正しい発声法を身につけることは、保育現場において歌唱の表現活動が正しく行うことができ、また保育者の音声障がい等を回避するという観点からも重要なことである。本科目は腹式呼吸を正確に身につけ基本的な発声を修得し、保育現場における様々な楽曲に対応できる歌唱表現テクニックの修得をねらいとする。 [授業全体の内容の概要] テノール歌手としてオペラやリサイタル等の様々な舞台出演の経験を活かし、個々の歌唱能力を伸ばすため、個人レッスン形式の授業で歌唱表現について指導する。まず基本的な発声法を学び、実際に歌唱楽曲を用い徐々に楽曲の難易度を上げながら歌唱のポイントを解説する。また各個人の音楽表現についてディスカッションし表現技術を身につけていく（アクティブラーニング）。毎回の授業において目標管理カードを記入し、ラーニング・ポートフォリオとして学習成果を蓄積する。第10目の授業において小テストを実施し、テスト終了後コメントによるフィードバック、期末実技試験においてはルーブリックによるフィードバックを行う。			
授業の到達目標	①腹式呼吸が正確に習得できていることが確認できる。 ②各原語が正しく発音できる。 ③基本的な発声法を習得し、それを基に楽曲のフレージング処理ができる。 単位認定の最低基準は①～③の内容の7割を理解し、実技試験において歌唱表現が確認できること。			
履修条件	短期大学部 幼児教育学科チャイルド・ミュージックコース 1年	成績の 評価方法・基準	ラーニング・ポートフォリオ10%、実技試験90%、実技試験はルーブリック評価で評価を行う。	
テキスト	コンコーネ50番中声用（全音楽楽譜出版）、イタリア歌曲集1中声用（全音楽楽譜出版）、童謡曲集、ミュージカル曲集。			
参考書	発声や歌唱に関する書物全般			
学生への要望	発声や歌唱法は理論を基に身体で覚えていくものである。授業での学びを振り返り主体的に予習復習に励むこと。			
位置付け・水準	CE2183			
ディプロマポリシーとの関係	子どもの支援の方法・技術力、問題解決力、教養と他者と関わる力、音楽表現力			
オフィスタイム	月曜日Ⅲ限、水曜日Ⅳ限 841研究室			
アクティブラーニング実施内容	音楽表現についてディスカッションし表現技術を身につけていく。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業計画、授業内容、評価内容、授業への心構えについて説明する。	本学科のシラバスを見て、授業内容、評価内容、スケジュールを把握しておくこと。	120
2	コールユーブンゲン1	コールユーブンゲンの階名唱を行う。腹式呼吸、歌唱姿勢を理解する。	腹式呼吸、歌唱姿勢のチェックを毎日行う。コールユーブンゲンで階名唱の練習をする。	120
3	コールユーブンゲン2	コールユーブンゲンの階名唱を行う。腹式呼吸、歌唱姿勢を理解する。	腹式呼吸、歌唱姿勢のチェックを毎日行う。コールユーブンゲンで階名唱の練習をする。	120
4	発声法・歌唱法1	コンコーネ50番No.1を歌唱しながら、初期段階の腹式呼吸および順次音程の歌唱法を理解する。	腹式呼吸の習得に努め、腹式呼吸を使いながらコンコーネ50番No.1・2・3の譜読み、歌唱練習をする。	120
5	発声法・歌唱法2	腹式呼吸を活かしながらコンコーネ50番No.2・3の歌唱を行う。3度および4度の跳躍音程の歌唱法を理解する。	腹式呼吸を活かしながら、コンコーネ50番No.4、5の譜読み、歌唱練習をする。	120
6	発声法・歌唱法3	コンコーネ50番No.4、5を歌唱しながら、5度以上の跳躍音程およびレガートの歌唱法を理解する。	跳躍音程の歌唱法を意識して、コンコーネ50番No.6、7の譜読み、歌唱練習をする。	120
7	発声法・歌唱法4	コンコーネ50番No.6、7を歌唱しながら、オクターブの跳躍音程およびロングトーンの歌唱法を理解する。	跳躍音程の歌唱法を意識して、コンコーネ50番の既習局の歌唱練習、イタリア歌曲より「Caro mio ben」の譜読みをする。	120
8	イタリア歌曲1	イタリア語の発音について解説し、イタリア歌曲より「Caro mio ben」の歌唱を行う。サマーコンサートに向けての練習。	「Nel cor piu non mi sento」の譜読み、歌唱練習をする。	120
9	イタリア歌曲2	イタリア歌曲より「Nel cor piu non mi sento」の歌唱を行い、8分の6拍子の歌唱法を理解する。サマーコンサートに向けての練習。	正確なイタリア語の発音で、イタリア歌曲より「Sebben crudele」の歌唱練習をする。	120
10	イタリア歌曲3	イタリア歌曲より「Sebben crudele」の歌唱を行い、フレージングや歌唱表現のポイントを解説する。サマーコンサートに向けての練習。	「Lascia ch'io pianga」の譜読み、歌唱練習をする。	120
11	イタリア歌曲4	イタリア歌曲より「Lascia ch'io pianga」の歌唱を行い、3拍子の歌唱ポイントを解説する。サマーコンサートに向けての練習。	既習曲の歌唱練習をする。	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	イタリア歌曲 5	イタリア歌曲の既習曲の歌唱を行う。サマーコンサートに向けての練習。	正確なイタリア語の発音で、既習曲の歌唱練習をする。	120
13	I 期のまとめ 1	イタリア歌曲より試験曲に決めた楽曲について、発声、姿勢、歌唱フレージングを理解し、音楽表現についてディスカッションを行う。サマーコンサートで学習成果発表。	試験曲の歌唱練習を行う。また、伴奏者を決めておく。	120
14	I 期のまとめ 2	イタリア歌曲より試験曲に決めた楽曲について、伴奏者と演奏を行い、音楽表現を深めていく。音楽表現についてディスカッションを行う。サマーコンサートで学習成果発表。	試験曲の歌唱練習を行う。また、伴奏合わせを行い、アンサンブル及び音楽表現を深めていくこと。	120
15	I 期のまとめ 3	イタリア歌曲より選択した楽曲を伴奏者と演奏を行い、I 期実技試験へ向けて音楽表現を完成させる。音楽表現についてディスカッションを行う。サマーコンサートで学習成果発表。	試験曲の歌唱練習を行う。また伴奏合わせを行い、アンサンブル及び音楽表現を深めていくこと。	120
16	様々な発声法 1	自分の換声点を見つけ、ヘッド・チェストボイスを使い分け、ミドルボイスについて解説する。	地声の多い楽曲を、チェストボイスで練習する。	120
17	様々な発声法 2	地声声域の多い楽曲を選択し、チェストボイスについて解説し、地声で歌唱を行う。	自分の換声点を見つけ、ヘッド・チェストボイス、ミドルボイスを意識しながら、既習曲で歌唱練習を行う。	120
18	様々な発声法 3	裏声声域の多い楽曲を選択し、ミドルボイス、ヘッドボイスについて解説し、裏声で歌唱を行う。	チェストボイスの発声練習、音程の低い楽曲を選択し、チェストボイスで歌唱練習を行う。	120
19	様々な歌唱曲の歌い方 1	童謡を取り上げヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱するポイントを解説する。	ヘッドボイスの発声練習、音程の高い楽曲を選択し、ヘッドボイスで歌唱練習を行う。また、童謡集の中から選択した楽曲をの歌唱練習を行う。	120
20	様々な歌唱曲の歌い方 2	童謡を取り上げヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱するポイントを解説し、それを活かしながら歌唱を行う。音楽表現についてディスカッションを行う。	童謡集・ポップスの中から選択した楽曲をヘッド、チェストボイスを使いながら歌唱練習する。またミドルボイスが使えれば、ミドルボイスも交えて練習する。	120
21	様々な歌唱曲の歌い方 3	ポップス・ミュージカルナンバーを取り上げヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱するポイントを解説する。	ポップスの中から選択した楽曲をヘッド、チェストボイスを使いながら歌唱練習する。またミドルボイスが使えれば、ミドルボイスも交えて練習する。	120
22	様々な歌唱曲の歌い方 4	ポップス・ミュージカルナンバーをヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱するポイントを解説し、それを活かしながら歌唱を行う。音楽表現についてディスカッションを行う。	ポップスの中から選択した楽曲をヘッド、チェストボイスを使いながら歌唱練習する。またミドルボイスが使えれば、ミドルボイスも交えて練習する。	120
23	様々な歌唱曲の歌い方 5	ポップス・ミュージカルナンバーをヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱するポイントを解説し、それを活かしながら歌唱を行う。音楽表現についてディスカッションを行う。	ポップスの中から選択した楽曲をヘッド、チェストボイスを使いながら歌唱練習する。またミドルボイスが使えれば、ミドルボイスも交えて練習する。	120
24	弾き歌い 1	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。弾き歌いのポイントを理解する。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
25	弾き歌い 2	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。弾き歌いを行う。弾き歌いのポイントを理解する。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
26	弾き歌い 3	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。弾き歌いを行う。弾き歌いのポイントを理解する。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
27	弾き歌い 4	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。弾き歌いを行う。弾き歌いのポイントを理解する。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
28	弾き歌い 5	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。弾き歌いを行う。弾き歌いのポイントを理解する。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
29	弾き歌い 6	弾き歌い試験曲のポイントを理解する。	試験曲の練習をする。	120
30	まとめ	期末試験に向け、II 期のまとめを行う。	II 期の振り返りを行い、期末試験の練習を行う。	120

授業名	ボーカルⅠ（副科）	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択	
担当教員名	◎金子 堅治			
開講期	通年			
授業の概要	[授業の目的・ねらい] 保育者が正しい発声法を身につけることは、保育現場において歌唱の表現活動が正しく行うことができ、また保育者の音声障がい等を回避するという観点からも重要なことである。本科目は基本的な発声を修得し、保育現場における様々な楽曲に対応できる歌唱表現の修得をねらいとする。 [授業全体の内容の概要] テノール歌手としてリサイタル等の舞台出演の経験を活かし、個々の歌唱能力を伸ばすため、個人レッスン形式の授業で歌唱表現について指導する。まず基本的な発声法を学び、実際に歌唱楽曲を用い徐々に楽曲の難易度を上げながら歌唱のポイントを解説する。また各個人の音楽表現についてディスカッションし表現技術を身につけていく（アクティブラーニング）。毎回の授業において目標管理カードを記入し、ラーニング・ポートフォリオとして学習成果を蓄積する。期末実技試験においてはルーブリックによるフィードバックを行う。			
授業の到達目標	[授業修了時の達成課題] ①腹式呼吸が正確に習得できていることが確認できる。 ②各原語が正しく発音できる。 ③基本的な発声法を習得し、それを基に楽曲のフレージング処理ができる。 単位認定の最低基準は①～③の内容の7割を理解し、実技試験において歌唱表現が確認できること。			
履修条件	幼児教育学科チャイルド・ミュージックコース1年	成績の 評価方法・基準	ラーニング・ポートフォリオ10%、実技試験90%、実技試験はルーブリック評価で評価を行う。	
テキスト	コールユーブンゲン、コンコーネ50番中声用（全音楽楽譜出版）、イタリア歌曲集1中声用（全音楽楽譜出版）、童謡曲集、ミュージカル曲集。			
参考書	発声や歌唱に関する書物全般			
学生への要望	発声や歌唱法は理論を基に身体で覚えていくものである。授業での学びを振り返り主体的に予習復習に励むこと。			
位置付け・水準	CE2184			
ディプロマポリシーとの関係	「保育の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「問題解決力」「豊かな人間性と規範意識」「音楽表現能力」			
オフィスタイム	授業後			
アクティブラーニング実施内容	基本的な発声法を学び、実際に歌唱楽曲を用い徐々に楽曲の難易度を上げながら歌唱のポイントを解説する。また各個人の音楽表現についてディスカッションし表現技術を身につけていく			
実務家教員の経歴	テノール歌手としてリサイタル等の舞台出演の経験			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	シラバスを用いたオリエンテーション。 授業計画、授業内容、評価内容、授業への心構えについて説明する。	本学科のシラバスを見て、授業内容、評価内容、スケジュールを把握しておく。 コンコーネ50番の楽譜の準備をする。	120
2	コールユーブンゲン1	コールユーブンゲンの階名唱を行う。 歌唱姿勢・腹式呼吸を理解し、腹式呼吸を用いた基本的な発声法を習得する。	コールユーブンゲンの階名唱をする。 腹式呼吸、歌唱姿勢のチェックを行う。	120
3	コールユーブンゲン2	コールユーブンゲンの階名唱を行う。 歌唱姿勢・腹式呼吸を理解し、腹式呼吸を用いた基本的な発声法を習得する。	コールユーブンゲンの階名唱をする。 腹式呼吸、歌唱姿勢のチェックを行う。	120
4	コールユーブンゲン3	コールユーブンゲンの階名唱を行う。 歌唱姿勢・腹式呼吸を理解し、腹式呼吸を用いた基本的な発声法を習得する。	コールユーブンゲンの階名唱をする。 腹式呼吸、歌唱姿勢のチェックを行う。 コンコーネ50番No.1の譜読みをする。	120
5	コンコーネ50番1	腹式呼吸を活かしコンコーネ50番No.1を歌唱し、順次音程の歌唱法を理解する。	腹式呼吸、歌唱姿勢のチェックを行う。 コンコーネ50番No.1の歌唱練習をする。 コンコーネ50番No.2の譜読みをする。	120
6	コンコーネ50番2	腹式呼吸を活かしコンコーネ50番No.2を歌唱し、ロングトーンの歌唱法を理解する。	腹式呼吸、歌唱姿勢のチェックを行う。 コンコーネ既習曲の歌唱練習をする。	120
7	コンコーネ50番3	腹式呼吸を活かし既習の歌唱法を理解する。 コンコーネ50番既習曲の歌唱を行う。	腹式呼吸、歌唱姿勢のチェックを行う。 コンコーネ50番既習曲の歌唱練習をする。 コンコーネ50番No.3の譜読みをする。	120
8	コンコーネ50番4	腹式呼吸を活かしコンコーネ50番No.3を歌唱し、3度・4度の跳躍音程およびダイナミクスを意識した歌唱法を理解する。	腹式呼吸、歌唱姿勢のチェックを行う。 コンコーネ50番既習曲の歌唱練習をする。 No.4の譜読みをする。	120
9	コンコーネ50番5	腹式呼吸を活かしコンコーネ50番No.4を歌唱し、ドミナントの和声感、カンタービレを意識した歌唱法を理解する。	腹式呼吸、歌唱姿勢のチェックを行う。 コンコーネ既習曲の歌唱練習をする。	120
10	コンコーネ50番6	腹式呼吸を活かし既習の歌唱法を理解する。 コンコーネ50番既習曲の歌唱を行う。	腹式呼吸、歌唱姿勢のチェックを行う。 コンコーネ既習曲の歌唱練習をする。 コンコーネ50番No.5の譜読みをする。	120
11	コンコーネ50番7	腹式呼吸を活かしコンコーネ50番No.5を歌唱し、オクターヴの跳躍音程、フレージングを意識した歌唱法を理解する。	腹式呼吸、歌唱姿勢のチェックを行う。 コンコーネ既習曲の歌唱練習をする。	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	コンコーネ50番 8	腹式呼吸を活かし、既習の歌唱法を理解する。 コンコーネ50番既習曲の歌唱を行う。	腹式呼吸、歌唱姿勢のチェックを行う。 コンコーネ既習曲の歌唱練習をする。 試験曲の候補を選曲する。	120
13	I 期のまとめ 1	コンコーネ50番の既習曲の歌唱を行い、試験曲を決める。 発声、姿勢、歌唱フレージングを理解し、音楽表現についてディスカッションを行う。	既習の歌唱法を理解し、決めた試験曲の歌唱練習を行う。	120
14	I 期のまとめ 2	コンコーネ50番より試験曲に決めた楽曲について、伴奏者と演奏を行い、音楽表現を深めていく。音楽表現についてディスカッションを行う。	試験曲の歌唱練習を行う。音楽表現を深めていく。	120
15	I 期のまとめ 3	コンコーネ50番より選択した楽曲を伴奏者と演奏を行い、I 期実技試験へ向けて音楽表現を完成させる。音楽表現についてディスカッションを行う。	試験曲の歌唱練習を行う。音楽表現を完成させる。	120
16	イタリア歌曲 1	イタリア語の発音について解説し、イタリア古典歌曲より「Caro mio ben」の歌唱を行う。	正確なイタリア語の発音で、イタリア古典歌曲より既習曲の歌唱練習をする。	120
17	イタリア歌曲 2	イタリア古典歌曲より「Caro mio ben」の歌唱を行い、フレージングや歌唱表現のポイントを理解する。☒	正確なイタリア語の発音で、イタリア古典歌曲より既習曲の歌唱練習をする。 「Star vicino」の譜読みをする。	120
18	イタリア歌曲 3	イタリア古典歌曲より、既習曲ならびに「Star vicino」の歌唱を行う。	正確なイタリア語の発音で、イタリア古典歌曲より既習曲の歌唱練習をする。	120
19	イタリア歌曲 4	イタリア古典歌曲より、既習曲ならびに「Star vicino」の歌唱を行い、メリスマ唱法や3拍子の歌唱表現のポイントを解説する。	既習の歌唱表現のポイントを意識し、既習曲の歌唱練習をする。「Nel cor piu non mi sento」の譜読みをする。	120
20	イタリア歌曲 5	イタリア古典歌曲より、既習曲ならびに「Nel cor piu non mi sento」の歌唱を行う。	正確なイタリア語の発音で、イタリア古典歌曲より既習曲の歌唱練習をする。	120
21	イタリア歌曲 6	イタリア古典歌曲より、既習曲ならびに「Nel cor piu non mi sento」の歌唱を行い、8分の6拍子の楽曲、イタリア語のディクションを伴う歌唱法を理解する。	既習の歌唱表現のポイントを意識し、既習曲の歌唱練習をする。「Ombra mai fu」の譜読みをする。	120
22	イタリア歌曲 7	イタリア古典歌曲より、既習曲ならびに「Ombra mai fu」の歌唱を行う。	正確なイタリア語の発音で、イタリア古典歌曲より既習曲の歌唱練習をする。	120
23	イタリア歌曲 8	イタリア古典歌曲より、既習曲ならびに「Ombra mai fu」の歌唱を行い、バロック様式の楽曲、イタリア語のディクションを伴う歌唱法を理解する。	既習の歌唱表現のポイントを意識し、既習曲の歌唱練習をする。「Per la gloria」の譜読みをする。	120
24	イタリア歌曲 9	イタリア古典歌曲より、既習曲ならびに「Per la gloria」の歌唱を行う。	正確なイタリア語の発音で、イタリア古典歌曲より既習曲の歌唱練習をする。	120
25	イタリア歌曲 10	イタリア古典歌曲より、既習曲ならびに「Per la gloria」の歌唱を行い、バロック様式の楽曲、イタリア語のディクションを伴う歌唱法を理解する。	既習の歌唱表現のポイントを意識し、既習曲の歌唱練習をする。試験曲を決める。	120
26	弾き歌い 1	生活のうたにピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。 弾き歌いのポイントを理解する。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
27	弾き歌い 2	生活のうたにピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。 弾き歌いのポイントを理解する。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
28	弾き歌い 3	生活のうたにピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。 弾き歌いのポイントを理解する。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
29	まとめ 1	期末試験の練習を行い、II 期のまとめを行う。	II 期の振り返りを行い、期末試験の練習を行う。	120
30	まとめ 2	期末試験の練習を行い、II 期のまとめを行う。	II 期の振り返りを行い、期末試験の練習を行う。	120

授業名	ボーカルⅡ（主科）	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択	
担当教員名	◎磯部 哲夫			
開講期	Ⅲ・Ⅳ期			
授業の概要	[授業の目的・ねらい] ボーカルⅠで修得した発声法を基に、保育現場における様々な楽曲に対応できる身体的表現を含んだ歌唱表現技術の習得をねらいとする。 [授業全体の内容の概要] テノール歌手としてオペラやリサイタル等の様々な舞台出演の経験を活かし、個々の歌唱能力を伸ばすため、個人レッスン形式の授業で歌唱表現について指導する。ボーカルⅠで修得した発声法を基に、Ⅲ期では保育現場で歌われている幼児用歌唱曲取り上げ、歌唱のポイントを解説しピアノ伴奏を付けながらの弾き歌いの技術を修得する。Ⅳ期においては、保育現場での歌唱指導法、幼児用歌唱曲やミュージカル楽曲を取り上げ、身体的表現と歌唱表現を修得する。また各個人の音楽表現については、1年次から実施している表現についてのディスカッションで音楽表現技術を身につけていく（アクティブラーニング）。毎回の授業において目標管理カードを記入し、ラーニング・ポートフォリオとして学修成果を蓄積する。第25回目の授業において小テストを実施し、テスト終了後コメントによるフィードバック、期末実技試験は建学記念講堂大ホールのステージで試験を行い、ステージ上で身体的表現と歌唱表現ができているか、ルーブリックによるフィードバックを行う。			
授業の到達目標	①正確な原語発音、腹式呼吸、共鳴を含めた発声法を修得している。 ②ピアノ伴奏付け、表情を付けながら幼児用歌唱曲の弾き歌いができる。 ③幼児用歌唱曲やミュージカル楽曲において、身体的表現と歌唱表現を融合させた音楽表現ができ、舞台上で表現が確認できる。単位認定の最低基準は①～③の内容の7割を理解し、実技試験において確認できること。			
履修条件	幼児教育学科チャイルド・ミュージックコース 2年	成績の 評価方法・基準	ラーニング・ポートフォリオ10%、実技による期末試験90%、期末試験はルーブリック評価で評価を行う。	
テキスト	童謡曲集、ミュージカル曲集より随時指定する。			
参考書	発声や歌唱に関する書物全般			
学生への要望	保育現場で必要な弾き歌いや身体表現を伴った歌唱表現が修得できるよう、授業での学びを振り返り主体的に予習復習に励むこと。			
位置付け・水準	CE2265			
ディプロマポリシーとの関係	保育の方法と技術力、表現力とコミュニケーション能力、問題解決力、豊かな人間性と規範意識、音楽表現能力			
オフィスタイム	月曜日Ⅲ限、水曜日Ⅳ限 841研究室			
アクティブラーニング実施内容	1年次から実施している表現についてのディスカッションで音楽表現技術を身につけていく			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	シラバスを用いたオリエンテーション。サマーコンサートに向けて演目を検討する。	本学科のシラバスを見て、授業内容、評価内容、スケジュールを把握しておくこと。	120
2	弾き歌い1	1年次で修得した弾き歌いのポイントを活かし、幼児歌唱曲の弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
3	弾き歌い2	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。本次週に向けて実践的な弾き歌いのポイントを解説する。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
4	弾き歌い3	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。本次週に向けて実践的な弾き歌いのポイントを解説する。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
5	弾き歌い4	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。本次週に向けて実践的な弾き歌いのポイントを解説する。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
6	弾き歌い5	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。本次週に向けて実践的な弾き歌いのポイントを解説する。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
7	身体的表現を伴った歌唱表現1	幼児歌唱曲、ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌う。幼児歌唱曲に合わせてそのように身体的表現を行えばよいか、ディスカッションで表現を考察する。サマーコンサートへ向けての歌唱指導。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
8	身体的表現を伴った歌唱表現2	幼児歌唱曲、ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌う。幼児歌唱曲に合わせてそのように身体的表現を行えばよいか、ディスカッションで表現を考察する。サマーコンサートへ向けての歌唱指導。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
9	身体的表現を伴った歌唱表現3	幼児歌唱曲、ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌う。幼児歌唱曲に合わせてそのように身体的表現を行えばよいか、ディスカッションで表現を考察する。サマーコンサートへ向けての歌唱指導。	身体的表現の情報を収集し練習する。	120
10	身体的表現を伴った歌唱表現4	幼児歌唱曲、ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌う。幼児歌唱曲に合わせてそのように身体的表現を行えばよいか、ディスカッションで表現を考察する。サマーコンサートへ向けての歌唱指導。	身体的表現の情報を収集し練習する。	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	身体的表現を伴った歌唱表現5	幼児歌唱曲、ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌う。幼児歌唱曲に合わせてそのように身体的表現を行えばよいか、ディスカッションで表現を考察する。サマーコンサートへ向けての歌唱指導。	身体的表現の情報を収集し練習する。	120
12	Ⅲ期のまとめ	サマーコンサートにおいてⅢ期の学修成果を発表する。	サマーコンサートに向けて練習する。	120
13	Ⅲ期のまとめ	サマーコンサートにおいてⅢ期の学修成果を発表する。	サマーコンサートに向けて練習する。	120
14	Ⅲ期のまとめ	サマーコンサートにおいてⅢ期の学修成果を発表する。	サマーコンサートに向けて練習する。	120
15	Ⅲ期のまとめ	サマーコンサートにおいてⅢ期の学修成果を発表する。	サマーコンサートに向けて練習する。	120
16	歌唱指導法 1	様々な楽曲を取り上げ、体的表現を伴った歌唱表現を考察する。	様々な楽曲の身体的表現の情報を収集し、身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
17	歌唱指導法 2	様々な楽曲を取り上げ、体的表現を伴った歌唱表現を考察する。	様々な楽曲の身体的表現の情報を収集し、身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
18	歌唱指導法 3	様々な楽曲を取り上げ、体的表現を伴った歌唱表現を考察する。	様々な楽曲の身体的表現の情報を収集し、身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
19	歌唱指導法 4	様々な楽曲を取り上げ、体的表現を伴った歌唱表現を考察する。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
20	ミュージカル表現 1	ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌い、ディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
21	ミュージカル表現 2	ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌い、ディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
22	ミュージカル表現 3	ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌い、ディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
23	ミュージカル表現 4	ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌い、ディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
24	ミュージカル表現 5	ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌い、ディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
25	ミュージカル表現 6	ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌い、ディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
26	ミュージカル表現 7	既習曲から試験曲、伴奏者を決める。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
27	ミュージカル表現 8	試験曲についてディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
28	ミュージカル表現 9	試験曲についてディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
29	ミュージカル表現 10	試験曲についてディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
30	まとめ	期末試験に向け、Ⅳ期のまとめを行う。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。Ⅳ期の振り返りを行う。	120

授業名	ボーカルⅡ（副科）	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択	
担当教員名	◎金子 堅治			
開講期	通年			
授業の概要	[授業の目的・ねらい] ボーカルⅠで修得した発声法を基に、保育現場における様々な楽曲に対応できる身体的表現を含んだ歌唱表現技術の習得をねらいとする。 [授業全体の内容の概要] テノール歌手としてリサイタル等の舞台出演の経験を活かし、個々の歌唱能力を伸ばすため、個人レッスン形式の授業で歌唱表現について指導する。 ボーカルⅠで修得した発声法を基に、Ⅲ期では保育現場で歌われている幼児用歌唱曲取り上げ、歌唱のポイントを解説しピアノ伴奏を付けながらの弾き歌いの技術を修得する。また、幼児歌唱曲にどのような身体表現をつけて歌うのが望ましいか、ディスカッションを通して表現を考察し実践していく。 Ⅳ期においては、さまざまな歌唱曲やミュージカル楽曲を取り上げ、ジャンルに適した発声法や歌唱法、身体的表現と歌唱表現を修得する。また各個人の音楽表現については、1年次から実施している表現についてのディスカッションで音楽表現技術を身につけていく（アクティブラーニング）。毎回の授業において目標管理カードを記入し、ラーニング・ポートフォリオとして学修成果を蓄積する。Ⅲ期に身体的表現を伴う歌唱による小テストを行い、小テスト終了後コメントによるフィードバック、期末実技試験においてはルーブリックによるフィードバックを行う。			
授業の到達目標	①正確な原語発音、腹式呼吸等の発声法を修得している。 ②ピアノ伴奏付け、幼児用歌唱曲の弾き歌いができる。また身体的表現を付けながら幼児用歌唱曲の歌唱ができる。 ③様々な歌唱曲やミュージカル楽曲において、身体的表現と歌唱表現を融合させた音楽表現ができる。 単位認定の最低基準は①～③の内容の7割を理解し、実技試験において確認できること。			
履修条件	幼児教育学科チャイルド・ミュージックコース 2年	成績の 評価方法・基準	ラーニング・ポートフォリオ5%、実技による小テスト5%、実技による期末試験90%、期末試験はルーブリック評価で評価を行う。	
テキスト	童謡曲集、ミュージカル曲集より随時指定する。			
参考書	発声や歌唱に関する書物全般			
学生への要望	保育現場で必要な弾き歌いや身体表現を伴った歌唱表現が修得できるよう、授業での学びを振り返り主体的に予習復習に励むこと。			
位置付け・水準	CE2266			
ディプロマポリシーとの関係	「保育の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「問題解決力」「豊かな人間性と規範意識」「音楽表現能力」			
オフィスタイム	授業後			
アクティブラーニング実施内容	さまざまな歌唱曲やミュージカル楽曲を取り上げ、ジャンルに適した発声法や歌唱法、身体的表現と歌唱表現を修得する。また各個人の音楽表現については、1年次から実施している表現についてのディスカッションで音楽表現技術を身につけていく			
実務家教員の経歴	テノール歌手としてリサイタル等の舞台出演の経験			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	シラバスを用いたオリエンテーション。 授業計画、授業内容、評価内容、授業への心構えについて説明する。	本学科のシラバスを見て、授業内容、評価内容、スケジュールを把握しておく。	120
2	弾き歌い1	1年次で修得した弾き歌いのポイントを活かし、幼児歌唱曲の弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
3	弾き歌い2	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
4	弾き歌い3	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
5	弾き歌い4	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
6	弾き歌い5	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
7	弾き歌い6	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
8	身体的表現を伴った歌唱表現1	幼児歌唱曲に身体的表現を付けながら歌う。幼児歌唱曲に合わせてそのように身体的表現を行えばよいか、ディスカッションで表現を考察する。	身体的表現の情報を収集し練習する。	120
9	身体的表現を伴った歌唱表現2	幼児歌唱曲に身体的表現を付けながら歌う。幼児歌唱曲に合わせてそのように身体的表現を行えばよいか、ディスカッションで表現を考察する。	身体的表現の情報を収集し練習する。	120
10	身体的表現を伴った歌唱表現3	幼児歌唱曲に身体的表現を付けながら歌う。幼児歌唱曲に合わせてそのように身体的表現を行えばよいか、ディスカッションで表現を考察する。	身体的表現の情報を収集し練習する。	120
11	身体的表現を伴った歌唱表現4	幼児歌唱曲に身体的表現を付けながら歌う。幼児歌唱曲に合わせてそのように身体的表現を行えばよいか、ディスカッションで表現を考察する。	身体的表現の情報を収集し練習する。	120
12	身体的表現を伴った歌唱表現5	幼児歌唱曲に身体的表現を付けながら歌う。幼児歌唱曲に合わせてそのように身体的表現を行えばよいか、ディスカッションで表現を考察する。	身体的表現の情報を収集し練習する。	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	身体的表現を伴った歌唱表現 6	幼児歌曲曲に身体的表現を付けながら歌う。幼児歌曲曲に合わせてそのように身体的表現を行えばよいか、ディスカッションで表現を考察する。	身体的表現の情報を収集し練習する。	120
14	Ⅲ期のまとめ 1	Ⅲ期のまとめを行う。	Ⅲ期の振り返りを行う。	120
15	Ⅲ期のまとめ 2	Ⅲ期のまとめを行う。	Ⅲ期の振り返りを行う。	120
16	歌唱表現 1	様々な歌曲曲を取り上げ、適した発声法や歌唱法を考察する。	様々な楽曲の情報を収集し、楽曲に適した発声法伴った歌唱練習をする。	120
17	歌唱表現 2	様々な歌曲曲を取り上げ、適した発声法や歌唱法を考察する。	様々な楽曲の情報を収集し、楽曲に適した発声法伴った歌唱練習をする。	120
18	歌唱表現 3	様々な歌曲曲を取り上げ、適した発声法や歌唱法を考察する。	様々な楽曲の情報を収集し、楽曲に適した発声法伴った歌唱練習をする。	120
19	歌唱表現 4	様々な歌曲曲を取り上げ、適した発声法や歌唱法を考察する。	様々な楽曲の情報を収集し、楽曲に適した発声法伴った歌唱練習をする。	120
20	歌唱表現 5	様々な歌曲曲を取り上げ、適した発声法や歌唱法を考察する。	様々な楽曲の情報を収集し、楽曲に適した発声法伴った歌唱練習をする。	120
21	歌唱表現 6	様々な歌曲曲を取り上げ、適した発声法や歌唱法を考察する。	様々な楽曲の情報を収集し、楽曲に適した発声法伴った歌唱練習をする。	120
22	身体的表現を伴う歌唱表現 1	ミュージカル曲を含む各種楽曲に身体的表現を付けながら歌い、ディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
23	身体的表現を伴う歌唱表現 2	ミュージカル曲を含む各種楽曲に身体的表現を付けながら歌い、ディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
24	身体的表現を伴う歌唱表現 3	ミュージカル曲を含む各種楽曲に身体的表現を付けながら歌い、ディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
25	身体的表現を伴う歌唱表現 4	ミュージカル曲を含む各種楽曲に身体的表現を付けながら歌い、ディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
26	身体的表現を伴う歌唱表現 5	ミュージカル曲を含む各種楽曲に身体的表現を付けながら歌い、ディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
27	身体的表現を伴う歌唱表現 6	ミュージカル曲を含む各種楽曲に身体的表現を付けながら歌い、ディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。また試験曲の候補を選曲しておく。	120
28	まとめ 1	ミュージカル曲を含む各種楽曲に身体的表現を付けながら歌い、ディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。また試験曲を決める。	Ⅳ期の振り返りを行う。試験曲の歌唱練習を行う。また伴奏者を決めておく。	120
29	まとめ 2	決めた楽曲について伴奏者と演奏を行い、音楽表現を深めていく。音楽表現についてディスカッションを行う。	Ⅳ期の振り返りを行う。試験曲の歌唱練習を行う。また伴奏合わせを行い、アンサンブル及び音楽表現を深めていく。	120
30	まとめ 3	決めた楽曲について伴奏者と演奏を行い、Ⅳ期実技試験へ向けて音楽表現を完成させる。音楽表現についてディスカッションを行う。	Ⅳ期の振り返りを行う。試験曲の歌唱練習を行う。また伴奏合わせを行い、アンサンブル及び音楽表現を完成させる。	120

授業名	器楽Ⅰ（主科）南川	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎南川 肇			
開講期	通年			
授業の概要	〔授業の目的・ねらい〕 奏法に於ける重要なポイントを身に付け安定した演奏を可能にして試験に臨む。 〔授業全体の内容の概要〕 エチュード、古典の作品を通して、奏法及び曲の解釈を学ぶ。			
授業の到達目標	〔授業修了時の達成課題〕 適切な楽曲解釈と奏法によって、自分の表現が自由にできるようになる。 ①管楽器演奏テクニックの問題点をある程度把握し演奏技術の訓練に生かす事ができているか。 ②楽曲を通してその奏法をある程度理解できたか。 ③ピアノ伴奏者とのアンサンブルが良くできているか。			
履修条件	短大幼児教育学科チャイルドミュージックコース1年生	成績の 評価方法・基準	実技試験 90％ 小テスト 10％	
テキスト	音及び基本奏法に関する教本をレパートリーと併用して使用する。			
参考書	ローズ32のエチュード他			
学生への要望	練習時間を確保し、忍耐を忘れず知的練習を重ねること。			
位置付け・水準	CE2187			
ディプロマポリシーとの関係	音楽表現力			
オフィスタイム	授業前後			
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	基礎練習①	支えと音の方向性について	自分に合った練習方法を確認し、次回の授業に向かって、スケール、エチュードを仕上げてくること	120
2	基礎練習②	ソルフェージュの重要性	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
3	基礎練習③	演奏時の舌の位置	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
4	基礎練習、前期試験に向けて①	身体ポジションとそれに連動するアンブシュア	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
5	基礎練習、前期試験に向けて②	低音域のポジション	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
6	基礎練習、前期試験に向けて③	高音域のポジション	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
7	基礎練習、前期試験に向けて④	“声楽”に学ぶ意味	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
8	基礎練習、前期試験に向けて⑤	“のど”のチューニング	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
9	基礎練習、前期試験に向けて⑥	“頭声”と楽器の音の関係	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
10	基礎練習、前期試験に向けて⑦	“胸声”と楽器の音の関係	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
11	基礎練習、前期試験に向けて⑧	fの出し方	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
12	基礎練習、前期試験に向けて⑨	Pの出し方	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
13	基礎練習、前期試験に向けて⑩	クレッシェンド・ディミヌエンドの方法	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
14	基礎練習、前期試験に向けて⑪	ことばを発音するが如く吹くには	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
15	基礎練習、前期試験に向けて⑫	前期のまとめ	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
16	基礎練習、後期試験に向けて①	“弦楽器”に学ぶ意味	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
17	基礎練習、後期試験に向けて②	ボウイングのupとdownを取り入れる	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
18	基礎練習、後期試験に向けて③	弓の速度と息の速度	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
19	基礎練習、後期試験に向けて④	弦楽器のヴィブラートに学ぶ	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
20	基礎練習、後期試験に向けて⑤	タンキングと弓使い	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
21	基礎練習、後期試験に向けて⑥	アーティキュレーションを立体的に表現するには	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
22	基礎練習、後期試験に向けて⑦	フランス風toneについて	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
23	基礎練習、後期試験に向けて⑧	ドイツ風toneについて	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
24	基礎練習、後期試験に向けて⑨	ピアノあるいは他楽器との協和性を得るには	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
25	基礎練習、後期試験に向けて⑩	ピアノあるいは他楽器との協和性を得るには	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
26	基礎練習、後期試験に向けて⑪	ピアノあるいは他楽器との協和性を得るには	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
27	基礎練習、後期試験に向けて⑫	後期試験に向けて最終チェック	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
28	基礎練習、後期試験に向けて⑬	後期試験に向けて最終チェック	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
29	基礎練習、後期試験に向けて⑭	後期試験に向けて最終チェック	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
30	基礎練習、後期試験に向けて⑮	演奏と評価	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120

授業名	器楽Ⅱ（主科）熊谷	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択	
担当教員名	◎熊谷 洋子			
開講期	通年			
授業の概要	ヴァイオリンの技術をさらに向上させ音楽表現の幅を広げる。幼児教育の現場で実践力となるようなレパートリーを、ソロ、デュオなどの様々な形態で経験しながら増やしていく。			
授業の到達目標	①ヴァイオリンの技術をさらに向上させ、様々なジャンルの曲を習得できる。 ②幼児教育の場で実践に使えるようなレパートリーを増やすことができる。 ③人前での演奏回数を増やすことで自己表現力が高まる。 ④初見演奏力がさらに高まる。 単位取得の最低基準：①から③までの内容の7割は理解し、授業や演奏発表で確認できること。④は必須ではない。			
履修条件	幼児教育学科チャイルド・ミュージックコース2年	成績の 評価方法・基準	実技試験90％、平常点10％	
テキスト	バッハ 無伴奏バルティータ2番アレグロ・無伴奏ソナタ3番 ラルゴ G線上のアリア デュオ朧月夜 カールフレッシュ スケールシステム			
参考書	進度に合わせて、適宜楽譜を紹介する。			
学生への要望	日々積み重ねの必要な練習と曲に対しての音楽性を深めていくこと。初見力もつけていくこと。			
位置付け・水準	CE2288			
ディプロマポリシーとの関係	「保育の方法と技術力」「問題解決能力」「豊かな人間性と規範意識」「音楽表現力」			
オフィスタイム	授業前後			
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴	仙台フィルハーモニー管弦楽団所属			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	基礎技術の学習 1	これまでの学習状況を確認。	練習曲の譜読み。	120
2	基礎技術の学習 2	基本的譜面の理解を深める。それに必要な練習の仕方を確認し合う。作曲家のプロフィールを知る。	練習曲の譜読み。音階練習。曲の譜読み。	120
3	基礎技術の学習 3	基本的譜面の理解を深める。それに必要な練習の仕方を確認し合う。作曲家が生きた時代を知る。	練習曲の譜読み。音階練習。曲の譜読み。	120
4	基礎技術の学習 4	基本的譜面の理解を深める。それに必要な練習の仕方を再度確認。	練習曲の譜読み。音階練習。曲の譜読み。	120
5	基礎技術の学習 5	基本的譜面の理解を深める。それに必要な練習の仕方を自分なりに工夫してみる。	練習曲の譜読み。音階練習。曲の譜読み。	120
6	基礎技術の学習 6	基本的譜面の理解を深める。工夫した練習の仕方疑問点をを話し合う。	練習曲の譜読み。音階練習。曲の譜読み。	120
7	演奏表現の学習 1	デュオ曲でアンサンブルに必要なことを学ぶ。	練習曲の譜読み。音階練習。曲の表現力を高める。	120
8	演奏表現の学習 2	曲への理解を深める。アーティキュレーションの学習。	練習曲の譜読み。音階練習。曲の表現力を高める。	120
9	演奏表現の学習 3	曲への理解を深める。アーティキュレーションの学習。	練習曲の譜読み。音階練習。曲の表現力を高める。	120
10	演奏表現の学習 4	曲への理解を深める。アーティキュレーションの学習。	練習曲の譜読み。音階練習。曲の表現力を高める。	120
11	演奏表現の学習 5	曲への理解を深める。アーティキュレーションの学習。暗譜の重要性を学ぶ。	練習曲の譜読み。音階練習。曲の表現力を高める。暗譜に挑戦。	120
12	演奏表現の学習 6	曲への理解を深める。アーティキュレーションの学習。暗譜の重要性を学ぶ。	練習曲の譜読み。音階練習。曲の表現力を高める。暗譜に挑戦。	120
13	演奏表現の学習 7	デュオ曲でアンサンブルに必要なことを学ぶ。	アンサンブルの練習。	120
14	演奏表現の学習 8	デュオ曲でアンサンブルに必要なことを学ぶ。	アンサンブルの練習。	120
15	演奏表現のまとめ	独奏での演奏表現を深める。	試験に向けてさらに音楽への理解を深める。	120
16	演奏技術の学習 1	新しい曲で演奏表現の幅を広げるためのディスカッション。基礎練習へのアドバイス。作曲家のプロフィールを知る。	新曲の譜読み。基礎練習。	120
17	演奏技術の学習 2	新しい曲で演奏表現の幅を広げるためのディスカッション。基礎練習へのアドバイス。	新曲の譜読み。基礎練習。	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
18	演奏技術の学習 3	新しい曲で演奏表現の幅を広げるためのディスカッション。基礎練習へのアドバイス。作曲家の生きた時代を知る。	新曲の譜読み。基礎練習。	120
19	演奏技術の学習 4	新しい曲で演奏表現の幅を広げるための工夫の確認。基礎練習へのアドバイス。	新曲の譜読み。基礎練習。	120
20	演奏技術の学習 5	新しい曲で演奏表現の幅を広げるための工夫の確認。基礎練習へのアドバイス。	新曲の譜読み。基礎練習。	120
21	演奏技術の学習 6	新しい曲で演奏表現の幅を広げるための再度確認。基礎練習へのアドバイス。	新曲の譜読み。基礎練習。	120
22	演奏表現の学習 1	新しい曲で演奏表現の幅を広げるための自分なりの工夫。基礎練習へのアドバイス。	新曲の譜読み。基礎練習。	120
23	演奏表現の学習 2	新しい曲で演奏表現の幅を広げるための自分なりの工夫。基礎練習へのアドバイス。	暗譜に挑戦。さらに演奏表現を深めるための練習。	120
24	演奏表現の学習 3	新しい曲で演奏表現の疑問点を話し合う。基礎練習へのアドバイス。	暗譜に挑戦。さらに演奏表現を深めるための練習。	120
25	演奏表現の学習 4	暗譜のための練習。アーティキュレーションに気を付ける。	暗譜に挑戦。さらに演奏表現を深めるための練習。	120
26	演奏表現の学習 5	暗譜の必要性を学ぶ。アーティキュレーションに気を付ける。	暗譜に挑戦。さらに演奏表現を深めるための練習。	120
27	演奏表現の学習 6	さらに演奏表現を深めるための学習。	初心に戻って技術の再確認。	120
28	演奏表現の学習 7	さらに演奏表現を深めるための学習。	初心に戻って技術の再確認。	120
29	演奏表現の学習 8	独奏での演奏表現を深める。	試験に向けて本番と同じような状況で演奏	120
30	演奏表現のまとめ	独奏での演奏表現を深める。	試験に向けて本番と同じような状況で演奏	120

授業名	器楽Ⅱ（主科）藤田久	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択	
担当教員名	◎藤田 久実子			
開講期	通年			
授業の概要	ディスカッションを通して問題解決能力やコミュニケーション能力を高め、自発的で豊かな演奏表現ができることを目指す。テスト終了後にルーブリックとコメントでフィードバックを行う。			
授業の到達目標	①様々なジャンルの曲を習得できている。 ②幼児教育の場で実践に使えるようなレパートリーを増やすことができている。 ③人前での演奏回数を増やすことで自己表現力を高めることができる。④初見演奏力がさらに高めることができている。 単位取得の最低基準：①から③までの内容の7割は理解し、授業や実技試験で確認できること。④は必須ではない。			
履修条件	幼児教育学科チャイルド・ミュージックコース1年	成績の 評価方法・基準	実技試験90％、平常点10％	
テキスト	ラクル：50のエチュード上巻 二重奏曲集上下巻 他			
参考書	進度に合わせて、適宜楽譜を紹介する。			
学生への要望	練習時間の確保と日々の積み重ねを大事にし、さらに豊かな音楽性を深めていくこと。			
位置付け・水準	CE2167			
ディプロマポリシーとの関係	「保育の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「問題解決能力」「豊かな人間性と規範意識」「音楽表現力」			
オフィスタイム	月曜日 Ⅱ限目 場所：芸術館4階 レッスン室5			
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	基礎技術の学習1	これまでの学習状況を確認し今年度の取り組みと目標を確認。	音階練習。エチュード練習。曲の譜読み。	120
2	基礎技術の学習2	基本的譜面の理解を深める。それに必要な練習の方法を学ぶ。	音階練習。エチュード練習。曲の譜読み。	120
3	基礎技術の学習3	基本的譜面の理解を深める。それに必要な練習の方法を学ぶ。	音階練習。エチュード練習。曲の譜読み。	120
4	基礎技術の学習4	基本的譜面の理解を深める。それに必要な練習の方法を学ぶ。	音階練習。エチュード練習。曲の譜読み。	120
5	基礎技術の学習5	基本的譜面の理解を深める。それに必要な練習の方法を学ぶ。	音階練習。エチュード練習。曲の譜読み。	120
6	基礎技術の学習6	基本的譜面の理解を深める。それに必要な練習の方法を学ぶ。	音階練習。エチュード練習。曲の譜読み。	120
7	演奏表現の学習1	曲への理解を深める。奏法学習。暗譜の重要性を学ぶ。	音階練習。エチュード練習。曲の譜読み。 曲の表現力を高める。	120
8	演奏表現の学習2	曲への理解を深める。奏法学習。暗譜の重要性を学ぶ。	音階練習。エチュード練習。曲の譜読み。 曲の表現力を高める。	120
9	演奏表現の学習3	曲への理解を深める。奏法学習。暗譜の重要性を学ぶ。	音階練習。エチュード練習。曲の譜読み。 曲の表現力を高める。	120
10	演奏表現の学習4	曲への理解を深める。奏法学習。暗譜の重要性を学ぶ。	音階練習。エチュード練習。曲の譜読み。 曲の表現力を高める。	120
11	演奏表現の学習5	曲への理解を深める。奏法学習。暗譜の重要性を学ぶ。	音階練習。エチュード練習。曲の表現力を 高め暗譜に取り組む。	120
12	演奏表現の学習6	曲への理解を深める。奏法学習。暗譜の重要性を学ぶ。	音階練習。エチュード練習。曲の表現力を 高め暗譜に取り組む。	120
13	演奏表現の学習7	曲への理解を深める。奏法学習。暗譜の重要性を学ぶ。	音階練習。エチュード練習。曲の表現力を 高め暗譜に取り組む。	120
14	演奏表現の学習8	基本的譜面の理解を深める。それに必要な練習の方法を学ぶ。	音階練習。エチュード練習。曲の表現力を 高め暗譜に取り組む。	120
15	演奏表現のまとめ	独奏での演奏表現を深める。前期のまとめ。	試験に向けてさらに音楽への理解を深める。	120
16	演奏技術の学習1	後期の目標を再度確認。取り組む曲の確認。	音階練習。エチュード練習。曲の譜読み。	120
17	演奏技術の学習2	基本的譜面の理解を深める。それに必要な練習の方法を学ぶ。	音階練習。エチュード練習。曲の譜読み。	120
18	演奏技術の学習3	基本的譜面の理解を深める。それに必要な練習の方法を学ぶ。	音階練習。エチュード練習。曲の譜読み。	120
19	演奏技術の学習4	基本的譜面の理解を深める。それに必要な練習の方法を学ぶ。	音階練習。エチュード練習。曲の譜読み。	120
20	演奏技術の学習5	基本的譜面の理解を深める。それに必要な練習の方法を学ぶ。	音階練習。エチュード練習。曲の譜読み。	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
21	演奏技術の学習 6	基本的譜面の理解を深める。それに必要な練習の方法を学ぶ。	音階練習。エチュード練習。曲の譜読み。	120
22	演奏表現の学習 1	基本的譜面の理解を深める。それに必要な練習の方法を学ぶ。	音階練習。エチュード練習。曲の譜読み。	120
23	演奏表現の学習 2	基本的譜面の理解を深める。それに必要な練習の方法を学ぶ。	音階練習。エチュード練習。曲の表現力を高め暗譜に取り組む。	120
24	演奏表現の学習 3	基本的譜面の理解を深める。それに必要な練習の方法を学ぶ。	音階練習。エチュード練習。曲の表現力を高め暗譜に取り組む。	120
25	演奏表現の学習 4	基本的譜面の理解を深める。それに必要な練習の方法を学ぶ。	音階練習。エチュード練習。曲の表現力を高め暗譜に取り組む。	120
26	演奏表現の学習 5	基本的譜面の理解を深める。それに必要な練習の方法を学ぶ。	音階練習。エチュード練習。曲の表現力を高め暗譜に取り組む。	120
27	演奏表現の学習 6	基本的譜面の理解を深める。それに必要な練習の方法を学ぶ。	音階練習。エチュード練習。曲の表現力を高め暗譜に取り組む。	120
28	演奏表現の学習 7	基本的譜面の理解を深める。それに必要な練習の方法を学ぶ。	音階練習。エチュード練習。曲の表現力を高め暗譜に取り組む。	120
29	演奏表現の学習 8	独奏での演奏表現を深める。	試験に向けて本番と同じような状況で演奏。	120
30	演奏表現のまとめ	独奏での演奏表現を深める。後期のまとめ。	試験に向けてさらに音楽への理解を深める。	120

授業名	リトミック	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択	
担当教員名	◎小林 郁子			
開講期	通年			
授業の概要	〔授業の目的・ねらい〕 幼稚園・保育園においてリトミックの指導を行う技術と、実践する力を身に付ける。 〔授業全体の内容の概要〕 指導者になるためのリズム運動と、年齢別の具体的な指導法、指導に必要な演奏法を、実技を通して指導する。また、幼稚園で20年以上、リトミック指導を継続している経験を元に、実際の子どもの発達に即した音楽的指導や子どもの反応、園の状況に応じた実践方法を指導する。 〔実務経歴〕1997年より、東京都の栄光乃園幼稚園において年少、年中、年長の保育課内リトミック指導を行なっている。また1999年より、リトミック研究センター指導者養成校、月例研修会において、リトミック指導者養成クラスにて指導を行っている。 〔フィードバックの方法〕認定試験終了後にフィードバックを行います。			
授業の到達目標	〔授業修了時の達成課題〕 ①幼稚園保育園において、リトミック指導を行なうことができる②リトミック研究センターが実施する、幼稚園・保育園のためのリトミック2級指導資格、1級指導資格を得る試験に合格する			
履修条件	短大幼児教育学科チャイルドミュージックコース2年生	成績の 評価方法・基準	学期末に行う幼稚園・保育園のための指導資格1級、2級の認定試験の基準に準じます。また授業での取り組みも通常点して評価します。	
テキスト	幼稚園、保育園のためのリトミック3歳児用、4歳児用、5歳児用（リトミック研究センター）			
参考書	特になし			
学生への要望	動きやすい服装で出席してください			
位置付け・水準	CE2289			
ディプロマポリシーとの関係	保育現場で活用できるリトミックを学ぶことで、より高い音楽表現力を身につけることができる。			
オフィスタイム	授業後			
アクティブラーニング実施内容	指導者になるためのリズム運動と、年齢別の具体的な指導法、指導に必要な演奏法を、実技を通して指導する			
実務家教員の経歴	幼稚園で20年以上、東京都の栄光乃園幼稚園において年少、年中、年長の保育課内リトミック指導。リトミック研究センター指導者養成校、月例研修会で、リトミック指導者養成クラスにて指導			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	リズム-1	リトミックについて リトミック研究センターの紹介 リトミックの経験	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
2	リズム-2 ティーチング-1	基礎的な動き 基礎リズム ティーチング3歳児-1 (1学期)	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
3	リズム-3 ティーチング-2	基礎的な動き 基礎リズム ステップ ティーチング3歳児-2 (1学期)	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
4	リズム-4 ティーチング-3	基礎的な動き 基礎リズム ステップ ティーチング3歳児-3 (1学期)	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
5	リズム-5 ティーチング-4	基礎リズム ステップ 複雑なリズム ティーチング3歳児-4 (1学期)	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
6	リズム-6 ティーチング-5	基礎リズム ステップ 複雑なリズム ティーチング3歳児-5 (2学期)	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
7	リズム-7 ティーチング-6	基礎リズム ステップ 拍子-1 ティーチング3歳児-6 (2学期)	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
8	リズム-8 ティーチング-7	基礎リズム ステップ 拍子-2 ティーチング3歳児-7 (2学期)	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
9	リズム-9 ティーチング-8	基礎リズム リズムフレーズ-1 ティーチング3歳児-8 (2学期)	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
10	リズム-10 ティーチング-9	認定試験公示 試験課題練習 リズムフレーズ-2 ティーチング3歳児-9 (3学期)	自分の課題曲を練習 試験課題練習	120
11	リズム-11 ティーチング-10	試験課題練習 リズムカノン-1 ティーチング3歳児-10 (3学期)	自分の課題曲を練習 試験課題練習	120
12	リズム-12 ティーチング-11	試験課題練習 リズムカノン-2 ティーチング3歳児-11 (3学期)	自分の課題曲を練習 試験課題練習	120
13	リズム-13 ティーチング-12	試験課題練習 J=ダルクローズについて-1 ティーチング3歳児-12 (3学期)	自分の課題曲を練習 試験課題練習	120
14	リズム-14 ティーチング-13	試験課題練習 ティーチング3歳児-13 (年間を通してのまとめ)	自分の課題曲を練習 試験課題練習	120
15	資格認定試験	リトミック研究センター 幼稚園保育園のためのリトミック2級 資格認定試験	指導書4歳児の課題曲を練習する	120
16	リズム-15 ティーチング-14	リズムフレーズ-3 ティーチング4歳児-1 (1学期)	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
17	リズム-16 ティー칭ング-15	リズムフレーズ-4 ティー칭ング4 歳児-2 (1 学期)	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
18	リズム-17 ティー칭ング-16	リズムフレーズ-5 ティー칭ング4 歳児-3 (2 学期)	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
19	リズム-18 ティー칭ング-17	リズムカノン-3 ティー칭ング4 歳児-4 (2 学期)	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
20	リズム-19 ティー칭ング-18	リズムカノン-4 ティー칭ング4 歳児-5 (3 学期)	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
21	リズム-20 ティー칭ング-19	リズムカノン-5 ティー칭ング4 歳児-6 (3 学期)	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
22	リズム-21 ティー칭ング-20	リズムカノン-6 ティー칭ング4 歳児-7 (年間を通してのまとめ)	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
23	リズム-22 ティー칭ング-21	複リズム-1 ティー칭ング5 歳児-1 (1 学期)	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
24	リズム-23 ティー칭ング-22	複リズム-2 ティー칭ング5 歳児-2 (1 学期)	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
25	リズム-24 ティー칭ング-23	試験公示 複リズム-3 ティー칭ング5 歳児-3 (2 学期)	自分の課題曲を練習 試験課題練習	120
26	リズム-25 ティー칭ング-24	試験課題練習 複リズム-4 ティー칭ング5 歳児-4 (2 学期)	自分の課題曲を練習 試験課題練習	120
27	リズム-26 ティー칭ング-25	試験課題練習 ティー칭ング5 歳児-5 (3 学期)	自分の課題曲を練習 試験課題練習	120
28	リズム-27 ティー칭ング-26	試験課題練習 ティー칭ング5 歳児-6 (3 学期)	自分の課題曲を練習 試験課題練習	120
29	リズム-28 ティー칭ング-27	試験課題練習 ティー칭ング5 歳児-7 (年間を通してのまとめ) J=ダルクローズについて-2	自分の課題曲を練習 試験課題練習	120
30	資格認定試験	リトミック研究センター 幼稚園保育園のためのリトミック1級 資格認定試験		0

授業名	音楽基礎Ⅰ	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択	
担当教員名	◎横溝 聡子			
開講期	Ⅱ期			
授業の概要	音楽表現や、保育場面を想定した音楽表現における表現技術と指導法を修得するために、楽典の最も基礎的な知識を学び、技術・理論的な側面から音楽のルールと理論を身につける。音楽の基礎力を獲得するために、授業では演習を行い、理論を理解しながら、実際に役立つ力を養うことをめざす。 確実な音楽的基礎を身に付けるため、少人数でのアクティブラーニング、ディスカッションや協働的体験を行うグループワークによる授業を実施する。 小テストやグループ発表を実施し、終了後コメントによるフィードバックを行う。			
授業の到達目標	目標は ①楽典の基礎知識を理解している。 ②音楽の基礎知識を活用して、楽譜を読み解くことができる。 単位認定の最低基準は①～②の内容の7割を理解し、授業や課題提出において確認できること。			
履修条件	幼児教育学科 1年生	成績の 評価方法・基準	平常点(興味・関心、意欲、態度、創意工夫) 50%、小テスト30%、 グループ発表20%	
テキスト	『楽典 理論と実践』音楽之友社、津布楽杏里・桑原章寧共著『保育・教育の現場で使える！弾き歌いピアノ曲集』ドレミ楽譜出版社、 全国大学音楽教育学会編著『明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌』音楽之友社			
参考書	特になし			
学生への要望	豊かな演奏表現力に結び付く音楽理論の知識を確実に身につけるため、自学自習を積極的に行って授業に臨んで欲しい。			
位置付け・水準	CE2190			
ディプロマポリシーとの関係	「子どもの支援の方法・技術力」「問題解決力」「教養と他者と関わる力」「音楽表現力」			
オフィスタイム	水曜日Ⅳ限、金曜日Ⅱ限、No.1幼児教育学研究室			
アクティブラーニング実施内容	確実な音楽的基礎を身に付けるため、少人数でのアクティブラーニング、ディスカッションや協働的体験を行うグループワークによる授業を実施する。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス 確認テスト	授業計画、授業内容、評価内容、授業への心構えについて説明を行う。入学前の課題であった楽典課題の確認を行う。	楽典課題の復習をしっかりとすること。	60
2	譜表、音名、変化記号とその効力、音符と休符	楽譜のしくみ、音名、音符と休符について理解する。	教科書の指示された項目を読み、予習をすること。授業の内容を繰り返し復習すること。	60
3	拍子とリズム	拍子とリズムについて理解する。	教科書の指示された項目を読み、予習をすること。授業の内容を繰り返し復習すること。	60
4	音程	単音程と複音程について理解する。	教科書の指示された項目を読み、予習をすること。授業の内容を繰り返し復習すること。	60
5	音階	長音階と短音階の音階の仕組みについて理解する。	教科書の指示された項目を読み、予習をすること。授業の内容を繰り返し復習すること。	60
6	発想記号、省略記号、その他の記号	発想記号や様々な記号の意味を理解する。	教科書の指示された項目を読み、予習をすること。授業の内容を繰り返し復習すること。	60
7	和音①3和音・7の和音の種類	3和音の種類について理解する。7の和音について理解する。	教科書の指示された項目を読み、予習をすること。授業の内容を繰り返し復習すること。	60
8	和音②音階とコードネーム	音階と和音、コードネームについて理解する。	資料を読み、予習をすること。授業の内容を繰り返し復習すること。	60
9	和音③コードネームを用いた実践	コードネームについて理解し、実際にピアノで実践する。	資料を読み、予習をすること。授業の内容を繰り返し復習すること。	60
10	和音④コードネームを用いた実践	コードネームについて理解し、実際にピアノで実践する。	資料を読み、予習をすること。授業の内容を繰り返し復習すること。	60
11	和音⑤コードネームを用いた実践	コードネームについて理解し、実際にピアノで実践する。	資料を読み、予習をすること。授業の内容を繰り返し復習すること。	60
12	総合演習①	幼児曲の楽譜を使用して、楽典を総合的に復習する。グループワークにより、音楽理論と表現について考える。	教科書の指示された項目を読み、予習をすること。授業の内容を繰り返し復習すること。	60
13	総合演習②	幼児曲の楽譜を使用して、楽典を総合的に復習する。グループワークにより、音楽理論と表現について考える。	教科書の指示された項目を読み、予習をすること。授業の内容を繰り返し復習すること。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	総合演習③とまとめ	幼児曲の楽譜を使用して、楽典を総合的に復習する。グループワークにより、音楽理論と表現について考える。	教科書の指示された項目を読み、予習をすること。授業の内容を繰り返し復習すること。	60
15	総合演習④とまとめ	幼児曲の楽譜を使用して、楽典を総合的に復習する。グループワークにより、音楽理論と表現を結び付けた演奏発表。	発表の準備を行う。	60

授業名	音楽基礎Ⅱ	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択	
担当教員名	◎横溝 聡子 深谷 悠里絵			
開講期				
授業の概要	授業は大きく3つの内容で構成する。 ①音楽の歴史について大きく概要を捉え、それぞれの時代の音楽の特徴や響きを学ぶことにより、音楽的知識や音楽的表現力の幅を広げる。また、明治以降の日本の保育音楽の流れを理解する。 ②幼児教育の現場でもICTを取り入れることが進められている。パソコンで音楽制作ソフトを使用した音楽創りや録音の基礎的操作を学び、活用できる力を養うことを目指す。 ③領域「表現」の視点から、音を楽しみ、表現する力を養い、創造性を豊かにできるよう作品創りを行う。ディスカッションや協働的体験を行うグループワークも取り入れながら授業を実施する。創作した作品などを用いたフィールドワークでの実践を通して幼児の音楽活動について学びを深める。 課題発表や最終授業にてコメントでフィードバックを行う。			
授業の到達目標	目標は ①音楽の歴史を理解している。 ②パソコンを使用した音楽創りや録音の基本的操作を理解し、活用することができる。 ③専門性を持って幼児の「表現」について考えることができる。 単位認定の最低基準は①～③の内容の7割を理解し、授業や課題提出において確認できること。			
履修条件	幼児教育学科チャイルド・ミュージックコース2年生	成績の 評価方法・基準	平常点(興味・関心、意欲、態度、創意工夫)70%、課題提出30%	
テキスト	適宜指示			
参考書	適宜指示			
学生への要望	積極的に授業に臨み、学んだことを活用できるようになって欲しい。			
位置付け・水準	CE2291			
ディプロマポリシーとの関係	「子どもの支援の方法・技術力」「問題解決力」「教養と他者と関わる力」「音楽表現力」			
オフィスタイム	横溝・深谷：水曜日Ⅳ限、金曜日Ⅰ限、No.1幼児教育学研究室			
アクティブラーニング実施内容	授業内でのディスカッションや協働的体験を行うグループワーク、またフィールドワークで実践をする。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	西洋音楽の流れ① 横溝	音楽の起源から古典派までの流れ。それぞれの時代の音楽様式の特徴を感じる。	配布資料と授業内容を復習する。授業に関連する時代の音楽を聴く。	30
2	西洋音楽の流れ② 横溝	ロマン派から近現代までの流れ。それぞれの時代の音楽様式の特徴を感じる。	配布資料と授業内容を復習する。授業に関連する時代の音楽を聴く。	30
3	西洋音楽の流れ③ 横溝	20世紀以降の音楽の流れを掴む。それぞれの時代の音楽様式の特徴を感じる。	明治時代からの保育音楽の流れや、わらべうた、童謡などについて調べる。	30
4	明治時代からの保育音楽 横溝	明治時代からの保育音楽の流れを掴む。わらべうた・唱歌・童謡について理解を深める。	配布資料と授業内容を復習する。わらべうたや童謡を聴いたり、歌ったりする。	30
5	音楽制作ソフトを使用した音楽制作① 横溝・深谷	音楽制作ソフトの基本的操作とMIDIキーボードによる打ち込みを学ぶ。	配布資料と授業内容を復習する。	30
6	音楽制作ソフトを使用した音楽制作② 横溝・深谷	音楽制作ソフトを使用して幼児向けの曲を制作する。	配布資料と授業内容を復習する。音楽制作のアイディアを出しイメージを膨らませる。	30
7	音楽制作ソフトを使用した音楽制作③ 横溝・深谷	音楽制作ソフトを使用して幼児向けの曲を制作する。	配布資料と授業内容を復習する。音楽制作のアイディアを出しイメージを膨らませる。	30
8	パソコンを使用した録音① 横溝・深谷	音楽制作ソフトを使用した録音の基本的操作を学ぶ。幼児曲の各パートを重ねて録音してみることで、卒業研究ミュージカルの音楽創りに役立てられるような操作を覚える。	配布資料と授業内容を復習する。幼児曲の練習を行う。	30
9	パソコンを使用した録音② 横溝・深谷	音楽制作ソフトを使用した録音の基本的操作を学ぶ。幼児曲の各パートを重ねて録音してみることで、卒業研究ミュージカルの音楽創りに役立てられるような操作を覚える。	配布資料と授業内容を復習する。幼児曲の練習を行う。音楽制作のアイディアを出しイメージを膨らませる。	30
10	幼児向けの作品創り① 横溝	様々な楽器や身の回りにある物を利用し、まずそれぞれの音を楽しむ、音を感じる体験をする。更にそれらを自由に組み合わせて作品を創る。フィールドワークで創作した作品などを発表できるようグループワークを行う。	配布資料と授業内容を復習する。作品創りのアイディアを考える。	30
11	幼児向けの作品創り② 横溝	様々な楽器や身の回りにある物を利用し、まずそれぞれの音を楽しむ、音を感じる体験をする。更にそれらを自由に組み合わせて作品を創る。フィールドワークで創作した作品などを発表できるようグループワークを行う。	配布資料と授業内容を復習する。作品創りのアイディアを考える。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	幼児向けの作品創り③ 横溝	創作した作品などを発表できるよう、作品を完成させる。 フィールドワークに向けてグループワークを行う。	配布資料と授業内容を復習する。作品創りのアイデアを考える。	30
13	フィールドワーク①（幼稚園での実践） 横溝	幼稚園での実践。演奏発表や子どもたちとの音楽あそびの実践。	配布資料と授業内容を復習する。発表のための練習を行う。	30
14	フィールドワーク②（幼稚園での実践） 横溝	幼稚園での実践。演奏発表や子どもたちとの音楽あそびの実践。	配布資料と授業内容を復習する。発表のための練習を行う。	30
15	まとめ 横溝	制作した作品やフィールドワークの振り返り。	授業内容の復習。	30

授業名	ソルフェージュⅠ		配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択
担当教員名	◎深谷 悠里絵 横溝 聡子			
開講期	Ⅱ期			
授業の概要	音楽に関わる上で音やリズムを聴く、書き取る、表現するなどの基礎的能力は欠かすことのできないものである。基礎的な読譜能力の養成から簡易な書き取り、視唱を行い、音楽の基礎力を初歩から総合的に養い、着実に身につけることを目的とする。 確実な音楽的基礎や音楽表現を身につけるため、少人数でのアクティブラーニング、ディスカッションや協働的体験を行うグループワークによる授業を実施する。授業内でグループ発表を実施し、終了後コメントによるフィードバックを行う。			
授業の到達目標	①楽譜の音やリズムの表記方法について正確に理解している。 ②音楽の基礎となる音やリズムを理解し、正確に歌ったり表現することができる。 ③音楽の基礎となる音やリズムを理解し、譜面に書き表すことができる。 単位認定の最低基準：①～③の内容の7割を理解し、授業や課題提出において確認できること。			
履修条件	幼児教育学科1年生	成績の 評価方法・基準	平常点(興味・関心、意欲、態度、創意工夫)50%、小テスト30%、 グループ発表20%	
テキスト	大阪開成館発行「コールユーブンゲン」、津布楽杏里・桑原章寧共著『保育・教育の現場で使える！弾き歌いピアノ曲集』ドレミ楽譜出版社、 全国大学音楽教育学会編著『明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌』音楽之友社			
参考書	特になし			
学生への要望	授業での課題を次の授業までに出来るよう、よく考えながら根気強く取り組みましょう。			
位置付け・水準	CE2192			
ディプロマポリシーとの関係	「問題解決力」「教養と他者と関わる力」「(チャイルド・ミュージックコース)音楽表現力」			
オフィスタイム	水曜日Ⅳ限、金曜日Ⅰ限、No.1幼児教育学研究室			
アクティブラーニング実施内容	ディスカッションや協働的体験を行うグループワークによる授業を実施する。			
実務家教員の経歴	なし			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス 確認テスト 横溝・深谷	授業計画、授業内容、評価内容、授業への心構えについて説明を行う。入学前の課題であったコールユーブンゲンで確認を行う。	視唱課題の予習と復習をしっかりとすること。	60
2	視唱と聴音の基礎① 横溝・深谷	2度・3度音程の視唱練習と楽譜の正しい書き方…音部記号・調号・音符・休符・小節について、短い楽曲の写譜	視唱課題やリズム課題の復習をしっかりとすること。	60
3	視唱と聴音の基礎② 横溝・深谷	2度・3度音程の視唱練習と簡単なハ長調の旋律聴音、4/4拍子のリズム打ち	視唱課題やリズム課題の予習と復習をしっかりとすること。	60
4	視唱と聴音の基礎③ 横溝・深谷	4度音程の視唱と長調の旋律聴音、3/4拍子のリズム打ち	視唱課題やリズム課題の予習と復習をしっかりとすること。	60
5	視唱と聴音の基礎④ 横溝・深谷	3/8、6/8拍子の視唱と聴音、リズム打ち	視唱課題やリズム課題の予習と復習をしっかりとすること。	60
6	視唱と聴音の基礎⑤ 横溝・深谷	5度音程の視唱と短調の旋律聴音	視唱課題やリズム課題の予習と復習をしっかりとすること。	60
7	視唱と聴音の基礎⑥ 横溝・深谷	シンコペーションのリズムの視唱と聴音	視唱課題やリズム課題の予習と復習をしっかりとすること。	60
8	視唱と聴音の基礎⑦ 横溝・深谷	6度音程の視唱と短調の旋律聴音	視唱課題やリズム課題の予習と復習をしっかりとすること。	60
9	視唱と聴音の基礎⑧ 横溝・深谷	3連音と付点音符のリズムの視唱と聴音	視唱課題やリズム課題の予習と復習をしっかりとすること。	60
10	視唱と聴音の基礎⑨ 横溝・深谷	7度音程の視唱と単旋律聴音	視唱課題やリズム課題の予習と復習をしっかりとすること。	60
11	視唱と聴音の応用① 横溝・深谷	幼児曲を使った視唱練習。単旋律聴音、リズム打ちのアンサンブル	視唱課題やリズム課題の予習と復習をしっかりとすること。	60
12	視唱と聴音の応用② 横溝・深谷	幼児曲を使った視唱練習。単旋律聴音、リズム打ちのアンサンブル	視唱課題やリズム課題の予習と復習をしっかりとすること。	60
13	視唱と聴音の応用③ 横溝・深谷	幼児曲を使った視唱練習。単旋律聴音、リズムをグループで創作し、アンサンブルを行う。	視唱課題やリズム課題の予習と復習をしっかりとすること。	60
14	視唱と聴音の応用④ 横溝・深谷	幼児曲を使った視唱練習。単旋律聴音、リズム打ちをグループで創作し、アンサンブルの発表を行う。	視唱課題やリズム課題の予習と復習をしっかりとすること。	60
15	視唱と聴音のまとめ 横溝・深谷	視唱と旋律聴音のまとめと確認	視唱課題やリズム課題の予習と復習をしっかりとすること。	60

授業名	ソルフェージュⅡ		配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員名	◎深谷 悠里絵 横溝 聡子			
開講期	Ⅲ期			
授業の概要	保育の現場で歌ったりやピアノを弾くために必要となる、楽譜を正確に読み表現するための力を養う。また、本科目では2年次の卒業研究の舞台制作において必要となる、舞台上の表現者を支える音楽についての基礎知識を学び習得する。 楽譜制作ソフトを使用した楽譜づくりの基礎的な操作も学び、ディスカッションを行いながら課題に取り組む。授業内でグループ発表を実施し、終了後コメントによるフィードバックを行う。			
授業の到達目標	①音楽の基礎となる音やリズムを理解し、正確に歌ったり、譜面に書き表すことができる。 ②楽譜制作ソフトを使用して、楽譜づくりや音源から楽譜に起こすことができる。 ③音楽ソフトウェアを使った簡単な音声・音楽の録音・編集を行うことができる。 単位認定の最低基準は①～③の内容の7割を理解し、授業や課題提出において確認できること。			
履修条件	幼児教育学科チャイルド・ミュージックコース2年		成績の 評価方法・基準	平常点(興味・関心、意欲、態度、創意工夫) 50%、小テスト30%、 課題提出20%
テキスト	大阪開成館発行「コールユーブンゲン」、津布楽杏里・桑原章寧共著『保育・教育の現場で使える！弾き歌いピアノ曲集』ドレミ楽譜出版社、 全国大学音楽教育学会編著『明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌』音楽之友社			
参考書	特になし			
学生への要望	授業での課題を次の授業までに出来るよう、よく考えながら根気強く取り組みましょう。			
位置付け・水準	CE2293			
ディプロマポリシーとの関係	「問題解決力」「教養と他者と関わる力」「（チャイルド・ミュージックコース）音楽表現力」			
オフィスタイム	横溝・深谷：火曜日Ⅰ限 金曜日Ⅰ限 場所：芸術館3F No.1 幼児教育学研究室			
アクティブラーニング実施内容	ディスカッションや協働的体験を行うグループワークによる授業を実施する。			
実務家教員の経歴	なし			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 横溝・深谷	授業計画、授業内容、評価内容、授業への心構えについて説明を行う。	シラバスを見て、授業内容、評価内容、スケジュールを把握しておくこと。	60
2	視唱と聴音の演習① 横溝・深谷	ソルフェージュⅠの復習 幼児曲を使った視唱練習とリズム聴音課題	視唱課題やリズム課題の予習と復習をしっかりとすること。	60
3	視唱と聴音の演習② 横溝・深谷	幼児曲を使った視唱練習とリズム聴音課題	視唱課題やリズム課題の予習と復習をしっかりとすること。	60
4	視唱と聴音の演習③ 横溝・深谷	幼児曲を使った視唱練習と旋律聴音課題	視唱課題やリズム課題の予習と復習をしっかりとすること。	60
5	視唱と聴音の演習④ 横溝・深谷	幼児曲を使った視唱練習と旋律聴音課題	視唱課題やリズム課題の予習と復習をしっかりとすること。	60
6	楽譜制作ソフトの基礎知識① 横溝・深谷	楽譜制作ソフトの基礎的な操作方法を学ぶ。	授業内容を確認しノートにまとめる。	60
7	楽譜制作ソフトの基礎知識② 横溝・深谷	楽譜制作ソフトを使用した楽譜作成を行う。グループで楽曲作り。	授業内容を確認しノートにまとめる。	60
8	楽譜制作ソフト操作演習① 横溝・深谷	音源を楽譜に起こしながら、楽譜制作ソフトの様々な操作方法学ぶ。グループで制作した作品発表。	卒業研究で使用する音源の選定。	60
9	楽譜制作ソフト操作演習② 横溝・深谷	卒業研究で使用する音源を楽譜に起こしながら、楽譜制作ソフトの様々な操作方法学ぶ。	卒業研究で使用する音源の選定。	60
10	楽譜制作ソフト操作演習③ 横溝・深谷	卒業研究で使用する音源を楽譜に起こしながら、楽譜制作ソフトの様々な操作方法学ぶ。	卒業研究で使用する音源の選定。	60
11	楽譜制作ソフト操作演習④ 横溝・深谷	卒業研究で使用する音源を楽譜に起こしながら、楽譜制作ソフトの様々な操作方法学ぶ。	課題の予習と復習をしっかりとすること。	60
12	楽譜制作ソフト操作演習⑤ 横溝・深谷	卒業研究で使用する音源を楽譜に起こしながら、楽譜制作ソフトの様々な操作方法学ぶ。	課題の予習と復習をしっかりとすること。	60
13	楽譜制作ソフト操作演習⑥ 横溝・深谷	卒業研究で使用する音源を楽譜に起こしながら、楽譜制作ソフトの様々な操作方法学ぶ。	課題の予習と復習をしっかりとすること。	60
14	楽譜制作ソフト操作演習⑦ 横溝・深谷	卒業研究で使用する音源を楽譜に起こしながら、楽譜制作ソフトの様々な操作方法学ぶ。	課題の予習と復習をしっかりとすること。	60
15	まとめ 横溝・深谷	視唱と聴音、楽譜制作ソフトのまとめ	課題の予習と復習をしっかりとすること。	60

授業名	ミュージカル演習		配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員名	◎横溝 聡子 深谷 悠里絵			
開講期	Ⅳ期			
授業の概要	本科目は卒業研究と連動させた科目であり、音楽、歌、踊り、芝居を融合させた総合舞台表現であるミュージカル制作を行う。卒業研究での振り返りを基に、キャスト・スタッフの課題解決をねらいとする。授業では卒業研究のキャストの音楽表現や身体表現の考察、スタッフの舞台製作など、キャスト、スタッフの共同ディスカッションで互いの問題を解決しながらミュージカル作品を創り上げていく。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。フィールドワークで実践を行い、子どもたちや地域の方々との交流を通して総合的な表現力を更に深める。			
授業の到達目標	目標は ①キャストの音楽表現、身体表現、スタッフの造形的表現の基礎技術が身につけていることが確認できる。 ②キャスト・スタッフの共同作業において、問題解決能力を身につけていることが確認できる。 ③幼児を対象にした音楽的表現、造形的表現が身につけていることが確認できる。 単位認定の最低基準は①～③の内容の7割を理解し、授業や研究発表において確認できること。			
履修条件	幼児教育学科2年生	成績の 評価方法・基準	平常点（興味・関心、意欲、態度、創意工夫、協調性）80％、課題提出20％	
テキスト	授業内で適宜プリントを配布する。			
参考書	ミュージカル制作に関する書籍			
学生への要望	研究倫理を十分に理解し、自己の責任と協調性を持って共同作業を行うこと。			
位置付け・水準	CE2275			
ディプロマポリシーとの関係	「表現力とコミュニケーション能力」「問題解決力」「豊かな人間性と規範意識」「音楽表現能力」			
オフィスタイム	横溝・深谷：水曜日Ⅳ限 金曜日Ⅱ限 No.1幼児教育学研究室			
アクティブラーニング実施内容	音楽表現の考察、スタッフの舞台製作、キャスト、スタッフの共同ディスカッションで互いの問題を解決しながら、ミュージカル作品を作り上げていく。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス 横溝・深谷	授業計画、授業内容、評価内容、授業への心構えについて説明を行う。	シラバスを見て、授業内容、評価内容、スケジュールを把握しておくこと。	60
2	通し稽古・舞台製作・音響機器研究 1 横溝・深谷	もみじ会に向けて、キャストは身体・音楽表現、スタッフは造形的表現の研究を行う。音楽の録音のための機器の取り扱いと実践。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	60
3	通し稽古・舞台製作・音響機器研究 2 横溝・深谷	もみじ会に向けて、キャストは身体・音楽表現、スタッフは造形的表現の研究を行う。音楽の録音の実践。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	60
4	通し稽古・舞台製作・音響機器研究 3 横溝・深谷	もみじ会に向けて、キャストは身体・音楽表現、スタッフは造形的表現の研究を行う。音楽の録音の実践。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	60
5	もみじ会発表振り返り 横溝・深谷	もみじ会発表について振り返り、卒研発表に向けてのディスカッションを行う。	もみじ会発表の振り返りをする。	60
6	音楽・身体表現稽古・舞台製作 1 横溝・深谷	もみじ会発表の振り返りを踏まえ、キャスト、スタッフそれぞれの修正を確認しキャストは音楽・身体表現稽古、スタッフは舞台製作に取り組む。	キャストは音楽、演技、身体表現の練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	60
7	音楽・身体表現稽古・舞台製作 2 横溝・深谷	もみじ会発表の振り返りを踏まえ、キャスト、スタッフそれぞれの修正を確認しキャストは音楽・身体表現稽古、スタッフは舞台製作に取り組む。	キャストは音楽、演技、身体表現の練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	60
8	音楽・身体表現稽古・舞台製作 3 横溝・深谷	もみじ会発表の振り返りを踏まえ、キャスト、スタッフそれぞれの修正を確認しキャストは音楽・身体表現稽古、スタッフは舞台製作に取り組む。	キャストは音楽、演技、身体表現の練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	60
9	音響・照明機器研究 横溝・深谷	建学記念講堂の音響機器について操作方法等の説明を基に、音響・照明のシミュレーションをする。	音響・照明機器についてのプランを考える。	60
10	立ち稽古・舞台製作 1 横溝・深谷	前回の修正点を踏まえ、身体的表現、音楽的表現、造形的表現を考察する。	キャストは音楽、演技、身体表現の練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	60
11	立ち稽古・舞台製作 2 横溝・深谷	前回の修正点を踏まえ、身体的表現、音楽的表現、造形的表現を考察する。	キャストは音楽、演技、身体表現の練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	60
12	通し稽古・舞台製作 1 横溝・深谷	身体的表現、音楽的表現、造形的表現の最終確認を行い、研究発表に向け総合舞台表現の完成度をチェックする。	総合舞台表現の完成度をチェックする。	60
13	通し稽古・舞台製作 2 横溝・深谷	身体的表現、音楽的表現、造形的表現の最終確認を行い、研究発表に向け総合舞台表現の完成度をチェックする。	総合舞台表現の完成度をチェックする。	60
14	通し稽古・舞台製作 3 横溝・深谷	卒業研究舞台リハーサルを振り返り、修正を行う。	振り返りを基に完成度をチェックする。	60
15	まとめ、舞台発表準備 横溝・深谷	ミュージカルの全体的な最終点検を行う。	振り返りを基に最終点検を行う。	60

授業名	卒業研究 安部 高太郎	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修	
担当教員名	◎安部 高太郎			
開講期	Ⅲ・Ⅳ期			
授業の概要	本科目では、子どもの生命観の形成過程、デス・エデュケーション（死の教育）を主たるテーマとして、グループワーク等のアクティヴ・ラーニングの手法を使って探究する。授業ノートをつけながら、最終的な成果は『保育研究』に文章として残す。各自の研究テーマの設定、具体的な研究の手法の例示、研究倫理について指導、卒業研究の成果をまとめる『保育研究』に記載する文章の指導等を本科目の時間で行う。最終授業回で、一年間の学びに対して、本授業受講生それぞれに対して担当教員から総合的なフィードバックをするが、定期的に授業ノート提出してもらい、担当教員からコメントを付して返すことでフィードバックを行う。			
授業の到達目標	本科目の到達目標は次のとおりである。 （１） 研究テーマを設定し、『保育研究』に最終的に文章で成果をまとめることを意識し、計画的に研究を進めることができる。 （２） 設定した研究テーマの核となる問いを練りあげ、その問いについて協働的に探究した結果を授業ノートに記すことができる。 （３） 研究を進めるにあたって、人権の尊重、研究倫理上の作法等を身につける。 ○単位認定は、目標の7割以上の達成を基準とする。			
履修条件	幼児教育学科2学年	成績の 評価方法・基準	①平常点（授業ノートへの記載等からみる卒業研究への取り組みの状況）：60点。 ②研究成果（卒研発表会での口頭発表、本文、『保育研究』の原稿）：40点。 ①＋②以上の合計100点満点で評価する。	
テキスト	・小林亜津子 (2011) 『はじめて学ぶ生命倫理：「いのち」は誰が決めるのか』、筑摩書房 ・戸田山和久 (2022) 『最新版 論文の教室：レポートから卒論まで』、NHK出版 ・山内志朗 (2021) 『ギリギリ合格への論文マニュアル』、平凡社			
参考書	・鳥山敏子 (1985) 『いのちに触れる：性と生と死の授業』、太郎次郎社 ・山田ズーニー (2001) 『伝わる・揺さぶる! 文章を書く』、PHP研究所 ※必要に応じて適宜該当箇所等をコピーして受講学生に提示するため、購入の必要はない。 ※その他、研究の方向性に即して適宜参考文献を提示する。			
学生への要望	本科目を受講する学生には、以下の点を求める。 ・疑問を持ったことに対して、調べようと努力すること。 ・他の参加学生と協力し合って、研究を深めようとする事。 ・各自で用意した授業ノートに気づいたことを書き留めること。			
位置付け・水準	CE2200			
ディプロマポリシーとの関係	教育・保育を総合的に計画して実践できる力、教育・保育に関する課題や問題を解決する能力、幅広い教養を身につけ他者と関わる力			
オフィスタイム	・火曜日Ⅳ限（14：30～16：00） ・火曜日Ⅴ限（16：10～17：40） いずれも、83年館2階の安部研究室（821研究室）とする。そのほかの時間帯を希望する場合は、予め、安部（k-abe@koriyama-kgc.ac.jp）までメールで連絡を入れること。			
アクティブラーニング実施内容	授業内容・進度に応じてグループ討議する時間を定期的に設ける。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	本科目の進め方に関する説明を聞く。本授業受講生の自己紹介及び研究関心を共有する。	自分なりの問題関心を1分程度で紹介できるように、自己紹介及び研究関心についてというテーマで作文をしておく。	30
2	子どもの生命観に関するレクチャー①	担当教員から子どもの生命観に関する講義を受ける。	『はじめて学ぶ生命倫理』（小林, 2011）を参照し、特に子どもの生命観に関する章を熟読する。	30
3	子どもの生命観に関するレクチャー②	担当教員から子どもの生命観に関する講義を受ける。	『はじめて学ぶ生命倫理』（小林, 2011）を参照し、特に子どもの生命観に関する章を熟読する。	30
4	研究倫理に関するレクチャー①	サイニー等の論文検索エンジンを使用しながら、文献を調べる方法を伝えと共に、引用や情報の真偽に関する判断の仕方など具体的な研究上倫理的に配慮すべきことを伝える。	『最新版 論文の教室』（戸田山, 2022）を参照し、特に第1章第3節の剽窃に関する部分を熟読する。	30
5	研究倫理に関するレクチャー②	サイニー等の論文検索エンジンを使用しながら、文献を調べる方法を伝えと共に、引用や情報の真偽に関する判断の仕方など具体的な研究上倫理的に配慮すべきことを伝える。	『最新版 論文の教室』（戸田山, 2022）を参照し、特に第1章第3節の剽窃に関する部分を熟読する。	30
6	いのちの授業に関するレクチャー①	担当教員からいのちの授業（鳥山敏子の実践）に関する講義を受ける。	『いのちに触れる授業』（鳥山, 1985）の一部を事前にコピー配布しておくので、読んでくる。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	いのちの授業に関するレクチャー②	担当教員からいのちの授業（鳥山敏子実践、金森俊朗の実践）に関する講義を受ける。	『いのちに触れる授業』（鳥山, 1985）の一部を事前にコピー配布しておくので、読んでくる。	30
8	研究テーマに関する討議①	これまでの授業を踏まえた、子どもの生命観の形成過程・死の教育に関する問いを出し合って、グループ討議を行い、協働的に探究する。	『はじめて学ぶ生命倫理』（小林, 2011）を参照し、授業ノートに自分なりに考えを記してくる。	30
9	研究テーマに関する討議②	これまでの授業を踏まえた、子どもの生命観の形成過程・死の教育に関する問いを出し合って、グループ討議を行い、協働的に探究する。	『はじめて学ぶ生命倫理』（小林, 2011）を参照し、授業ノートに自分なりに考えを記してくる。	30
10	死を扱う絵本に関するレクチャー①	『100万回生きた猫』（佐野, 1977）などを題材にして、生きることの意味を問いかける絵本に関する講義を受ける。	『100万回生きた猫』（佐野, 1977）を読んでおく。	30
11	死を扱う絵本に関するレクチャー②	『100万回生きた猫』（佐野, 1977）などを題材にして、生きることの意味を問いかける絵本に関する講義を受ける。	『100万回生きた猫』（佐野, 1977）を読んでおく。	30
12	研究テーマに関する討議③	これまでの授業を踏まえた、子どもの生命観の形成過程・死の教育に関する問いを出し合って、グループ討議を行い、協働的に探究する。	『はじめて学ぶ生命倫理』（小林, 2011）を参照し、授業ノートに自分なりに考えを記してくる。	30
13	研究テーマに関する討議④	これまでの授業を踏まえた、子どもの生命観の形成過程・死の教育に関する問いを出し合って、グループ討議を行い、協働的に探究する。	『はじめて学ぶ生命倫理』（小林, 2011）を参照し、授業ノートに自分なりに考えを記してくる。	30
14	研究計画の作成①	これまでの研究テーマに関する討議の結果、担当教員からの講義を踏まえて、卒業研究のテーマを決める。	授業ノートに卒業研究で取り組みたいテーマを3つ以上書き出してくる。	30
15	研究計画の作成②	これまでの研究テーマに関する討議の結果、担当教員からの講義を踏まえて、卒業研究のテーマを決める。	授業ノートに卒業研究で取り組みたいテーマを3つ以上書き出してくる。	30
16	研究計画の作成③	これまでの研究テーマに関する討議の結果、担当教員からの講義を踏まえて、卒業研究のテーマを決める。	授業ノートに卒業研究で取り組みたいテーマを3つ以上書き出してくる。	30
17	先行研究の整理①	卒業研究のテーマに即した先行研究を整理する。	サイニー等の検索エンジンを使って、先行研究となる論文を見つけてくる。	30
18	先行研究の整理②	卒業研究のテーマに即した先行研究を整理する。	サイニー等の検索エンジンを使って、先行研究となる論文を見つけてくる。	30
19	先行研究の読解①	先行研究のうち、特に重要な論文を全員で読み合い、議論しながら、先行研究と自分たちの研究との距離を測り、位置づける。	指定された文献を読んでくる。	30
20	先行研究の読解②	先行研究のうち、特に重要な論文を全員で読み合い、議論しながら、先行研究と自分たちの研究との距離を測り、位置づける。	指定された文献を読んでくる。	30
21	卒業研究中間発表会用のスライド・『保育研究』の原稿作成①	中間発表に向けてスライドをつくり、併せて『保育研究』の本文執筆を進める。	各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、授業ノートに整理した情報を基に、文章を執筆しておく。	30
22	卒業研究中間発表会用のスライド・『保育研究』の原稿作成②	中間発表に向けてスライドをつくり、併せて『保育研究』の本文執筆を進める。	各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、授業ノートに整理した情報を基に、文章を執筆しておく。	30
23	卒業研究中間発表会用のスライド・『保育研究』の原稿作成③	中間発表に向けてスライドをつくり、併せて『保育研究』の本文執筆を進める。	各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、授業ノートに整理した情報を基に、文章を執筆しておく。	30
24	卒業研究中間発表会用のスライド・『保育研究』の原稿作成④	中間発表に向けてスライドをつくり、併せて『保育研究』の本文執筆を進める。	各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、授業ノートに整理した情報を基に、文章を執筆しておく。	30
25	前期のフィールドワーク(第1ターム)のまとめ	前期の授業内容をまとめ、授業ノートを基にしたグループディスカッション等の手法で振り返る。	各自授業ノートを整理しておき、前期に学んだ内容を記す。	30
26	後期のフィールドワーク(第2ターム)に向けた研究計画の見直し	後期のフィールドワーク先の確定及び研究計画の見直し・再検討を行う。	各自授業ノートに後期に実施したいフィールドワークの内容を記す。	30
27	卒業研究中間発表会用のスライド・『保育研究』の原稿作成⑤	中間発表に向けてスライドをつくり、併せて『保育研究』の本文執筆を進める。	各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、授業ノートに整理した情報を基に、文章を執筆しておく。	30
28	卒業研究中間発表会用のスライド・『保育研究』の原稿作成⑥	中間発表に向けてスライドをつくり、併せて『保育研究』の本文執筆を進める。	各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、授業ノートに整理した情報を基に、文章を執筆しておく。	30
29	卒業研究中間発表会用のスライド・『保育研究』の原稿作成⑦	中間発表に向けてスライドをつくり、併せて『保育研究』の本文執筆を進める。	各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、授業ノートに整理した情報を基に、文章を執筆しておく。	30
30	卒業研究中間発表会用のスライド・『保育研究』の原稿作成⑧	中間発表に向けてスライドをつくり、併せて『保育研究』の本文執筆を進める。	各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、授業ノートに整理した情報を基に、文章を執筆しておく。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
31	中間発表を踏まえた、研究内容の再検討①	中間発表を踏まえた課題の確認、研究内容・方向性の修正について、グループ討議を行いながら、考えをまとめていく。	中間発表の反省を授業ノートに記してくる。	30
32	中間発表を踏まえた、研究内容の再検討②	中間発表を踏まえた課題の確認、研究内容・方向性の修正について、グループ討議を行いながら、考えをまとめていく。	中間発表の反省を授業ノートに記してくる。	30
33	先行研究の読解③	先行研究のうち、特に重要な論文を全員で読み合い、議論しながら、先行研究と自分たちの研究との距離を測り、位置づける。	指定された文献を読んでくる。	30
34	先行研究の読解④	先行研究のうち、特に重要な論文を全員で読み合い、議論しながら、先行研究と自分たちの研究との距離を測り、位置づける。	指定された文献を読んでくる。	30
35	先行研究の読解⑤	先行研究のうち、特に重要な論文を全員で読み合い、議論しながら、先行研究と自分たちの研究との距離を測り、位置づける。	指定された文献を読んでくる。	30
36	先行研究の読解⑥	先行研究のうち、特に重要な論文を全員で読み合い、議論しながら、先行研究と自分たちの研究との距離を測り、位置づける。	指定された文献を読んでくる。	30
37	先行研究の読解⑦	先行研究のうち、特に重要な論文を全員で読み合い、議論しながら、先行研究と自分たちの研究との距離を測り、位置づける。	指定された文献を読んでくる。	30
38	先行研究の読解⑧	先行研究のうち、特に重要な論文を全員で読み合い、議論しながら、先行研究と自分たちの研究との距離を測り、位置づける。	指定された文献を読んでくる。	30
39	研究の結論・考察に関する討議①	これまでの授業及び先行研究の成果を踏まえた、研究テーマに対する考察を深め、結論を出すためにグループ討議を行う。	授業ノートに先行研究の論点を整理し、各自考察を記してくる。	30
40	研究の結論・考察に関する討議①	これまでの授業及び先行研究の成果を踏まえた、研究テーマに対する考察を深め、結論を出すためにグループ討議を行う。	授業ノートに先行研究の論点を整理し、各自考察を記してくる。	30
41	研究の結論・考察に関する討議③	これまでの授業及び先行研究の成果を踏まえた、研究テーマに対する考察を深め、結論を出すためにグループ討議を行う。	授業ノートに先行研究の論点を整理し、各自考察を記してくる。	30
42	研究の結論・考察に関する討議④	これまでの授業及び先行研究の成果を踏まえた、研究テーマに対する考察を深め、結論を出すためにグループ討議を行う。	授業ノートに先行研究の論点を整理し、各自考察を記してくる。	30
43	『保育研究』の論文作成①	『保育研究』の論文締切に間に合うように、計画的に執筆を進め、必要に応じて途中検討を加えながら、完成にこぎつける。	各自の研究テーマに即して、少しずつでもいいので文章を記してくる。	60
44	『保育研究』の論文作成②	『保育研究』の論文締切に間に合うように、計画的に執筆を進め、必要に応じて途中検討を加えながら、完成にこぎつける。	各自の研究テーマに即して、少しずつでもいいので文章を記してくる。	60
45	『保育研究』の論文作成③	『保育研究』の論文締切に間に合うように、計画的に執筆を進め、必要に応じて途中検討を加えながら、完成にこぎつける。	各自の研究テーマに即して、少しずつでもいいので文章を記してくる。	60
46	『保育研究』の論文作成④	『保育研究』の論文締切に間に合うように、計画的に執筆を進め、必要に応じて途中検討を加えながら、完成にこぎつける。	各自の研究テーマに即して、少しずつでもいいので文章を記してくる。	60
47	『保育研究』の論文作成⑤	『保育研究』の論文締切に間に合うように、計画的に執筆を進め、必要に応じて途中検討を加えながら、完成にこぎつける。	各自の研究テーマに即して、少しずつでもいいので文章を記してくる。	60
48	『保育研究』の論文作成⑥(完成)	『保育研究』の論文締切に間に合うように、計画的に執筆を進め、必要に応じて途中検討を加えながら、完成にこぎつける。	本文を基にした、『保育研究』用の抜粋原稿をつくっておく。	60
49	卒研発表会用のスライド及び発表原稿作成①	卒業研究発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。	各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、授業ノートに整理した情報を基にスライド及び原稿を作成しておく。	60
50	卒研発表会用のスライド及び発表原稿作成②	卒業研究発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。	各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、授業ノートに整理した情報を基にスライド及び原稿を作成しておく。	60
51	卒研発表会用のスライド及び発表原稿作成③	卒業研究発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。	各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、授業ノートに整理した情報を基にスライド及び原稿を作成しておく。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
52	卒研発表会用のスライド及び発表原稿作成④	卒業研究発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。	各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、授業ノートに整理した情報を基にスライド及び原稿を作成しておく。	60
53	卒業研究発表会リハーサル①	卒業研究発表会の発表用スライドを用いてリハーサルを行う。	発表担当箇所について音読してくる。	60
54	卒業研究発表会リハーサル②	卒業研究発表会の発表用スライドを用いてリハーサルを行う。	発表担当箇所について音読してくる。	60
55	卒業研究発表会①	卒業研究の発表をスライドを用いて行うと共に、他の卒業研究について知る。	発表担当箇所について音読すると共に、想定される質問への答えを用意してくる。	60
56	卒業研究発表会②	卒業研究の発表をスライドを用いて行うと共に、他の卒業研究について知る。	発表担当箇所について音読すると共に、想定される質問への答えを用意してくる。	60
57	卒業研究発表会③	卒業研究の発表をスライドを用いて行うと共に、他の卒業研究について知る。	発表担当箇所について音読すると共に、想定される質問への答えを用意してくる。	60
58	卒業研究発表会④	卒業研究の発表をスライドを用いて行うと共に、他の卒業研究について知る。	発表担当箇所について音読すると共に、想定される質問への答えを用意してくる。	60
59	相互フィードバック	ディスカッション形式で各自でそれぞれの研究成果に対してフィードバックを行う。	できあがった論文原稿を見返しておく。	30
60	最終フィードバック	担当教員から学生個々に対して、フィードバックを行う。	できあがった論文原稿を見返しておく。	30

授業名	卒業研究 宇治 和子	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
担当教員名	◎宇治 和子		
開講期			
授業の概要	ここは臨床心理学の卒業研究です。基本的にはメンバーがやりたいテーマ（子どもに関するもの）を選び、心理学や保育学系の参考資料や文献にあたり、作業や調査を行って研究を深め、1年かけて完成を目指します。全体としては、最初に研究倫理について学び、途中には中間報告、年度末には卒業発表と論文作成という流れです。各種課題は授業内にて随時返却 or 口頭フィードバックしていきます。		
授業の到達目標	本授業は、以下2点を達成目標（8割以上で単位認定）とします。 ・子どもを対象とした研究のデザインと組み立てがわかる。 ・保育や幼稚園の現場で科学的な視点を取り入れた子ども理解ができるようになる。		
履修条件	幼児教育学科2年	成績の 評価方法・基準	平常点（60点：取り組みの姿勢、意欲、態度、他との協力、チームへの貢献度など）、研究成果（40点：研究発表、本文、『保育研究』原稿）により評価します。
テキスト	教科書は使わず、資料を配布します。		
参考書	授業の中で、随時紹介します。		
学生への要望	資料等を工夫してイメージしやすい授業を心がけるので、積極的な授業参加を期待します。		
位置付け・水準	CE2200		
ディプロマポリシーとの関係	この科目は、本学科DPの「教育・保育の総合的計画・実践力」に関連しています。		
オフィスタイム	授業の前後に質問を受け付けます（研究室836）。		
アクティブラーニング実施内容	グループディスカッション・プレゼンテーションなど		
実務家教員の経歴	この授業は、子ども家庭福祉の現場で臨床心理士・公認心理師として実務経験のある教員が担当します。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	研究の基礎 1	・ 授業内容、評価方法について説明する ・ 関心のあるテーマについてのディスカッション	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
2	研究の基礎 2	・ 関心のあるテーマについてのディスカッション ・ 資料集め・「自己確認シート」の記入	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
3	研究の基礎 3	・ 関心のあるテーマについてのディスカッション ・ 資料集め	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
4	研究の基礎 4	・ 関心のあるテーマについてのディスカッション ・ 資料集め	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
5	研究の基礎 5	・ 関心のあるテーマについてのディスカッション ・ 発表準備	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
6	研究の基礎 6	・ 関心のあるテーマについてのディスカッション ・ 発表準備	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
7	研究の基礎 7	・ 関心のあるテーマについてのプレゼンテーション ・ テーマ・研究グループの決定	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
8	研究の基礎 8	・ 関心のあるテーマについてのプレゼンテーション ・ テーマ・研究グループの決定	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
9	研究の展開 1	・ 研究グループごとに研究の組み立てを考える （検査対象・調査方法・報告準備）	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
10	研究の展開 2	・ 研究グループごとに研究の組み立てを考える （検査対象・調査方法・報告準備）	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
11	研究の展開 3	・ 研究グループごとに研究の組み立てを考える （検査対象・調査方法・報告準備）	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
12	研究の展開 4	・ 研究グループごとに研究の組み立てを考える （検査対象・調査方法・報告準備）	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
13	研究の展開 5	・ 研究グループごとに研究の組み立てを考える （検査対象・調査方法・報告準備）	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
14	研究の展開 6	・ 研究グループごとに研究の組み立てを考える （検査対象・調査方法・報告準備）	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
15	研究の展開 7	・ 研究グループごとに研究の組み立てを報告 （調査準備）	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
16	研究の展開 8	・ 研究グループごとに研究の組み立てを報告 （調査準備）	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
17	パイロット調査 1	・ 各研究グループ合同でパイロット調査の準備と実施 ・ 近距離で研究協力してくださる園を募り、イベント形式で実際にお邪魔して調査させていただく計画 ・ 参加学生：本授業受講学生・引率者：本授業担当教員	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60

[illegible]

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
37	本調査 3	・各研究グループ合同で本調査の準備と実施 ・近距離で研究協力してくださる園を募り、イベント形式で実際にお邪魔して調査させていただく計画 ・参加学生：本授業受講学生・引率者：本授業担当教員	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
38	本調査 4	・各研究グループ合同で本調査の準備と実施 ・近距離で研究協力してくださる園を募り、イベント形式で実際にお邪魔して調査させていただく計画 ・参加学生：本授業受講学生・引率者：本授業担当教員	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
39	本調査 5	・各研究グループ合同で本調査の準備と実施 ・近距離で研究協力してくださる園を募り、イベント形式で実際にお邪魔して調査させていただく計画 ・参加学生：本授業受講学生・引率者：本授業担当教員	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
40	本調査 6	・各研究グループ合同で本調査の準備と実施 ・近距離で研究協力してくださる園を募り、イベント形式で実際にお邪魔して調査させていただく計画 ・参加学生：本授業受講学生・引率者：本授業担当教員	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
41	論文の執筆 1	・各グループに分かれて結果を整理する ・整理したものを質的に検討する	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
42	論文の執筆 2	・各グループに分かれて結果を整理する ・整理したものを質的に検討する	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
43	論文の執筆 3	・各グループに分かれて結果を整理する ・整理したものを質的に検討する	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
44	論文の執筆 4	・各グループに分かれて結果を整理する ・整理したものを質的に検討する	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
45	論文の執筆 5	・各グループに分かれて結果を整理する ・検討したものを文章にまとめる	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
46	論文の執筆 6	・各グループに分かれて結果を整理する ・検討したものを文章にまとめる	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
47	論文の執筆 7	・各グループに分かれて結果を整理する ・検討したものを文章にまとめる	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
48	論文の執筆 8	・各グループに分かれて結果を整理する ・検討したものを文章にまとめる	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
49	論文の執筆 9	・各グループに分かれて結果を整理する ・検討したものを文章にまとめる	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
50	論文の執筆 10	・各グループに分かれて結果を整理する ・検討したものを文章にまとめる	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
51	論文の執筆 11	・各グループに分かれて結果を整理する ・検討したものを文章にまとめる	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
52	論文の執筆 12	・各グループに分かれて結果を整理する ・検討したものを文章にまとめる	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
53	卒業研究の準備と発表 1	・PowerPointを使用し、発表資料を作成する ・これまでの活動の振り返り	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
54	卒業研究の準備と発表 2	・PowerPointを使用し、発表資料を作成する ・これまでの活動の振り返り	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
55	卒業研究の準備と発表 3	・PowerPointを使用し、発表資料を作成する ・これまでの活動の振り返り	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
56	卒業研究の準備と発表 4	・PowerPointを使用し、発表資料を作成する ・これまでの活動の振り返り	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
57	卒業研究の準備と発表 5	・PowerPointを使用し、発表資料を作成する ・これまでの活動の振り返り	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
58	卒業研究の準備と発表 6	・PowerPointを使用し、発表資料を作成する ・これまでの活動の振り返り	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
59	まとめ 1	・提出に向けて、本文と『保育研究』の原稿を仕上げる ・「自己確認シート」の記入	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
60	まとめ 2	・提出に向けて、本文と『保育研究』の原稿を仕上げる ・卒業研究のまとめ	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60

授業名	卒業研究 永瀬 悦子	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修	
担当教員名	◎永瀬 悦子			
開講期	Ⅲ・Ⅳ			
授業の概要	現在の子どもたちの生活実態から健康課題を見出しその解決に向けた健康教育を学ぶ。健康増進活動の実践については、栄養・食生活、運動・身体活動等の行動変容を地域における生活環境の視点から学ぶ。具体的には、健康問題に関する情報収集・分析・アセスメントをし、その結果から問題解決に向けた効果的なアプローチを立案・実施・評価といった一連の過程を学ぶ。① 初回と最終回に、「自己確認シート」をとおした自己評価を行うこと。② 5月と10月に、第一回論文の書き方指導、第二回論文の書き方指導を1コマずつ行うこと。③第一回目の論文の書き方指導の内容に、研究倫理について学ぶこと。 課題については、最終授業で全体に対するフィードバックを行う。			
授業の到達目標	①子どもの健康課題を理解しているか。 ②子どもの健康を維持・増進するための健康教育の方法を理解しているか。 ③実践した健康教育について評価する意義を理解しているか。 ※単位認定の最低基準：内容を7割以上理解していること。			
履修条件	幼児教育学科学生2年生	成績の 評価方法・基準	平常点60点、研究成果40点	
テキスト	資料を配布する。			
参考書	授業内でその都度紹介・資料配布をする。			
学生への要望	主体的な問題解決能力、思考力、表現力等が求められます。講義以外の時間を費やすことが多いと思いますが、課題を追求するため、熱意と積極的姿勢で参加して下さい。			
位置付け・水準	CE2200			
ディプロマポリシーとの関係	「教育・保育の総合的計画・実践力」			
オフィスタイム	月曜日 1 時限（9：00～10：30） 832研究室			
アクティブラーニング実施内容	授業内容に記載			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	卒業研究の概要1	卒業研究の進め方、メンバーの自己紹介をする。 「研究とは何か」について理解する。	現在の子どもの健康課題について書籍・新聞等を通して調べる	60
2	卒業研究の概要2	研究の進め方について	具体的な教育方法について書籍等を通して考える	60
3	研究課題について1	研究の課題の見つけ方・研究課題の絞り込み方について理解する。	教材研究	60
4	研究課題について2	研究の課題の見つけ方・研究課題の絞り込み方について理解する。 ※グループワーク	教材研究	60
5	研究課題の明確化と概念枠組み1	研究課題の明確化と概念枠組みの設定について理解する。	教材研究	60
6	研究課題の明確化と概念枠組み2	研究課題の明確化と概念枠組みの設定について理解する。 ※グループワーク	教材研究	60
7	研究方法と研究デザインの選定1	研究方法の選定と研究デザインの選定を理解する。	教材研究	60
8	研究方法と研究デザインの選定2	研究方法の選定と研究デザインの選定を理解する。 ※グループワーク	教材研究	60
9	研究方法のデータ収集と分析1	研究方法のデータ収集と分析を理解する。ワーク	教材研究	60
10	研究方法のデータ収集と分析2	研究方法のデータ収集と分析を理解する。 ※グループワーク	教材研究	60
11	研究結果の分析/研究課題の絞り込みの実際1	研究結果とその分析について理解する。 研究課題の絞り込みをする	教材研究	60
12	研究結果の分析/研究課題の絞り込みの実際2	研究結果とその分析について理解する。研究課題の絞り込みをする。 ※グループワーク	教材研究	60
13	倫理的配慮について1	研究における倫理的配慮について学ぶ。	教材研究	60
14	倫理的配慮について2	研究における倫理的配慮について学ぶ。	教材研究	60
15	文献検索のプロセス1	文献検索の方法を理解し、研究課題に関する先行研究を検索する。	教材研究	60
16	文献検索のプロセス2	文献検索の方法を理解し、研究課題に関する先行研究を検索する。 ※グループワーク	教材研究	60
17	研究計画書の作成1	研究計画書の作成について学ぶ。	教材研究	60
18	研究計画書の作成2	研究計画書の作成について学ぶ。 ※グループワーク	教材研究	60
19	研究の実際①	健康教育の教材作成について学ぶ。 ※グループワーク	教材研究	60
20	研究の実際②	健康教育の教材作成について学ぶ。 ※グループワーク	教材研究	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
21	研究の実際③	健康教育の教材作成について学ぶ。※グループワーク	教材研究	60
22	研究の実際④	健康教育の教材作成について学ぶ。※グループワーク	教材研究	60
23	研究の実際⑤	健康教育の教材作成について学ぶ。※グループワーク	教材研究	60
24	研究の実際⑥	健康教育の教材作成について学ぶ。※グループワーク	教材研究	60
25	研究の実際⑦	健康教育の教材作成について学ぶ。※グループワーク	教材研究	60
26	研究の実際⑧	健康教育の教材作成について学ぶ。※グループワーク	教材研究	60
27	研究の実際⑨	健康教育の教材作成について学ぶ。※グループワーク	教材研究	60
28	研究の実際⑩	健康教育の教材作成について学ぶ。※グループワーク	教材研究	60
29	研究の実際⑪	健康教育の教材作成について学ぶ。※グループワーク	教材研究	60
30	研究の実際⑫	健康教育の教材作成について学ぶ。※グループワーク	教材研究	60
31	中間発表の準備①	中間発表の「もみじ会」の準備をする。	教材研究	60
32	中間発表の準備②	中間発表の「もみじ会」の準備をする。※グループワーク	教材研究	60
33	中間発表①	研究の中間発表として「もみじ会」において発表する。	教材研究	60
34	中間発表②	研究の中間発表として「もみじ会」において発表する。	教材研究	60
35	研究成果の振り返り①	「もみじ会」の発表の反省をもとにして、研究内容を検討する。	教材研究	60
36	研究成果の振り返り②	「もみじ会」の発表の反省をもとにして、研究内容を検討する。※グループワーク	教材研究	60
37	研究成果の振り返り③	研究成果を振り返り、今後の成果を検討する。	教材研究	60
38	研究成果の振り返り④	研究成果を振り返り、今後の成果を検討する。※グループワーク	教材研究	60
39	フィールドワークの準備①	フィールドワークの準備をする。※グループワーク	教材研究	60
40	フィールドワークの準備②	フィールドワークの準備をする。※グループワーク	教材研究	60
41	フィールドワークの実際③	保育園・幼稚園等で実際に健康教育を発表する。	実践の振り返りをする	60
42	フィールドワークの実際④	保育園・幼稚園等で実際に健康教育を発表する。	実践の振り返りをする	60
43	研究論文の執筆準備①	研究テーマ、研究論文の構成を考える。	論文作成	60
44	研究論文の執筆準備②	研究テーマ、研究論文の構成を考える。	論文作成	60
45	研究論文の執筆活動①	研究論文をまとめる。※グループワーク	論文作成	60
46	研究論文の執筆活動②	研究論文をまとめる。※グループワーク	論文作成	60
47	研究論文の執筆活動③	研究論文をまとめる。※グループワーク	論文作成	60
48	研究論文の執筆活動④	研究論文をまとめる。※グループワーク	論文作成	60
49	研究論文の執筆活動⑤	研究論文をまとめる。※グループワーク	論文作成	60
50	研究論文の執筆活動⑥	研究論文をまとめる。※グループワーク	論文作成	60
51	研究発表の練習①	発表原稿を作成し、口頭発表の練習をする。	発表原稿及びパワーポイント作成	60
52	研究発表の練習②	発表原稿を作成し、口頭発表の練習をする。※グループワーク	発表原稿及びパワーポイント作成	60
53	研究発表①	研究の成果をわかりやすく発表する。※発表	発表の振り返り	60
54	研究発表②	研究の成果をわかりやすく発表する。※発表	発表の振り返り	60
55	研究のまとめ①	研究の論文規定に従い執筆する。	論文作成	60
56	研究のまとめ②	研究の論文規定に従い執筆する。※グループワーク	論文作成	60
57	研究発表①	研究成果を口頭発表する。※発表	発表の振り返り	60
58	研究発表②	研究成果を口頭発表する。※発表	発表の振り返り	60
59	論文提出と今後の課題①	「卒業研究論文」原稿と「保育研究」原稿を提出する。	論文作成	60
60	論文提出と今後の課題②	「卒業研究論文」原稿と「保育研究」原稿を提出する。※グループワーク	論文作成	60

授業名	卒業研究 佐々木 郁子	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
担当教員名	◎佐々木 郁子		
開講期	Ⅲ期・Ⅳ期		
授業の概要	これまで学んできた幼児教育の基礎を統合し、総合的な知としての保育実践力の向上のために必要な知識・技能や思考力・判断力・表現力を身に付けるとともに、保育者としての自覚を高め、日頃から保育を探究し、研究するための倫理なども学ぶ。 フィードバック方法：授業内の質問、リフレクションシートをもとに、全体に向けて（個別に）フィードバックを行います。		
授業の到達目標	これまで学んできた幼児教育の基礎を統合し、保育現場において実践可能な知識・技能まで高めることが目標である。また、それらの学びを通して、日頃の保育を探究し、自らの保育を省察し、よりよい保育の実践を志そうとする態度や方法を身に付けることを目標とする。 ※単位認定の最低基準は、内容の7割以上を理解していること。		
履修条件	幼児教育学科 2年	成績の 評価方法・基準	①平常点：60％ ②成果：研究発表、本文、保育研究原稿 40％
テキスト	適宜指示する		
参考書	適宜指示する		
学生への要望	探求心をもって意欲的に取り組んでほしい		
位置付け・水準	CE2276		
ディプロマポリシーとの関係	教育・保育の総合的計画・実践力		
オフィスタイム	毎週火・木曜日 12：20～12：50 佐々木研究室（83年館 3階 834研究室）		
アクティブラーニング実施内容	協働学習，ディベート		
実務家教員の経歴	公立保育園の保育士		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション1 研究の方向付け1	卒業研究の内容と意義、方法について説明するとともに、 学生の 興味・関心について話し合う。	話し合った内容を振り返る	45
2	オリエンテーション2 研究の方向付け2	卒業研究の内容と意義、方法について説明するとともに、 学生の 興味・関心について話し合う。	話し合った内容を振り返る	45
3	研究の方向付け3 具体的な研究計画1	学生の興味・関心を聞き、研究計画を立てる	話し合った内容を振り返る	45
4	研究の方向付け4 具体的な研究計画2	学生の興味・関心を聞き、研究計画を立てる	話し合った内容を振り返る	45
5	保育実践の基礎 1	幼稚園教育要領における5領域の観点から幼児教育の基礎を 整理 し、保育実践へ向けた知識をまとめを行う。	扱った内容をまとめる	45
6	保育実践の基礎 2	幼稚園教育要領における5領域の観点から幼児教育の基礎を 整理 し、保育実践へ向けた知識をまとめを行う。	扱った内容をまとめる	45
7	保育実践の基礎 3	幼稚園教育要領における5領域の観点から幼児教育の基礎を 整理 し、保育実践へ向けた知識をまとめを行う。	扱った内容をまとめる	45
8	保育実践の基礎 4	幼稚園教育要領における5領域の観点から幼児教育の基礎を 整理 し、保育実践へ向けた知識をまとめを行う。	扱った内容をまとめる	45
9	保育実践の基礎 5	製作物や遊びの幼児保育における意義や方法などを確認すると共に 保育現場における技能の向上も図る。	扱った内容をまとめる	45
10	保育実践の基礎 6	製作物や遊びの幼児保育における意義や方法などを確認すると共に 保育現場における技能の向上も図る。	扱った内容をまとめる	45
11	保育実践の基礎 7	製作物や遊びの幼児保育における意義や方法などを確認すると共に 保育現場における技能の向上も図る。	扱った内容をまとめる	45
12	保育実践の基礎 8	製作物や遊びの幼児保育における意義や方法などを確認すると共に 保育現場における技能の向上も図る。	扱った内容をまとめる	45
13	保育実践の基礎 9	絵本や紙芝居の幼児教育における意義や方法などを確認すると共に 保育現場における技能の向上も図る。	扱った内容をまとめる	45

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	保育実践の基礎 1 0	絵本や紙芝居の幼児教育における意義や方法などを確認すると共に 保育現場における技能の向上も図る。	扱った内容をまとめる	45
15	保育実践の基礎 1 1	絵本や紙芝居の幼児教育における意義や方法などを確認すると共に 保育現場における技能の向上も図る。	扱った内容をまとめる	45
16	保育実践の基礎 1 2	絵本や紙芝居の幼児教育における意義や方法などを確認すると共に 保育現場における技能の向上も図る。	扱った内容をまとめる	45
17	保育実践の基礎 1 3	登園場面、排泄場面、食事場面や子ども同士のトラブルなどが起きたときの保育者の対応などについて討論する。	扱った内容をまとめる	45
18	保育実践の基礎 1 4	登園場面、排泄場面、食事場面や子ども同士のトラブルなどが起きたときの保育者の対応などについて討論する。	扱った内容をまとめる	45
19	保育実践の基礎 1 5	登園場面、排泄場面、食事場面や子ども同士のトラブルなどが起きたときの保育者の対応などについて討論する。	扱った内容をまとめる	45
20	保育実践の基礎 1 6	登園場面、排泄場面、食事場面や子ども同士のトラブルなどが起きたときの保育者の対応などについて討論する。	扱った内容をまとめる	45
21	保育実践の向上1	・保育現場において生ずる様々な問題をテーマに討論を行う ・絵本の読み聞かせの技術向上のための練習	扱った内容をまとめる	45
22	保育実践の向上2	・保育現場において生ずる様々な問題をテーマに討論を行う ・絵本の読み聞かせの技術向上のための練習	扱った内容をまとめる	45
23	保育実践の向上3	・保育現場において生ずる様々な問題をテーマに討論を行う ・絵本の読み聞かせの技術向上のための練習	扱った内容をまとめる	45
24	保育実践の向上4	・保育現場において生ずる様々な問題をテーマに討論を行う ・絵本の読み聞かせの技術向上のための練習	扱った内容をまとめる	45
25	保育実践の向上5	・保育現場において生ずる様々な問題をテーマに討論を行う ・絵本の読み聞かせの技術向上のための練習	扱った内容をまとめる	45
26	保育実践の向上6	・保育現場において生ずる様々な問題をテーマに討論を行う ・絵本の読み聞かせの技術向上のための練習	扱った内容をまとめる	45
27	保育実践の向上7	・保育現場において生ずる様々な問題をテーマに討論を行う ・製作の技術向上のための練習	扱った内容をまとめる	45
28	保育実践の向上8	・保育現場において生ずる様々な問題をテーマに討論を行う ・製作の技術向上のための練習	扱った内容をまとめる	45
29	保育実践の向上9	・保育現場において生ずる様々な問題をテーマに討論を行う ・製作の技術向上のための練習	扱った内容をまとめる	45
30	保育実践の向上10	・保育現場において生ずる様々な問題をテーマに討論を行う ・製作の技術向上のための練習	扱った内容をまとめる	45
31	保育実践の向上11	・保育現場において生ずる様々な問題をテーマに討論を行う ・製作の技術向上のための練習	扱った内容をまとめる	45
32	保育実践の向上12	・保育現場において生ずる様々な問題をテーマに討論を行う ・製作の技術向上のための練習	扱った内容をまとめる	45
33	保育実践の向上13	・保育現場において生ずる様々な問題をテーマに討論を行う ・製作の技術向上のための練習	扱った内容をまとめる	45
34	保育実践の向上14	・保育現場において生ずる様々な問題をテーマに討論を行う ・製作の技術向上のための練習	扱った内容をまとめる	45
35	保育実践の向上15	・保育現場において生ずる様々な問題をテーマに討論を行う ・伝承遊びの技術向上のための練習	扱った内容をまとめる	45
36	保育実践の向上16	・保育現場において生ずる様々な問題をテーマに討論を行う ・伝承遊びの技術向上のための練習	扱った内容をまとめる	45

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
37	保育実践の向上17	・保育現場において生ずる様々な問題をテーマに討論を行う ・伝承遊びの技術向上のための練習	扱った内容をまとめる	45
38	保育実践の向上18	・保育現場において生ずる様々な問題をテーマに討論を行う ・伝承遊びの技術向上のための練習	扱った内容をまとめる	45
39	保育実践の向上19	・保育現場において生ずる様々な問題をテーマに討論を行う ・伝承遊びの技術向上のための練習	扱った内容をまとめる	45
40	保育実践の向上20	・保育現場において生ずる様々な問題をテーマに討論を行う ・伝承遊びの技術向上のための練習	扱った内容をまとめる	45
41	もみじ会の準備1	・もみじ会における企画の立案と計画を行う ・具体的に準備可能な水準まで計画の詳細について検討する	ゼミ中で終わらない準備について自学実習を行なう	45
42	もみじ会の準備2	・もみじ会における企画の立案と計画を行う ・具体的に準備可能な水準まで計画の詳細について検討する	ゼミ中で終わらない準備について自学実習を行なう	45
43	もみじ会の準備3	・もみじ会の準備を行う	ゼミ中で終わらない準備について自学実習を行なう	45
44	もみじ会の準備4	・もみじ会の準備を行う	ゼミ中で終わらない準備について自学実習を行なう	45
45	もみじ会の準備5	・もみじ会の準備を行う	ゼミ中で終わらない準備について自学実習を行なう	45
46	もみじ会の準備6	・もみじ会の準備を行う	ゼミ中で終わらない準備について自学実習を行なう	45
47	卒業研究発表会に向けてスライド作成 論文作成1	・卒業研究の意義や研究倫理の基礎を学ぶ ・卒業研究論文作成の方法を学び、実際に論文執筆開始する	ゼミ中で終わらない準備について自学実習を行なう	45
48	卒業研究発表会に向けてスライド作成 論文作成2	・卒業研究の意義や研究倫理の基礎を学ぶ ・卒業研究論文作成の方法を学び、実際に論文執筆開始する	ゼミ中で終わらない準備について自学実習を行なう	45
49	卒業研究発表会に向けてスライド作成 論文作成3	・卒業研究論文を執筆する ・卒業研究発表会へ向けたスライドと原稿を作成する	ゼミ中で終わらない準備について自学実習を行なう	45
50	卒業研究発表会に向けてスライド作成 論文作成4	・卒業研究論文を執筆する ・卒業研究発表会へ向けたスライドと原稿を作成する	ゼミ中で終わらない準備について自学実習を行なう	45
51	卒業研究発表会に向けてスライド作成 論文作成5	・卒業研究論文を執筆する ・卒業研究発表会へ向けたスライドと原稿を作成する	ゼミ中で終わらない準備について自学実習を行なう	45
52	卒業研究発表会に向けてスライド作成 論文作成6	・卒業研究論文を執筆する ・卒業研究発表会へ向けたスライドと原稿を作成する	ゼミ中で終わらない準備について自学実習を行なう	45
53	卒業研究発表会に向けての練習 スライド修正1	・卒業研究発表会へ向けた発表の練習を行う ・発表練習を振り返りスライドを修正する	ゼミ中で終わらない準備について自学実習を行なう	45
54	卒業研究発表会に向けての練習 スライド修正2	・卒業研究発表会へ向けた発表の練習を行う ・発表練習を振り返りスライドを修正する	ゼミ中で終わらない準備について自学実習を行なう	45
55	卒業研究発表会1	・卒業研究発表会において発表する ・他ゼミの学生の発表を聴いて学ぶ	ゼミ中で終わらない準備について自学実習を行なう	45
56	卒業研究発表会2	・卒業研究発表会において発表する ・他ゼミの学生の発表を聴いて学ぶ	ゼミ中で終わらない準備について自学実習を行なう	45
57	卒業研究発表会3	・卒業研究発表会において発表する ・他ゼミの学生の発表を聴いて学ぶ	ゼミ中で終わらない準備について自学実習を行なう	45
58	卒業研究発表会4	・卒業研究発表会において発表する ・他ゼミの学生の発表を聴いて学ぶ	ゼミ中で終わらない準備について自学実習を行なう	45
59	保育研究のまとめ 1	・卒業研究発表会の振り返りと反省 ・保育研究のまとめと提出	ゼミ中で終わらない準備について自学実習を行なう	45
60	保育研究のまとめ 2	・卒業研究発表会の振り返りと反省 ・保育研究のまとめと提出	ゼミ中で終わらない準備について自学実習を行なう	45

授業名	卒業研究 山上 裕子	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
担当教員名	◎山上 裕子		
開講期			
授業の概要	観察をとした子ども研究を行います。テーマは、受講生の興味や関心に基づいて設定します。テーマの設定の仕方、探究の方法、記録の取り方、文章の書き方、そして研究を進める上で必須の研究倫理など、研究方法の基礎を学びます。フィードバックは適宜行います。		
授業の到達目標	①保育に関する課題を自ら設定し、年間を通して課題と向き合うことができたか ②課題を解決するための方法を、7割以上、身に付けることができたか。 ③研究倫理について7割以上、理解できたか。 ④保育に関する知見を広げ、保育への理解を深めることができたか。		
履修条件	幼児教育学科	成績の 評価方法・基準	平常点（60点）、研究成果（40点：研究発表、本文、『保育研究』原稿）
テキスト	特に指定はしない。		
参考書	適時、紹介する。		
学生への要望	どんな小さなことでもよいので、疑問に思ったことをメモとること。		
位置付け・水準	CE2200		
ディプロマポリシーとの関係	「保育の内容理解と総合的計画力」「問題解決力」「豊かな人間性と規範意識」		
オフィスタイム	火、金 14：40～16：10 833研究室		
アクティブラーニング実施内容	フィールド・ワーク（幼稚園での子ども観察）		
実務家教員の経歴	盲学校、小学校教員経験		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	授業の内容、進め方、評価について説明を聞く。何を研究したいのかを出し合う。「自己確認シート」の記入をする。	自身が研究したいことを確認する。	30
2	研究の模索 1	過去の研究冊子『保育研究』を調査し、自身の興味の方向を定めていく。	自身の興味関心のある情報を探す。	30
3	研究の模索 2	図書館で資料を検索し、自身の興味の方向を定めていく。研究ノートの記載の仕方を知る。	自身の興味関心のある情報を探す。	30
4	研究の模索 3	図書館で資料を検索し、研究ノートに記載していく。	自身の興味関心のある情報を探す。	30
5	研究の模索 4	自身のテーマの方向性をまとめる。	自身の研究の方向性のまとめを進める。	30
6	研究の確認 その1	これまでの資料収集の結果を報告する。	報告資料をそろえ、研究の方向を調整する。	30
7	研究の方法 1	書誌情報の整理の仕方、インターネット情報の検索結果の整理の方法を知る。	自己の興味関心のある情報を探す。	30
8	研究の方法 2	研究ノートに整理をしていく。	研究ノート整理をする。	30
9	研究を進める 1	研究ノートをもとに、これからの研究計画を立てる。	研究ノート整理をする。	30
10	研究を進める 2	研究計画について発表する。	計画を練る。	30
11	研究を進める 3	資料の整理を引き続き行う。	自己の興味関心のある情報を探す。	30
12	研究を進める 4	資料の整理を引き続き行い、ノートに整理する。	自己の興味関心のある情報を探す。	30
13	研究の確認 その2	研究の進捗状況を確認し合う。	研究ノート整理をする。	30
14	研究を進める 5	報告をとおして、研究の方向性を修正していく。	報告資料をそろえ、研究の方向を調整する。	30
15	テーマの決定 1	研究の仮テーマを考える。	研究の方向を調整する。	30
16	テーマの決定と計画の修正	研究テーマに沿った計画に修正する。	研究ノート整理をする。	30
17	研究を進める 6	文献を読み進める。	テーマに沿った情報を収集する。	30
18	研究を進める 7	文献を読み進める。	テーマに沿った情報を収集する。	30
19	研究を進める 8	引き続き、文献を読み進める。	テーマに沿った情報を収集する。	30
20	研究を進める 9	引き続き、文献を読み進める。	テーマに沿った情報を収集する。	30
21	研究を進める 10	文献の整理をする。	テーマに沿った情報を収集する。	30
22	研究を進める 11	文献の整理をする。	テーマに沿った情報を収集する。	30
23	研究の確認 その3	これまでの研究の進捗を報告し、研究内容を確認する。	研究の方向を調整する。	30
24	研究を進める 12	研究内容の充実のための計画を練り直す。	研究の方向を調整する。	30
25	研究を進める 13	研究テーマを絞りこむ。	テーマに沿った情報を収集する。	30
26	テーマの確認	テーマを確認すると同時に、新たな課題を確認する。	テーマに沿った情報を収集する。	30
27	中間発表の計画 1	卒業研究の中間発表の場である、もみじ会に向けた準備を考える。	研究ノート整理をする。	30
28	中間発表の計画 2	もみじ会に向けた準備の計画をたてる。	もみじ会の準備を進める。	30
29	中間発表の準備 1	もみじ会の準備を始める。	もみじ会の準備を進める。	30
30	中間発表の準備 2	もみじ会の準備を始める。	もみじ会の準備を進める。	30
31	中間発表の準備 3	もみじ会の準備を進める。	もみじ会の準備を進める。	30
32	中間発表の準備 4	もみじ会の準備を進める。	もみじ会の準備を進める。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
33	研究を進める 1 4	収集した資料の内容を整理する。	研究ノートを振り返る。	30
34	研究を進める 1 5	収集した資料の内容をまとめていく。	研究の方向を調整する。	30
35	論文の執筆 1	研究発表会、本文、『保育研究』のフォーマットを知り、論文作成の準備を始める。	執筆の計画を考える。	30
36	論文の執筆 2	研究発表会、本文、『保育研究』の提出に関して知り、今後の計画を立てる。	執筆の計画を考える。	30
37	論文の執筆 3	論文の執筆を始める。	執筆する。	30
38	論文の執筆 4	論文の執筆を始め、適宜指導を受ける。	執筆する。	30
39	論文の執筆 5	論文の執筆を進める。	執筆する。	30
40	論文の執筆 6	論文の執筆を進める。	執筆する。	30
41	論文の執筆 7	進捗状況を確認し、指導を受ける。	執筆する。	30
42	論文の執筆 8	指導に応じた執筆をする。	執筆する。	30
43	論文の執筆 9	引き続き、論文を執筆する。	執筆する。	30
44	論文の執筆 1 0	引き続き、論文を執筆する。	執筆する。	30
45	論文の執筆 1 1	よりよいものになるように、写真や図などを効果的に取り入れていく。	執筆する。	30
46	論文の執筆 1 2	写真や図などを効果的に取り入れて行く。	執筆する。	30
47	論文の執筆 1 3	本文、『保育研究』の原稿の仕上げをしていく。	執筆する。	30
48	論文の執筆 1 4	本文、『保育研究』の原稿の仕上げをしていく。	執筆する。	30
49	卒業研究発表会の準備 1	発表用のパワーポイントの原稿を作成する。	パワーポイントの作成をする。	60
50	卒業研究発表会の準備 2	パワーポイントの原稿を作成する。	パワーポイントの作成をする。	60
51	卒業研究発表会の準備 3	研究発表会の準備を進める。	パワーポイントの作成をする。	60
52	卒業研究発表会の準備 4	原稿を読み上げ、声の出し方、読む速度など確認する。	発表の練習をする。	60
53	卒業研究発表会リハーサル 1	機材を実際に操作し、不備がないか確かめる。 他の研究分野と協力して、よりよい発表会にするための準備を行う。	発表の練習をする。	60
54	卒業研究発表会リハーサル 2	よりよい発表会にするための準備を行う。	発表の練習をする。	60
55	卒業研究発表会 1	卒業研究のこれまでの成果をプレゼンテーションする。	発表の準備をし、振り返る。	30
56	卒業研究発表会 2	卒業研究のこれまでの成果をプレゼンテーションする。	発表の準備をし、振り返る。	30
57	卒業研究発表会 3	他の分野の研究成果を聴き、学ぶ。	自身の発表と比較する。	30
58	卒業研究発表会 4	他の分野の研究成果を聴き、学ぶ。	自身の発表と比較する。	30
59	まとめ 1	提出に向けて、本文と『保育研究』の原稿を仕上げる。	原稿を。よりよいものに仕上げる。	30
60	まとめ 2	「自己確認シート」の記入をとおして、これまでの卒業研究で学んだことを確認する。	原稿を。よりよいものに仕上げる。自身の成長を確かめる。	30

授業名	卒業研究 山脇 功次	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修	
担当教員名	◎山脇 功次			
開講期				
授業の概要	本科目では、「子ども（利用児者）を中心とする地域貢献（社会福祉）」を以下のテーマに基づいて学習および研究を進める。 （１）卒業研究のメンバー同士が主体的に取り組み、相互に学びあいながら研究の方法を学ぶ。 （２）地域支援および個別支援また地域課題を理解し、支援内容を計画・展開・評価する方法を学ぶ。 （３）フィールドワークを通じた、地域支援および個別支援を通じた地域貢献の実践方法を学ぶ。 （４）研究倫理を学ぶ。 *授業実施方法については、各授業にてグループ・ディスカッション等を通して学びの深化を図る。授業内でグループワークを実施し、終了後コメントによるフィードバックを行う。			
授業の到達目標	（１）地域支援および個別支援における研究の意義を説明することができる。 （２）先行研究および国内外の研究を調査し、最新の支援技術を説明することができる。 （３）エビデンスに基づく地域支援および個別支援を実践することができる。 （４）単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。			
履修条件	幼児教育学科2年生	成績の 評価方法・基準	①平常点：60点、②成果・研究発表、本文・保育研究原稿：40点	
テキスト	保育所保育指針及び解説書、幼稚園教育要領及び解説書 その他関連論文等について随時紹介する。			
参考書	麻生将太郎・森田光治良著書・康永 秀生監修「肝心要の研究デザインがわかる本」新興医学出版社			
学生への要望	研究は「協（共）働力」が重要です。チーム一丸となって研究成果を「かたち」として発信しましょう。			
位置付け・水準	CE2276			
ディプロマポリシーとの関係	教育・保育の総合的計画・実践力			
オフィスタイム	水曜日 4 限、木曜日 4 限 場所：822号室（山脇研究室）			
アクティブラーニング実施内容	発見学習／問題解決学習、フィールドワーク、グループディスカッション／ディベート／グループワーク			
実務家教員の経歴	行政機関委託事業の障がい者基幹相談支援センターおよび障がい者就業・生活支援センター（センター長）、就労移行支援事業（主任）および就業定着支援事業（主任）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	研究課題を決めるⅠ－①	関心ある研究テーマについて発表し、学生相互に意識を高めあうと共に学生自身の考えを明確にしていく。学生自身の現状と研究目標を「振り返りシート（start）」に記載し明確にする。	学生各自のテーマに関連する資料を収集する。	30
2	研究課題を決めるⅠ－②	関心ある研究テーマについて発表し、学生相互に意識を高めあうと共に学生自身の考えを明確にしていく。学生自身の現状と研究目標を「振り返りシート（start）」に記載し明確にする。	学生各自のテーマに関連する資料を収集する。	30
3	研究課題を決めるⅡ－①	資料等を紹介し、情報交換すると共に相互に刺激しあう。各自の関心を視覚的にとらえることにより、研究課題の焦点をより明確にしていく。	情報交換により得た新たな視点をもとに、資料収集を継続する。	30
4	研究課題を決めるⅡ－②	資料等を紹介し、情報交換すると共に相互に刺激しあう。各自の関心を視覚的にとらえることにより、研究課題の焦点をより明確にしていく。	情報交換により得た新たな視点をもとに、資料収集を継続する。	30
5	研究課題を決めるⅢ－①	資料等を紹介し、情報交換すると共に相互に刺激しあう。各自の関心を視覚的にとらえることにより、研究課題の焦点をより明確にしていく。	情報交換により得た新たな視点をもとに、資料収集を継続する。	30
6	研究課題を決めるⅢ－②	資料等を紹介し、情報交換すると共に相互に刺激しあう。各自の関心を視覚的にとらえることにより、研究課題の焦点をより明確にしていく。	情報交換により得た新たな視点をもとに、資料収集を継続する。	30
7	研究課題を決めるⅣ－①	資料等を紹介し、情報交換すると共に相互に刺激しあう。各自の関心を視覚的にとらえることにより、研究課題の焦点をより明確にしていく。	情報交換により得た新たな視点をもとに、資料収集を継続する。	30
8	研究課題を決めるⅣ－②	資料等を紹介し、情報交換すると共に相互に刺激しあう。各自の関心を視覚的にとらえることにより、研究課題の焦点をより明確にしていく。	情報交換により得た新たな視点をもとに、資料収集を継続する。	30
9	研究活動の計画①	研究計画・グループ・役割分担・研究テーマに関する説明をする。研究倫理について理解を深め、データの収集方法・活用方法を確認する。	事前学習として、先行研究を収集する。	30
10	研究活動の計画②	研究計画・グループ・役割分担・研究テーマに関する説明をする。研究倫理について理解を深め、データの収集方法・活用方法を確認する。	事前学習として、先行研究を収集する。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	研究活動の計画③	研究計画・グループ・役割分担・研究テーマに関する説明をする。研究倫理について理解を深め、データの収集方法・活用方法を確認する。	事前学習として、先行研究を収集する。	30
12	研究活動の計画④	研究計画・グループ・役割分担・研究テーマに関する説明をする。研究倫理について理解を深め、データの収集方法・活用方法を確認する。	事前学習として、先行研究を収集する。	30
13	研究活動の計画⑤（フィールドワークの視察）	研究計画・グループ・役割分担・研究テーマに関する説明をする。研究倫理について理解を深め、データの収集方法・活用方法を確認する。フィールドワークの視察を含め、連携機関の確認を実施する。	事前学習として、先行研究を収集する。	30
14	研究活動の計画⑥（フィールドワークの視察）	研究計画・グループ・役割分担・研究テーマに関する説明をする。研究倫理について理解を深め、データの収集方法・活用方法を確認する。フィールドワークの視察を含め、連携機関の確認を実施する。	事前学習として、先行研究を収集する。	30
15	研究活動の計画⑦（フィールドワークの視察）	研究計画・グループ・役割分担・研究テーマに関する説明をする。研究倫理について理解を深め、データの収集方法・活用方法を確認する。フィールドワークの視察を含め、連携機関の確認を実施する。	事前学習として、先行研究を収集する。	30
16	研究活動の計画⑧（フィールドワークの視察）	研究計画・グループ・役割分担・研究テーマに関する説明をする。研究倫理について理解を深め、データの収集方法・活用方法を確認する。フィールドワークの視察を含め、連携機関の確認を実施する。	事前学習として、先行研究を収集する。	30
17	研究計画の発表①	研究計画に関する発表を実施し、各メンバーより意見および実施可能性について検討する。	研究発表の準備を実施する。	30
18	研究計画の発表②	研究計画に関する発表を実施し、各メンバーより意見および実施可能性について検討する。	研究発表の準備を実施する。	30
19	フィールドワークへの視察・担当者との打ち合わせ①	担当者への調査依頼やZOOM等による打ち合わせを実施する。また、現地での地域支援および個別支援の方法を先方と打ち合わせを行う。	先方への説明資料の作成および事後のふりかえり。	30
20	フィールドワークへの視察・担当者との打ち合わせ②	担当者への調査依頼やZOOM等による打ち合わせを実施する。また、現地での地域支援および個別支援の方法を先方と打ち合わせを行う。	先方への説明資料の作成および事後のふりかえり。	30
21	フィールドワークへの視察・担当者との打ち合わせ③	担当者への調査依頼やZOOM等による打ち合わせを実施する。また、現地での地域支援および個別支援の方法を先方と打ち合わせを行う。	先方への説明資料の作成および事後のふりかえり。	30
22	フィールドワークへの視察・担当者との打ち合わせ④	担当者への調査依頼やZOOM等による打ち合わせを実施する。また、現地での地域支援および個別支援の方法を先方と打ち合わせを行う。	先方への説明資料の作成および事後のふりかえり。	30
23	実施方法の確認①	実施方法を具体的に反映させて実施計画を作成する。	実施計画の作成準備を行う。	30
24	実施方法の確認②	実施方法を具体的に反映させて実施計画を作成する。	実施計画の作成準備を行う。	30
25	実施方法の確認および広報物の作成①	実施方法を具体的に反映させて実施計画を作成する。また、地域活動を実施する際の先方および関係者、調査対象者への広報物を作成する。	実施計画の作成準備を行う。	30
26	実施方法の確認および広報物の作成②	実施方法を具体的に反映させて実施計画を作成する。また、地域活動を実施する際の先方および関係者、調査対象者への広報物を作成する。	実施計画の作成準備を行う。	30
27	地域貢献活動の企画実施準備①	地域貢献を実施する際の、準備備品の作成および準備を行う。	実施計画にもとづく準備を行い、随時実践をととしたふりかえりを行う。ふりかえりの内容を次回までに準備する。	30
28	地域貢献活動の企画実施準備②	地域貢献を実施する際の、準備備品の作成および準備を行う。	実施計画にもとづく準備を行い、随時実践をととしたふりかえりを行う。ふりかえりの内容を次回までに準備する。	30
29	地域貢献活動の企画実施準備③	地域貢献を実施する際の、準備備品の作成および準備を行う。	実施計画にもとづく準備を行い、随時実践をととしたふりかえりを行う。ふりかえりの内容を次回までに準備する。	30
30	地域貢献活動の企画実施準備④	地域貢献を実施する際の、準備備品の作成および準備を行う。	実施計画にもとづく準備を行い、随時実践をととしたふりかえりを行う。ふりかえりの内容を次回までに準備する。	30
31	もみじ会準備①	もみじ会で実施する「地域貢献」を基にする企画を計画する。	事後学習として、準備が終わらなかった点を補う。	30
32	もみじ会準備②	もみじ会で実施する「地域貢献」を基にする企画を計画する。	事後学習として、準備が終わらなかった点を補う。	30
33	もみじ会準備③	もみじ会で実施する企画の準備を行う。	事後学習として、準備が終わらなかった点を補う。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
34	もみじ会準備④	もみじ会で実施する企画の準備を行う。	事後学習として、準備が終わらなかった点を補う。	30
35	フィールドワーク実施①	これまでの研究計画および実施計画をもとにフィールドワークにて調査を実施する。	調査実施後にふりかえりを行い適宜必要な調査を確認し、次回のフィールドワークの準備を行う。	30
36	フィールドワーク実施②	これまでの研究計画および実施計画をもとにフィールドワークにて調査を実施する。	調査実施後にふりかえりを行い適宜必要な調査を確認し、次回のフィールドワークの準備を行う。	30
37	フィールドワーク実施③	これまでの研究計画および実施計画をもとにフィールドワークにて調査を実施する。	調査実施後にふりかえりを行い適宜必要な調査を確認し、次回のフィールドワークの準備を行う。	30
38	フィールドワーク実施④	これまでの研究計画および実施計画をもとにフィールドワークにて調査を実施する。	調査実施後にふりかえりを行い適宜必要な調査を確認し、次回のフィールドワークの準備を行う。	30
39	フィールドワーク実施⑤	これまでの研究計画および実施計画をもとにフィールドワークにて調査を実施する。	調査実施後にふりかえりを行い適宜必要な調査を確認し、次回のフィールドワークの準備を行う。	30
40	フィールドワーク実施⑥	これまでの研究計画および実施計画をもとにフィールドワークにて調査を実施する。	調査実施後にふりかえりを行い適宜必要な調査を確認し、次回のフィールドワークの準備を行う。	30
41	分析方法の確認および周知①	フィールドワークにて得られたデータをもとに、分析を行う。また、分析方法について理解する。	分析方法に関する文献を確認し、事前学習を行う。	30
42	分析方法の確認および周知②	フィールドワークにて得られたデータをもとに、分析を行う。また、分析方法について理解する。	分析方法に関する文献を確認し、事前学習を行う。	30
43	結果をまとめる①	データ入力およびデータクリーニング作業。分析から得られた結果をまとめる。また結果をもとにディスカッションを行う。	結果をもとに執筆とパワーポイントを作成する。	30
44	結果をまとめる②	データ入力およびデータクリーニング作業。分析から得られた結果をまとめる。また結果をもとにディスカッションを行う。	結果をもとに執筆とパワーポイントを作成する。	30
45	結果をまとめる③	分析から得られた結果をまとめる。また結果をもとにディスカッションを行う。	結果をもとに執筆とパワーポイントを作成する。	30
46	結果をまとめる④	分析から得られた結果をまとめる。また結果をもとにディスカッションを行う。	結果をもとに執筆とパワーポイントを作成する。	30
47	考察をまとめる①	得られた結果をもとにチーム内でディスカッションを行う。	結果のエビデンスとなる文献研究を行う。	30
48	考察をまとめる②	得られた結果をもとにチーム内でディスカッションを行う。	結果のエビデンスとなる文献研究を行う。	30
49	考察をまとめる③	得られた結果をもとにチーム内でディスカッションを行う。考察のまとめを行い、執筆作業を行う。	結果のエビデンスとなる文献研究を行う。	30
50	考察をまとめる④	得られた結果をもとにチーム内でディスカッションを行う。考察のまとめを行い、執筆作業を行う。	結果のエビデンスとなる文献研究を行う。	30
51	1回目リハーサル①	卒業研究発表会に向けての準備を行う。記念講堂大ホールの照明や舞台装置の使用法を学習する。	事後学習として、論文を完成させる。	30
52	1回目リハーサル②	卒業研究発表会に向けての準備を行う。記念講堂大ホールの照明や舞台装置の使用法を学習する。	事後学習として、論文を完成させる。	30
53	2回目リハーサル①	前回同様に進め、完成度を高める。保育研究冊子原稿を校正する。卒業論文の完成に向けて執筆作業を行う。	事後学習として、論文・パワーポイントを完成させる。	30
54	2回目リハーサル②	前回同様に進め、完成度を高める。保育研究冊子原稿を校正する。卒業論文の完成に向けて執筆作業を行う。	事後学習として、論文・パワーポイントを完成させる。	30
55	卒業研究発表会①	卒業研究発表会で他の発表等を含めて情報収集を行う。卒業研究発表会のパワーポイントの内容をもとに、論文の執筆を進める。	事後学習として、発表について振り返り、課題・改善策等を整理する	30
56	卒業研究発表会②	卒業研究発表会で他の発表等を含めて情報収集を行う。卒業研究発表会のパワーポイントの内容をもとに、論文の執筆を進める。	事後学習として、発表について振り返り、課題・改善策等を整理する	30
57	卒業論文・保育研究冊子原稿の完成・提出①	研究過程と結果を文章及び写真資料等によりわかりやすく整理し研究論文にまとめる。研究論文を基に、卒業研究要旨集「保育研究」の原稿を指定書式により作成する。	事後学習として、本論と抄録を完成させる。	30
58	卒業論文・保育研究冊子原稿の完成・提出②	研究過程と結果を文章及び写真資料等によりわかりやすく整理し研究論文にまとめる。研究論文を基に、卒業研究要旨集「保育研究」の原稿を指定書式により作成する。	事後学習として、本論と抄録を完成させる。	30
59	卒業論文・保育研究冊子原稿の完成・提出③	研究論文と卒業研究要旨集「保育研究」の最終確認。論文内容及び書式の最終確認をする。研究論文は配布のUSBメモリへ入れ、「保育研究」は印刷して提出。	事後学習として、本論と抄録を完成させる。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
60	卒業論文・保育研究冊子原稿の完成・提出④	研究論文と卒業研究要旨集「保育研究」の最終確認。論文内容及び書式の最終確認をする。研究論文は配布のUSBメモリへ入れ、「保育研究」は印刷して提出。「振り返りシート(end)」により研究活動の振り返りと自己評価を行う。	事後学習として、本論と抄録を完成させる。	30

授業名	卒業研究 柴田 卓	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修	
担当教員名	◎柴田 卓			
開講期	3・4期			
授業の概要	本授業は、メンバー同士で研究計画を作成し、主体的に取り組み、相互に学びあいながら研究を進め、発育発達に応じた保育内容を計画・展開・評価で きる実践力の向上を目指す。具体的には、幼児体育・自然保育について、事例や教材を調べ、フィールドワークを多数実施しながら理解を深める。 フィールドワーク後は各自でドキュメンテーションを作成してふりかえり、その内容についてディスカッションを行いながら考察を行うなど、アクティ ブ・ラーニングにより学びを深め、2年間の集大成としてまとめる。 ※各ドキュメンテーションの発表後と最終授業において、フィードバックを行う。 ※フィールドワークの日程及び回数は、大きく変更する可能性がある。			
授業の到達目標	本授業における達成目標の観点は、以下の3点である。 ①研究に向き合い、課題や問題を発見し改善・解決する力を習得することができたか。 ②先行研究や教材研究を行い、幼児体育・自然保育の理解を深めることができたか。 ③フィールドワークを通して、運動遊びや自然保育を展開する実践力を習得することができたか。 ※単位認定の最低基準は、内容の理解および実践力の習得に関して7割以上であること。			
履修条件	幼児教育学科2年生	成績の 評価方法・基準	平常点 60点（毎回のドキュメンテーション等） 成果 研究発表、本文 保育研究原稿 40点	
テキスト	必要に応じて資料配布			
参考書	柴田卓 石森真由子編著,運動遊びのすすめ ポートフォリオを活用した保育実践力の探求,みらい,2017 西浦和樹編訳 柴田他訳,科学する心を育てるアウトドア事例集, 北大路書房, 2019			
学生への要望	1. 事前準備や予習を進め、当事者意識を持ち、主体的かつ積極的に研究を進めること 2. 計画的に研究を進めること 3. 教材研究等は予習・復習とし、授業内はメンバーとの議論の場とすること 4. 2年間の集大成として、納得できる研究成果をあげること フィールドワークの日程や詳細は、変更する場合があるため、その都度、事前に連絡を行う。 5. 履修者と相談し、自然体験指導に関するゼミ合宿を行なう際は、その都度、事前に連絡を行なう。			
位置付け・水準	位置づけ・水準CE2200			
ディプロマポリシーとの関係	教育・保育の総合的計画・実践力			
オフィスタイム	月曜日5限、水曜日4・5限（ 83年館824研究室）			
アクティブラーニング実施内容	フィールドワーク、ディスカッション、ドキュメンテーションによるリフレクション、プレゼンテーション			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション(教室)	研究計画・グループ・役割分担・研究テーマに関する説明をする。 自己確認シートの記入	事後学習として、ドキュメンテーションの作成方法について理解する。	60
2	オリエンテーション(教室)	研究計画・グループ・役割分担・研究テーマに関する説明をする。研究倫理について理解を深め、データの収集方法・活用方法を確認する。	事後学習として、ドキュメンテーションの作成方法を修得する。	60
3	研究テーマの構想(教室)	先行研究から研究テーマについて話し合い構想を練る。 ●論文の書き方 指導1 ・研究の基本的な進め方、論文の基本構成 ・研究倫理	事前学習として、先行研究を収集する。	60
4	研究テーマの構想(教室)	先行研究から研究テーマ、内容について話し合い構想を練る。	事前学習として、先行研究を収集する。	60
5	研究テーマ・グループの決定(教室)	文献およびVTR鑑賞等から研究テーマ・グループ・役割分担(指導・撮影等)を決める。	事後学習として、先行研究を分析する。	60
6	研究テーマ・グループの決定(教室)	文献およびVTR鑑賞等から研究テーマ・グループ・役割分担(指導・撮影等)を決める。	事後学習として、先行研究を分析する。	60
7	フィールドワーク①(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・葛尾村・郡山女子大学総合教育園・裏磐梯小野川湖・福島県民の森、アオネマトカ、その他保育施設) 参加学生：本授業受講生 引率教員：授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。	60
8	フィールドワーク①(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・葛尾村・郡山女子大学総合教育園・裏磐梯小野川湖・福島県民の森、アオネマトカ、その他保育施設) 参加学生：本授業受講生 引率教員：授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	リフレクション①(教室)	調査結果のデータ入力 エピソードの抽出・分析 ディスカッション	事後学習として、計画に応じた準備物を整理・確認する。	60
10	リフレクション①(教室)	調査結果のデータ入力 エピソードの抽出・分析 ディスカッション	事後学習として、計画に応じた準備物を整理・確認する。	60
11	フィールドワーク②(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・葛尾村・郡山女子大学総合教育園・裏磐梯小野川湖・福島県民の森、アオネマトカ、その他保育施設) 参加学生：本授業受講生 引率教員：授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。	60
12	フィールドワーク②(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・葛尾村・郡山女子大学総合教育園・裏磐梯小野川湖・福島県民の森、アオネマトカ、その他保育施設) 参加学生：本授業受講生 引率教員：授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。	60
13	リフレクション②(教室)	調査結果のデータ入力 エピソードの抽出・分析 ディスカッション	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。	60
14	リフレクション②(教室)	調査結果のデータ入力 エピソードの抽出・分析 ディスカッション	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。	60
15	フィールドワーク③(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・葛尾村・郡山女子大学総合教育園・裏磐梯小野川湖・福島県民の森、アオネマトカ、その他保育施設) 参加学生：本授業受講生 引率教員：授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。	60
16	フィールドワーク③(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・葛尾村・郡山女子大学総合教育園・裏磐梯小野川湖・福島県民の森、アオネマトカ、その他保育施設) 参加学生：本授業受講生 引率教員：授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。	60
17	リフレクション③(教室)	調査結果のデータ入力 エピソードの抽出・分析 ディスカッション	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。	60
18	リフレクション③(教室)	調査結果のデータ入力 エピソードの抽出・分析 ディスカッション	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。	60
19	フィールドワーク④(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・葛尾村・郡山女子大学総合教育園・裏磐梯小野川湖・福島県民の森、アオネマトカ、その他保育施設) 参加学生：本授業受講生 引率教員：授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。	60
20	フィールドワーク④(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・葛尾村・郡山女子大学総合教育園・裏磐梯小野川湖・福島県民の森、アオネマトカ、その他保育施設) 参加学生：本授業受講生 引率教員：授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。	60
21	リフレクション④(教室)	調査結果のデータ入力 エピソードの抽出・分析 ディスカッション	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。	60
22	リフレクション④(教室)	調査結果のデータ入力 エピソードの抽出・分析 ディスカッション	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。	60
23	もみじ会準備	もみじ会準備 テーマ・環境構成の決定	事後学習として、準備が終わらなかった点を補う。	60
24	もみじ会準備	もみじ会準備 役割分担・準備物の決定	事後学習として、準備が終わらなかった点を補う。	60
25	もみじ会準備	もみじ会準備 環境のリスク（危険・怪我）について検討	事後学習として、準備が終わらなかった点を補う。	60
26	もみじ会準備	もみじ会準備 環境の工夫（面白さ）について検討	事後学習として、準備が終わらなかった点を補う。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
27	フィールドワーク⑤(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・葛尾村・郡山女子大学総合教育園・裏磐梯小野川湖・福島県民の森、アオネマトカ、その他保育施設) 参加学生：本授業受講生 引率教員：授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。	60
28	フィールドワーク⑤(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・葛尾村・郡山女子大学総合教育園・裏磐梯小野川湖・福島県民の森、アオネマトカ、その他保育施設) 参加学生：本授業受講生 引率教員：授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。	60
29	リフレクション⑤(教室)	調査結果のデータ入力 エピソードの抽出・分析 ディスカッション	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。	60
30	リフレクション⑤(教室)	調査結果のデータ入力 エピソードの抽出・分析 ディスカッション	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。	60
31	フィールドワーク⑥(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・葛尾村・郡山女子大学総合教育園・裏磐梯小野川湖・福島県民の森、アオネマトカ、その他保育施設) 参加学生：本授業受講生 引率教員：授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。	60
32	フィールドワーク⑥(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・葛尾村・郡山女子大学総合教育園・裏磐梯小野川湖・福島県民の森、アオネマトカ、その他保育施設) 参加学生：本授業受講生 引率教員：授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。	60
33	リフレクション⑥(教室)	調査結果のデータ入力 エピソードの抽出・分析 ディスカッション	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。	60
34	リフレクション⑥(教室)	調査結果のデータ入力 エピソードの抽出・分析 ディスカッション	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。	60
35	フィールドワーク⑦(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・葛尾村・郡山女子大学総合教育園・裏磐梯小野川湖・福島県民の森、アオネマトカ、その他保育施設) 参加学生：本授業受講生 引率教員：授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。	60
36	フィールドワーク⑦(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・葛尾村・郡山女子大学総合教育園・裏磐梯小野川湖・福島県民の森、アオネマトカ、その他保育施設) 参加学生：本授業受講生 引率教員：授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。	60
37	リフレクション⑦(教室)	調査結果のデータ入力 エピソードの抽出・分析 ディスカッション	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。	60
38	リフレクション⑦(教室)	調査結果のデータ入力 エピソードの抽出・分析 ディスカッション	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。	60
39	フィールドワーク⑧(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・葛尾村・郡山女子大学総合教育園・裏磐梯小野川湖・福島県民の森、アオネマトカ、その他保育施設) 参加学生：本授業受講生 引率教員：授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。	60
40	フィールドワーク⑧(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・葛尾村・郡山女子大学総合教育園・裏磐梯小野川湖・福島県民の森、アオネマトカ、その他保育施設) 参加学生：本授業受講生 引率教員：授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。	60
41	リフレクション⑧(教室)	調査結果のデータ入力 エピソードの抽出・分析 ディスカッション	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。	60
42	リフレクション⑧(教室)	調査結果のデータ入力 エピソードの抽出・分析 ディスカッション	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
43	フィールドワーク⑨(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・葛尾村・郡山女子大学総合教育園・裏磐梯小野川湖・福島県民の森・アオネマトカ、その他保育施設) 参加学生：本授業受講生 引率教員：授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。	60
44	フィールドワーク⑨(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・葛尾村・郡山女子大学総合教育園・裏磐梯小野川湖・福島県民の森・アオネマトカ、その他保育施設) 参加学生：本授業受講生 引率教員：授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。	60
45	リフレクション⑨(教室)	調査結果のデータ入力 エピソードの抽出・分析 ディスカッション	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。	60
46	卒業研究の書き方指導	●論文の書き方指導 2 ・本文および『保育研究』原稿の書き方と提出方法 ・卒業研究発表会の題目等の確認	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。	60
47	卒業研究発表会に向けての準備と練習および論文作成① ※ゼミ合宿予定	卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備・役割分担を明確にして進める。 (会場：青根マトカまたは郡山自然の家予定)	事前学習として、まとめた考察を整理・分類化する。	60
48	卒業研究発表会に向けての準備と練習および論文作成① ※ゼミ合宿予定	卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備・役割分担を明確にして進める。 (会場：青根マトカまたは郡山自然の家予定)	事前学習として、まとめた考察を整理・分類化する。	60
49	卒業研究発表会に向けての準備と練習および論文作成② ※ゼミ合宿予定	卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備・役割分担を明確にして進める。 (会場：青根マトカまたは郡山自然の家予定)	事後学習として、論文を完成させる。	60
50	卒業研究発表会に向けての準備と練習および論文作成② ※ゼミ合宿予定	卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備・役割分担を明確にして進める。 (会場：青根マトカまたは郡山自然の家予定)	事後学習として、論文を完成させる。	60
51	1回目リハーサル	卒業研究発表会に向けての準備を行う。 記念講堂大ホールの照明や舞台装置の使用法を学習する。	事後学習として、論文を完成させる。	60
52	1回目リハーサル	卒業研究発表会に向けての準備を行う。 記念講堂大ホールの照明や舞台装置の使用法を学習する。	事後学習として、論文を完成させる。	60
53	2回目リハーサル	前回同様に進め、完成度を高める。保育研究冊子原稿を校正する。卒業論文の完成に向けて努力する。	事後学習として、論文・パワーポイントを完成させる。	60
54	2回目リハーサル	前回同様に進め、完成度を高める。保育研究冊子原稿を校正する。卒業論文の完成に向けて努力する。	事後学習として、論文・パワーポイントを完成させる。	60
55	卒業研究発表会・反省会	卒業研究の成果を発表する。反省会を行い、論文に反映させる。	事後学習として、発表について振り返り、課題・改善策等を整理する。	60
56	卒業研究発表会・反省会	卒業研究の成果を発表する。反省会を行い、論文に反映させる。	事後学習として、発表について振り返り、課題・改善策等を整理する。	60
57	卒業論文・保育研究冊子原稿の完成・提出	卒業論文・保育研究冊子原稿を完成させる。	事後学習として、本論と抄録を完成させる。	60
58	卒業論文・保育研究冊子原稿の完成・提出	卒業論文・保育研究冊子原稿を完成させる。	事後学習として、本論と抄録を完成させる。	60
59	卒業論文・保育研究冊子原稿の完成・提出	卒業論文・保育研究冊子原稿を完成させる。	事後学習として、本論と抄録を完成させる。	60
60	卒業論文・保育研究冊子原稿の完成・提出	卒業論文・保育研究冊子原稿を完成させる。 自己確認シートの記入	卒業研究および2年間の学びをふりかえる。	60

授業名	卒業研究 松田 理香	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
担当教員名	◎松田 理香		
開講期	通年		
授業の概要	絵本や玩具、その他の児童文化財や子どもの描画・造形活動と保育の関係について、制作を中心とした研究を行う。研究は個人またはグループで行い、表現方法や素材活用の実験・試作などを通して、児童文化財や保育環境についての理解を深めながら、新しい提案を目指す。 ○研究のフィードバック：研究過程における報告会や中間発表において、助言や講評によるフィードバックを行なう。		
授業の到達目標	以下の到達目標①～④の6割以上を満たすこと ①テーマに関係する資料の収集・分析を行い、実験や試作に意欲的に取り組むことができる。 ②保育の視点に立ち、表現方法や素材に関する知識を深め、表現技術の向上を目指すことができる。 ③独自の視点から研究テーマを捉え、新たな取り組みを盛り込み研究を進化させることができる。 ④研究倫理をふまえ、研究成果をわかりやすく整理して発表することができる。		
履修条件	幼児教育学科2年生	成績の 評価方法・基準	平常点60点（研究意欲・取り組みの姿勢・協働への貢献） 研究成果40点（制作品および論文）
テキスト	特になし		
参考書	必要に応じて提示する		
学生への要望	自らの課題に意欲的に取り組むこと		
位置付け・水準	CE2200		
ディプロマポリシーとの関係	教育・保育の総合的計画・実践力		
オフィスタイム	金曜日Ⅰ・Ⅱ時限 研究室		
アクティブラーニング実施内容	グループディスカッションを適宜実施しながら、表現方法や素材活用の実験・試作などを行います。		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	・自己確認シートへの記入（研究目標等について） ・前年度の活動の概況	先行研究についての理解	30
2	研究テーマの検討 1	紙と描画材による試作	造形素材の特徴の理解	30
3	基礎研究 1	「造形表現活動と保育」に関係する先行研究とテーマの方向性の検討 1	関係する先行研究の理解と資料の収集	30
4	〃	〃	〃	30
5	〃	造形素材をモチーフとした作品制作 1	造形素材の特徴の理解	30
6	〃	〃	〃	30
7	〃	造形素材をモチーフとした作品制作 2	〃	30
8	〃	〃	〃	30
9	〃	造形素材とモチーフとした作品制作 3	〃	30
10	〃	〃	〃	30
11	論文の作成方法 1	研究倫理について確認し、基本的な構成と進め方について学習する	活動計画の方向性の検討	30
12	〃	〃	〃	30
13	研究テーマの検討 2	「造形表現活動と保育」に関係する先行研究とテーマの方向性の検討 2	造形素材の特徴と表現方法の検討	30
14	〃	〃	〃	30
15	基礎研究 2	造形素材をモチーフとした作品制作 4	造形素材の特徴の理解	30
16	〃	〃	〃	30
17	〃	造形素材をモチーフとした作品制作 5	〃	30
18	〃	〃	〃	30
19	〃	造形素材をモチーフとした作品制作 6	〃	30
20	〃	〃	〃	30
21	研究テーマの検討 3	「造形表現活動と保育」に関係するテーマと制作物についての検討	研究テーマと制作物についての資料収集	30
22	〃	〃	〃	30
23	〃	〃	〃	30
24	中間発表（もみじ会）の準備	会場構成の検討	展示会場・制作物のための道具・材料の検	30
25	〃	〃	〃	30
26	〃	〃	〃	30
27	〃	展示作品等の制作・会場構成の検討	展示計画の推考	30
28	〃	〃	〃	30
29	中間発表（もみじ会）	中間発表（もみじ会）：造形活動と子どもの観察	造形活動と子どもの観察に関する振り返り	30
30	〃	〃	〃	30
31	中間発表の反省と課題	中間発表（もみじ会）の考察・今後の展開についての確認	〃	30
32	〃	〃	〃	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
34	論文の原稿作成	「造形表現活動と保育」に関係するテーマと制作物について整理および「本文」「保育研究」の原稿作成	〃	30
35	〃	〃	〃	30
36	〃	〃	〃	30
37	〃	〃	〃	30
38	〃	〃	〃	30
39	〃	〃	〃	30
40	〃	〃	〃	30
41	〃	〃	〃	30
42	〃	〃	〃	30
43	学外活動の実践	地域公民館における講習会の準備	材料・道具の準備と確認	30
44	〃	〃	〃	30
45	卒業研究のまとめ 1	卒業研究発表会のための原稿確認・発表原稿の整理	発表原稿の推考	30
46	〃	〃	〃	30
47	〃	卒業研究発表会リハーサル ・発表手順の確認と原稿の推考	〃	30
48	〃	〃	〃	30
49	〃	卒業研究発表会	発表原稿を含めた論文整理	30
50	〃	〃	〃	30
51	幼教キッズフェルティバル準備	幼教キッズフェスティバルの会場設営 ・制作コーナー等の設置	〃	30
52	〃	〃	〃	30
53	幼教キッズフェルティバル	幼教キッズフェスティバル展示発表 ・制作コーナー等の設置	〃	30
54	〃	〃	〃	30
55	卒業研究のまとめ 2	「造形表現活動と保育」に関係するテーマと制作物についての整理 および「本文」「保育研究」のまとめ	発表の反省と修正箇所などについての確認 ・論文の推敲	30
56	〃	〃	〃	30
57	〃	研究論文の最終確認 「本文」「保育研究」（書式・ページ数・掲載写真等）	〃	30
58	〃	〃	〃	30
59	〃	〃	〃	30
60	〃	研究論文および「保育研究」の最終確認・提出準備 自己確認シートへの記入と卒業研究のまとめ	論文の最終確認と提出	30

授業名	卒業研究 折笠 国康	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修	
担当教員名	◎折笠 国康			
開講期				
授業の概要	実際に保育や幼稚園教育の現場に出たときに求められる、児童の好ましい成長を支える態度や知見を習得することを目標とする。また、自他の尊重と幸福の追求の態度を身につけ、実践する基礎力を身につけることも目標とする。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。 位置づけ・水準 CE2200			
授業の到達目標	①実際に保育や幼稚園教育の現場に出たときに求められる、児童の好ましい成長を支える態度や知見を 習得することを目標とする。 ②自他の尊重と幸福の追求の態度を身につけ、実践する基礎力を身につけることも目標とする。 単位認定の最低基準は、：「内容の8割を理解していること」 ディプロマ・ポリシーとの関連：保育の内容理解と総合的計画力、問題解決力、豊かな人間性と規範意識			
履修条件	短期大学部 幼児教育学科 2年	成績の 評価方法・基準	平常点60点、研究成果を40点として評価する。	
テキスト	教科書は使わず、プリントを配布する。			
参考書	参考書は授業ごとに指示する。			
学生への要望	自他のためになる知的活動の時間として捉えてほしい。			
位置付け・水準	CE2200			
ディプロマポリシーとの関係	保育の内容理解と総合的計画力、問題解決力、豊かな人間性と規範意識			
オフィスタイム	金曜1, 2限 835			
アクティブラーニング実施内容	プレゼンテーション、 ディスカッション			
実務家教員の経歴	中学校教諭(数学)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	研究の基礎1 オリエンテーション	心理学の研究の基礎的な説明	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
2	研究の基礎2 オリエンテーション	心理学の研究の基礎的な説明	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
3	研究の基礎3	心理学の研究調査の方法の説明	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
4	研究の基礎4	心理学の研究調査の方法の説明	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
5	研究の概念形成1	研究のテーマについての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
6	研究の概念形成2	研究のテーマについての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
7	研究の概念形成3	研究のアウトラインについての話し合い テーマ決定	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
8	研究の概念形成4	研究のアウトラインについての話し合い テーマ決定	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
9	研究調査の手順1	研究調査の手順についての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
10	研究調査の手順2	研究調査の手順についての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
11	調査用紙作成 1	調査用紙作成についての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
12	調査用紙作成2	調査用紙作成についての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
13	調査用紙作成3	調査用紙作成についての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
14	調査用紙作成4	調査用紙作成についての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
15	調査の分析 1	質問紙についての説明	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
16	調査の分析2	質問紙についての説明	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
17	調査の分析3	統計処理についての概説	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
18	調査の分析4	統計処理についての概説	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
19	調査の分析5	統計処理についての概説	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
20	調査の分析6	統計処理についての概説	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
21	調査の分析7	統計処理についての概説	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
22	調査の分析8	統計処理についての概説	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
23	調査のまとめ1	分析結果のまとめについての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
24	調査のまとめ2	分析結果のまとめについての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
25	調査のまとめ3	分析結果のまとめについての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
26	調査のまとめ4	分析結果のまとめについての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
27	調査のまとめ5	分析結果のまとめについての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
28	調査のまとめ6	分析結果のまとめについての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
29	調査のまとめ7	分析結果の考察についての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
30	調査のまとめ8	分析結果の考察についての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
31	調査のまとめ9	分析結果の考察についての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
32	調査のまとめ10	分析結果の考察についての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
33	研究発表の準備1	研究発表の準備作業	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
34	研究発表の準備2	研究発表の準備作業	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
35	研究発表の準備3	追加の調査用紙の作成	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
36	研究発表の準備4	追加の調査用紙の作成	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
37	研究発表の準備5	研究発表の準備作業	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
38	研究発表の準備6	研究発表の準備作業	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
39	中間発表1	ゼミの中での中間発表 それについての全員での検討	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
40	中間発表2	ゼミの中での中間発表 それについての全員での検討	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
41	中間発表3	ゼミの中での中間発表 それについての全員での検討	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
42	中間発表4	ゼミの中での中間発表 それについての全員での検討	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
43	発表についての説明	これからの発表と論文作成の手順についての説明	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
44	発表についての説明	これからの発表と論文作成の手順についての説明	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
45	卒業研究のまとめ1	考察を検討する 全員で検討する	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
46	卒業研究のまとめ2	考察を検討する 全員で検討する	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
47	卒業研究のまとめ3	考察を検討する 全員で検討する	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
48	卒業研究のまとめ4	考察を検討する 全員で検討する	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
49	卒業研究発表準備1	発表のリハーサル	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
50	卒業研究発表準備2	発表のリハーサル	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
51	卒業研究発表準備3	発表のリハーサル	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
52	卒業研究発表準備4	発表のリハーサル	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
53	卒業研究発表	卒業研究の発表プレゼンテーション	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
54	卒業研究発表	卒業研究の発表プレゼンテーション	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
55	論文作成 1	論文の作成	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
56	論文作成 2	論文の作成	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
57	論文作成3	論文の作成	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
58	論文作成4	論文の作成	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
59	論文提出のための準備1	論文の最終確認、印刷、製本	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
60	論文提出のための準備2	論文の最終確認、印刷、製本	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60

授業名	卒業研究（ミュージカル）		配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
担当教員名	◎横溝 聡子 磯部 哲夫 深谷 悠里絵			
開講期	通年			
授業の概要	子どもの表現活動は遊びや生活経験をイメージした総合的な体験から発せられる。本科目では音楽、歌、踊り、芝居を融合させた総合舞台表現であるミュージカル制作を通し、保育者として企画・構成力、音楽的表現力、造形的表現力、豊かな人間性を磨いていくことをねらいとする。授業では、幼児のための題材を取り上げ、キャスト、スタッフの共同作業で台本を作成し、台詞のメロディー化や音楽制作、ダンス振り付け、小・大道具作製を行い、ディスカッションを重ねながらミュージカル作品を創り上げ発表する。中間発表でコメントによるフィードバック、最終授業で全体に対するフィードバックを行う。			
授業の到達目標	①キャスト・スタッフの共同作業で、計画的に舞台製作することができる。 ②キャスト・スタッフの共同作業において、問題解決能力を身につけていることが確認できる。 ③幼児を対象にした音楽的表現、造形的表現が身につけていることが確認できる。 単位認定の最低基準は①～③の内容の7割を理解し、授業や研究発表において確認できること。			
履修条件	幼児教育学科 2 年生	成績の 評価方法・基準	平常点（興味・関心・意欲・態度・創意工夫・協調性）60%、ミュージカルによる研究成果(論文含む) 40%	
テキスト	研究題材が決定後指定する。			
参考書	ミュージカル制作に関する書籍。			
学生への要望	時間厳守のこと。事前の準備をしっかり行うことや、自分の役割に対する責任の重さをしっかり自覚し、積極的に行動して欲しい。研究倫理を十分に理解し、協調性を持って共同作業を行うこと。			
位置付け・水準	CE2276			
ディプロマポリシーとの関係	「保育の内容理解と総合的計画力」「問題解決力」「豊かな人間性と規範意識」			
オフィスタイム	磯部：水曜Ⅲ限・Ⅳ限 841研究室、横溝・深谷：水曜Ⅳ限・金曜Ⅱ限 No.1幼児教育学研究室			
アクティブラーニング実施内容	ディスカッションを重ねながらミュージカル作品を作り上げ発表する。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション1 磯部・横溝・深谷	シラバスを用いたオリエンテーション。「自己確認シート」を記入する。自己紹介をする。	シラバスを事前に読む。	30
2	オリエンテーション2 磯部・横溝・深谷	研究倫理・著作権について理解を深める。ミュージカル制作におけるスタッフの役割について学ぶ。題材について収集した資料を基に、題材選定に向けてディスカッションを行う。	シラバスを事前に読む。	30
3	研究題材の選定 磯部・横溝・深谷	題材について収集した資料を基に、題材選定に向けてディスカッションを行い、題材を決定する。	事前に題材についての資料を収集する。	30
4	役割分担、台本作成1 磯部・横溝・深谷	ミュージカル制作に向けて台詞・歌詞制作等の役割分担を決め、脚本作成を行う。あらすじ、登場人物、場面設定の明確化を行う。	事前に題材についての資料を収集する。	30
5	台本作成2 磯部・横溝・深谷	作成した台本に基づき、ディスカッションを重ねて作品への理解を深め、台本を完成させる。	台詞・歌詞についてグループでまとめる。	30
6	台本作成3 研究倫理指導 磯部・横溝・深谷	作成した台本に基づき、ディスカッションを重ねて作品への理解を深め、台本を完成させる。研究倫理について学ぶ。	台詞・歌詞についてグループでまとめる。	30
7	身体表現1 磯部・横溝・深谷	演劇のエチュードを通して、周囲の言動に敏感に反応して状況を把握する力を養い、身体表現の基礎を学ぶ。	台詞・歌詞についてグループでまとめる。	60
8	身体表現2 磯部・横溝・深谷	演劇のエチュードを通して、周囲の言動に敏感に反応して状況を把握する力を養い、身体表現の基礎を学ぶ。作成した台本に基づいて、音楽について考える。	台詞・歌詞・音楽についてグループでまとめる。	30
9	発声基礎1 磯部・横溝・深谷	発声の基礎を学び、音楽表現力を身につける。	台詞・歌詞・音楽についてグループでまとめる。	30
10	発声基礎2 磯部・横溝・深谷	発声の基礎を学び、音楽表現力を身につける。	台詞・歌詞・音楽についてグループでまとめる。	30
11	キャストイング1 磯部・横溝・深谷	自薦、他薦、オーディション等でキャストイングを行う。	歌唱・台詞の練習をする。楽譜制作を進める。	30
12	キャストイング2 磯部・横溝・深谷	自薦、他薦、オーディション等でキャストイングを行う。	歌唱・台詞の練習をする。楽譜制作を進める。	30
13	舞台製作準備 磯部・横溝・深谷	台本の読み合わせを行い、舞台全体のイメージを共有する。台本の手直しを行う。	歌唱・台詞の練習をする。楽譜制作を進める。	30
14	音楽稽古・舞台製作1 磯部・横溝・深谷	キャストは歌唱・器楽の音楽レッスン、スタッフは小・大道具の製作について検討する。	キャストは音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	音楽稽古・舞台製作 2 磯部・横溝・深谷	キャストは歌唱・器楽の音楽レッスン、スタッフは小・大道具の製作について検討する。	キャストは音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
16	音楽稽古・舞台製作 3 磯部・横溝・深谷	キャストは歌唱・器楽の音楽レッスン、スタッフは小・大道具の製作について検討する。	キャストは音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
17	舞台製作 1 磯部・横溝・深谷	台本の読み合わせを行い、舞台全体のイメージを具体化する。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
18	舞台製作 2 磯部・横溝・深谷	台本の読み合わせを行い、舞台全体のイメージを具体化する。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
19	立ち稽古・舞台製作 1 磯部・横溝・深谷	キャストは動作、表情をつけながらのレッスン、スタッフは小・大道具の製作を行う。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
20	立ち稽古・舞台製作 2 磯部・横溝・深谷	キャストは動作、表情をつけながらのレッスン、スタッフは小・大道具の製作を行う。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
21	立ち稽古・舞台製作 3 磯部・横溝・深谷	キャストは動作、表情をつけながらのレッスン、スタッフは小・大道具の製作を行う。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
22	立ち稽古・舞台製作 4 磯部・横溝・深谷	キャストは動作、表情をつけながらのレッスン、スタッフは小・大道具の製作を行う。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
23	立ち稽古・舞台製作 5 磯部・横溝・深谷	キャストは動作、表情をつけながらのレッスン、スタッフは小・大道具の製作を行う。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
24	立ち稽古・舞台製作 6 磯部・横溝・深谷	キャストは動作、表情をつけながらのレッスン、スタッフは小・大道具の製作を行う。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
25	立ち稽古・舞台製作 7 磯部・横溝・深谷	キャストは動作、表情をつけながらのレッスン、スタッフは小・大道具の製作を行う。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
26	立ち稽古・舞台製作 8 磯部・横溝・深谷	キャストは動作、表情をつけながらのレッスン、スタッフは小・大道具の製作を行う。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
27	立ち稽古・舞台製作 9 磯部・横溝・深谷	キャストは動作、表情をつけながらのレッスン、スタッフは小・大道具の製作を行う。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
28	立ち稽古・舞台製作 10 磯部・横溝・深谷	キャストは動作、表情をつけながらのレッスン、スタッフは小・大道具の製作を行う。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
29	中間発表準備 1 磯部・横溝・深谷	中間発表であるもみじ会に向けて、キャストは身体・音楽表現、スタッフは造形的表現の最終確認を行う。	中間発表に向けキャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
30	中間発表準備 2 磯部・横溝・深谷	中間発表であるもみじ会に向けて、キャストは身体・音楽表現、スタッフは造形的表現の最終確認を行う。	中間発表に向けキャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
31	中間発表準備 3 磯部・横溝・深谷	中間発表であるもみじ会に向けて、キャストは身体・音楽表現、スタッフは造形的表現の最終確認を行う。	中間発表に向けキャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
32	中間発表準備 4 磯部・横溝・深谷	中間発表であるもみじ会に向けて、キャストは身体・音楽表現、スタッフは造形的表現の最終確認を行う。	中間発表に向けキャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
33	中間発表振り返り 磯部・横溝・深谷	もみじ会の中間発表についてディスカッションを行う。	中間発表の振り返りをする。	30
34	音楽稽古・舞台製作 1 磯部・横溝・深谷	中間発表の振り返りを踏まえ、キャスト、スタッフそれぞれの修正を行う。	修正点について考察する。	30
35	音楽稽古・舞台製作 1 磯部・横溝・深谷	中間発表の振り返りを踏まえ、キャスト、スタッフそれぞれの修正を行う。	修正点について考察する。	30
36	音楽稽古・舞台製作 2 磯部・横溝・深谷	中間発表の振り返りを踏まえ、キャスト、スタッフそれぞれの修正を行う。	修正点について考察する。	30
37	音響機器研究 1 磯部・横溝・深谷	建学記念講堂の音響機器について操作方法等の説明を行う。	音響機器について情報を収集する。	30
38	音響機器研究 2 磯部・横溝・深谷	建学記念講堂の音響機器について操作方法等の説明を行う。	音響機器について情報を収集する。	30
39	立ち稽古・舞台製作 1 磯部・横溝・深谷	中間発表の修正点を踏まえ、身体的表現、音楽的表現、造形的表現を考察する。	キャストは演技や振り付けを工夫し、音楽練習も行う。スタッフは舞台製作の準備をする。	30
40	立ち稽古・舞台製作 2 磯部・横溝・深谷	中間発表の修正点を踏まえ、身体的表現、音楽的表現、造形的表現を考察する。	キャストは演技や振り付けを工夫し、音楽練習も行う。スタッフは舞台製作の準備をする。	30
41	立ち稽古・舞台製作 3 磯部・横溝・深谷	中間発表の修正点を踏まえ、身体的表現、音楽的表現、造形的表現を考察する。	キャストは演技や振り付けを工夫し、音楽練習も行う。スタッフは舞台製作の準備をする。	30
42	立ち稽古・舞台製作 4 磯部・横溝・深谷	中間発表の修正点を踏まえ、身体的表現、音楽的表現、造形的表現を考察する。	キャストは演技や振り付けを工夫し、音楽練習も行う。スタッフは舞台製作の準備をする。	30
43	通し稽古・舞台製作 1 磯部・横溝・深谷	身体的表現、音楽的表現、造形的表現の最終確認を行い、研究発表に向け総合舞台表現の完成度をチェックする。	キャストは自己練習や場面毎の練習を行い、表現力の向上を図る。スタッフは舞台製作の準備をする。	30
44	通し稽古・舞台製作 2 磯部・横溝・深谷	身体的表現、音楽的表現、造形的表現の最終確認を行い、研究発表に向け総合舞台表現の完成度をチェックする。	キャストは自己練習や場面毎の練習を行い、表現力の向上を図る。スタッフは舞台製作の準備をする。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
45	舞台稽古・舞台製作 1 磯部・横溝・深谷	建学記念講堂の舞台で、立ち位置、動き、小道具、舞台美術、音響、照明の確認を行う。	キャストは自己練習や場面毎の練習を行い、表現力の向上を図る。スタッフは舞台の準備をする。	30
46	舞台稽古・舞台製作 2 磯部・横溝・深谷	建学記念講堂の舞台で、立ち位置、動き、小道具、舞台美術、音響、照明の確認を行う。	キャストは自己練習や場面毎の練習を行い、表現力の向上を図る。スタッフは舞台の準備をする。	30
47	舞台稽古・舞台製作 3 磯部・横溝・深谷	建学記念講堂の舞台で、立ち位置、動き、小道具、舞台美術、音響、照明の確認を行う。	総合舞台表現の完成度をチェックする。	30
48	舞台稽古・舞台製作 4 磯部・横溝・深谷	建学記念講堂の舞台で、立ち位置、動き、小道具、舞台美術、音響、照明の確認を行う。	総合舞台表現の完成度をチェックする。	30
49	舞台稽古・舞台製作 5 磯部・横溝・深谷	建学記念講堂の舞台で、立ち位置、動き、小道具、舞台美術、音響、照明の確認を行う。	総合舞台表現の完成度をチェックする。	30
50	舞台稽古・舞台製作 6 磯部・横溝・深谷	建学記念講堂の舞台で、立ち位置、動き、小道具、舞台美術、音響、照明の確認を行う。	総合舞台表現の完成度をチェックする。	30
51	まとめ、舞台リハーサル 1 磯部・横溝・深谷	建学記念講堂の舞台で、立ち位置、動き、小道具、舞台美術、音響、照明の確認を行う。	総合舞台表現の完成度をチェックする。	60
52	まとめ、舞台リハーサル 2 磯部・横溝・深谷	建学記念講堂の舞台で、立ち位置、動き、小道具、舞台美術、音響、照明の確認を行う。	総合舞台表現の完成度をチェックする。	60
53	まとめ、舞台リハーサル 3 磯部・横溝・深谷	建学記念講堂の舞台で、立ち位置、動き、小道具、舞台美術、音響、照明の最終認を行う。	振り返りを基に研究発表の準備をする。	60
54	まとめ、舞台リハーサル 4 磯部・横溝・深谷	建学記念講堂の舞台で、立ち位置、動き、小道具、舞台美術、音響、照明の最終確認を行う。	振り返りを基に研究発表の準備をする。	60
55	卒業研究発表会 磯部・横溝・深谷	建学記念講堂で舞台発表を行う。	振り返りを基に研究発表の最終点検を行う。	60
56	卒業研究発表会 磯部・横溝・深谷	建学記念講堂で舞台発表を行う。	振り返りを基に研究発表の最終点検を行う。	60
57	卒業研究発表会 磯部・横溝・深谷	建学記念講堂で舞台発表を行う。	振り返りを基に研究発表の最終点検を行う。	60
58	卒業研究発表会 磯部・横溝・深谷	建学記念講堂で舞台発表を行う。	振り返りを基に研究発表の最終点検を行う。	60
59	『本文』『保育研究』のまとめ 磯部・横溝・深谷	『本文』『保育研究』をまとめ、提出できるよう準備を行う。	卒業論文をまとめる。	60
60	『本文』『保育研究』のまとめ と自己評価 磯部・横溝・深谷	『本文』『保育研究』をまとめ、提出できるよう準備を行う。「自己確認シート」で自己評価を行う。	卒業論文をまとめる。	60